

学問分野別履修要領

外国語科目

英語

英語科目は、履修者が「高校卒業程度」の英語力をすでに習熟していることを想定しています。このレベルの履修者を対象とするのが、以下の説明で〈中級〉に分類される科目です。〈基礎〉とある科目は〈中級〉に至るまでの課程を復習するものとなっています。尚、科目名に付いているⅠ、Ⅱ、Ⅲの番号は、科目間の難易度の区別や履修順序などを表しているわけではありません。

以下に各教科書のレベルと特徴を示しますので、受講する上での参考とし、実力に合わせた学習計画を立ててください。

「英語Ⅰ」：〈中級〉 文法と作文。高校までに修得した文法のまとめを行う。普通。

「英語Ⅱ」：〈基礎〉 文法、作文、リスニング、スピーキング。高校ぐらゐまでに習得しておくべき英語の基礎知識の復習を行う。やや易しい。

「英語Ⅲ」：〈中級〉 文学作品の読解。やや難解。

「英語Ⅶ」：〈中級〉 評論の読解。普通。

英語が得意な人は自由に教科書を手に取り、好きな科目を履修してください。

英語が大変苦手な人はまず「英語Ⅱ」を履修してください。それを単なる知識として終わらせるのではなく、無意識のうちに間違いなく使用できるまで習熟する必要があります。それから「英語Ⅶ」を履修してください。神経を集中し、注を利用し、辞書をこまめに引き教科書を精読してください。それから課題に取り組み、そして試験を受けてください。それでも駄目なときにはさらに時間を投入して「勉強して強いて」下さい。必ず習熟できます。英語教職課程履修者は「英語Ⅰ」の履修が望ましいと思います。英文学専攻予定者は「英語Ⅲ」の履修を勧めます。

夏期スクーリング、夜間スクーリング、メディア授業（ラジオ）を通して勉強できます。主にリーディングとライティングに分かれますが、担当者により総合的な訓練を目指す授業もあります。英語の学習法や辞書の引き方などで悩んでいる人にとってはいろいろとヒントが得られる授業ですので大いに活用してください。

英語力がのびるのは百時間単位の勉強にかかっています。ですから不得意な人はとにかく時間をかけて教科書を精読し、習熟してください。それから有能な友人に不明な点を尋ね、スクーリング中は担当者に尋ね、メディア授業（ラジオ）の時には手紙で担当者に尋ねてください。

大学での英語の授業は将来英語が学術上必要になったとき、要求される英語力の基礎の養成を目指します。

ドイツ語

ドイツ語未習者は、まず最初に初級前期・初級後期の単位をスクーリングで取得することを目標とするとよいでしょう。ドイツ語のような言語は文法体系の概観ができていると、その後の独習が楽になるからです。また、組み合わせとしては、初級前期または初級後期のみで卒業単位には足りる場合でも、スクーリングの共通テキストについては初級前期・初級後期を通じて学習し、言語構造を概観してから次に進むことが望ましいと思います。

時間的な余裕がある人、または当面スクーリングに出席するのが難しい人は、メディア授業（ラジオ）により初級前期・初級後期のいずれかを取得することもよいでしょう。

しかしいずれの場合でも、完全な未習者が初級前期よりも先に初級後期を、あるいは初級前期と初級後期を並行して履修することは勧められません。

スクーリング中級、上級の授業には担当者によってさまざまなヴァリエティがあり、必ずしも配本テキスト第三部あるいは第四部の内容に類似の授業が行われるわけではありません。教室での対話を通じて学習を深めるためにも、講義要綱を熟読した上で、ぜひいろいろな授業を積極的に履修して下さるよう望みます。

フランス語

フランス語未習者は、まず最初に初級前期・初級後期の単位をスクーリングで取得することを目標とするとよいでしょう。スクーリングではフランス語の文法体系の習得と同時に、発音やコミュニケーションの表現を学習でき、その後の独習が楽になるからです。また、組み合わせとしては、初級前期または初級後期のみで卒業単位には足りる場合でも、スクーリングの共通テキストについては初級前期・初級後期を通じて学習し、言語構造を概観してから次に進むことが望ましいと思います。

時間的な余裕がある人、または当面スクーリングに出席するのが難しい人は、メディア授業（ラジオ）により初級前期・初級後期のいずれかを取得することもよいでしょう。

しかしいずれの場合でも、全くの未習者が初級前期よりも先に初級後期を、あるいは初級前期と初級後期を並行して履修することは勧められません。

スクーリング中級、上級の授業には担当者によってさまざまなヴァリエティがあり、必ずしも配本テキスト第三部あるいは第四部の内容に類似の授業が行われるわけではありません。教室での対話を通じて学習を深めるためにも、講義要綱を熟読した上で、ぜひいろいろな授業を積極的に履修して下さるよう望みます。

文学部専門教育科目

文学部履修要領について

文学部での学習の進め方は、他学部比べて多様であるといえます。その分、学生のみならずひとりひとりがご自身で学習の方向を管理しなければなりません。ここには、文学部Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ類に属するいくつかの専攻（文学部は17専攻あり、その他に自然科学および諸言語があります）から、学習に関してのいろいろな助言が掲載されています。みなさんはまずは自分の所属する類に該当する専攻（Ⅰ類は哲学、倫理学、美学美術史学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学、Ⅱ類は日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、Ⅲ類は国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学）を参考にしてください。さらにご自身の卒業研究の方向性が明らかであるならば、その研究に該当する専攻の助言にはなおさら注意を払ってください。もちろんその上で、みなさんが履修するテキスト科目を担当する専攻の助言にも注意しなくてはなりません。ただいくつかの科目（「ロシア文学」「人文地理学」など）については、ここには言及がありませんので、科目別履修要領の各科目の項を参照してください。

.....

哲学専攻

哲学専攻で設置されている科目で履修の順序に特に注意が必要なのは、論理学です。現在「論理学」は、総合教育科目と専門教育科目に各々設置されていますが、数学と同様テクニカルな要素を持った論理学では、基礎から順序立てて学習を積み重ねていく必要があります。したがって、まず総合教育科目で学問の概要を学ぶとともに基礎を固め、ついで専門性の高い段階へと学習を進めていくことになります。

他方、総合教育科目に設置された「哲学」と専門教育科目に置かれている「西洋哲学史Ⅰ」、「西洋哲学史Ⅱ」は、いずれも卒業論文作成にあたって問題を絞り込む際に、その前提となる哲学的な思考法ならびに哲学史上の知識を習得するための科目です。したがって、学習にあたって特に順序を気にする必要はありません。意欲と時間の余裕があれば、それぞれを平行して学習していただいてもかまいません。ほかに、哲学と歴史学の領域にまたがる科目として「歴史哲学」がありますが、これは「歴史」とは何かを哲学的に掘り下げる学問ですので、「哲学特殊」とでもいうべき性格をもっています。したがって特定の関心と、ある程度の予備知識が要求されることになります（本科目は平成3年度より学則上第2類に設置されています）。

また、テキスト科目がその性格上網羅的な傾向にあるのに対して、スクーリングでは各担当者がそれぞれの問題関心にしたがってもっともアクチュアルなテーマで講ずる傾向があります。したがって、スクーリングの履修にあたっては、学習者の関心に応じて適宜選択して

いただくことが、学習への動機付けという観点からして効果的でしょう。

この分野の主要な参考文献に関しては、三田哲学会編集の『哲学 別冊文献案内』が重要な情報を満載していますので、ぜひ参照してください。同書は、通信教育部で希望者に随時頒布しています。また、哲学専攻の専任スタッフが最近どんな問題関心のもとで、どんな論文を書いているかなどについては、文学部が毎年発行している『文学部専任教員一覧』に詳しい記載があります。こちらの方は卒論指導登録許可を受けた者に対し、希望により販売しています。

最後に、大学で哲学を学ぶ皆さんにお勧めしたいのは、入門書の類を何冊も読むよりは、これと思った本物の哲学書を邦訳でよから直に読むこと、何度も繰り返し読むことです。最初はよく分からなくても、何度も繰り返し読むうちに、次第に私たちが思考することの深みへと導いてくれるはずです。そのときすでにあなたは、みずから哲学を始めているのです。

倫理学専攻

本専攻に関わるテキストとしては、次の2書がある。

- ・「倫理学」小泉 仰著
- ・「現代倫理学の諸問題」大谷愛人、池上明哉、小松光彦共著

前書はヘブライ思想など古典的な視点をも包摂して倫理的観点を教授するものであるのに対し、後書は表題に見られるように近代からの思想の諸潮流を解説しながら現代に課題として残された諸問題を提示して近現代の倫理思想に重きを置いている。そのようにテキストの性格も違い、内容的にもそれぞれ独立したものであるため、講読の順序は問わない。関心の置き所によって選択すべきである。但し、いずれもその書のみ一冊読めば倫理学がわかるといった標準的教科書的な内容ではないので、書かれている事柄の奥行を理解するためには、テキストに紹介されている参考文献は言うまでもないが、それらに関連するものも積極的に読破した上で理解を進めていく必要がある。

日本史学専攻

日本史関係で設置されている科目は、総合教育科目の「歴史（日本史）」と専門教育科目の「日本史概説Ⅰ—中世・近代—」「日本史特殊Ⅰ—日本法制史—」「新・日本史特殊Ⅱ—キリシタン史—」「新・日本史特殊Ⅳ」「古文書学」の、あわせて6科目です。

日本史の学習を進めていくにあたって、まず必要なのは日本の歴史全体の流れを一通り押さえておくことです。その意味で、最初に「歴史（日本史）」を履修することで、勉強の基礎を固めた上で、専門科目の勉強に入るのが望ましい順序です。

専門科目の中でも、比較的広い時代にわたる概括的な歴史を扱うのが「日本史概説Ⅰ」です。特に日本の中世史や近代史で卒業論文を書く予定の方は、是非とも履修してほしい科目ですが、それ以外の方でも、政治・経済・社会・文化など様々な面から歴史を考える視点は、大いに参考になるでしょう。

「古文書学」は、歴史を研究するための材料である史料について学ぶ科目です。日本史で卒業論文を書くための基盤となる科目であり、特に古代・中世史を扱おうとする場合には必ず履修しておいて下さい。

より深く一つのテーマを掘り下げるのが「日本史特殊」という科目です。時代やテーマの対応関係としては、古代史が「日本史特殊Ⅰ」、キリシタン史が「新・日本史特殊Ⅱ」、近世・近代史が「新・日本史特殊Ⅳ」ということになります。単に知識を身につけるだけでなく、絞り込んだテーマで史料に基づいて歴史を描き出す手法を学ぶことで、卒論執筆の参考にしてください。その意味では、必ずしも自分が特に関心のある時代・テーマでなくとも、勉強の役に立つ何かを得られるはずです。

以上の各科目のテキストの学習は、実は日本史の勉強の出発点に過ぎません。それぞれの講義要綱やテキストの中で紹介されている参考文献を初めとして、多くの概説書・専門書を読んで、歴史に対する理解を深めて下さい。卒業論文のテーマに迷っている方も、そうした積極的な勉強を進めていけば、間違いなく自分の興味・関心の対象が見つかります。

東洋史学専攻

東洋史関係で設置されている科目は、総合教育科目の「歴史（東洋史）」と専門教育科目の「東洋史概説Ⅰ」、「東洋史概説Ⅱ」、および「東洋史特殊」のあわせて4科目です。

東洋史の学習を進めていくに当たって、まず必要なことはアジアに対していろいろな意味で幅広い関心を持つことです。それは歴史だけに留まらず、現代に至るまでの政治、経済、社会、文化全体を指します。その上で、とりわけ強く興味を抱くエリアに地域を絞って深く学習していくことを勧めます。アジアといっても広く、そこに住む人々のあり方は一様でないからです。

「歴史（東洋史）」はアジア全般に関して概括的な知識をつける科目です。専門科目としての「東洋史概説Ⅰ」は中国の古代史を中心として通史的な知識をつけることを目的としています。「東洋史概説Ⅱ—中国史—」は中国の近現代史に重点を置きながら、古代史から説き起こし、歴史の流れを通して現代中国のあり方を考えることを目的としたもので、専門課程で身につけるべきハンドリングもあわせて指導しています。

慶應義塾大学の東洋史研究のもう一つの核である中東イスラム研究の初歩は「東洋史特殊」で補えます。「特殊」ではありますが、トルコ民族の通史を知ることができます。アラブ地域のものは目下準備中です。

以上の各科目のテキストの学習は、東洋史の学習全般の単なる一歩に過ぎません。歴史学とは人間が営んできた、さらにいま営んでいる社会の産物を研究する学問であり、その意味では学習に当たっては多様な学問領域を包摂するものです。一にも二にも知識欲と好奇心が必要であり、それを具体化するために豊富な読書量と知識を習得しなければなりません。その入り口にあってはまずテキストを熟読することが必要十分条件だといえます。

西洋史学専攻

ここでは、西洋史学専攻が設置している科目について、どの科目をどのような順序で履修すれば効果的な学習をすることができるかという観点から、これらの科目を概観しておきますので、皆さんの学習の一助として下さい。特に西洋史学の領域で卒業論文を書くことを予定している学生諸君は、論文にとりかかる前に、これらの科目のすべてを履修しておくことが望ましいのは言うまでもありません。

是非とも最初に履修して頂きたいのは総合教育科目の「歴史（西洋史）」です。この科目は、古代から現代に至るまでの西洋の歴史全体のアウトラインをおさえることを目的としていて、他の科目での学習の基礎となります。これと同時に履修するのが望ましいのは「史学概論」です。この科目では、高等学校までの歴史とは違って、大学で学ぶ歴史が単なる暗記ではなく、過去と現在の対話のプロセスであることを学びます。これら2科目を終えた上で、「西洋史概説Ⅰ」及び「西洋史概説Ⅱ」を履修して下さい。総合教育科目の「歴史（西洋史）」で幅広く得た知識をふまえて、「概説Ⅰ」では西洋の古代・中世全般について、「概説Ⅱ」では近・現代全般について、比較的深い知識を身につけることができます。最後に履修するのが望ましいのは「西洋史特殊Ⅲ」で、中世から近代に至るイギリス国制史を扱っています。これらの領域に特に関心を持たない学生諸君も、とりわけ西洋史で卒業論文を書くようとする人たちは、これらの科目の学習を通じて、歴史学の探求の方法を学んでいただきたいと思えます。

なお、どの科目についても、教科書そのものは単に骨組みに過ぎないものと理解しておいて下さい。それぞれの科目分野で実質的な学習を行うためには、それぞれの教科書に挙げてある参考書をはじめとして、できるだけ多くの概説書ならびに専門書を読んで、知識の肉付けをするように心がけて下さい。

民族学考古学専攻

民族学考古学関係の科目は以下の3つが設置されている。

- ・「考古学」
- ・「改訂・西洋史特殊Ⅰ—古代オリент史—」
- ・「オリент考古学」

これらのうち「考古学」では取り扱う地域・時代を幅広く設定し、人類学といった周辺領域との関連を含め、理論や方法論を包括的に解説する。一方、「改訂・西洋史特殊Ⅰ—古代オリент史—」と「オリент考古学」では、文明の起源地としてのオリентを中心とした地域史を取り上げる。後者は特に、新石器時代以降の歴史を考古学的に（遺跡や遺物を資料として）解き明かす研究分野の科目である。いずれも概説的な内容であり、履修順序に指定や推奨はない。ただし、科目内容と方法論には相互に関連があるので、複数履修することによって考古学への学術的理解は深まるはずである。

スクーリングの「考古学」では担当教員が専門とする地域や時代の内容も盛り込まれる。受講者各人に馴染みのある地域が事例として取り上げられることも多いだろう。さらに、時空を超えた異文化理解として考古学を位置づける時、文化人類学や歴史人類学が重要な関連分野として浮かび上がる。スクーリングの「民族学」ではこの点に着目し、文化の構築性をテーマに歴史研究と文化研究の接合が論じられる。

民族学考古学の世界に関心を持つ受講生には、V. G. チャイルド『考古学とは何か』（岩波書店）や、鈴木公雄『考古学入門』（東京大学出版会）・『考古学はどんな学問か』（東京大学出版会）、C. クラックホーン『人間のための鏡』（サイマル出版会）、A. マザール『聖書の世界の考古学』（リトン）、R. ワグナー『文化のインベンション』（玉川大学出版部）といった入門書に目を通すとよい。なお、専攻 HP (<http://www.flet.keio.ac.jp/~toru38/ethnoarch/>) も参考になるだろう。

国文学専攻

当専攻に関わるテキスト科目は、総合教育科目の「文学」、専門教育科目の「国語学」、「新・国語学各論」、「国文学」、「国文学史」、「近代日本文学」、「国文学古典研究Ⅰ」、「国文学古典研究Ⅱ—1」、「国文学古典研究Ⅱ—2」、「国文学古典研究Ⅲ」、「国文学古典研究Ⅳ」、「国語国文学古典研究Ⅴ」などである。どの科目から履修しても差し支えない（科目間に学習上の優先順位はない）。ただし、テキスト(教科書)で触れられている作品はできるだけ多く通読してほしい。原典を読解することが何よりもテキストの理解を深めることにつながるからである。近年では古典でも著名な作品ならば手軽に現代語訳や、時としてはマンガで読むこともできるが、それでは大学という場で専門的に学ぶ意味がない。時間を惜しまず、原典をじっくり読んでほしい。なお、基本的な原典テキスト、参考書、辞典類、研究書などは慶應義塾大学藝文学会の編集・刊行している『藝文研究 文献案内』に詳しく記してあるので、そちらを参照されたい。希望者には通信教育部で販売している。

国文学で卒業論文を書こうとする者は、夏期・夜間のスクーリングにできるだけ出席することが望ましい。それは、テキストからだけでは理解しにくい研究の意義や方法論を直に教員から聴くことのできる絶好の機会だからである。

中国文学専攻

現在、通信教育課程では、中国文学関連の科目として、以下の4科目が設置されている。

「中国文学史」：古代から現代に至るまでの各ジャンルにおける文学通史。

「漢文学Ⅰ」：古典文学概論、および代表的詩文の作品選。

「漢文学Ⅱ」：『論語』注釈。

「漢文学Ⅲ」：『孟子』注釈。

文学に親しむための決まった方法はない。興味のある書物を一つ一つ読み進めればそれで

よい。しかしながら、中国文学は三千年におよぶ歴史を持つ世界であり、代表的作品だけでも膨大な数に上る。短期間に効率的な学習をするためには、まず文学史の基礎的知識をしっかりと習得し、各ジャンルの歴史の変遷を把握した上で個々の作品を鑑賞することが望ましい。したがって、「中国文学史」を「漢文学」より先に履修することを推奨する。なお、人文学分野の「文学」の科目においても、中国文学関係のものが含まれている。

外国文学の学習においては、ぜひ原典に触れてほしい。文学は言葉の学問であるから、翻訳のみではその作品のエッセンスは伝わってこない。幸い古典文学の場合には、漢文の訓読で原作を読むことができる。現代文学を中心に学ぶ学生は、スクーリングなどを利用して中国語を履修することが望ましい。

参考文献は、各テキストの巻末を参照されたい。古典に関しては、特に角川書店の「鑑賞・中国の古典」シリーズ（全24巻）を入門書として薦めたい。原文・訓読・注釈に加えて、各分野の専門家である編者が詳細な解説を加えているので、作品の背景を知るためのよき道案内になる。

英米文学専攻

- 英文学、米文学、英語学の分野で卒業論文を執筆する学生は第3類の英米文学関連の科目をなるべく多く履修することが望ましい。
- 卒業論文開始後の早い時期には（あるいは、それより以前に）「ACADEMIC WRITING II」（4単位）を履修してもらいたい。
- 英米文学関係の科目数は多く、各々の科目についての文献をここで挙げることは不可能であるが、基本的な参考文献については文学部英米文学専攻のウェブサイト（<http://www.flet.keio.ac.jp/englit/>）を参照されたい。
- 卒業論文は日本語で執筆してもかまわないが、第一次資料及び重要な第二次資料は必ず英語で読む必要がある。英文を読む機会を与えてくれる科目を少しでも多く履修してもらいたい。

独文学専攻

他の文学においてもそうであるように、ドイツ文学を学ぼうとする人たちに期待されているのは、まず数多くの文学作品に触れてみることです。翻訳でなるべく多くのドイツ文学作品に触れていただき、そこで自分なりの読書体験をしてほしいということが、受講者に期待する第一のことです。もちろん、われわれの設置した講座やテキスト科目などがきっかけとなって、これまでまったくドイツ文学に無縁であった人にドイツ文学への個人的興味をもってもらい、作品に触れてもらうこともまた心から歓迎すべきことです。そしてこういった個人的な読書体験、読書からの感動を基礎にしながら、その体験や感動を文学史や文学理論によって学問的に位置づけていくのがドイツ文学研究の基本的な方法論ではないでしょう

か。この目的のためのガイドとなり、助言者となり、あるいは研究方法のモデルとなるのがテキストとスクーリング講義なのです。その場合、いくつかの参考書にあたり、自分の感動を歴史的な流れのなかに置いてみたり、あるいは理論的に構築したりする手続きが必要となるでしょう。

現在われわれのテキスト科目としては「近代ドイツ演劇」「近代ドイツ小説」が設置されています。これらはいずれもドイツ文学を学ぶ上での重要な時代をカバーしていますから、ドイツ文学やその歴史について基本的な認識を得る最初のステップとして利用してください。これらの二つのテキストはいずれも入門者のために書かれたものですが、内容的には相当高度なところまで踏み込んでおり、コンパクトにまとまっていますので、いろいろな参考書にあたる前に、まずこれらのテキストを熟読することをお勧めします。参考書はあくまでもテキストを理解するための補助であり、なによりもこれらのテキストを理解することが肝心です。そして、そこで知りえた文学作品にもし日本語訳があり、それに興味をお持ちになったら、ためらうことなく作品に向かってください。さきほど言及しましたように、読書の感動こそが基本中の基本なのです。二つのテキストのうちどれを先に学ぶべきかといったことは、受講者の関心によって決まります。いずれから学び初めてもかまいません。

スクーリング科目としては、「ドイツ語学文学」「ドイツ文学史」「ドイツ文学研究」などの講座が設置されています。これらの科目はそれぞれ、理論的認識、歴史的認識を深めるためのきっかけとして利用されるべきものです。担当者によって、扱う時代やテーマ、作品、作品を扱う手法などが異なりますが、それもまたテキスト科目ではカバーできない部分を知りうる良い機会であり、個々の担当者の個性ある講義を通じて、さらに認識を深めていただきたいと思います。とくにドイツ文学で卒業論文を書こうとする受講者には教員を個人的に知る絶好の機会ですから、積極的に参加してください。担当者は皆さんのご質問にできるかぎり答えてくれることでしょう。これらの科目もまたテキスト科目と同様にいずれを先に受講すべきかということは問題になりません。テーマに関心がもてるほうから受講すべきでしょう。

ところで、ドイツ文学というジャンルに特徴的なことは、オーストリアやスイスといったいわゆるドイツ語圏の文学も含んでいることです。したがって、皆さんが受講されるのは、正確に言えば「ドイツ文学」ではなく「ドイツ語圏の文学」ということになるでしょう。これらの国々が優れた文学者や文化の担い手を輩出していることはいまでもありません。ドイツにのみ視野を限定することなく、自分の関心を広くオーストリア、スイスの文学や文化にも向けてください。

今、「文化」という言葉を使いましたが、われわれが受講者に望んでいるのは、なにも狭い意味での「ドイツ語圏の文学研究」といったものばかりではなく、広やかにドイツ語圏の文化全般（音楽、美術、建築など）に触れてもらうことです。いずれの国の文化もそうであるように、ドイツ、オーストリア、スイス文化は多様な魅力に満ちています。通信教育課程に設置しているドイツ文学講座を、受講者の皆さんが魅力あふれるドイツ（語圏）文化に触

れるきっかけの一つとして利用して下さることが、われわれにとってなによりも嬉しいことなのです。

参考書や辞書類はあまりに数多くあり、残念ながらここでいちいち触れることは不可能です。詳しくはスクーリングの担当者や卒業論文の指導教授などに聞いてください。また、コンピュータを使用できる方は、慶應義塾大学図書館のOPACシステムや文部科学省のNacsisのWebcat、あるいは国会図書館のサイトなどから検索機能を使って、自分の関心のある領域の所蔵データを得ることができます。しかし、基本はあくまでも上記の二冊のテキストとスクーリングにおける講義であるということを念頭においてください。数多くの参考書にあたることも大事ですが、それ以上にテキストを良く読んで、基本を知ることが重要なのです。

仏文学専攻

フランス文学を学ぶためには、まず「文学」（4単位）のテキスト科目で中国、日本、英米、独、仏という東西にわたる広い文学的展望を身につけてから、「フランス文学概説」（3単位）、「十九世紀のフランス文学Ⅰ」（3単位）、「十九世紀のフランス文学Ⅱ」（3単位）、「二十世紀のフランス文学」（3単位）の各論に赴くのが順序でしょう。一方で、個別の作品に積極的に触れることが重要であるのは言うまでもありません。翻訳書で十分ですので、できるだけ多くの作品を読み込んでください。

スクーリング科目は、テキストで十分に扱うことのできていない時代や主題を中心に講義を進めます。テキストの情報は十九、二十世紀に偏る傾向がありますので、より古い時代についての補足が必要です。また十九、二十世紀の文学であっても、テキストで論じきれない作品や考察もあります。このような欠落を補うために、スクーリングを活用してください。

フランス文学についての基本的な学習態度、視点とは、まず少なくともフランス語の初級程度の知識を身につけること、ついで作品の手応えや感動を大切にすること。そして、その手応えや感動を自分の言葉で対象化し、さらに敷衍して理論構築したり、歴史の流れから理解したりできるように、沢山の参考文献に目を通していただきたい。これはフランス文学に限らず、すべて文学作品を読み、作家についてなにがしかの認識を得ようとする場合の基本的態度でしょう。

フランス文学の体系を把握するために欠かせない入門書をいくつか挙げておきましょう。

- (1) 渡辺、鈴木『フランス文学案内』（岩波文庫、1961年）
- (2) 饗庭、朝比奈、加藤編『新版フランス文学史』（白水社、1999年）

また、卒業論文執筆準備その他で、専門的な知識を得たい学生のための参考文献や文献案内としては以下のものが勧められます。

- (3) 『事典 現代のフランス』（大修館書店、増補版再版、1999年）
- (4) デュビイ、マンドルー『フランス文化史』（人文書院、1970年）

- (5) 『フランス文学講座』全6巻（大修館書店、1979年）
- (6) 『フランス語フランス文学研究文献要覧』（日外アソシエーツ）。これは自分で買い求める本ではなく、図書館に置いてあります。
- (7) 『フランス文学事典』（白水社、1974年）
- (8) 『フランスを知る——新<フランス学>入門』（法政大学出版局、2003年）

文献の渉猟にはインターネットが便利です。以下のサイトを活用してください。

- ・慶應義塾図書館所蔵の図書、雑誌：KOSMOS
- ・他大学図書館所蔵の図書、雑誌：NACSIS Webcat（国立情報学研究所）
- ・学術論文：CiNii（国立情報学研究所）

なお、仏文学専攻では、卒業論文のテーマとしてフランス語学（フランス語を対象とした言語学）を選ぶこともできます。この分野のテキスト科目とスクーリングは開講されていませんが、論文指導は可能です。詳しくは担当教員に相談してください。

社会学専攻

社会学分野のテキスト科目は、総合教育科目3分野科目の「社会学」、文学部専門教育科目の「社会学史Ⅰ」「社会学史Ⅱ」「社会心理学」「教育社会学」「都市社会学」の6科目から成り立っています。社会学分野で卒業論文を書こうと思う学生のための履修モデルを掲げておくと次の通りです。まず3分野科目の「社会学」を学習して、社会学が対象とする領域の全体について全般的な知識を身につけたあと、専門教育科目の「社会学史Ⅰ」「社会学史Ⅱ」を履修して、社会学の諸理論について基礎的な知識を修得します（その場合「社会学史Ⅰ」は社会学史の全体を取り扱っており、「社会学史Ⅱ」は各論にあたるので、Ⅰを履修したあとにⅡを履修することが望まれます）。そのあと各自の関心にしたがって「社会心理学」「教育社会学」「都市社会学」のうちのいくつかに進むことが望ましいと思います。テキスト科目とスクーリング科目のあいだにはとくに関連づけはないが、積極的に社会学分野のスクーリング科目を履修してください。しかし、これはあくまでも履修のためのモデルとして理解していただきたいと思います。社会学は非常に幅の広い学問分野であり、さまざまな入口から入り、さまざまな出口に出ることが可能です。要は各自の問題関心次第です。自分の問題関心にしたがってさまざまな履修パターンを考えることが可能です。また社会学はそれだけで完結した閉ざされた分野ではありません。社会学の分野で研究するためには、哲学や文学・歴史についての知識も必要となります。積極的に他の分野の科目も履修してほしいと思います。社会学は私たち自身の社会生活についての学問です。書物で学習するだけではなく、日頃から自分の身の回りで起こっていることをよく観察して問題関心を磨いておくことが重要となります。

社会学の辞典・事典を手元に置いて、わからない言葉が出てきたら、すぐに引いて確認する習慣を身につけてほしいと思います。いくつか代表的な辞典・事典を以下に挙げておき

ます。

- ・濱嶋朗・竹内郁郎・石川晃弘編『新版・社会学小辞典』（有斐閣）
- ・森岡清美・塩原勉・本間康平編『新社会学辞典』（有斐閣）
- ・見田宗介・栗原彬・田中義久編『社会学事典』（弘文堂）
- ・日本社会心理学会編『社会心理学事典』（丸善）

心理学専攻

義塾の心理学研究室では、実験を中心とする実証科学的な方法に基づく、主として基礎的な心理学の研究・教育が行われている。通信教育課程においてもこのような実証科学的な心理学が講じられている。

通信教育課程で受講することのできる科目としては、まず、総合教育科目の「心理学（知覚・認知）」および「心理学（行動・個性）」の2科目が、毎年夏期にスクーリング科目として開講されている。これらの科目は、広く心理学で扱っている問題を紹介し、それらに対するさまざまな科学的アプローチについて論じている。学生諸君にとっては、科学的な心理学で扱っている問題やそれらの研究方法はあまりなじみがないと思われるので、心理学分野の研究を志す諸君はぜひ履修してもらいたい。また、テキスト科目としては、総合教育科目の心理学は設置されていない。

専門教育科目に関しては、テキスト科目2科目が設置され、スクーリングでも毎年2科目が開講されている。テキスト科目の「心理学Ⅰ」は、「行動の科学としての心理学」という立場から、知覚、学習、感情の問題を論じている。このテキストを履修することによって、さまざまな専門用語があらわしている概念とそれら概念間の諸関係を理解することが求められる。履修者は、心理学関係の辞典や参考書を利用しながら確実に心理学的概念を習得することが望ましい。

テキスト科目の「心理学Ⅱ」は、「実験・測定・モデル」というサブタイトルが付けられているが、その名のとおり方法論に関する問題が論じられている。その意味で、この科目は心理学分野の研究を志す諸君にぜひ履修してもらいたい。内容的には数式なども多く使われていて非常に手ごわい科目となっている。履修するものは、すべての数式を理解し覚えようなどとは思わずに、その「精神」、すなわち概略的な考え方を読み取る努力をするとよいであろう。

専門のスクーリング科目のテーマは、担当教員の専門に応じて多岐にわたっている。これらの科目は通常、他の専門教育科目（テキスト科目、および他のスクーリング科目）を履修済みであることを前提としていることはない。したがって、履修を希望するものは、好きな順序で好きな科目を何科目でも履修することができる。（ただし、同じ担当者が同じ科目名で開講する科目を除く。）学生諸君は、特に自分の興味に近そうなものは積極的に履修してほしい。

しかし、心理学的な考え方は、慣れない初学者にとっては難解なことが多いので、ぜひ総合教育科目を履修しておくことが望ましい。不可能な場合には、あらかじめ各自概論書などを読み、勉強しておくことが必要であると考えてほしい。

心理学は、学習を進めていく上で積み重ねを必要とする程度が高い領域である。したがって心理学関係で卒業論文を書くことを目指す諸君や、ある程度体系的に心理学の勉強をしたいという諸君は、次のような履修の仕方を目指すとうよいであろう。

まず、先に述べたように、総合教育科目の心理学については、スクーリング科目を履修することを目指してほしい。また、心理学の科目ではないが、統計学の科目を最低1科目履修することをお勧めする。総合教育科目の「統計学」であってかまわないが、心理学の卒業論文に取り組もうと考えている場合には、専門教育科目の「心理・教育統計学」を履修・修得することが必要条件であると考えてほしい。心理学では、統計学的な考え方は非常に多用されているので、実際に卒業論文のためにデータを集めて分析する、という人以外も、統計学を学んでおくと、心理学の理解は大きく助けられるであろう。

専門教育科目は、テキスト科目もスクーリング科目も、興味があるものを、履修できるときに、好きな順序で、できるだけ多く履修するとよいであろう。卒業論文の指導を受けるためには、2科目以上の専門教育科目を修得していることを条件とする。ただし、先に述べたように、テキスト科目の「心理学Ⅱ」は非常に難解であるので、他の科目をいくつか履修した後にはチャレンジしたほうがよいかもしれない。また、その他の科目に関しても、心理学関係の科目は比較的難解なものが多いので、専門科目を履修する前に、市販の入門的なテキストに目を通しておくとよいであろう。

心理学の領域は多岐にわたっており、同じ問題に対しても複数のアプローチが可能な場合も多い。漠然とでも、心理学関係の卒業論文のテーマを考えている人は、なるべく早い時期に、スクーリングや科目試験、あるいは、郵送による質問などの機会を利用して教員に相談してもらいたい。

〈通信教育部における心理学の学習について〉

- ・専門教育科目のスクーリングを受講する場合は、極力、総合教育科目の心理学を修得しておくこと。やむをえない場合は、それに相当する予習が必要である。また、統計学の科目を修得しておくことが望ましい。
- ・心理学の卒業論文の作成を希望する学生は、指導に入るまでに、専門教育科目の心理学を2科目以上、および心理教育統計学を修得しておくこと。

教育学専攻

1. 教育学の学問体系および履修の順序について

文学部の教育学は、①教育哲学、②日本教育史、③教育心理学、④比較教育学の各分野をいわば四本柱としている。これを実際に設置されている専門教育科目と対応させるならば、「教育思想史」が①および④に、「教育史」が②および④に、「教育心理学」および「心理・教育統計学」が③に該当する。ただし、この四分野は、それぞれが全く別個の視座や方法に基づいて、成立しているわけではない。各分野とも、「教育」という視座を共有し、「教育」という営みの追究を目指して展開される学的営為であることにはかわりはない。この「教育」という視座をとりわけて問題とする分野のことを、私たちは教育基礎論と呼び、上記四分野の土台として最も重視する。設置科目としては、「教育学」がこの学に相当する。したがって、教育学関係科目の履修は、まずは「教育学」から開始し、その上で各分野の学習に向かうことが望まれる（各分野の順序は特に考慮するには及ばない）。またスクーリング科目として「教育学特殊」が設置されているので、そこでの特殊テーマに関する講義も勉学や研究の参考となるであろう。さらには、教職課程設置の諸科目も上記のものに関連しているので、履修してみるのも良い。

2. テキスト科目とスクーリング科目との関係について

上記のテキスト科目以外に、毎年二つのスクーリング科目（夏期一科目・夜間一科目）を開設している。スクーリングの二科目は、上記の①または②と③、もしくは①または④と③の組み合わせで開設されており、いずれも上記の四分野の学習を補強することを目指している（ただし、科目名は担当者によって異なる）。したがって、スクーリング科目も、上記「教育学」履修後であれば、どのような順序で履修しても構わない。

3. 求められる学習態度、入門書、参考文献などについて

教育学はそれ自体がすでに学際的かつ総合的傾向をもつ学問分野である。それゆえに、学習者の側に「教育」という視座が確保されていなければ、その学的営みは求心力を失い、拡散されてしまう恐れを常に孕んでいる。この意味からも、教育学の学習にとって最も根本的な要件は、「教育とは何か」を絶えず問い続ける姿勢だといえる。村井実『教育学入門（上）（下）』（『村井実著作集』第1巻、小学館、1988年、所収）や、村井実『「善さ」の復興』（東洋館出版、1998年）などは私たちにその自覚を喚起してくれる書である。なお、これ以外の文献については、三田哲学会から出されている『哲学 別冊文献案内』を参照されたい。

経済学部専門教育科目

はじめに

経済学部通信教育課程において学ぶ諸君は、専門教育科目を履修して、所定の単位を修得しなければならない。これらの履修科目の中には、6科目の必修専門科目が含まれている。学則にも明示されている通り、それらの必修科目は、「経済原論」、「経済政策学」、「経済史」、「財政論」、「金融論」、そして「経営学」の6科目である。これらの必修科目は、経済学の様々な分野について学習を行う上で、最も基本的な基礎知識を与えてくれるものであり、先ず、何よりも先にしっかりとその内容を理解し、その知識や考え方を身につけたものとしなければならない。

さらに、専門教育科目は、第1類から、第7類にいたる、7つの分野から構成されている。この類の構成は、経済学および商学のさまざまな教科目の分野別メニューを表しているとともに、これらの分野の専門科目をバランス良く履修することによって、経済学全体についての理解を深めることが出来るようになるといえる。そこで、以下において、これらの類の分類に沿いながら、スクーリング開講科目を含め、開設科目の履修上の注意点ならびにガイドラインを示してみることにしたい。

.....

A. 分野別履修要領

I 経済理論・計量経済に関する科目

経済理論・計量経済の分野については、「経済原論（E）」、「統計学（A）」が入門科目にあたり、それらの科目の参考文献が入門書に相当する。

経済理論

経済学は大まかに言って、ミクロ・マクロの体系からなる経済理論、統計的方法を用いる現状分析、および史料による歴史の実証を目指す経済史からなる。その中で経済理論は、ありとあらゆる経済学での応用分野にとっての不可欠な分析用具を提供するものであり、その基本的内容は世界基準として定型化されている。したがって経済学部で学ぶ学生は、まずミクロ・マクロ経済理論の基礎を十分に学習しておくことが望ましい。

ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎理論を扱う科目が「経済原論」である。これは必修科目という位置づけからもわかるように、他の多くの経済学の科目に対する予備知識とされるべき科目である。マクロ経済学が国民総生産・失業率・物価水準といった経済全体の集計量を問題にするのに対し、ミクロ経済学は個々の経済主体（家計・企業など）の経済活動に焦点を当てる。「経済原論」で学んだマクロ経済学の知識をもとに、より進んだ形で国民所得の決定やその統御を目指すマクロ経済政策について学ぶのが「国民所得論」である。同様に「経済原論」でのマクロ経済学に基づいて、景気循環や経済成長といった国民所得の変

動について学ぶのが「経済変動論」である。

経済理論は複雑な現実の経済現象に対して、一貫したものの見方を提供してくれる。そしてどんな応用分野にも適用される理論を学ぶためには、単なる暗記などではなく、しつこく自分の頭で考える姿勢が必要となることに注意してもらいたい。最後に、経済学および経済理論の広範な体系を初学者にとっても学びやすい形で解説している書物として、以下のものを挙げておく。

ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ 入門経済学』・『スティグリッツ マクロ経済学』・『スティグリッツ ミクロ経済学』 藪下他訳（東洋経済新報社）

計量経済学

計量経済学は、「経済原論（E）」レベルの経済理論を用いて、現実の経済を「統計学（A）」を基礎としてデータを用いて分析する。

経済理論・計量経済に関する科目は、最初にやさしい理論、手法を学び、徐々に複雑な理論、手法を学んでいく。これは、現実の複雑な経済を分析するにあたって必要なステップであるので、読み飛ばすことなく各章を順番にしっかりと学習していくことが不可欠である。また、単に読んでいるだけでは理解しているかどうかの点検ができない。必ず、各章を読み終わるまでにその章についての練習問題に挑戦し、理解の深さについてチェックする必要がある。

この分野の研究を志す学生は、常に現実の経済問題への応用を頭に入れておくことをお勧めする。新聞、各経済雑誌を読みながら現実の経済問題を理論を用いて考える習慣をつけていくことが、問題発見、そして独自の論文を書くための出発点となる。また、政府機関が出版している各種白書、研究所が出版する報告書の多くに理論・計量的な分析が数多くあるので、関心のある経済問題については出来る限り読むようにして欲しい。

なお、これらの科目の履修にあたっての案内を、もっと詳しく知りたい人は、後述の『別冊三田会雑誌 スタディガイド 2012』の、「第2章 マクロ経済学」、「第3章 ミクロ経済学」、そして、「第6章 統計学」の各章をよく読んでください。

II 経済史・学史・思想史に関する科目

経済史

経済には歴史的に形成された現象が多々あり、それらのことは必ずしも理論的には理解できず、歴史的に分析してみる必要がある。経済学において経済史が重視されている理由はここにある。なお経済史は、経済学の一分野であるとともに、歴史学の一潮流を構成するものであり、履修にあたっては、経済学の基礎的知識とともに、歴史に生きる人間の社会的・文化的営為についても幅広い知識と洞察力が要求される。履修条件は特にないが、まずは必修科目である「経済史」をよく学習し、その後、西洋経済史および日本経済史の科目別履修要領にしたがって学習すること。経済史の学習においては、結果よりも学習の過程が重要であ

る。

なお、詳しくは、『別冊三田学会雑誌 スタディガイド2012』の「第1章 経済史」の章をよく読んでください。

学史・思想史

通信教育課程には、テキスト及びスクーリングにより「経済学史」、「社会思想史」等の科目が設置されている。まず、これらの学問分野について簡単に説明したい。経済学は、堅固な学問体系を誇る科学ではあるが、その進歩が本質的なものであるかどうかは議論のあるところである。もし、過去における経済学のディシプリンが現代のそれよりも劣っているということが自明の理でないとするならば、経済学の過去をふりかえってみることに多様な意義が存することになる。このような立場から経済学の過去を扱うのが経済学史である。さらに、経済学という狭い枠を越えて、社会というものについてのすべての言説を歴史的観点から問題にしようとするのが、社会思想、社会思想史である。ここには、経済についての言説のみならず、法思想史、政治思想史、そして場合によってはその他の知の領域についての歴史的展開も含まれる。したがって、社会思想史のほうが経済学史よりも扱う範囲は広範なものである。

つぎにこれらの分野を学ぶ場合の準備について述べてみよう。まずは、受講者が現代の諸問題についての鋭い問題意識をもっていることが望まれる。問題は、さしあたり経済問題でもよいし、あるいは社会問題であってもかまわない。さらに、各人がなんらかの意味での歴史的関心を有していることが要求される。現代の問題はすべて過去に通じているからである。現代の問題を正確に理解するための一つの方法が歴史的な接近方法だといってもよいだろう。

最後に、それぞれの科目について前提とされることがらについてふれたい。上記の科目全般について歴史的素養が必要とされるから、経済史、あるいは歴史学の講義に接しておくことは良い準備となるだろう。これによって歴史的センスがみがかれるからである。さらに、経済学史については、経済理論の入門講義を聴講しておくことがよいだろう。また、社会思想史については、とりわけ社会と自己とのかかわりについて自覚的に認識しておくことが必要である。日常茶飯におきている問題を実感としてだけではなく、整理した上で客観的にそして理論的にとらえることが望まれる。こうしたことすべてが、社会思想史研究への良きイントロダクションになる。

Ⅲ 経済政策に関する科目

経済政策分野には2つの主要な目的がある。第1は、個別の経済現象の理論的な意味を明らかにすることであり、第2は、そのような理解に基づき、貧困の解消、不公平の是正、物価の安定、経済発展等、具体的問題解決のための処方箋を立案することである。従って、まず、マクロ経済学やミクロ経済学等の基礎理論を十分に理解する必要がある。その一方で、

新聞、白書類などを通じて現実経済の問題についての理解を深め、経済政策についての関心を高めておいて欲しい。

テキスト科目としては、「経済政策学」、「財政論」、「金融論」、「社会政策」が用意され、スクーリングでは、それらに加えて、「工業経済論」、「農業経済論」、「公共経済学」、などが開講されている。「経済原論」を深く学習した上でそれらに臨めば、一層充実したものになるであろう。

IV 日本経済・国際経済に関係する科目

この分野の専門科目には、「日本経済論」、「国際貿易論」、「経済発展論」、など、経済学における応用の分野や現状分析の分野が含まれている。現実の経済を分析しようとするとき、理論や経済史、さらには政策の基礎が必要だが、それと同時に、具体的な経済現象についての個別的な知識や理論がなくてはならない。特に、現在、世界の経済は、グローバル化の進展の中で、極めて強い相互依存の体系に移行する過程の中にある。このような現実を理解しようとするとき、国際経済学や経済発展論の知識は欠くことが出来ない。スクーリング科目として「国際経済学」などが開講されている。

この類の科目の履修にあたっての履修条件は、先ず何よりも、先に述べられた、必修科目の理解を深めることにある。国際経済や経済発展の分野では、マクロとミクロの経済理論の知識を前提にして、さまざまなモデルや理論が展開される。また、具体的な経済を分析しようとするならば、歴史的な背景や、政策や制度の基礎知識はどうしても必要となる。また、現実の経済を対象とするには、さまざまなデータを収集したり分析したりすることになる。そこでは統計学の知識が必要になることは言うまでもない。急がば回れ、先ず、経済学の基礎をしっかりと身に付けることが、この分野における研究のためには不可欠となろう。

V 環境・社会に関係する科目

この分野の専門科目には、テキスト科目としては「地理学」、「人口論」、「都市社会学」、またスクーリング科目としては「経済地理」、「社会史」といった、経済現象や経済活動をより深く理解しようとする際に関連してくる隣接諸科学の学問分野が含まれている。途上国の抱える経済問題の中心には、人口や環境、そして都市や地域の問題がある。先進国においても、少子高齢化や女性の社会進出、環境問題や都市問題、地方の過疎化など社会問題はきわめて重要な問題といえる。これらをはじめとした、現代社会において看取される諸問題の現状や課題、背景、歴史的経緯、分析方法を学び、グローバルな視点から学習することが、この分野の共通したテーマである。また、経済活動の担い手である「人」にとりわけ注目し、社会を構成する様々な要素と人との関係を歴史的視点から学ぶことも、この分野の重要な課題の一つである。狭義の経済学だけでなく、人や社会に関わるこれらの科目を習得することが、社会科学を学ぶうえで必要な思考力を高め、視野を広げることにつながるであろう。

VI 経営・会計に関する科目

この分野は、商学系統の学問分野であり、経営学、会計学、商業学の3つの分野から構成される。

【経営学】

経営学は、企業を対象としてその行動や構造を明らかにする学問である。企業は、現代経済の中心的主体として価値を創造し、財・サービスの供給や雇用機会の創出に寄与している。もちろんその際、社会のルールにしたがわなければならない。さらに、情報通信技術の発展や経済のグローバル化といった劇的な環境変化によって、企業の経営にはかなり複雑な問題が突きつけられている。

経営学は、環境変化に直面している企業を「組織」としてとらえ、その仕組みを解明していく。この分野は、企業のどのような特徴に焦点をあてるかによって分化している。したがって、企業の戦略、経営者の役割、組織の性質やデザイン、組織形態の進化と多様性、企業倫理、企業文化、そして企業間関係などの多様な問題を扱う。また経営学は、ミクロ経済学と深い関係をもっているが、事例研究や計量的手法なども適宜援用しながら、多面的な観点からの企業の理解が模索されている。

【会計学】

会計は、経済主体の活動を主に貨幣額によって記録・測定し、これを利害関係者に伝達する行為であって、利害関係者の意思決定に資することを目的として行われる。会計学は、財務会計論と管理会計論の2つに大別される。財務会計論は、企業の資本および損益を測定し経営成績ならびに財政状態を明らかにして、これを企業の外部利害関係者に報告するための会計を研究領域とする。他方、管理会計論は、経営上の意思決定を行い経営活動の業績を評価する上で有用となる情報を、企業内部の管理者各層に提供するための会計を研究領域とする。これらに加え、会計情報の信頼性を確保するために行われる会計監査も会計分野の重要な研究領域となっている。

【商業学】

商業学は、ミクロ・マーケティング論とマクロ・マーケティング論の内容から構成される。ミクロ・マーケティング論は、個別企業のマーケティング活動（具体的には、製品、価格、チャネル、プロモーション等に関する意思決定と管理）とそれに関連する消費者行動を、また、マクロ・マーケティング論は、それらが集計された概念として、社会的に構造化・制度化されたマーケティング・システム（例えば、日本の流通機構）を、それぞれ対象として扱う。いずれの対象においても、それら2つのマーケティング論は、それぞれの対象とそれを取り巻くマーケティング環境との相互作用に着目しながら、様々なマーケティング現象を客観的に記述・説明・予測・統制することを目標としている。

商学関係の専門教育科目としては、必修科目である「経営学」をはじめ10科目ほどがテキスト科目として設置されているほか、スクーリング科目として毎年3～4科目が開講されており、商学関係の科目を幅広く学ぶことができるようになっている。詳しい内容・学習方法については、それぞれの科目の科目別履修要領を熟読してもらいたい。なお、スクーリング科目は毎年同じものが開講されるわけではないので履修にあたっては十分注意して欲しい。

Ⅶ 法律に関する科目

法律に関する科目の履修上のガイダンスは、法学部の履修要領を参照されたい。

B. 「別冊三田学会雑誌 スタディガイド2012」について

上述の文中にもありましたが、経済学部の通学課程では、基礎的な専門分野の履修について、学生の履修をガイドするために、9つの専門科目について、やさしくどのように学習をしていったらよいか、について案内を書きまとめた冊子があります。基礎的な専門科目の履修については、通学課程も通信教育課程も基本的には同じであるといえますから、この「スタディガイド」は、通信教育課程の皆さんにも同じように役立つものと考えられます。

扱われている9つの専門分野とは、経済史、マクロ経済学、ミクロ経済学、マルクス経済学、社会問題、統計学（計量経済学にもふれる）、環境経済学、経済思想の歴史、経済数学の分野であります。これから経済学を勉強しようとする人々や、既に経済学の履修をはじめている人には、大変、有効なガイドといえます。

法律学分野

法律学は、きわめて体系的な学問である。その全体が一つの体系になっているため、その体系に則り、最初は基本的な科目から学び、その基礎知識の上に成立する特別法を後から学ぶのでなければ、本質的な理解には達し得ない。

法と呼ばれるものは、広く考えれば様々な社会の慣習等も含めた、当該社会のルールを意味する。しかし、現在“法律”と呼ばれるものは、憲法をその頂点とし、国会の議決を経て制定された国家の法を意味する。法学を大別すると、基礎法学と解釈学に分類できる。法が成り立つ基礎に遡ってそのあり方を模索するのが基礎法学であるが、それには歴史的側面から学ぶ「法制史」、思想的側面から学ぶ「法哲学」、あるいは諸外国の法制度から示唆を得る「外国法」が含まれる。これに対し、現行法の解釈・運用のあり方を条文・裁判例を通じて学ぶ分野は、広く法解釈学と呼ばれている。

法解釈学の対象である法律は、その頂点に「憲法」を置く。法律科目を学ぶ最初は、法を学ぶ意義および法の全体像を知るための「法学」と、「憲法」を学ぶことから始めるべきである。法律学は伝統的に、私法と公法の二つの系統で考えられてきた。私法領域とは私人間の法律関係（契約、民事責任、親族、相続など）を規定するもの、そして公法領域とは国家対国家・国家の行政主体・そして国家と私人の関係を規定する領域である。各々の領域は、その基本的部分から体系立てて学ぶ方が理解し易く、また早く効率的に習得できる。

私法領域を学ぶには、その全ての基本となる「民法」から学習するべきであろう。法律は一般法と特別法という関係で捉えられる。全体的かつ基本となる原則を定める一般法に対して、より限定された対象にとって特に必要とされる特則を定めるのが特別法である。例を挙げれば、一般的に全ての私人の関係を規定する民法の中で契約等の概念は定められるが、これに対して商法は、特にその中でも企業の取引等を対象として特別な規定を定めている。基本原則は民法にあり、その構造が理解できていることを前提として商法の議論はなされる。それ故、まず基本構造を理解した後に特別法を学ぶ方が、体系的に無理が無くかつ早く理解できる。また知的財産法も、基本的な財産法である民法の応用といってよい。

同様に公法もまた体系で学ぶべきである。ただし公法領域は、国家が私人の罪を律する「刑法」部門、国内の行政主体間及び国家と私人の関係を律する「行政法」部門、あるいは国際間の国家の関係を律する「国際法」部門等に分類できる。各部門は直列的ではなく、むしろ憲法を頂点としてその下に並列して存在している。従って、どの分野を先に学ばなければならないという順位はない。強いていうなら、初学者が比較的取り組みやすい領域は、おそらく「刑法」であろう。窃盗や殺人のように我々の頭で事例が想像し易く、かつそこで求められるのは被疑者となった者の人権をどう守るかという問題でもあり、憲法の精神をそのままに体现する部門といえるからである。

上記の二領域に加え、現代社会では第三の領域たる社会法のウェイトも増している。社会

法とは、私法の行き過ぎた形式的平等を是正するため、いわば社会的弱者に対し国家的視点から保護を加えるために形成された領域である。現代社会では、労働者と使用者との間を規律する「労働法」、企業間・国家間の公正競争を担保する「経済法」、あるいは新しい領域である「環境法」などがあげられよう。この領域は、一方で私人間の契約等を基礎としつつ、他方その総合的コントロールを国家的視点から行うという意味で行政法学である。従って、社会法は公法と私法の双方にまたがる領域として、上述の体系が理解できた後に取りかかるべきである。

以上のような法の体系をふまえながら、計画的に学習することを、心がけていただきたい。

憲法部門

憲法とは、国家統治の組織と作用の基本法で、その目的は、全ての国民の個人としての尊厳が確保された国家生活の実現である。そのために、全ての国民が、自由で、平等で、適正に扱われ、正当な待遇を受け、平和裏に、個性的に欲望を充足できる（つまり、「自分らしく生きられる」幸福な）状況を実現するために、権力の在り方を規制するものである。これを換言するならば、全ての国民の個性が解放されていながらも、同時に、全体として秩序が保たれた国家生活の実現である。

このような憲法は、最高法として、他の諸法を違憲審査の対象とするもので、そういう意味で、国家基本六法の中で唯一超然とした、いわば「独立王国」である。

また、どの国でも、憲法は、独立、敗戦、統合などといった大きな歴史的出来事に際して作られるものである。だから、憲法の学習に際しては、いわゆる法学概論に加えて、歴史、哲学等、広く人間に関する知識と洞察が不可欠になる。

1. テキスト（科目試験）とスクーリングの関係

テキストは、参考書を併用して、憲法の全体的かつ体系的な学習を期待するものである。他方、スクーリングは、時間の制約がある反面、学生が担当者に直接出会える機会でもあるので、むしろ、現代的で身近な憲法問題の解説を通していわゆる憲法感覚を伝えることを目的としている。

2. 憲法の学習方法

まず、自分で気に入った（つまり、読み易い）版の新しい参考書を書店で見つけて通読し、加えて、配本テキストで日本国憲法の基本構造を知り、さらに、スクーリングで新しい問題の意味を知れば、憲法の学習は完了する。その際、常に、専門的な単語（用語）の意味（定義）と原理（原則）の意味（条件）を確認しながら学習を進めることがコツである。

行政法部門

1. 「行政法」は、国や地方公共団体が登場するあらゆる「法律関係」を学習の対象に設定する。その中には、行政内部の話も出てくるし、行政と国民（私人）の関係において運転免許やパスポートの取得、公営による上下水道・病院・交通等のサービスの提供、飲食店営業や酒類販売、公益事業（電気・ガス・運輸・通信・放送事業等）への許認可など、学生諸君にとって身近な話も出てくる。守備範囲が広く、したがって「行政法」に関わる法律は数多あるが、「行政法」という一般的かつ形式的な法典は存在しない。民事法、刑事法、訴訟手続法、社会法等、他の法分野も当然包含した上で、「行政法」と称するだけの特色を見極めることが「行政法」研究の最終ゴールに設定されている。このように行政法は、身近な存在でありながら、そのフィールドは途方もなく大きいものである。
2. 省庁再編、地方分権、規制緩和、情報公開、政策評価等、行政組織の在り方を含めた行政システム自体が変革期にある。また、行政事件訴訟法も改正され日が浅い。行政不服審査法の全面改正も議論されている。日々の報道にも、行政法の学習素材は無数に見つけることができる。単に教科書を丸暗記するといった学習ではなく、次々に現れる行政現象をどのように解けばよいか、頭の中でシミュレーションしてみるという学習が極めて有効になってくる。
3. 他の法律学科目として、憲法及び民法（総則・物権・債権）の学習がある程度終了していることが望ましい。また、行政法の基礎理論は、しばしば行政事件訴訟法等の救済法とセットになったものなので、民事訴訟法を学習することも望まれる。
4. 初学者はまず教科書から学習に入ることになるだろうが、既存の教科書は性質上、どうしても抽象的な記述が多くならざるを得ない。その中でも、初学者にとって読みやすく、学問的水準も保たれた教科書として、原田尚彦『行政法要論』（学陽書房）、櫻井敬子・橋本博之『行政法』（弘文堂）、大橋洋一『行政法Ⅰ現代行政過程論』（有斐閣）等を勧めたい。また、先述のとおり、できる限り裁判判決や日常的行政現象を念頭に置いて、論点を理解する工夫が望まれる。曾和俊文・金子正史『事例研究行政法』（日本評論社）、高木光・高橋滋・人見剛『行政法事例演習教材』（有斐閣）、吉野夏己『紛争類型別行政救済法』（成文堂）等を勧めたい。

刑法部門

1. 刑法学とは

刑法学とは、現行刑罰法規（とくに刑法典）を対象とする法解釈学の一部門です。刑法典は、第1編の「総則」と第2編の「罪」という2つの部分によって構成されています。総則とは、各則において個別的に問題とされることに共通する普遍的なものをまとめて一般的に扱った部分のことをいいます。たとえば、故意は、傷害罪であれ、文書偽造罪であれ、収賄罪であれ、すべての犯罪において共通に問題となります。そこで、刑法は、総則

の38条において故意について一般的に規定しているのです。個別の犯罪について規定した刑罰法規は、刑法典の第2編「罪」以外にも、数多く存在しますが、刑法典の総則は、それらの特別刑法の処罰規定にも適用されるのが原則です（刑法8条を参照）。

2. 刑法総論と刑法各論

総則と各則の区別に対応して、刑法学は、刑法総論と刑法各論とに分かれます。この2つを両方とも勉強しなければ、刑法をきちんと学んだことにはなりません。刑法各論は個別の犯罪（たとえば、殺人罪、強盗罪、放火罪…）を規定した各刑罰法規の解釈論を内容としています。これに対し、刑法総論は、犯罪と刑罰の基礎理論、犯罪（ただし個々の犯罪ではなく、およそ犯罪たるもの）の構成要素ないし成立要件、すべての犯罪に共通して妥当する理論、刑罰の種類と適用などを対象とします。各論の勉強は、「障害物競走」のようなもので、解釈論上の一つ一つの論点をじっくり学んでいけばいつかマスターできますが、総論の勉強はまるで「棒高とび」で、総論特有の体系的な思考を身に付けないかぎり、総論を「ものにする」ことはできないという難しさがあります。

3. 刑法学の学び方

総論と各論の勉強方法については、どちらから先に学びはじめなければならないという決まりのようなものはありません。各論の方が具体的で理解しやすいと感じる人も少なくないでしょうし、まず総論の議論が分かっていると、各論も理解できないと考える人も多いでしょう。お勧めしたいのは、「刑法入門」といったタイトルのついた本を読んで、刑法学の全体を概観した後に、総論または各論を詳しく勉強するという学習方法です。たとえば、最初に読むのに適した本として、井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第4版〕』（有斐閣、2010年）があります（そこには、参考文献も示されていますし、文献や資料の利用に関するアドバイスも含まれています）。これをじっくり読んだうえで、総論と各論それぞれの指定テキストに取り組むのが良いでしょう。

法律学のどの分野も、独学するには困難が伴いますが、とくに刑法学は概念が複雑であって議論も錯綜しており、テキストのみによる独力の学習ではなかなか成果が上がらない場合も多いと思います。仲間とゼミを組んで議論することが効果的だと思いますが、スクーリングの講義を活用して先生の言葉に耳を傾け、また難しい論点については勇気を奮って先生に質問に行くことをお勧めします。

刑事訴訟法部門

刑事訴訟法は、実体法である刑法を具体的に実現する手続法です。民法や刑法のような実体法は、抽象的に権利・義務や国家刑罰権を定めていますが、その実現のためには手続法を定めておかなければなりません。そこで、民事について民事訴訟法、刑事について刑事訴訟法があります。

民事訴訟法は、私的紛争を法的に解決するための手続法ですが、刑事訴訟法は、国家刑罰

権の実現のための手続法です。

刑事訴訟法では、刑法が実現される過程を学ぶので、刑法の知識を前提とします。

刑事訴訟法を学ぶにあたっては、訴訟手続全体についての考察が必要です。訴訟手続のそれぞれの段階での事象は、相互に密接に関連しています。手続の発展的・有機的関連を全体的に考察することが重要です。

法律を学ぶにあたっては、法律概念を正確に理解してください。ことに刑事訴訟法は、個人の権利を大きく制約することがあるので、その概念があいまいでは基本的人権の保障はおぼつかないこととなってしまいます。

刑事訴訟法ではテキスト科目もスクーリング科目も基本的に同じです。

法律を勉強するに際しては、かならず条文にあたってください。いわゆる「六法」は常に手元に置いておく必要があります。ただ、刑事訴訟法の場合、構成が総則・各則となっていて、実際の手続の流れに沿っていませんから、条文をひくのがややめんどろとを感じる人がいるかもしれません。

刑事訴訟法では具体的な事件の解決に関心を払います。したがって、判例集も重要な資料ですから、図書館などで参照してください。なお、いわゆる判例解説は、解説者の視点がはいっていますから、判例集に直接あたって読むことが大切です。

最後に、刑事訴訟法の入門書として、上口裕ほか『刑事訴訟法』〔第4版〕(Sシリーズ)(有斐閣、2006年)をあげておきます。その他、民訴法との比較から重要論点を解説したものとして、小林秀之＝安富潔『クロスオーバー民事訴訟法・刑事訴訟法』〔第3版〕(法学書院、2010年)が参考になるでしょう。

その他、刑事訴訟法を学ぶ上では、裁判傍聴も欠かせません。近くの裁判所について刑事裁判を傍聴してみてください。

刑事政策学部門

刑事政策学は、犯罪の少ない安全な社会を作るための政策や制度のあり方を研究する学問です。具体的には、犯罪者に対しどのような刑罰や処分を設けるべきかという刑事制裁論と、犯罪者に対する刑罰や処分を執行する過程でどのような処遇や教育を行うべきかという犯罪者処遇論が中心となりますが、どのようにすれば犯罪や非行を未然に防ぐことができるかという犯罪予防論も重要です。犯罪被害を受けた被害者の立ち直りに向けどのように支援するのがよいかを検討する被害者学(被害者支援論)も欠くことのできない分野となっています。

いずれも犯罪(被害)の現状や制度の運用状況を踏まえたうえで政策や制度のあり方を検討する必要があるため、テキストだけでなく、各種の犯罪統計や白書を必ず参照するようにしてください。犯罪白書は、一次統計をわかりやすくまとめ、図表化したもので、これを常に参照しつつ、必要に応じて、元の統計(警察庁平成～年の犯罪、検察統計年報、司法統計

年報、矯正統計年報Ⅰ・Ⅱ、保護統計年報)にも当たってください。犯罪白書は、毎年、特集の部分があり、法務総合研究所が行った調査結果など貴重なデータが得られます。また犯罪白書以外にも、警察白書、青少年白書、高齢社会白書、男女共同参画白書、犯罪被害者白書なども大変参考になります。

また、勉強にあたっては、テキストである安部哲夫=守山正編著『ビギナーズ刑事政策(第2版)』(成文堂、2011年)をしっかりと読むことから始める必要がありますが、テキストはレポート作成の上での単なる出発点にしか過ぎませんから、テキストを読むだけで終わってはいけません。テキストを読んだ上で、テキストに掲載されている参考文献や論文は勿論、更にそれらの中に示されている参考文献や論文といった場合に、当該問題に関する参考文献や論文を幅広く集め、読み込む必要があります。特に、刑事政策のような政策学は、犯罪情勢の変化や新しい立法などで常に変化していますので、図書館の文献目録やデータベースなどを利用して、該当分野の新しい論文に必ず触れるようにしてください。関係論文が数多く掲載される雑誌や報告書の一覧(一般の法律雑誌を除く)を下に掲げておきます。

従って、レポートや科目試験は、テキスト以外の資料や文献にきちんと当たっていること最低条件となります。テキストをまとめてあるだけのレポートは、何回提出されても合格にはなりません。数多くの参考文献に当たり、何が論点かを見極め、それについて洞察を加えることがレポートの課題です。ましてや、インターネットに掲載されている情報をコピーしてペーストして切り貼りしたようなレポートは添削の対象にはなりません。悪質なものは不正行為として処分の対象になりますので、くれぐれも注意してください。学問に近道はありません。時間をかけ、こつこつ地道に取り組んでください。

なお、刑事政策学に属するテーマで卒論を書くことを希望する場合、刑事政策学のレポートとテキスト科目試験の両方に合格していることが条件となりますので、注意してください。

参考雑誌・報告書一覧(法律主要雑誌は除く)

- ・警察 警察学論集、警察公論、警察時報、科学警察研究所研究部報告(防犯少年編)
- ・法務省・検察 罪と罰、研修、法律のひろば、法務省法務総合研究所研究部報告
- ・裁判所 法曹時報、家庭裁判月報、家裁調査官研究紀要(旧・調研紀要)
- ・矯正 刑政
- ・保護 更生保護と犯罪予防、更生保護
- ・その他 犯罪と非行、刑事法ジャーナル
- ・学会誌 刑法雑誌、犯罪社会学研究、犯罪心理学研究、矯正教育研究、被害者学研究
犯罪学雑誌、警察政策

民法部門

1) 民法とは、その一 ～実質的民法と形式的民法～

民法とは、私法関係（ \longleftrightarrow 公法関係）を規律する原則的な法（＝一般法）を、意味しています。私達の私的法律関係を規律する、その法ルール、それが民法なのです。これが実質的にみた場合の民法の定義です。

他方、民法を形式的にみた場合には、皆さん方がもっている六法全書（ポケット六法や基本六法と呼ばれる市販の本）に掲載されている「民法典」と称される法典、それが民法に他なりません。それが形式的意義における民法です。

2) 民法とは、その二 ～一般私法～

私達は国家（日本国）という社会形態を組織し、その中で社会生活を営んでいます。としますと、国家と私達との関係、換言すると私達の国民としての生活関係、これを「公法関係」といいますが、これを規律する法ルールが、「公法」と呼ばれるものです。

これに対して、国家とは直接的には関係することなく、私達相互の生活関係、これを「私法関係」といいますが、これを規律する法ルールが「私法」と呼ばれるものです。

私法と公法との区別を前提としますと、民法は私法に属し、その一つであり、その原則的なものです。この点から、民法は原則的私法（一般私法）と呼ばれています。私法関係を規律するものであるけれども、そのうち専ら「商事」関係を規律するものが「商法」（会社法や手形・小切手法など）であり、これが特別私法と称されるのと、対比されます。

3) 日本民法典の編成は ～五つの編～

先に述べてきたように、私達相互の私的法律関係を規律し、六法全書にのっている民法典、これが民法に他なりません。この民法典は、その編成として、次の五編より成っています。

①第1編・総則、②第2編・物権、③第3編・債権、④第4編・親族、⑤第5編・相続、の五つです。通信教育課程における民法の学科目やテキストもまた、原則的には、この五つの編に即して、設置され配本されているのです。

4) 各編の内容は ～財産法（前三編）と家族法（後二編）～

民法典は総計1000条を越える大部のものです。各編毎にその内容を把握しておけば、それ程、とりつきにくいものでもありません。

①まず、総則編は、民法（主として財産法）における通則を定めています。ここでの学習が、民法を理解するための、土台であり基盤となります。まず、第1歩の作業です。斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅰ【総則】第3版』（中央経済社、2007年）を参照してください。

②次に、物権編は、物を直接的に支配しうる権利として、所有権を中心として、各種の物権（占有権・地上権・永小作権・地役権・入会権）を定めています。その前半部分の「ヤマ場」は物権変動論です。斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅱ【物権法】』（中央経済社、2009年）を参照してください。民法理論の興味深さが理解できます。その後半部分の担保物権（留置

権・先取特権・質権・抵当権)についての諸規定に関しては、近時、学問的にも実務的にも、極めて大事なものとなってきています。ポイントはここにあり、といえます。斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅲ【担保物権法】・全面新訂版』(中央経済社、2012年刊行予定)を参照してください。

③さらに、債権編には、その内容上二つに分かれ、債権一般に関する総則、そして各個の債権発生原因についての特則、を定めるものです。前者は債権法総論、後者は債権法各論、と呼ばれています。

④また、親族編は、家族関係としての婚姻・親子・後見の扶養について、定めています。

⑤最後に、相続編は、人の死亡をきっかけとして生ずる財産関係、つまり財産の承継たる相続や遺言について、定めています。

以上、民法は五つの編より成り、前三編は財産法であり、後二編は家族法である、ということが出来ます。

5)学習の基本姿勢は——読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと——

民法の学習に限りませんが、まずテキストを読むことです。また、スクーリングで講義を聞くことも、大事です。耳から聴いて、理解するのです。レポート作成も、そして報告したり、相互に議論することも、肝要です。

商法部門

商法という学問分野は、専門教育科目として「商法総則・商行為法」、「会社法」、「保険法・海商法」、「手形法」の四部門に分けて教育課程が組み立てられている。この四部門は、主として、商法典の各編と各章ならびに商法典に近接する重要単行法に基づく分類である。

「商法総則・商行為法」は、商法典第一編「総則」と第二編「商行為」の第一章から第九章までを対象主分野としている。「会社法」は、平成17年、商法典から独立し、「会社法」という一つの独立した法典となったものを対象とする。「保険法・海商法」のうち「保険法」にあたる部分は、平成20年に商法典から独立し成立した「保険法」を主として対象としている。「保険法・海商法」のうち「海商法」にあたる部分は、商法典第三編「海商」の部分にかかわる。「手形法」は、主として単行法である「手形法」を対象主分野としている。これら四部門を履修することにより、商法という学問分野全体を修得できるように企図されている。

各専門教育科目の履修順序については、最初に「商法総則・商行為法」か「会社法」から始めることを勧めたい。社会生活上の経験から会社という企業に興味を持つ機会の多い履修者には「会社法」を第一にすることを勧める。興味があれば、難解な学問も大いに楽しくなるからである。「会社法」を第一に選択すれば「商法総則・商行為法」が第二となる。次に「手形法」そして、最後に「保険法・海商法」という順序になる。この順序づけの根拠は、長年にわたり学生諸君と接してきた教員の経験則としかいいようがない。

スクーリング科目としては、テキスト科目の「会社法」と「手形法」に対応するものが開講されることが多い。これは、会社と手形が商法における中心分野であり、その二つを学びたいとの実需が多いことに理由がある。

商法は民法とは「特別法」と「普通法」の関係にある。つまり、同じ私法という分野で、民法はより一般的であり、商法はより特殊であるとの関係にある。従って、商法の前提には、当然のごとく民法の法理があり、民法の法理を踏まえて、商法の法理が定立されているとの関係にある。ということは、民法の親族法と相続法を除いた財産法の分野全部を良く理解していないと商法の法理が理解しにくいことになる。それ故、商法分野の各科目にとりかかる前に民法の財産法分野の履修が望ましい。

商法分野の参考書については、百花繚乱の状況であるが、学術的なもので最新かつ詳細なものであれば、競争の激しい分野であるから、どれも問題はない。

民事訴訟法学部門

1. 民事訴訟法学の領域

(a) 狭義の民事訴訟と広義の民事訴訟

民事訴訟は民事紛争を法的に（正義に基づいて）解決するための制度であり、その方法は、原告の法的な主張（例えば自己が権利者であるとの主張）が正しいか否かを、被告の反論を聞いて、裁判所が判断するというものである（「民事訴訟法」のテキストの講義要綱参照）。裁判所の判断は判決によってなされるから、民事訴訟は判決手続とも呼ばれる（狭義の民事訴訟）。判決手続以外に民事紛争の解決のための手続としては、強制執行手続、民事保全手続、倒産処理手続などがある。

ところで強制執行手続と民事保全手続は、かつては民事訴訟法典に規定されていた。このことが示すように、これらも民事訴訟といわれることがある（広義の民事訴訟）。なお、判決手続に関する特別手続として、督促手続、手形・小切手訴訟、少額訴訟、人事訴訟、行政訴訟等がある。督促手続、手形・小切手訴訟、少額訴訟は民事訴訟法が規定しているし、「民事訴訟法」のテキストにおいて説明がなされている。人事訴訟は人事訴訟法、行政訴訟は行政事件訴訟法が規定している。なお民事訴訟法が広義の民事訴訟手続を規定していないことから、一般に民事訴訟は狭義の意味で使用されている。

(b) 判決手続以外の紛争解決のための手続

強制執行手続は、債務名義といわれる給付請求権の存在を公証する文書（確定判決が代表的）に基づいて、執行機関が請求権の実現を図る手続である。民事執行法が規定している。民事保全手続は、判決手続と強制執行手続は時間がかかるので、それらを補完する手続であり、強制執行の実効性を確保するために、暫定的措置（仮差押え、仮処分）を行う手続である。民事保全法が規定している。倒産手続は債務者に対して複数の権利が競合しかつ債務者の財産が不足していて、それらを満足させることができない場合、総債権者が

公平な満足を得るための処理手続である。倒産手続には債務者の財産を清算して各債権者に分配する手続と、債務を棚上げして債務者の更正を考える手続がある。前者は清算型といわれ、破産法、商法の特別清算手続が規定している。後者は再建型といわれ、会社更正法、民事再生法が規定している。なお倒産手続には否認や相殺といった実体規定も置かれていて、訴訟手続のみとはいいがたい面があるが、倒産で問題となる権利が争われる場合は、判決手続で決着をつけることになっている。

2. 本部門の履修の順序と基本的な学習態度

判決手続（狭義の民事訴訟）の原理や原則はあらゆる民事の訴訟法や手続法の基礎や根幹に影響を与えているので、判決手続以外の民事訴訟法学（広義の民事訴訟手続）の領域のいずれを学ぶにしても、先ず判決手続を勉強することである。そして次に、それ以外の紛争解決のための手続や判決手続に関する特別訴訟手続を勉強するのがよい。すなわち、判決手続を規定している民事訴訟法をしっかりと勉強して、この部門の特有の原理や基礎理論を修得し、手続的正義や手続保障というものについて具体的に理解することが重要である。

通信教育として開講されている科目名でいえば、「民事訴訟法」、次に「破産法」ということになる。すなわちテキスト科目としては、判決手続については「民事訴訟法」、倒産手続の破産手続に関しては「破産法」という名称で、開講されている。スクーリングの科目も同様で、例年、この2科目が開講されている。なお強制執行手続と民事保全手続については、現在は開講されていない。

なお勉強に際して法の改正に注意しなければならない。司法制度改革に伴い最近では民事訴訟法や関連する法律が毎年のように改正されている。このような状況であるから、勉強に際しては常に最新の六法を参照しなければならない。また参考書を利用する場合は、できる限り最新の法改正を織り込んでいるものを利用すべきである。もっとも理論的な問題や法の改正に影響されない問題であれば、改正を記述していない参考書でも利用できるから、法の改正によって従前の参考書が価値がなくなるというものではない。

3. 本部門の参考書

開講されている「民事訴訟法」、「破産法」の勉強方法や参考書については、それぞれの講義要綱やレポート課題集の参考文献欄を参照すること。他の手続の場合は、手続を規定している法律名を表題とする本が参考書になる。すなわち、民事執行法、民事保全法、破産法、会社更生法、民事再生法等を題名にしている本である。ただし倒産手続に関しては、個々の法律名だけでなく、それらを統合した「倒産法」という本も出版されている。

本部門を全体的に概観したい場合は、中野貞一郎『民事裁判入門 [第3版]』（有斐閣、2010年）を推薦する。あるいは、テキストの民事訴訟法の講義要綱やレポート課題集の参考文献欄に挙げられている「民事訴訟法」についての大部な参考書を参照するという方法もある。それぞれの最初の方に略述されているからである。例えば、新堂幸司『新民事訴

訟法〔第5版〕〕34頁以下（弘文堂、2011年）、伊藤眞『民事訴訟法〔第4版〕〕12頁以下（有斐閣、2011年）。

4. その他

民事訴訟法学者は一般に判決手続と関連手続を研究領域（守備範囲）にしている。日本民事訴訟法学会は毎年3月末に「民事訴訟雑誌」を刊行しているが、そこには判決手続（狭義の民事訴訟）に限らず、本部門（広義の民事訴訟）に関する最新の研究が発表されている。

社会法（労働法・経済法）部門

社会法という領域は、それまでの公法・私法という二分法からすれば、その双方の法領域にまたがる、第三の領域である。

社会法は、19世紀という資本主義社会草創期においてその必要が生じ、創造された。19世紀前半の社会理念は、私人の自由と平等を重んじ、その権利の絶対性を尊重するあまり、私人間の契約に係る領域には国家は介入しないことを是とした。私人間の自由意思による契約は絶対であり、独立した私人が自ら決定したことは、そのまま尊重されることがより良い社会の形成につながると考えられたのである。しかし、法的主体間に存する事実上のアンバランスを無視した形式的平等主義は、結果として社会の貧富あるいは強者と弱者の間の不平等をかえって助長する結果となった。

19世紀後半になると、これらの社会的矛盾を是正するためには、私人間の契約に係る領域であっても、場合によっては国家的見地から政府が介入し、社会のバランスを改善する事が求められるようになる。そのためのルールを確定する、一種の政策的法領域が社会法と今日呼ばれている領域である。

この領域には、使用者と労働者という雇用に係る個人間のあるべきバランスを求める「労働法」、あるいは経済主体としての企業間もしくは国家間の取引に係る領域における・自由競争を確保しようとする「経済法」、個人の幸福追求を国家が如何に支援するかを政策的に遂行する「社会保障法」などが、含まれる。

この領域を学ぶには、まずその前提として契約とは何かが理解できていなければならない。労働契約にしても、商取引にしても、その基本は契約である。従って民法の学習は全ての基本であろう。しかし同時に、この領域は前述したとおり、一方で私人間の契約を対象としながら、場合によってはその契約を国家的見地から取り締まり、あるいは国家的見地からの給付に関する法体系である。だからこそ、憲法・行政法に関する知識が不可欠である。

このように、社会法を学ぶには、私法・公法にまたがる双方の理解が必要である。従って、この領域はむしろ基礎的・一般的法律科目を履修した後に学ぶべき、特別法の領域であることを自覚して欲しい。基礎がなければ、それらの修正原理としての「社会法」を学ぶことは困難である。更に、具体的紛争は民事訴訟として生ずることもあれば、事案によっては行政

訴訟の形をとって提起される場合もある。将来この分野で卒論を書く者は、卒論指導にはいる前に、それら訴訟法に関する学習も同時にしておくべきであろう。

国際法部門

国際法とは

国際法とは、伝統的概念にしたがえば、国家を構成単位とする国際社会に妥当する法規範のことです。

国際法もまた法規範であるゆえ、憲法をはじめとする国内法諸分野と多くの特徴を共有しています。しかし、両者の間には、それらが妥当し、また逆にそれらを支える社会構造の相違に由来する決定的な相異点が存在しています。それは、立法府、行政府、司法府といった通常の近代的国内社会において法の諸々の作用を担う機関（特に、警察・検察や裁判所といった典型的な法の執行・強制機関）が、国際社会には存在しないという点です。そのため、国際法には、法の本質とも考えられる強制力が欠如しているものとみなされがちです。そこからさらに、「国際法は法か」という問いがしばしば発せられることとなります。

国際社会のこのような構造は、その構成単位である各国家が最高・絶対とされる主権を有し、それゆえにすべての国家は平等であり、上位者を認めないという法的擬制によって規定され、国際法理論もそれを前提として提示されてきました。国家と国家の関係ということで公法の一分野であるはずの国際法ですが、平等な法的地位にある諸国家間の関係が私法上の私人間関係に類似したものと観念されたため、近代国際法に関する学説及び実行は古代ローマ法に由来する私法理論に大幅に依拠することによって形成されました。しかし、20世紀（特に、第一次世界大戦後）に明白となる国際社会の構造変化によって、従来の国際法理論では理解され得ない事象が数多く生じています。

国際法の学び方

以上のような基本構造と歴史的背景を有する国際法の学習と理解のためには、法学の基礎理論（法解釈学のみならず、法哲学及び法史学を含む）、私法と公法に関する多面的な知識が必要とされることとなります。そしてそれらの知識をもとに次のように国際法の学習を進めればよいでしょう。

まず、テキスト、入門書〔大森正仁『国際法Ⅱ』・大森他『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、2008年）等〕によって国際法学の概要を把握し、次に専門的概説書〔栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会、1999年）（2000年度より通信指定テキスト）〕によって体系的理解の獲得を目指すことをすすめます。さらに興味があれば、特定の分野や事項に関する個別の専門文献（単行書・雑誌論文）へと進めばよいでしょう。なお、教科書や文献の理解を深めるために、それらの中で引用されている条約や判例については資料集（条約集・判例集）を参照することも重要です。

外国法部門

なぜ、外国法を学ぶか

外国法を学ぶ目的は、二つある。一つは、法の本質を問うためであり、もう一つは、現実の国際関係に役立てる為である。後者の目的の理由は明瞭である。友好的で、効率のよい国際関係を築くには、どんなレベルであっても、相手方の制度、機構、文化を理解することは基本的な必要条件であるからだ。この目的の為に、様々の国家の法を知ることが必要になってくる。しかし、法律学の研究において、特に重点が置かれているのは、フランス法及び、ドイツ法、そして英米法である。その理由は、第一の目的と深く関係してくる。

そして、慶應義塾のカリキュラムにおいて、外国法は、基礎法という分野に属するものとして、扱われている。そもそも、基礎法とは、法哲学のように法の本質を考えるための学問であり、また、憲法のように、国家及び、ある国の法制度及び理念の基礎を決定する法分野である。ではなぜ、外国法は基礎法に分類されるのだろうか。外国法を学ぶことによって何が見えてくるのであろうか。

日本の法律は、その後、独自の発展を遂げたとはいえ、近代の初期に、ヨーロッパに成立していた法及び、法哲学を基礎に、制定された。それゆえ、現代においても、その理念を理解し、それが、新しい時代において、その普遍の理念がどのように生かされるべきかを考える為には、日本法の母法たるドイツ法、フランス法を知ることは大変有意義だと考えられる。これらの国家の法や、その理論を学ぶことにより、直接に日本法に利用し、その内容を充実させることができる。

では、英米法についてはどうであろうか。周知のごとく、英米法は、大陸法とは異なった理念によって、動いている。その特徴は、慣習をもとにした判例法であり、また、陪審制度など、独特の訴訟手続きを持っている。現実的な理由以外、この様に、異なった法制度を研究する理由は、どこにあるのだろうか。それは、法に対する異なったアプローチを学ぶことが、法の理解を深め、充実させるところにある。なぜ、法が存在するか、法の本質は、法はいかにあるべきか、これらの問いは、法を学ぶ者が、それにどっぷり浸かっている体制を学ぶだけでは、見えてこない場合が多い。異なる視点、異なるスタンスから、ものを考えることから、その本質や問題点が見えてくる場合が多いのである。外国法を学ぶということは、この、異なった視点を獲得することだと言えよう。

部門共通—判例の読み方

現代の法律学では、より現実の紛争解決に近づくことのできる、リアリティのある学習をすることが求められている。そのためには、従来のいわゆる理論的な教科書だけでは足りず、実際の紛争とその解決策を示す「判例」の学習が重要になる。これは、憲法、行政法、刑法、民法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法、社会法等の各部門に共通の要請である。しかし、判

例の検索法とか読み方については、通学課程では、そのための独立の科目（「法学情報処理」）もあり、また、ゼミ等でも適宜教えられるのであるが、通信教育課程ではまだ独立の科目が設置されておらず、それぞれのテキストでも必ずしも十分に触れられていない。したがって、以下の解説を参考にさせていただきたい。

トータルな内容の判例学習書としては、池田真朗編著『判例学習の A to Z』（有斐閣、2010年）が便利である。

重要判例を紹介し解説する書物は、『判例百選』シリーズ（有斐閣）や『判例講義』シリーズ（悠々社）など、比較的多くのものが出版されている。しかし、それらは「判例解説書」であって、「判例学習書」ではない。一方、判例をどう検索するかというリーガルリサーチに関する書物も、存在するが（いしかわまりこ他著『リーガル・リサーチ（第3版）』日本評論社）それだけでは不足である。また、判決文それ自体の読み方を解説するものもあったが（中野次雄『判例とその読み方（三訂版）』有斐閣）、現代の学生向けの独習書としてはいささか取り付きにくいかもしれない。そして、判例学習そのもの、すなわち、主要な各法分野について、リサーチの仕方に始まり、判例の機能を知り、法解釈の中での判例の位置づけを学び、かつその判例に重要度のランク付けをしたり、一つの判例をさまざまに活用した学習法などを教える書物はこれまで存在しなかった。そのようなトータルな意味での「判例学習書」と呼べる書物は、前掲の『判例学習の A to Z』くらいと思われるのである。

以下、判例学習のポイントを同書（以下「前掲書」として引用）を参照しつつ解説する。

(1) 判例は、できるだけ要約されたものではなくオリジナル（判決原文）にあたること。ことに、卒業論文で引用するような判例は、必ずオリジナルを読んでおくこと。最高裁判決の中でも、最高裁判所の公式判例集である『最高裁判所民事判例集』（民集と略す）、『最高裁判所刑事判例集』（刑集）に載っているものが最も重要である。民間の判例雑誌としては、「判例時報」（判時）、「判例タイムズ」（判タ）、「金融商事判例」（金判）、「金融法務事情」（金法）などがある。なお、第一審から控訴審、上告審と進む訴訟の構造と判決文のあり方については、前掲書第 I 章を参照されたい。

(2) 判例の調べ方は、データベースを十分に活用するべきであるが、データベースを妄信してはいけない（人為的に編集しているので、完全なものではない。前掲書第 VI 章参照）。

(3) 判例を読むときには、すぐに判旨を読んではいけない（こういう、「判旨」などの言葉の意味は、前掲書第 I 章で確認してほしい）。①まず、判例（事実、判旨）を読むときには、必ず紙と鉛筆を用意する。②最初にするのは、**事実関係の把握・整理**である。最初から判旨を読んではいけない。事実関係を読む際には、文章を、鉛筆で適宜区切りながら読む（さらにいえば、判例の中には、古い大審院時代の漢字カタカナの文語調のものもあるのだが、そういう判例を読む場合の指導については、前掲書第 II 章参照）。③登場人物が多数ある事案、当事者の主張が多岐にわたる事案については、必ず**関係図**を描いてほしい（前掲書では関係図の書き方も指導する）。④さらに、取引関係がいくつか重なっているケースでは、それらを**時系列**で整理してみる。時の流れを示す直線の上に、日付を入れた出来事メモを順番に書

き込んでいくのである。これだけやって初めて、⑤原告が何を求めてどんな訴えを提起したのか、⑤適用条文の確認、と進んでいくのである（判旨はまだ読んではいけない）。適用条文は、何法の何条なのか、を想像し、その条文にあたって、規定内容を確認して、その条文では何が足りないのか、どんなことを足さないとこの紛争が解決しないのかを考える作業が非常に大事なのである（法律学の学習に一番必要なのは、想像力である。暗記の能力などではない）。それだけやって、ようやく⑥判旨を読むことになるのである。

(4) 判例学習は、先例を覚えるためのものではなく、これから遭遇する紛争事例に対処できるための応用力を養うものでなければならない。ここも勘違いしないように。

(5) 具体的に民法、憲法、刑法という主要法分野ごとに、具体例を扱いながら、判例の意義を考えていく。そうすると、法分野ごとに判例の意味や役割が違っていることもわかってくる。その中で、価値の高い判例とはどういうものなのか、も考えてもらう（いわば判例の「格付け」である）（これらのことを前掲書では第二章から第四章で学習する）。

(6) 判例や裁判例を使った発展的学習としては、当事者がどういう人か、なぜこのような紛争が起こるのか、を考えてみたり、事案を少し変えて別の登場人物がいたら結論はどうなったか、などと考えたり、という訓練がある（詳細は前掲書第V章参照）。

(7) もちろん、どうやって判例を検索するかというノウハウがなかったら、いわば料理すべき材料が入手できないのであるから、そのリサーチの技法はしっかり身につけていただく必要がある（詳細は前掲書第VI章参照）。スクーリングの機会に図書館で開催されるオリエンテーションに参加することも強く勧められる。

以上がポイントの概略である。なお、判例と学説を一緒にして、「判例はA説だが学説にはB説とC説があり」などと書いている教科書をよく見かけるが、判例は「説」を立てているのではない。それぞれの事案に対する紛争の解決法を提示しているのである。したがって、判例法理の中には一般化できるものとできないものがあることも理解したい。

いずれにしても、紛争解決のためには、①まず条文にあたり、②それで足りないときには判例の準則を探し、③最後に学説を調べる、という順番を常に忘れないでほしい。

.....

政治学分野

本塾の政治学教育にかかる科目は、大別して、政治思想論、政治・社会論、日本政治論、地域研究・比較政治論、国際政治論、という5部門に分かれています。ただ、これら5部門は相互に関連しており、バランスよく履修することが、政治学ないしは政治という現象を正しく理解するために必要となります。内容をごく簡潔に要約すれば以下の通りです。政治思想論は古今東西の政治理論ないし政治思想の理解を深めるための科目です。政治・社会論は経験的もしくは科学的と呼ばれる政治理論、および社会学や行政学・法律学・経済学などの視点から政治現象の解明を目指す科目です。日本政治論は日本社会における政治の仕組みや

思惟を過去から現代にかけて解明する科目です。地域研究・比較政治論は世界各地における政治制度や政治の動態を北米・南米・ロシア・中東・アフリカ・中国・東南アジアなどの地域ごとに個別に解明したり、比較論的視座から分析したりする科目です。国際政治論は日本を含む諸国家ないし諸機関どうしの相互作用を全体としてとらえ、世界的視野から平和と紛争を考察する科目です。

政治哲学（「政治哲学」）

政治思想史（「ヨーロッパ中世政治思想」「政治思想史Ⅲ」）部門

政治哲学も政治思想史も、政治学の基礎概念にかかわる学問分野です。この部門では「政治哲学」、「ヨーロッパ中世政治思想」、「政治思想史Ⅲ」のテキスト科目を用意しています。

ところで今、「政治学」と述べました。言うまでもなく政治学とは「政治」を対象とする学問ですが、では人間の様々な社会活動のうち何が「政治」と言えるのか、こういう問題が当然のことながら出てきます。言い換えますと、経済現象でも社会学的現象でもない、政治現象の確定が求められているわけです。

これは決して簡単な問題ではありません。私たちの目に通常映っているのは、社会的活動の漠然とした束だからです。したがって私たちは無意識のうちに、ある一定の基準を設定し、それを用いて「政治」を社会から抽出していると言えます。そして、ここで言う基準をより厳密に・より体系的に論じようとする試みこそ政治哲学に他なりません。そのため、テキストを通じて履修者はまず「政治の本質」を改めて考察することになります。

また、人間は生きる意味・目的を求めてやまない動物です。とすれば、そういう人間にとって政治はどのように評価されるべきなのか、こういう問いは全体主義や民族紛争を見聞きした私たちにとって切実なものであるはずです。「政治の価値」が再検討されなくてはならない所以ですが、「政治哲学」は「政治に関する世界観の学」として、この問題にも立ち向かいます。

さて、政治哲学が基礎政治学の共時的な理解を目指すとするれば、政治思想史はその通時的な理解を目指す学問領域だと言えましょう。

およそ学問には、過去の学説に照らし合わせて、自らの意義を確認しようとする契機がありますが、政治学において学説史の学習はまことに重要だと言わなければなりません。政治学は他の学問以上に、過去に用いられた術語を批判・検討しながら、私たちの政治生活の理解を深めようとする傾向が強いからです。たとえば「民主政治」ひとつとっても、現代の多くの理論家たちは古代ギリシアを引証基準にして考察を行っているのです。

ところで、皆さんが手にするテキストはもっぱら、ヨーロッパの地で展開された政治思想を扱っています。日本政治思想にはほとんど言及がなされません。しかし、近代日本の幕開けとともに先人たちが政治思想を含む西洋文化の吸収に努力してきた結果、ヨーロッパ文明

は今日、私たちの「第二の自我」と言うべきものになっています。そのことを疑う人はいないでしょう。ですから、日本政治思想を深く学んでみたいと思っている方も、ヨーロッパ政治思想の「応用問題」として目を日本に転じることは、決して間違いではないはずです。

履修者に求められる視点を少し具体的に述べますと、まず「ヨーロッパ中世政治思想」ですが、上に記したとおり、私たちにとって重大な意味を持つヨーロッパ政治思想の「原型」が形成されたのが、中世と呼ばれる時期であることに注意を払って下さい。では、ここでいう「原型」とはどのようなものか それは皆さんが学習を進める中で明らかになるはずです。と同時に、そういう問題意識をもって中世政治思想を学ばれるならば、ここでの理解がヨーロッパ文明そのものの理解と直結していることに気が付かれることでしょう。

「政治思想史Ⅲ」では、ヨーロッパ政治思想史を飾るビッグネームが打ち立てた理論を学習します。ここで意識してもらいたいのは、彼ら思想家たちの理論それぞれが、近代的な政治観の確立に寄与しているということ、その結果私たちにとっても「どこか親しみが持てる」ものになっていることです。ただし、テキスト執筆者が語っているように、そこで感じられた「親しみ」は、あくまで現代の思想的課題に対する私たちの認識の道筋を整えるための出発点です。私たちが探求すべき政治は、近代政治思想のナイーブな延長線上にあるのではないからです。その意味では、過去の思想家たちに問いかけようとする姿勢こそ、学習を通じて最も求められるものだと言えましょう。

政治理論部門

政治理論にかかわる専門教育科目で現在テキストが配布されているのは、島田久吉・多田真鋤著「政治学 (J)」である。この他に、適宜にスクーリング科目が開講される。

法学部通信教育課程乙類として開講されている諸科目に共通するのは、それらがすべて政治学の科目であるという点である。したがって、それらの科目の基本からの理解には、政治学とは何かを理解していることが不可欠である。

たとえば、いま、あなたが日本研究者の集まりに参加しているとする。そこには、経済学、社会学、人類学、宗教学、文学、医学等々の研究者が集っているはずである。これらの研究者に囲まれて、あなたが他の研究者とは異なり「政治学として研究を行なう」というのはどういうことか、その説明を求められたらどう答えるであろうか。

この問は、政治学の出発点で問われるべき問であり、また到達点として明快な答をもつべき問でもある。「政治学 (J)」の履修は、この答を探すために必要な第一歩だと考えてほしい。

日本政治部門

政治を理解するためには、政治思想や政治制度、さらには政治の歴史や実態を学ぶことが必要不可欠です。また、世界各国の政治状況を理解するためには、まずは自国の政治状況を十分に理解し、これを正しく把握しておくことが、何よりも肝要であることもあらためて指摘するまでもありません。法学部ではこのような要請に応えるため、とくに「日本政治」の部門を設置しています。

「日本政治」の部門では、日本政治の歴史や実態を詳しく勉強するため、「日本政治史」、「日本政治史Ⅰ（古代）」、「日本政治史Ⅱ（中世）」、「日本外交史Ⅰ」、「日本外交史Ⅱ」のテキスト科目を用意しているほか、夏期もしくは夜間スクーリングに際しては、上記科目ばかりでなく、現代日本政治の実態の理解を深めてもらうために、「日本政治論」の講座を開講しています。

「日本政治」というと、他国の政治と異なり、私たちにとって身近な存在であり、誰でも簡単に学ぶことができるものと思われがちです。しかし、ジャーナリスティックな興味をこえて、アカデミックな分析手法や研究成果を習得することは、そう簡単なことではありません。「日本政治」の勉強は、対象には接近しやすいのですが、その分だけ、逆に高度なレベルが要求され、なかなか厳しいものがあるからです。履修希望者は、安易な気持ちを捨て、たとえ困難な課題にぶつかったとしても、これを乗り越える努力をして欲しいと思います。そして履修生諸君が、この機会を利用して日本政治の「過去」と「現在」を正しく理解し、その上で、それぞれがこの国の「将来」についても真剣に考えてくれることを期待しています。

履修にあたっては、それぞれの科目担当者が示している指針や履修条件を十分に参照・吟味し、くれぐれも途中で挫折したり、後悔することのないようにして下さい。また、履修科目選択の順序は、とくに指示がない限り、全く自由です。

地域研究部門

「各国別、各地域別の研究で、特定の国あるいは地域の総合的理解と、他の国・地域との比較を重視する」学際的学問が地域研究です。ここでいう「総合」とは、ある地域の近現代または現在が抱える問題に対し、複数の専門領域からアプローチし、その成果を総合して理解するという意味です。その際学際研究のやり方をめぐり、1人の研究者が、すでに確立している社会科学の複数の学問分野をマスターして取り組むのか、それとも1人の研究者は1つの専門分野に特化して研究を進め、その上で他の専門分野の研究者と共同研究を行うのかという疑問が生じます。この方法論上の問題は学会でも決着のついていない問題なので、ここではこれ以上問いません。

いずれにしても地域研究者は第1にその地域の文化に惹かれ、言語を修得し、現地での生活を体験し、近現代史を概観した上で、地域特性を研究対象にします。その意味では実証的

な学問です。しかしそれだけでは不十分で、上述のように社会科学の学問分野を少なくとも1つマスターし、そこで練り上げられた問題の見方や分析手法を地域の研究にできるだけ使う必要があります。

法学部学生が地域研究に取り組む場合、差し当たり政治学関係の諸科目を幅広く学ぶのがよいです。整合性、体系性の点で、政治学とは何かという問題が残るでしょう。また多くの場合政治学の理論は欧米地域の近現代を研究対象にして作られているため、その理論を地域研究、特に途上国研究に応用しようとしても途惑うことが多いです。しかしそうであったとしても、地域の実証的な研究と社会科学の理論的研究との関係は相互に交流し、影響を与え合い、時に緊張関係に陥りながら長期的には地域研究からのフィードバックによって社会科学理論自体が作り変えられてゆくものと考えべきです。

従って冒頭に挙げた「他地域との比較」の重視についても、その比較軸は社会科学の理論的イシューです。ある地域の人間の行動様式は特性を持つと同時に、他地域のそれと比較してみれば共通点も見出せます。より広い地域設定の中で問題を理解することが、理論的一般化にとっては必要です。以上に述べた地域研究の学問的特徴、方法論について詳しく知りたい者は、『入門現代地域研究』、「特集：地域研究の海へ」（『地域研究論集』）、『講座 現代の地域研究』を読むとよいです。

現在テキスト科目では、「現代中国論」「アメリカ政治史」「ロシアの政治」が開講され、スクーリング科目ではそれ以外の諸地域もカバーされています。理論的アプローチは科目毎に少しずつ違いが見られますが、自らの関心に従ってどの地域から学習してもよいです。できれば卒論などに繋げて関心地域を掘り下げて学習してください。

地域の問題を見つける上で、『世界年鑑』（共同通信社、各年）をはじめとする年鑑類を活用するなどして、各地域の現状をフォローするのが役に立つでしょう。また本塾図書館での資料探しの他に、特に途上国研究に取り組む場合、日本貿易振興会アジア経済研究所の図書室を訪ねるとよいです。

- ・加藤普章編『入門現代地域研究』（昭和堂、1992年）
- ・共同通信社『世界年鑑』（各年）
- ・国立民族学博物館地域研究企画交流センター編『地域研究論集』第1巻第1号「特集：地域研究の海へ—その方法と可能性」（平凡社、1997年）
- ・矢野暢編『講座 現代の地域研究』第1～4巻、（弘文堂、1993～94年）
- ・『現代用語の基礎知識』特別編集、『国際情勢ベーシックシリーズ 第1～10巻』、世界各地の現代史を概説（自由国民社）
- ・日本貿易振興会アジア経済研究所 <http://www.ide.go.jp>

国際政治部門

国際政治部門のテキストは、「ヨーロッパ政治史」、「西洋外交史」しかありませんので、履修の順番からいえば、政治史、外交史の順でしょうが、同時並行してもかまいません。『ヨーロッパ政治史』は1単位にしかありませんが、レポートの課題参考書が第2次世界大戦後のヨーロッパ統合を取り扱っていますので、戦後のヨーロッパを勉強するのにオススメです。「西洋外交史」の参考書は、新著で、外交とは何か「旧外交」と「新外交」、現代外交までカバーしたもので外交問題を考えていただく材料にして下さい。なお、世界史をこれまで学習したことがない方やカタカナの名前や地名にアレルギーがある方は、「日本外交史」から入るのが賢明かも知れません。

国際政治論は、夏期あるいは夜間スクーリングで履修することになりますが、テキストで歴史を勉強した後のほうがよいでしょう。しかし、これもこだわりません。先生から直接講義を聴いた方が学習意欲がわくと思えば、スクーリングを優先してもかまいません。面白い知との出会いがあるかもしれません。

毎日、新聞を読んで下さい。テレビの国際ニュースや国際関係の特集番組に関心をもって下さい。新聞やテレビは情報の宝庫です。その上で、『国際問題』（月刊—電子ジャーナル）、『国際政治』（年4冊）、『国際法外交雑誌』（年6冊）、『国際安全保障』（年4冊）、『外交』（隔月刊）、『海外事情』（月刊）、『日本 EU 学会年報』などを手にされるとなにか国際政治のテーマになっているかがわかります。卒業論文の問題発見のきっかけになるかもしれません。これらの雑誌は、卒業論文の執筆に際して資料としても利用できます。

インターネットによる情報収集も重要です。とくに現在進行形の問題を取り扱う場合は不可欠です。たとえばEUの首脳会議の議長総括や共同宣言などは翌日に全文を手に入れることができます。外務省や駐日各国大使館のホームページも使えますが、日本が直接関与しない場合は外国語、とくに膨大な英語文書を読む能力が問われます。

ともあれ、材料やヒントは目の前にあふれています。しかし、それを発見するのは皆さんです。

【講義要綱】

哲学の歴史は学問の中では最も古く、多くの人間が解決に悩んだ問題の歴史でもあります。哲学を学ぶには、「問題」の方に力点をおくやり方と、「歴史」の方に力点をおくやり方があります。どちらのやり方にもそれなりの利点がありますが、この講義では、前者のやり方をとり、哲学的問題とはどのような問題なのか、それを解決するためにはどのように考えればよいのかを、実際の問題を扱いながら考えて行きます。その際に強調したいことは、哲学は科学を中心とする現代の理論的営みと無関係なものではないということです。したがって、この講義が目指すのは、現代に生きる私たちがそれぞれの生活の中で生じる哲学的な問題に直面したとき、それを解決する方法や手懸りを提供することです。

【テキストの読み方】

テキストをどのように読み進めるかはきわめて重要です。そこでこのテキストの読み方について説明します。このテキストは論証の部分と、歴史的経緯や状況の説明の部分とからなっています。事件や事実を叙述する場合と、その背後のからくりや原因と結果の関係を推理する場合は大きく違っています。叙述の代表は小説や報道記事です。何が何時どのようなようになったかという報告は、素直に読むだけで事の経緯がわかりますから、考えながら読む必要はありません。映画やテレビドラマが面白いのは筋の展開や心理描写にあり、それらは考えなくてもわかります。一方、論証の代表例は数学の定理の証明です。シャーロック・ホームズの推理も論証の一つです。数学の定理や名探偵の推理はしっかり考えないとわかりません。このテキストはこれら二つの異なる部分、つまり論証部分と叙述部分からなっていることに注意してください。

読んでいる部分が論証なのか、叙述なのかをまず確認してください。いずれの部分かによって読み方が違ってきます。論証部分はかつて数学のテキストを読んだときのことを思い出しながら、その時と同じように読んでみてください。時間をかけてゆっくり読まなければなりません。途中でわからなくなったら先に進むのではなく、前に戻らなければなりません。何度も前のページを見返すことが必要になります。一人で読む場合、このような読み方は一方的に辛抱強さを要求しますから、ついいい加減になったり、読み飛ばしたりしてしまいます。辛抱強く、何度も読み返す、わかるまで頑張る、といった根気が求められます。これに対して、叙述の部分は日本語さえわかれば大抵苦勞なしに理解できます。正確に理解することを心掛ければまず心配は要りません。用語や人名が不明ならそれを調べる程度で済みます。でも、自分が正しく内容を理解したかどうかの確認は叙述の部分の方が厄介で、誤解しないよういつも注意しなければなりません。論証部分はわからない場合にはわからないという自覚が必ずあり、わからないことがはっきりわかります。

さらに、このテキストのもつ特徴は（問）があちこちにあることです。問は必ず解答して

ください。テキストの内容が理解できたかどうかの目安になります。テキストが二つの異なる部分をもつことを念頭に置きながら丁寧に読み進め、必ず「わかった」、「理解した」という確信がもてるまで何度も読み直してみてください。

【関連科目】

哲学から個々の学問が生まれていったことを考えれば、すべての科目が哲学に関連していると言っても過言ではありません。テキストの内容に対応する科目は何かを常に意識しながら学ぶと個々の研究を通じて哲学が理解できる筈です。

実際に関連の強い科目は論理学と科学哲学です。論理学は推理推論するために知っておかなければならない事柄ですし、科学哲学は哲学の個々の分野の一つです。

【参考文献】

- 野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書、1996年
 柴田正良『ロボットの心』講談社現代新書、2001年
 戸田山和久『知識の哲学』産業図書、2002年

【レポート作成上の注意点】

特に注意してほしいことは、教科書や参考書に書かれている事柄をまとめるだけのレポートにならないようにすることです。もちろん、教科書や参考書で理解したことを前提としなければなりません。その上で、あなた自身はどう考えるのかということを中心に書いてください。他方、教科書や参考書から学んだことをすべて無視して、自分の考えだけを書くという、逆の誤りにおちいることも避けてください。また、自分はこう考えたと述べるだけでは、レポートにはなりません。必ず、なぜそう考えるのかという理由や根拠を挙げてください。レポートの書き方については、補助教材『学習のすすめ』を参考にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

論理学 (A)

(A 015-7903、A 7950) [4単位]

【講義要綱】

論理学の研究はアリストテレス以来長い歴史をもっています。私たちが何かを推理するときに不可欠の規則が論理規則と呼ばれ、それがないと考えることさえ覚束ない基本的な規則と考えられています。それを研究するのが論理学で、19世紀末のフレーゲの研究によって論理学はそれまでにない新たな発展をすることになります。数学的な思考と記号の使い方が論理学に取り入れられ、数学やコンピュータ科学と結びつきながら、様々な分野で応用され、基礎研究には欠かせない役割を演じています。

この講義では論理的な推論や真偽概念について基本的な事柄を学ぶことを目的にしていま

す。それによって自分が論理的に考えることができるようになるだけでなく、他人の考えが正しいかどうかもしっかり判定できるようになれるはずです。

【テキストの読み方】

文学部の他のテキストと違って記号や数式、論理式がたくさん登場します。自然な言語ではなく、記号言語を使って文や命題を論理式に書き直し、推論が正しいかどうか調べることが主要な内容ですから、それをしっかり肝に命じて読み進めてください。丁寧に説明されていますから、普通に読み進めれば、テキスト以外の参考文献を参照しなくても完全に理解できます。根気強く読めば、このテキスト一冊だけで論理学の基本は理解できるのです。

【関連科目】

論理学が生まれた経緯や歴史から哲学が強い関連をもった科目です。推論することが主要な研究方法である哲学では論理的な推論が大切な道具になっていますから、論理学の知識は哲学の問題を扱う上で必要なのです。また、数学的な形式をもった内容ですから、数学基礎論、計算理論、コンピュータ言語等は論理学と密接に結びついています。さらに、言語学との関連も20世紀後半には強くなり、統語論、意味論等で重要な役割を果たしています。

【参考文献】

論理学のテキストはたくさんありますが、テキストの読み方で書いたようにこのテキスト以外のテキストをまずは忘れてこのテキストだけに集中してみてください。どれも似た内容なら一冊だけ暗記するほどに読むのが一番です。

【レポート作成上の注意】

他の文献を参照する必要はありませんから、テキストの内容だけを十分に使ってレポートを作成してください。文献を検索し、巧みにそれを使うのではなく、テキストの内容を正しく理解し、それだけを使って問題を解くことに専念してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

文学

(A 012-7601、A 7610) [4単位]

●中国文学関係

【講義要綱】

中国の古典文学は、どのジャンルにおいても、いわゆる西欧の文学 (literature) の概念とは異なる独自の在り方、発展・変化の過程を有しています。

そうした状況を、中国の文化・歴史的な背景や中国語の特徴と関連づけて考え、また他国・他地域の文学と比較してとらえることは、自らの「文学観」を相対化し、中国文学に対して

多角的で深い視座を持つために非常に重要であると考えられます。

このような視座を持つことは、文学に限らず凡そ人文学すべての分野において、必須であると思われます。本講義を通じて、そのような視座を養ってもらいたいと希望します。

【テキストの読み方】

下記参考文献の①、②、③を読んで、中国文学の特徴を特に各ジャンルごとに把握すること。

さらに、④を読んでそれぞれの特徴や各作品を文学史の観点から整理し、また前後の時代の特徴と比較すること。

⑤、⑥は、レポートに取りあげる具体的な作品を決定するために使用すること。

また、各作品についてさらに深く考察し、先行研究を調査するために、⑦を利用すること。

【履修上の注意】

まずは参考文献を読んで、中国文学の（他の国・地域の文学と比較して顕著な）特徴について、特に文学の各ジャンルごとの観点からよく理解すること。

次に、自分が選択した作品にそうした特徴がどのように表れているのかについて、注意深く分析し、先行研究も踏まえつつ論じること。

【参考文献】

- ① 吉川幸次郎『中国文学入門』講談社学術文庫、1976年
- ② 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社、1991年
- ③ 前野直彬『中国文学序説』東京大学出版会、1982年
- ④ 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会、1975年
- ⑤ 八木章好『中国古典文学二十講一概説と作品選読』白帝社、2006年
- ⑥ 『中国の古典名著・総解説（改訂新版）』自由国民社、1998年
- ⑦ 『中国古典文学案内』日外アソシエーツ、2004年

【レポート作成上の注意点】

指定の字数内で、はっきりと読みやすく書くよう心がけること。引用文は自分の文章と区別できるようにしるし、出典と引用箇所を明記すること。

●日本文学関係

【講義要綱】

近代日本文学の歴史は、出版メディアの発達の歴史と不可分の関係にある。

新聞・雑誌などのメディアの発達や、単行本による文学作品の大量複製と流通は、文学作品の享受のありかたや享受層に大きな変化をもたらした。

そうした事態は、たとえば夏目漱石による『朝日新聞』連載小説に具体的に現れているように、創作という営為自体にも本質的な変化をもたらしている。

さらに、改造社の「円本」が典型的に示すように、文学作品は出版資本にとっての「商品」としての意味を担うことにもなり、販売部数という新たな評価軸をもたらしている。

これらさまざまな視点の中から具体的な事例を取りあげ、出版メディアの発達が文学の創作・享受の両面に及ぼした影響とその意味を検証する。

【参考文献】

- 李 孝徳『表象空間の近代—明治「日本」のメディア編制』新曜社、1996年
高橋修ほか編『メディア・表象・イデオロギー』小沢書店、1997年
筑波大学近代文学研究会編『明治期雑誌メディアにみる〈文学〉』筑波大学近代文学研究会、2000年
山田俊治『大衆新聞がつくる明治の「日本」』NHK ブックス、2002年
紅野謙介『投機としての文学—活字・懸賞・メディア』新曜社、2003年
小尾俊人『出版と社会』幻戯書房、2007年

【レポート作成上の注意点】

たんに近代文学とメディアとの関係を指摘するだけではなく、両者がどのように関与し、それが同時代あるいは文学史においてどのような意味を担っているか、という具体的な分析が求められる。

●フランス文学関係

【講義要綱】

フランス文学は、特に近現代において、小説、詩、演劇、批評、思想といった文学のあらゆるジャンルで、人類の芸術の歴史から見ても突出した創造を達成しました。それは人間の感性、世界観、思想をおおきく広げ、深化させました。皆さんは今回の学習を通して、いくつかの作品を読むことにより、その一端に触れることになります。学習に何よりも大切なのは、まず自分自身の感覚・知性を全開にし、読書をひとつの「経験」にまで深めることです。そして、もしその作品に興味を持ったら、作者の生涯、時代背景、あるいは文体などについて文献を探索し、さらに作品の理解を広げるようにしてください。

さて洋の東西を問わず、愛は文学の永遠のテーマです。フランス文学はとりわけ愛を表現した傑作が多く、詩、小説、演劇、エッセーなどあらゆるジャンルで、恋愛という主題がさまざまに変奏されてきました。語られるのは幸福な愛だけではなく、道ならぬ恋、破滅的な恋、絶望的な恋、不実な誘惑などです。『マノン・レスコー』、『谷間の百合』、『赤と黒』、『ボヴァリー夫人』、『スワン家のほうへ』、『愛人』など、恋愛小説の傑作はたくさんあります。愛の物語がどのように語られてきたのか、考えてみてください。

【テキストの読み方】

取り上げた作品をレポートの課題にそくして、ていねいに読んでください。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目】

テキスト『十九世紀のフランス文学』、『二十世紀のフランス文学』、『フランス文学概説』の学習も役立ちます。

【参考文献】

上村くに子・西川祐子編『フランス文学／男と女と』勁草書房、1991年
 小倉孝誠『〈女らしさ〉の文化史』中公文庫、2006年
 小倉孝誠『愛の情景——出会いから別れまでを読み解く』中央公論新社、2011年
 工藤庸子『フランス恋愛小説論』岩波新書、1998年
 アラン・コルバン他『世界で一番美しい愛の歴史』藤原書店、2004年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する際は、参照した文献にあった要素を単にまとめるのではなく、それらの要素をいったん消化したうえで、自分自身であらためて作品についてよく考え、それを記述するよう心がけてください。参考文献からの引用のモザイクにならないよう注意してください。あくまで「自分なり」の視点で論じることが重要です。

●演劇関係・ドイツ文学関係**【講義要綱】**

ドイツ語圏の文学は、哲学や音楽、また自然科学とも複雑に関連し合って、大きな表現の世界を作り上げてきました。また、ヨーロッパの中央部に位置しながら、長らく統一国家が形成されなかったことも、ドイツ語圏の文化をより一層複雑なものとしています。多様性の中の総合性、変転の中の普遍性を見つめる視線をもって、ドイツ語圏の文学に取り組んでみていただきたいと思います。

【履修上の注意】

テキスト『近代ドイツ演劇』や『近代ドイツ小説』も通読しておくことをおすすめします。

【関連科目】

文学研究は、視点の置き方次第で、あらゆる学問領域に関連付けることが可能です。問題意識を大胆に広げてみて下さい。

【参考文献】

手塚富雄・神品芳夫『ドイツ文学案内』岩波文庫、1993年
 柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2003年
 池内紀『ほくのドイツ文学講義』岩波新書、1996年

【レポート作成上の注意点】

自分の書きたいテーマが何であるのか、つねに鮮明に意識しつつ、全体の構成を見据えながらレポートを作成してください（実際に、論文・レポートの内容の見取り図を書いてみるとよろしいでしょう）。自分の研究分野にどのような先行研究があるのかも可能な限り調べて、論述の冒頭において簡潔に言及するようにしてください。参考文献に記されている「見解」と、自分のそれとが混同しないように、つねに心理的な「距離」をとりつつ文献に接してください。

●英米文学関係

【講義要綱】

文学作品には、それが書かれた時代と社会の姿が否応なく反映される。作者がそれらをいかに理解し自分自身の問題とした上で、作品としてどのように再構成・表現したかに注目して欲しい。必ずレポート課題で指定したテーマを中心に据えること。自分の興味に応じて時代、作品を選ぶことになるが、この段階でよく調べ考え抜くことが良いレポートを書く秘訣である。読んで面白かった作品を選び、その面白さ、自分の興味を喚起した点について論理的に考察すること。それにあたっては、参考文献を渉猟し、作品とその時代、そして作者への理解を深めることも重要である。

【参考文献】

加藤憲市ほか訳『コンプトン英国史・英文学史』大修館書店、1996年（定評ある百科事典から関連項目を訳出したもの。文学史を大づかみに理解する上で役に立つ。）

中村邦生ほか編著『たのしく読めるイギリス文学—作品ガイド150』ミネルヴァ書房、1994年（有名作品のあらすじ、作者、典型的な読み方などを要領よくまとめている。作品選びに便利。）

【レポート作成上の注意点】

1. レポート冒頭で、作家名、作品名、翻訳を用いるなら訳者名、使った版の出版社名、出版年を明記すること。
2. レポートの内容・論旨を端的に示す独自のタイトルを付けること。
3. 末尾には完備した文献一覧をつけること。
4. 作品の「あらすじ」は不要。自分の論を展開する上で不可欠な場合のみ、必要に応じて部分的に導入すること。
5. 自分の考えと参考文献等から得た知識とは明確に区別し、後者を引用する場合はもちろん、咀嚼し要約などして用いる場合でも、それぞれの箇所で注を施し、出典を明記すること。
6. その他の点については、『塾生ガイド』掲載の「レポート作成上の注意」に紹介されているような手引き書を参考にすること。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史（日本史）**（市販書採用科目）（A 043-9591）〔2単位〕****【テキスト】**

竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編『教養の日本史〔第2版〕』東京大学出版会、1995年

【第1回】**【講義要綱】**

古代の倭国（日本）は中国・朝鮮と密接な関係をもちながら、国家形成を進めていった。今回のレポートでは3世紀から7世紀前半の時代に絞って、中国との外交関係がどのように展開したか——3世紀の邪馬台国の時代、5世紀の倭の五王、6世紀末から7世紀前半の遣隋使、さらには対中国関係が途絶していたとみられる4・6世紀と、論点を整理してまとめて欲しい。

【参考文献】

西嶋定生『日本歴史の国際環境』東京大学出版会、1985年
熊谷公男『日本の歴史』（03大王から天皇へ）講談社、2001年

【第2回】**【講義要綱】**

江戸時代の社会を考える場合、当時の日本人の80%以上を占める農民の側に視点をおき、彼らの生活実態の中からあらためて歴史を考えることは重要である。この場合、支配者対被支配者という対立構造ではなく、具体的な生活実態の中からその行動を理解しようとする姿勢が望まれる。

【テキストの読み方】

歴史はややもすると為政者側の立場から論じられることが多い。イメージとして描かれた農民像ではなく、歴史学によって裏付けられた真の農民生活を読みとって欲しい。

【参考文献】

成松佐恵子『庄屋日記にみる江戸の世相と暮らし』ミネルヴァ書房、2000年
速水融『江戸農民の暮らしと人生』麗澤大学出版会、2002年
佐藤孝之『駆込寺と村社会』吉川弘文館、2006年

【レポート作成上の注意点】

指定された参考文献を精読し、課題の主旨を理解して、自分の文章で書くこと。テキスト、ネット検索、辞典類は参考文献に入れないこと。本文を5頁分書き、6頁目に参考文献名を

列記して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史（東洋史）

（A 005-7101、A 7108）〔2単位〕

【講義要綱】

中国を中心としたアジア地域および中東・イスラーム世界の歴史について、概論的な知識を習得する。その上で、東洋史研究において特に重要なテーマに関して、課題・参考図書の精読、関連文献の調査・研究によってさらに理解を深めて行くことを目標とする。

【参考文献】

森安孝夫『シルクロードと唐帝国』〈興亡の世界史05〉講談社、2007年

湯川武『イスラーム社会の知の伝達』〈世界史リブレット102〉山川出版社、2009年

【レポート作成上の注意点】

課題・参考文献の文章を引用、または典拠として利用した場合には、必ずその頁数を註として明記してください。なお、註はレポートの最後にまとめて示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史（西洋史）

（A 003-7102）〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は、高等学校「世界史」の西洋史部分と、大学で学ぶ学問的に高度な西洋史との橋渡しをすることを目的としています。従ってテキストは、「世界史」よりは多少詳しく、かつ学問的にも多少高度に書かれています。入学後、他の難解な科目を履修する前に、この科目で歴史の勉強の基礎を作して下さい。

【テキストの読み方】

レポート課題に取り組む前に、テキストを一読して、西洋史の全体的な枠組みを把握し、同時に西洋史的な感覚をやしなして下さい。今回のレポート課題に対処するためには、下記の参考文献1冊を読んで下さい。その後に再度、科目試験にむけてテキストを入念に読み、履修者各自がテキストからトピックを取り上げて、トピックそれぞれについて、各自なりに知識を整理して下さい。テキストを用いたトピック別の知識の整理が、科目試験の対策勉強になります。

【履修上の注意】

この科目は、入学後早い段階で履修されることを想定しています。だから、事前ではなく同時に、西洋の文学史、近代思想史、政治学、経済原論などを履修すれば、この科目の理解に役立ちますし、科目間の相乗効果も期待できます。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅰ（古代・中世）」「西洋史概説Ⅱ（近代・現代）」「西洋史特殊Ⅰ（古代オリエント史）」「西洋史特殊Ⅲ（近代イギリス国家の成立）」

【参考文献】

西洋史全般については、テキスト巻末に詳しい参考文献をあげておきましたので、それを見て下さい。レポート作成のためには、頁数も価格も手ごろで、この分野において日本語で書かれた最新の文献として、岩井淳『ピューリタン革命と複合国家』（山川出版社：世界史リブレット115、2010年、¥729）を入念に読んで下さい。さらに他の参考書を読む必要はありません。

【レポート作成上の注意点】

今回のいわば課題書である上記『ピューリタン革命と複合国家』のみを、丁寧に読んで下さい。薄い本ですから、入念に読み、内容をよく咀嚼し、履修者各自の力で整理し、自分の言葉でレポートを書くように心がけて下さい。同書のつぎはぎ細工では、歴史の勉強になりません。

なお、論述に際しては、いきなり書き始めるのではなく、レポート全体の構成をよく考えて下書きを作り、文章を推敲した上で清書して下さい。添削担当者が日本語の添削ではなく、論述内容の添削に集中できるようにして下さい。多少のミスは別としても、日本語を添削しなければならないようなレポートは、添削不能レポートとして返却します。

【成績評価方法】

科目試験による。

法学（憲法を含む）**（A 021-8402）〔4単位〕****【講義要綱】**

今日私たちの日々の生活は、「法」との接点なしに成り立つものではない。そこで本講義は、今後「法」との長い関わりをもつであろう法律学を専攻する者にとっても、また今回以外に「法」に係わる学習の機会を持ち得ないかもしれない者にとっても、現代社会を生きていくなかで、「法」をめぐる、これだけは知っていて欲しいと思われる基礎的な事柄への知見を得、理解を深めるために開講される。学習に当たっては、まずテキストを通読すること、つまりテキストの冒頭より最終頁までを必ず根気よく読み通してみることが肝要である。そして、

次のステップとして、テキスト通読中十分理解できなかった箇所や疑問の箇所に重点を置きつつ、できれば複数の参考書を参照して、さらに学習を進めるべきであろう。レポート課題を横目で眺めながら、ただただ課題提出のみに的をしぼった学習など、本科目を真実自分のものにするためには、何ら意味無きことであると承知されたい。いささかの時間を要するかも知れないが、体系的な理解こそ、結果的には学習進捗のもっとも早道と思料される。なお、参考書については特に指摘しない。ちなみに「法学」に関しては、多くの労作が世に問われており、図書館・書店に向いて、自らの目で確かめ選択すること。また学習に際しては、できる限り当該年度の「六法」を入手し、それを座右に置き、必要に応じて丹念に条文内容を確認することは、「法学」履修の基本姿勢である。

【参考文献】

霞信彦『法学講義ノート〔第4版〕』慶應義塾大学出版会、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考書の丸写しにならないように留意することが必要である。併せてそれら参考文献を換骨奪胎してレポートを作成することも、評価の対象とならない。参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治学 (A)

(A 001-6403)〔4単位〕

【講義要綱】

政治体制の相違を政治学的にきちんと理解することを目指します。その相違は、いかなる視点を比較すると浮かび上がるのか考えてください。

【テキストの読み方】

いかなる点に注目して比較すればよいのか、考えながら熟読してください。

【参考文献】

中村勝範編『主要国政治システム概論〔改訂版〕』慶應義塾大学出版会、2005年

【レポート作成上の注意点】

安易に他の文献に頼らず、まず教科書を熟読しテーマに関連する基礎的事項の理解を深めてください。足りない場合は、上記の参考書を、さらに不足の場合は、それ以外のものを利用してください。なお、参考文献は必ず文末に明記すること。またいかなる文献を選択したかも評価の対象になる。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済学

(A 018-8102、A 8125)〔4単位〕

【講義要綱】

現実の経済を理解し分析するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。概要は以下の通りである。

1. 総論：経済の本質、経済循環の構造
2. ミクロ経済学
 - 消費者・生産者行動
 - 市場均衡
 - 経済厚生と国際経済
3. マクロ経済学
 - 国民所得決定のしくみ
 - 財政・金融政策の効果
 - 景気変動と経済成長

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにして下さい。

【履修上の注意】

高校レベルの数学は理解しておくことが望ましい。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門〔第2版〕』有斐閣、2003年
 塩澤修平『基礎コース 経済学〔第2版〕』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

仮定と論理的帰結の区別を明確にすること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学

(市販書採用科目) (A 054-0791)〔4単位〕

【テキスト】

ギデンズ『社会学〔第5版〕』而立書房、2009年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版（2004年）を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

テキスト『社会学』第5版（第4版も可）は、全般的に広範囲のテーマに関する社会学的な思考を述べてあります。社会学は社会科学の一分野です。社会学の基本的特徴は、経済学、法律学、経営学、政治学などの社会科学が、人間社会のさまざまな現象をいわば縦割りにして研究対象としているのに対して、それらの現象の基底において横断的に存在する社会的行為、社会関係、社会集団、組織に関する問題を考察、分析するところにあります。

社会学的思考、分析は社会学において使用される概念および概念枠組の操作を通してなされるものですから、社会学的思考、分析を身につけるには、社会学の基礎概念をよく理解することが必要となります。テキストに出て来る基礎概念、キーワードに注意してテキストをよく読み、理解し、それらの術語を使って具体的問題を記述、説明できるようになることが大事です。

【テキストの読み方】

このテキストには、1～22のセクションがあります。関心のあるところから読んでも構いません。またそれらセクションの最後に、まとめ、考察を深めるための問い、読書案内がつけられています。これらはあくまでも理解を助けるための情報です。まとめを読んで済ませることのないようにしてください。必ず本文を読み、まとめ等の情報を適切に利用して、理解を深めてください。また末尾の用語解説も参考にして、注意深く読んでください。その上で、そこに紹介された概念やアイデアを利用して、様々な出来事を「社会学的」に見ることができるようになってください。

【履修上の注意】

社会学的なものの見方を身につけることが大事です。レポートでは、論述という形式を習得しているかどうか大事な評価基準になります。

【関連科目】

特にありません

【参考文献】

レポート作成にあたっては、あなたの関心に応じて文献を探し出すことが重要です。少なくとも5本以上の文献をテキストの他に探してください。

【レポート作成上の注意点】

- ①参照や引用には注をつけて、出典を明らかにすること。ネットからの情報はホームページ名とダウンロード日時を明らかにすること。
- ②レポートの章立てを行うこと（1、課題設定。2、その課題を選んだ理由。3、本論。4、今後に残された課題。5、参考文献や資料）。

【成績評価方法】

科目試験による。

統計学 (A)**(A 055-0901) [4単位]****【講義要綱】**

社会科学分野の研究において、自然科学分野の研究で用いられてきた統計的分析が不可欠となってきました。そのため、社会科学における基礎学問としての「統計学」の重要性が高まっています。

統計学では、①統計的記述（実際のデータの特徴をどのように捉えるか）、②統計的推測（標本から母集団の特徴をどのように推定するか）、③統計的検定（理論的主張をどのように検定するか）、④相関・回帰分析（複数の変数の間の相関・因果関係についての分析）を学ぶことにより統計的分析の基礎を身につけます。

【テキストの読み方】

各章の最初に示されているその章の解説を読み、まずは細かいところは気にせずその章を一通り読むことによって、概要をつかんでください。そして、次に例題を手掛かりにしながらコツコツと読み進めてください。その際には例題の解答の再現を試みるとよいでしょう。

例題のデータはその量を少なくしてありますが、それでも分析によっては計算量が多くなってしまう場合があります。その際にはエクセルを積極的に活用してください。各章末にエクセルの利用に関する解説が示されています。例題を理解していくことによってレポートに取り組む準備が整うことになるでしょう。

そして、章末の練習問題に取り組んでください。それらはこの科目の過去の試験問題あるいはそのアレンジがほとんどですが、いずれも現実社会のデータに関するものです。現実のデータを用いて統計分析を考えることによって応用力が身につくこととなります。試験では、データを用いた計算とそれに関する統計学的考え方の理解が問われますので、練習問題を理解することによって試験に向かう準備が整うことになるでしょう。

【履修上の注意】

この科目を履修する前に事前に履修すべき科目はありません。

【参考文献】

（統計学入門の代表的なテキスト）

蓑谷千風彦『統計学入門』東京図書、2004年

（統計学の歴史的背景や応用などをわかりやすく説明した副読本）

蓑谷千風彦『これからはじめる統計学』東京図書、2009年

（新書：気軽に読めるもの）

C. R. ラオ（藤越康祝・柳井晴夫・田栗正章訳）『統計学とは何か—偶然を生かす』ちくま学芸文庫、2010年

高橋洋一『統計・確率思考で世の中のカラクリが分かる』光文社、2011年
（表計算ソフトを使っただけの統計学の学習向け）

菊地進／鈴木みゆき／小西純／岩崎俊夫著『経済系のための情報処理』実教出版、2010年
藤本壱『Excel でできるらくらく統計解析（増補版）』自由国民社、2011年

【レポート作成上の注意点】

統計学は計算結果や図表も含めてレポートを作成する科目であるため、指定箇所を除き、特に分量に制約を設けません。そして、レポート作成にあたっては、答えを求めるまでの経過もきちんと示してください。経過が示されていない場合、添削・採点の対象となりません。また、考察や説明が求められている場合、その設問も必ず解答してください。計算が出来ただけでは統計学が理解出来たとは言えません。計算途中で必要となるワークシートおよび図についてはエクセルで作成したものを印刷し、それを貼りつけても構いません。

また、統計学のレポートではテキストで取り上げられるデータ分析の実践を通じての復習に重点が置かれるため、論述形式のレポートにあるような参考文献の使用は必要ありません。

【成績評価方法】

科目試験による。

当該科目試験における出題範囲は、テキスト全体から発展項目を除いた部分とします。

数学（基礎）

（A 041-0001）〔2 単位〕

【講義要綱】

●第1章 集合（集合、写像）、第2章 数列（数列、数列の極限、級数）、第3章 関数（関数の極限と連続、指数関数・対数関数、三角関数）

数学の多くの分野は集合を基礎にしてその理論が構築されている。ここで学ぶ写像の概念は数列、関数へと特殊化されて、社会科学のさまざまなところで応用されている。広く諸科学を専攻するための「基礎の基礎」として、ぜひ学習されるようお勧めしたい。

●第4章 個数の数え上げ（直積の要素の個数、和集合と共通部分の要素の個数、順列と組合せ）、第5章 確率（標本空間と確率空間、事象と確率、確率の計算と順列・組合せ、条件付き確率、確率変数と期待値）、第6章 事象と認識（順序、束、分割、集合体、可測空間と可測写像、エントロピー）

初めに個数の数え上げの手法を学ぶ。数え上げる対象の代表的なものとして順列と組合せがあるが、ここでは数え落しや、数え過ぎのないよう規則的に数え上げる態度を養う。

次に確率論の初歩を学ぶ。社会現象に不確実性を伴うことはごく普通のことであり、その

不確実性は確率を使い記述される。確率の概念を数学的に表現するためのいくつかの概念を導入し、これらとすでに学習した数え上げ手法に基づき確率の計算も行う。さらに、確率論で最も重要な概念である、確率変数とその期待値について学習する。

最後に、事象とその認識の問題をあつかう。事象を認識するときのその粗さや細かさを数学的に表現する方法を学習する。このときすでに学んでいる集合論の知識がいたるところで使われ、また、確率論とも密接に関係してくる。さらに、エントロピーの概念も紹介される。

【テキストの読み方】

教科書を通読した後に、必ず練習問題を解くこと。また、要点をまとめた自分なりのノートを作成するとよい。

【参考文献】

高等学校の教科書『数学Ⅰ』『数学A』『数学Ⅱ』『数学B』『数学Ⅲ』

志賀浩二『集合への30講』朝倉書店、1988年

【レポート作成上の注意】

問題文からどのように着目し、どのような思考をして結論に至ったのか、添削者が読み取れるようにていねいに記載すること。「答」だけが書いてあるもの、未完成のものは提出しない。

【成績評価方法】

科目試験による。

数学（微分・積分）

（A 024-8501、A 8542 b）〔2単位〕

【講義要綱】

●第1章 微分法（関数の極限、導関数、Taylorの定理、関数の性質、微分法の応用）、

第2章 偏微分法（多変数関数の極限、偏導関数、極値問題、偏微分の応用）

例えば0時から x 時までの車の移動距離を $y=f(x)$ で表すと、 a 時から b 時までの車の平均速度はその間の移動距離 $f(b)-f(a)$ を時間 $b-a$ で割ったものになる。その間車の速度は一定ではなく、絶えず変化していると考えるのが自然であろう。では a 時での車の瞬間の速度はどうなるであろうか。 b が a に近ければ近いほどその間の平均速度は瞬間の速度に近づくと考えられる。そこで b を a に限りなく近づけるといふ極限の概念がでてくる。 b を a に限りなく近づけたときの平均速度の極限 $f'(a)$ が a 時の瞬間速度である。車の移動の様子は速度 $f'(x)$ 加速度 $f''(x)$ によってある程度調べることができる。

1章ではいろいろな関数 $f(x)$ について $f'(x)$ の求め方、 $f'(x)$ と関数 $f(x)$ の増減、 $f''(x)$ と関数 $f(x)$ の凹凸との関係、関数の極値について学ぶ。また、関数を多項式関数

で近似し、その誤差を調べる、Taylor の定理を学ぶ。

2変数の関数 $z=f(x, y)$ は空間の曲面を表していると考えられることができる。

曲面 $z=f(x, y)$ が山を表している想像してください。山の様子を知るにはどのような方法があるだろうか。例えば地図は等高線で山の様子を表している。同様にいろいろな高さ c の等高線 $f(x, y)=c$ を考えることにより曲面の様子を調べる。また山を縦方向に切断してその切断面を調べることによって山の様子を知ることができる。 $z=f(x, y)$ は $y=b$ とすると x だけの関数 $z=f(x, b)$ となるし、 $x=a$ とすると y だけの関数 $z=f(a, y)$ となる、1変数の関数は1章により詳しく調べることができるので、これらを利用して $z=f(x, y)$ の様子も調べることができる。

2章では2変数関数 $z=f(x, y)$ について $x=a$ または $y=b$ と固定したときの微分にあたる偏微分を学ぶ。また山の頂上にあたる極大値、山道を歩いたときの峠にあたるある条件のもとでの極大値などを学ぶ。

●第3章 不定積分（不定積分、置換積分法・部分積分法、有理関数・無理関数・三角関数の積分）、第4章 定積分（定積分、定積分の計算、定積分の定義の拡張）、第5章 定積分の応用（面積・体積、道のり・曲線の長さ）、第6章 重積分（2重積分、重積分の計算、体積・曲面積）

積分法は微分法の逆の演算で微分法と表裏一体をなすものです。ここでは前半で学んだ微分、偏微分等の知識を踏まえて積分に関する基礎事項を学びます。

【テキストの読み方】

1章ではまずいろいろな関数 $f(x)$ について導関数 $f'(x)$ を求められるようにしてください。合成関数の導関数の公式が使えるようになると、導関数を求めることができる関数がぐっと増えます。次に $f'(x), f''(x)$ を調べることにより $y=f(x)$ のグラフの概形を描けるようになるようにしてください。

2章ではまず偏導関数の計算を練習してください。偏導関数についても合成関数の偏導関数の公式は重要です。次に、2変数関数の極値、条件付き極値問題に進んでください。

【レポート作成上の注意点】

第1回

答えだけでなく、その結論に至る過程も丁寧に記述してください。

1. は関数のグラフについての問題です。
2. は高次の導関数の問題です。
3. は2変数関数の極値についての問題です。
4. は2変数関数の条件付き極値問題です。

テキストの該当する箇所をよく読んで、理解してからレポートを作成してください。

第2回

最終的な「答」のみを記載したものは不可です。問題文からどのように着想し、どのよう

な思考をして結論に至ったのかわかるように、ていねいに記述してください。

問題2. 4) ではテキスト P38の (4. 18) 式を、また問題3. 3) では同 P39の (4. 24) 式をそれぞれ用いて解答してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

数学（線形数学）

(A 058-1001)〔2単位〕

【講義要綱】

●「線型代数とは何か、なぜ学ぶか」

線型代数とは何かと聞かれば、1次式と2次式の数学と答えることができます。数学が考える対象として考えるとき関数はより一般性をもっていますが、社会科学・心理学などを学ぶときには、様々な量の関係のモデルを、それらの量の1次式と2次式で構成するのが基本です。しかも、モデルは確率・統計を用いて、現実のデータに適合したものを採用しますが、その最適化のプロセスで線型代数が大いに役に立ちます。中学のときに学んだ連立1次方程式をさらに深めた内容を学ぶと聞くと、ばかげていると思うかもしれません。しかし、人類で量を記述する最も基本的な方法が線型代数で与えられるのです。

●第1章 ベクトルとその幾何学

この章では、ベクトルの加法、減法、定数倍などの演算に加えて、内積を用いた幾何学とその応用について学びます。この章を学ぶ前に、高校で学んだベクトルの内積について復習しましょう。

●第2章 行列

m 個の変数を用いた n 個の1次式があるとします。これをまとめて表現するのに、行列を用います。この章では、行列の演算について詳しく学びます。

●第3章 連立1次方程式

この章では、連立1次方程式の「掃き出し法」を学びます。ここで計算機アルゴリズムに触れることができます。この章の主眼は、連立1次方程式の具体的な解法にあります。その背後にある基本行列を用いる理論が線型代数の基本になります。

●第4章 行列式

行列式は、 n 個の変数を用いた n 個の1次式で表される連立1次方程式の解法を与えてくれます。この量が、行列の基本的な性質を記述してくれるのです。

●第5章 線型部分空間

連立1次方程式が定める解空間を記述するのに必要な線形部分空間について学びます。こ

ここでは、基底や次元といった根本的な概念の理解が重要です。

【注意】第1章、第2章、第3章が第1回レポートの内容で、第4章、第5章が第2回レポートの内容です。

【テキストの読み方】

テキストにはたくさんの演習問題が出題されています。これを地道に解いていきながらテキストを読みましょう。

【履修上の注意】

高校2年生までの数学を学んだ人が対象です。

【関連科目】

「数学（微分・積分）」

【参考文献】

特になし。

【レポート作成上の注意点】

計算結果のみを記述するのでは、合格になりません。必要十分な情報は何かを考えながら、レポートを作成しましょう。

【成績評価方法】

科目試験による。

地学

(A 051-0601)〔4単位〕

【講義要綱】

“地学”の学習目的として以下の4つがあげられる。

1. 地球システムを構成しているサブシステム（大気、水、岩石）の構成物質について理解する。
2. これらのサブシステム間の相互作用（物質循環等）について理解する。例えば、様々な地学現象（火成作用、変成作用、鉱床作用等）、プレートテクトニクスについて理解する。
3. 自然—人間相互作用について理解する。例えば、地球環境問題、自然災害問題、資源問題について知り、それらの関係について学ぶ。
4. 地球システム、これを構成する各サブシステムの進化（非可逆的時間変化と多様性）について学ぶ。

【テキストの読み方】

テキストをよく読み、理解した上で興味深い点を見出し、参考文献をいくつか読んで下さい。

【履修上の注意】

テキストをよく読み、基礎的事項をよく理解することが大事です。その上で自分の興味ある点について勉強をさらに進めて下さい。

【関連科目】

「化学」「物理」

【参考文献】

鹿園直建『地球惑星システム科学入門』東京大学出版会、2009年

鹿園直建『地球システム環境化学』東京大学出版会、2010年

【レポート作成上の注意点】

まず教科書をよく読み理解に努める。次に関連深い参考書を2～3冊選び、理解を深める。その上で問題点をよく整理し、自分なりの考えをまとめるようにする。地学は総合的な学問なので、レポートも総合的な観点からまとめるように心がける。それと同時に、自分の興味のある点やポイントをおさえ、具体的に述べるようにする。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・物理学

(A 059-1101) [テキスト4単位 (他に実験スクーリング2単位の修得が必要) 計6単位]

【講義要綱】

物理学はテキスト学習とスクーリングにおける実験からなる合計6単位の科目です。テキストと実験を通じ、現代物理学の基本的な知識と考え方を学びます。単にテキストの内容を理解するだけではなく、興味を持った問題に関し、自分で調べ、考えて理解できる能力を身に付けることを目指しています。このような能力は物理にとどまらず、あらゆる分野で威力を発揮するでしょう。

テキストは、20世紀の物理学を中心にして、いくつかの分野を深く学ぶ内容となっています。前半では量子力学とミクロの世界について考えます。後半では宇宙の物理と相対性理論について学びます。理論だけではなく、具体的な物理現象の仕組み、そして、理論が正しいと考える根拠を明らかにしていきます。テキストの内容はスクーリングで行う実験の内容とも密接に関連しています。

スクーリングの実験は、1人か2人一組で行います。配布される実験テキストに手順の詳細な説明があるので、誰でも結果を得られます。実験ではその持つ意味を考え、理解することが重要です。実験結果を得て実験レポートを提出する際に、必ず教員と質疑応答を行い、実験内容の理解を確かめます。実験を通じて、物理学テキストでも強調した、自然科学にお

ける実証の持つ意味を実感できると思います。また、理論と現実とのつながりも実感できるでしょう。インフォーマルで充実感があり、楽しい経験だと思います。

通信教育課程の物理学には高校での物理学の履修は必要ありません。また、使う数学は中学程度です。ただ、これは簡単という意味ではありません。新しい概念を学ぶのは誰にとっても難しいものだからです。テキストでは、必要に応じて基礎的な内容を説明しています。テキストを理解することを目指して下さい。

物理学は様々な現象がなぜ起きるかを考える大変面白い学問だと思います。物理学を楽しんで欲しいです。

【参考文献】

特に指定しません。テキストを理解するとともに、自分で興味を持った本や記事を読んで考えることを勧めます。

【レポート作成上の注意点】

テキスト学習では3回のレポート提出が求められています。レポートは物理学テキストの内容を理解すれば解答できる課題です。解答は内容を消化して、自分の言葉でわかりやすく表現して下さい。

物理学では課題に的確に答えられれば字数は気にする必要はありません。数式や図は必要に応じて使って下さい。3回分のレポートをいきなりまとめて提出するのではなく、まず1回分を提出し、評価とコメントを見てから残りを提出することを勧めます。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価となります。

化学

(A 038-9601) [テキスト4単位 (他に実験スクーリング2単位の修得が必要) 計6単位]

【講義要綱】

化学という学問は、さまざまな物質の成分や構造などを調べ、反応により別な物へ転換する方法を扱っています。例えば、空気の78%は窒素 N_2 ですが、これを高圧化で水素 H_2 と反応させ、アンモニア NH_3 を合成する方法を、1907年にドイツのハーバーが開発しました (1918年度ノーベル化学賞受賞)。窒素は植物の肥料として欠かせない成分であり、この発明のおかげで、世界の人口が急増していても、食糧難にならずに済んでいるといえます。その一方で、「化学物質」が環境を破壊する事態も発生しています。これらの問題にどう対処すべきか考える上で、化学結合や反応性を理解しておく必要があります。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方 (概念) がわかるようになることです。

【参考文献】

矢野潤、管野善則編著『これでわかる化学』三共出版、2009年

齊藤勝裕『絶対わかる化学の基礎知識』講談社サイエンティフィック、2004年

【レポート作成上の注意点】

分量は制約しません（2000字に達しなくても、あるいはそれを少し超えても構いません）。ただし、教科書や参考書などの丸写しはやめてください。計算問題に対しては、結果だけでなく途中の計算過程も必ず書いてください。元素記号を書く場合、大文字と小文字は区別し、添え字の位置にも注意してください。たとえば、(正) H_2O や CH_4 を、(誤) h_2o や CH_4 のように書いてはいけません。構造式を書く場合は、炭素の原子価が4（結合の手が4本）であることに注意してください。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価。

生物学

(A 049-0501) [テキスト4単位 (他に実験スクーリング2単位の修得が必要) 計6単位]

【講義要綱】

近年、生命科学分野の発展はめざましいものがあります。医療や環境など、我々にとって身近な問題を考えるためにも、基礎固めとして生物学の考え方をしっかり学ぶ必要があります。この教科書は生物学の基礎からはじめ、生物学的諸問題をじっくり考えられるように作られています。テキストの内容をしっかりと読みこなしの上で、参考書を読めば、より深い理解が得られるでしょう。

【テキストの読み方】

生物学の各分野は非常に緊密に連携しているので、課題に関連する部分を読んだだけではしっかりした理解につながりません。全体に目を通した上で、関連する分野を繰り返し熟読することで理解が深まります。参考文献では基礎的な記述が省略されている場合があるので、必ずテキストの関連する内容を確認してからレポートを作成すること。

【履修上の注意】

この科目は実験スクーリングの履修が必要な科目です。スクーリング前にレポートに取り組んでみるか、少なくとも教科書に一通り目を通しておきましょう。

この科目のレポートは1回の提出あたり2000字以内が基準です。大幅に超過することがないよう気をつけること。参考文献やインターネット情報の「関連ありそうな部分」を抜き書きしてつないでも良いレポートにはなりません。課題で求めていることに対して直接的かつ

簡潔な記載を心がけること。

科目試験は教科書の内容がしっかり理解できていることを重視します。十分な準備をして臨んでください。

【参考文献】

第1回：岡田吉美『ウイルスってなんだろう』岩波ジュニア新書、岩波書店、2005年

福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書、講談社、2007年

第2回：中村桂子・松原謙一監訳『細胞の分子生物学―第4版―』ニュートンプレス、2006年

【レポート作成上の注意点】

第1回：まず、テキストをよく読んで、細胞とウイルスについて理解してください。さらに、指定した参考文献を読んで、理解を深めてください。要点を整理し、論理的で説得力のあるレポートを作成してください。参考文献の引用に際しては、引用箇所を本文中に明示した上で、参考文献欄に全て記載してください（インターネット情報を利用した場合には URL を明示してください）。

第2回：まず、テキスト（第4章）をよく読んで内容を理解してください。次に、複数の参考文献を読み、理解を深めてください。その上で、レポートの課題の趣旨に沿って要点を整理し、自分の文章で論理的にまとめてください。使用した参考文献はインターネット情報も含めて全て記載し、引用する場合は引用箇所を本文中に明示してください。

第3回：まず、テキストをよく読み、理解することが大切です。その上で、自分の文章でまとめてください。参考文献などを引用する場合は必ず引用した部分ができるようにし、出典を明示してください。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価。

英語 I

(A 045-0001)〔2単位〕

【講義要綱】

英文法の正確な知識を持つことは、読解においても作文においても会話においても大きな力となることは言うまでもありません。この科目では、文の構造・八品詞から始めて短い文章を文法的見地から精読し暗記することで、英文で発信された情報を正確に受信できる能力を涵養することを目的にしています。併せて、受講生諸君は多くの英文を読むことで、その知識を確かなものとして定着させてください。英語の学習には、なにより勤勉な学習態度が

要求されます。テキストの「はしがき」「本書の構成」「今後の学習のために」に科目担当者の信念と方法が記されています。まずはそれを熟読してください。

【参考文献】

テキスト pp.237-38の「今後の学習のために」を参考にしてください。特に、参考書として掲げたうちの1～3を推薦します。

【レポート作成上の注意点】

単に解答のみを書くのではなく、指示に従ってできるだけ詳しく説明を加えること。

全てに解答していないレポートは採点しません。文字はていねいに書いてください。判読が困難なレポートは大幅に減点します。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅱ

(A 047-0101)〔2単位〕

【講義要綱】

●第Ⅰ部 文法・作文

本科目の目的は、英語を実際にコミュニケーションの道具として使っていく際に、どうしても身に付けておかなければならない英文法の基礎知識を学習することにある。

●第Ⅱ部 リスニング・スピーキング

本科目の目的は、第Ⅰ部で習得した英文法の基礎知識を、実際に、リスニングとスピーキングの中で応用する力を身に付けることにある。

【履修上の注意】

●第Ⅱ部 テキストの第Ⅰ部「文法・作文」をよく学習すること。

【参考文献】

辞書はできるだけ刊行後5年以内のものを使用すること。

【レポート作成上の注意点】

〔第1回〕〔第2回〕 問題文をしっかり読んで、その通りに解答すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

『英語Ⅲ』の主な目標は、時事的なトピックを扱う英字新聞や現代人の抱える諸問題に取り組む著述家の作品に触れることによって、リーディングの能力を向上させることです。記事やストーリーを楽しみながら、知らず知らずのうちに様々な英語の言い回しを学び、ボキャブラリーを増やして、英文の読解力を養うことができます。

Part I は、受講者に多読の習慣をつけてもらうことを目的としました。新聞記事をテキストの一部に採用することによって、英字新聞に親しんでもらえればと思います。また科目試験では、問題作成時の大きなニュースを出題する予定です。テキスト外からの応用問題となるので注意してください。

フィクションの部では娯楽性に重点をおいて選択しました。英語Ⅲのテキスト本文僅か100ページ足らずを読んで、即英語ができるようになるわけではありません。文庫本を読むような感覚で、英語のペーパーバックが読めるようになって欲しいと思います。そのための導入になるようにと編集したつもりです。

Part II では、イギリス人作家1名、およびイングランド在住のアイランド人作家2名の作品を収録しています。最初の作品—ジョージ・オーウェル「象を撃つ」はルポルタージュで、歯切れのよい直截的な表現を特徴としています。次にウィリアム・トレヴァーの短編「中年の出会い」は、フラッシュバックの手法を用いながら、男女の邂逅による出来事を心理の裏に入って巧みに描写しています。そしてエドナ・オブライエンの小品「暗黒の時間のなかで」は、初めて大学都市ケンブリッジを息子と共に訪れた作者が、女性特有の感性でその印象を綴っています。

客観的な情景、作中人物の意識の推移、会話の部分などが融合していることがあります。テキストの解説を参照し、ストーリーの概略を把握した上で、作品の文脈に注意しながら読んでください。

なお科目試験では、参考文献からも出題する予定です。同文献・各章の「Practice F: Dialog」が試験範囲に含まれます。予め目を通して準備するようにしてください。

【履修上の注意】

この科目は、中学・高校時代のベーシックな英文法の輪郭を習得した学習者なら、誰でも履修できます。仮定法、関係代名詞、主語・動詞の倒置などに留意しながら、少しずつ読み進んでください。

センテンスが長いときには、意味のまとまりごとに、鉛筆で斜線を入れるなど、自分で工夫してみましょう。

【参考文献】 ※第I回～第IV回科目試験で、下記・各章の「Practice F: Dialog」が出題対象。

Wayne I. Phillips ほか著『アメリカの文化と社会』成美堂（文章構成の把握、語彙の増大

に便利。録音テープ併用で自習できる。)

【レポート作成上の注意点】

第1回：Part Iの説明問題は、答案作成者がテキストの内容をどのくらい理解しているかを見るためのものですから、単に要点だけを書き記すのではなく、採点者に対して、自分はこれだけしっかり理解しているのだということを、はっきり伝えられるような、説得力のある答案作成を心掛けてください。しばしば非常に日本人的、以心伝心を期待するような答案を見かけますが、国際語である英語を勉強している以上、そのような答案は不可です。

第2回：レポートでは、どの程度、テキストの英文を理解できているかについて試す問題が出されています。いずれも基礎的な知識を問う問題で、比較的容易に理解できるものばかりですが、作品全体を読んでいないと難しいかもしれません。和訳に関する質問では、名訳を期待しているわけではありません。語学的に正確な、日本語として分かりやすい文章を書くように心掛けてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅶ

(A 031-8901、W 8976)〔2単位〕

【講義要綱】

数十ページにおよぶ長い英語の文章を読んで、それを的確に理解できるようになることを目標としています。

【履修上の注意】

英文を読むためには、英文法の基本的な事項をひと通り習得しておくことが是非とも必要です。

【参考文献】

英文法が未習得の方には、参考書として『総合英語 Forest』（桐原書店）を推薦します。

【レポート作成上の注意点】

英文和訳の設問は翻訳の技術ではなく、英文の構造と内容の理解を試すためのものですので、その点に留意して訳文を作成するように心がけてください。また、字数制限のある設問は、内容の理解を試すとともに一定の字数内でまとめる能力を試すためのものですので、指定された字数内に収まるように工夫して解答を作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第一部

(A 009-7303、A 7381)〔2単位〕

【講義要綱】

ドイツ語第一部では、発音および初歩的な文法事項を、平易な文章に即して学ぶ。

第1回レポートはテキスト1～7課、第2回レポートはテキスト8～15課を対象としているが、言うまでもなく学習内容は積み重ねであって、第2回は第1回の範囲の修得を前提としている。

【履修上の注意】

テキストを熟読し練習問題により習熟を図るのはもちろんのこと、市販の文法参考書・問題集の類も適宜併用されたい。また、とりわけ品詞分類や構文に留意しつつ独和辞典をひく習慣をつけることが肝要である。

【参考文献】

尾崎盛景・稲田拓『ドイツ語練習問題3000題』白水社

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第二部

(A 017-8002、A 8082)〔2単位〕

【講義要綱】

●文法篇

文法の基礎を確実なものにするのが目的です。ご存じのとおりドイツ語には各種の変化が数多くあります。学習者の悩みの種ですが、それがドイツ語という言語であり、ドイツ語によるコミュニケーションに不可欠なものなのです。教科書、辞書をフルに活用して、基本を身につけるようにして下さい。

●読本篇

テキスト「ドイツ語第二部」の読本篇の「はじめに」に書かれていることを、よく守り学習して下さい。特に〔注〕の説明は大切で、しっかり理解し、熟読玩味すべきでしょう。〔注〕が〔本文〕、〔単語〕、〔文法〕、〔和訳〕の接点になっています。また、「文法篇」を何度も参照し、「どの箇所を見れば、何が書いてある」かが分かるほど、反復学習することが大切です。

【履修上の注意】

●読本篇

読本篇ではありますが、ただ単にドイツ語を日本語に翻訳することが課されるものではありません。ドイツ語の基本的事柄が、真に理解できているかどうか、が問題です。文法項目としては、接続法までの初級文法を終了していることが望まれます。また、冠飾句（冠詞類と、

現在分詞あるいは過去分詞を用いた長い名詞句)の使い方についての理解(テキスト「ドイツ語第二部」151ページの注11を参照のこと)が、基本的事項として求められます。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第三部

(A 056-0901)〔2単位〕

【講義要綱】

『ドイツ語第一部』および同『第二部』で勉強した基本的な文法事項に関する知識を用い、『ドイツ語第三部』では、ドイツの社会や文化に関するさまざまな話題を取り上げたテキストを読みます。その際、ドイツ語の基本文法がしっかりと頭に入っていることが、何よりも重要です。そのため、テキストには「文法の復習」コーナーが設けられています。また、必要に応じて『第一部』と『第二部』のテキストも読み返しなが、レポート課題に取り組んでみてください。

【テキストの読み方】

各課のドイツ語のテキストを、まずは辞書を引きながら、独力で日本語に翻訳してみてください。文法事項でわからない点については、「文法の復習」コーナーの解説を読んでみましょう。

【履修上の注意】

『ドイツ語第一部』および同『第二部』で勉強するレベルのドイツ語文法を理解していることが、履修の条件です。

【関連科目】

特にありません。

【参考文献】

常木実『標準ドイツ語』郁文堂、1996年、2625円(税込)

(初級から中級までをカバーする参考書です)

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ 改訂版』白水社、2003年、1680円(税込)

(主として中級から上級レベルを対象とするドイツ語文法一覧です)

【レポート作成上の注意点】

文法事項に関する問題は、『ドイツ語第三部』のテキストに書かれている説明をよく読んで、これに取り組んでください。また、翻訳問題では、出来上がった日本語の文を自分で読んでみて、意味がきちんと通じるかどうかを確認してからレポートを提出してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第四部

(A 028-8802、A 8784)〔2単位〕

【講義要綱】

ドイツ語第四部はすでに初級、中級の段階をクリアーした学生を対象にしたいちばんレベルの高い科目です。卒業論文作成のため資料蒐集のできるレベルを目標にしています。レポートにとりかかる前に初・中級の文法事項を総復習して、再提出を繰り返さないよう留意して下さい。ことに分詞構文や冠飾句、接続法を用いた文章などに慣れるように努めるとともに、文章全体の要点を把握する力をつけてください。

【履修上の注意】

配布テキストの文法事項は何度でも読み返し、完全に身につけて下さい。ドイツ文にしばしば使われる形容詞の名詞化、冠飾句などに慣れて下さい。

【参考文献】

岡田公夫ほか『基礎ドイツ語文法ハンドブック』三修社、2004年
中島悠爾ほか『初心者のためのトレーニングドイツ語』白水社、1994年
小栗浩『独文解釈の演習』郁文堂、1961年
岩崎英二郎『ドイツ語副詞辞典』白水社、1998年
中山豊『中級ドイツ文法』白水社、2007年
『独和大辞典』小学館

【レポート作成上の注意点】

シラバスにも書きましたが初級文法は完全にマスターしておいて下さい。これまでの添削の経験ではまだこれが充分できていない方があり、レポートの書き直しを繰り返すことは時間的にも労力の上からも不利であり、添削する側も残念です。関係代名詞や従属接続詞の及ぶ範囲、接続法の用法を無視したレポートが多いようです。丹念に辞書をひき、かつ常識を働かせることは訳文にあたって当然のことながら重要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

教科書『フランス語第一部』は、フランス語を初めて学習する人のために、主に文の構造を分析する文法を中心に編まれ、フランス語で書かれた文章の内容理解とフランス語による表現力の向上を目指しています。教科書ではあらゆる角度からフランス語を解剖していますので、内容を十分理解し、練習問題で自分の習熟度を確認してってください。

【参考文献】

『ロワイヤル仏和中辞典 第二版』旺文社

『クラウン仏和辞典 第六版』三省堂

『ディコ仏和辞典』白水社

『プチ・ロワイヤル和仏辞典』旺文社

アニー・モヌリー＝ゴアラン『謎が解けるフランス語文法』第三書房、2000年

久松健一『ケータイ〈万能〉フランス語文法』駿河台出版社、2001年

新倉俊一ほか『フランス語ハンドブック』白水社、1996年

このほかにも多数の辞書・入門書・参考書が市販されています。書店で手にとって見て、自分の目的にあったものを購入するとよいでしょう。

【レポート作成上の注意点】**第1回 発音編～Leçon 10**

第1回レポートは教科書『フランス語第一部』のLeçon 10までを範囲とします。以下の作業を行った上で、レポートに取りかかってください。

1. 教科書に従って、文法項目を理解してください。不明な点・疑問は辞書、参考書を使って解決するよう努めてください。解決できないときは、質問票を有効に活用してください。
2. 教科書の課題 version (仏文和訳)、exercices (練習問題)、thème (和文仏訳) を解答し、巻末の解答例で検証してください。間違えたものについては、再度、挑戦して確実に理解するようにしてください。
3. 教科書が確実に理解できたら、レポートを作成してください。

第2回 Leçon 11～Leçon 15

レポート作成上の注意点は第1回と同じですが、知識を確実にするために、第1回が終了してから第2回に取りかかってください。

【成績評価方法】

科目試験による。試験問題は教科書の例文等を中心としたものです。

フランス語第二部

(A 036-9501)〔2単位〕

【講義要綱】

フランス語第二部の教科書は、第一部で学んだ文法の知識を実際の文章の中で確認し、また、学習者自身でも活用してフランス語で表現できるようにする事に目標が置かれています。教科書の第1章は、フランス語の文法が日常生活の表現ではどのように活用されているかを見、それに慣れる為に、多くの会話文を読む事になります。一方、第2章では、フランス語の文章を正確に読み抜く為に必須の文法事項の習得と、それらの知識を基にした読解が中心になります。この教科書で学ぶことは、フランス語第一部の教科書と併せて、今後、フランス語第三部、第四部での基礎になりますからしっかり勉強しましょう。

【履修上の注意】

「フランス語第一部」を履修し終えていること。またはそれに相応するフランス語力を有していることが、履修の条件です。

【参考文献】

新倉俊一他著『フランス語ハンドブック』白水社、1996年
朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』白水社、2002年

【レポート作成上の注意点】

フランス語第一部の教科書を参照しつつ、フランス語第二部の教科書にまんべんなく目を通すことが大切です。こうする事が、レポートで合格点を得る為の近道です。急がば回れ、と云う事です。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第三部

(A 057-0901)〔2単位〕

【講義要綱】

本科目は講義科目ではないのでいわゆるシラバスはありません。学習の目的についてだけ述べておきます。

第一部と第二部で習得した文法知識を基に、生きたフランス語の読解力を高めるステップです。断片的な文法知識を総合的に駆使し、読解力向上の訓練をする素材としてレポート課題を設定してあります。難しいと思われるかもしれませんが、ここでの訓練は科目試験での得点に直結します。科目試験合否の目安は、どれだけ課題レポートで頑張ったかにかかっているとでもいいでしょう。フランス語に限らずどの言語でもそうですが、辞書を丹念に引くことは当然ですが、書かれている内容についての知識や旺盛な想像力がないと理解でき

ないこともあるので、一般常識の獲得を始めとして、日頃から全方位的な知性を磨いておくことも重要です。

【テキストの読み方】

常時第一部と第二部のテキストを手元に置き、随時参照するようにしてください。第三部テキストは日常、単独で行う訓練の素材として活用してください。

【履修上の注意】

とにかく機会あるごとに基礎文法（第一部）を徹底的に復習すること。これで実力は倍増します。そして、辞書を丹念に引くこと。日本語の表現力を磨くこと。

【参考文献】

外国語読解力向上の決め手は、良い辞書との出会いです。次の辞書をお薦めしておきます。小学館『小学館ロベール仏和大辞典』、三省堂『クラウン仏和辞典』、白水社『ディコ仏和辞典』、等々。なお、最近は電子辞書が流行していますが、動詞の活用を確かめるためにも、ある語彙の「全体を見渡す」ためにも、視覚的に記憶するためにも、上記辞書も紙媒体版の方が有利と思われます。最近、電子辞書のスクロール不足による出鱈目なレポートが多いので注意。

【レポート作成上の注意点】

まずは辞書を徹底的に引くこと。構文を正確に把握すること（特に主語と述語動詞をはっきりさせること）。いろいろな代名詞（人称代名詞・関係代名詞・指示代名詞・中性代名詞）が何を受けているかをはっきりさせること。動詞の時制に注意すること。

訳文が出来上がっても自分で読み返してみて、日本語として意味が通らないうちは、提出してはなりません。日本語としてチンプンカンプンなうちは、正しく訳せていないと思ってください。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第四部

(A 035-9501) [2単位]

【講義要綱】

フランス語第四部は最も上級のレベルとなり、フランス語の総合的な運用能力習得を目指します。第四部の目標は3つです。はじめにフランス語で書かれた文書を正確に理解すること。次にフランス語の問いに的確に答えること。最後にフランス語で様々なことを伝えることです。具体的には課題文に対する質問への答えと日本文の仏訳をレポートとして期間中、2回提出してもらいます。フランス語を正確に、そして的確に運用するには、動詞などの個々

の品詞をどのように変化させるのか（形態論）、主語と動詞の関係など文の構造をどうすれば良いか（統辞法）また自分の伝えたい内容にふさわしい語はどれか（語彙）などという点を総合的に考察する必要があります。第四部のレポートでそのコツをつかんで下さい。

【履修上の注意】

原則的に『フランス語第三部』まで履修済みであること、『フランス語第四部』のテキストを十分理解していること。今まで勉強した文法事項を何度も読み返し完全に習得して下さい。さらに、言語の背景となっているフランス文化に関心を持つことが大切です。フランスの新聞、雑誌、小説等を積極的に読み、語彙、表現を学びながら、幅広く豊かな知識（歴史・現代社会・文化・文学・時事問題等）を身につけましょう。レポート作成、科目試験に役立つと思います。

【参考文献】

- 彌永康夫『時事フランス語 読解と作文のテクニック』大修館書店、2011年
伊吹武彦編『フランス語解釈法』白水社、2006年
嶋崎正樹『時事フランス語』東洋書店、2010年
原田早苗・水林章・萩原芳子・田島宏『コレクション・フランス語〈7〉書く』白水社、2002年
東京都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る―新フランス学入門―』法政大学出版局、2003年
鳥居正文・金子美都子・田島宏『コレクション・フランス語〈8〉語彙』（CD付・改訂版）白水社、2007年
三浦信孝・西山教行編著『現代フランス社会を知るための62章』（エリア・スタディーズ84）明石書店、2010年

【レポート作成上の注意点】

これまでフランス語で自分の考えを表現する機会は少なかったと思います。レポートを作成しながら、自分の書いた文章を何度も読み返し、出来るだけ自然なフランス語で表現してみましょう。

【成績評価方法】

科目試験による。

改訂・保健衛生

(A 053-0702) [2単位]

【講義要綱】

人生の基本は健康です。人生80年を健康に、有意義に過ごすためには、最新の医学の常識を学び、いろいろな病気を予防していくことが肝要です。また、親となり、あるいは教育者

となった場合には、将来を担う子どもたちに正しい知識を教える必要があります。この情報の多い現代では、医学情報に関しても、エビデンスに基づかないあやしい“治療”“薬もどき”もたくさんあります。保健衛生のレポートを通じ、エビデンスに基づいた正しい知識を身につけ、正しく利用していただければ幸いです。

【テキストの読み方】

項目ごとに精読し、索引などを使い、関連項目も学習する。疑問点に関しては、教科書的な本と、最新の文献を調べる。

【関連科目】

「体育理論」

【参考文献】

『きょうの健康』NHK 出版

『看護学学習辞典 [第3版]』学習研究社、2008年など

【レポート作成上の注意点】

- (1) 2000字以内とは、課題や参考文献の記載を除いた本文がスペースを含んで1800字～2000字で完成させるということです。スペースのあけ方は常識的に行ってください。ワープロの場合、本文の字数を明記してください。
- (2) 参考文献は、各課題について3編～5編で、出版年は2000年以降のものとし、必ず各課題の本文の後に記載してください。テキストは精読していることが前提ですので参考文献に数える必要はありません。エビデンスに基づいた信頼できるものを選び、少なくとも1編以上は成書を用い、インターネット利用の場合でも成書または学術誌がPDF化されたものを優先し、出所を明らかにしてください。
- (3) 『理科系の作文技術』（木下是雄著、中公新書）などを参考にレポートを作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

体育理論

(A 052-0601) [2単位]

【講義要綱】

体育学は、人間の身体活動を対象とした応用科学であり、その範疇は広く人文・社会・自然科学全てに及びます。本科目は、人間の行う身体活動の意味を幅広く理解することを目的とするものです。健康で豊かな日常生活のための身体活動について、その現代的意義を考え、また運動として実践するための基礎的知識を得る、さらにスポーツ・運動が人間の社会にど

のように根付いてきたか、その文化的背景などについての理解を深めていきます。

レポート課題は3題の中から1題の選択としますが、試験においては全範囲にわたって総合的な理解を求めます。

【テキストの読み方】

各章の最後にあげた参考文献を補助的に用いて、テキスト本文の理解を深めてください。

【参考文献】

玉木正之『スポーツとは何か』講談社現代新書、1999年

安部孝・琉子友男編『これからの健康とスポーツの科学』講談社、2000年

宮下充正『トレーニングの科学的基礎（改訂増補版）』ブックハウスHD、2002年

杉晴夫『筋肉はふしぎ』講談社ブルーバックス、2003年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、3000字～4000字を目安とし、テキストや参考文献を積極的に用いてください。本文中に引用した場合、必ず文中に注・番号を入れ、文末に文献名・引用頁を明示して対応させること。自分の考えを述べる上で、自身の主張と文献からの引用を区別して論述を展開するように心掛けてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

西洋哲学の源泉となった著作を自ら精読することにより、哲学の問題と方法に触れることを目的とする。

【参考文献】

内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕—フィロソフィアの源流と伝統』
ミネルヴァ書房、1996年

内山勝利・中川純男ほか編『哲学の歴史』第1巻（古代Ⅰ）、第2巻（古代Ⅱ）、第3巻（中世）、中央公論新社、2007-2008年

【レポート作成上の注意点】

- ・レポートの書き方については、河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第3版、慶應義塾大学出版会、2002年を参考にする。
- ・自分の選んだテーマを最初に明示すること。
- ・教科書や参考文献をそのまま引用するのではなく、課題図書に基づいて自分のことばで考えること。
- ・概説的知識、時代背景などには言及しないこと。
- ・課題図書の書物の内容に言及するときは、a) の場合は、欄外にある21a、481B等の記号、b) の場合は、巻・章（できれば、欄外にある1097b20等の記号を合わせて）、c) の場合は、論文名、d) の場合は巻、章、節を明示すること。
- ・課題図書、教科書、参考書以外にレポート作成の参考にした書物があるときは、レポートの末尾に明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

『西洋哲学史Ⅱ』では、西洋近代の主立った哲学者の思想を時代順に紹介していきます。哲学では自分で問題を立てて考えていくことが重要ですが、自分勝手な思考に陥らないために、過去の哲学者の思想に習熟することは重要な訓練になります。この科目ではそういった基礎的な哲学的な知見の獲得を目指します。

【テキストの読み方】

難解な概念に出会ったら、哲学辞典など紐解き、基礎的知識を得た上で、反復して内容を

考えてみるのが大切です。

【履修上の注意】

概念の内容を身近な事例に引き寄せて考えてください。

【参考文献】

内山勝利・中川純男ほか編『哲学の歴史』第4巻（ルネサンス）、第5巻（17世紀）、第6巻（18世紀）、第7巻（18-19世紀）、中央公論新社、2007～2008年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献のことはよく理解できていないのに、そのまま写すような仕方での利用は避けてください。また引用する場合は、それが引用であることを明示し、またその出典を明示することがルールです。無断引用はカンニングに等しい行為です。

【成績評価方法】

科目試験による。

論理学 (L)

(L 037-7703、L 7742) [2単位]

文

【講義要綱】

論理学の研究はアリストテレス以来長い歴史をもっています。私たちが何かを推理するときには不可欠の規則が論理規則と呼ばれ、それがないと考えることさえ覚束ない基本的な規則と考えられています。それを研究するのが論理学で、19世紀末のフレーゲの研究によって論理学はそれまでにない新たな発展をすることになります。数学的な思考と記号の使い方が論理学に取り入れられ、数学やコンピュータ科学と結びつきながら、様々な分野で応用され、基礎研究には欠かせない役割を演じています。

この講義では論理的な推論や真偽概念について基本的な事柄を学んだ人を対象に、それらを実際に使うことができるようにすることを目的にしています。それによって自分が論理的に考えることができるようになるだけでなく、他人の考えが正しいかどうかもしっかり判定できるようになれることを目指しています。

【テキストの読み方】

文学部の他のテキストと違って記号や数式、論理式がたくさん登場します。自然な言語ではなく、記号言語を使って文や命題を論理式に書き直し、推論が正しいかどうか調べることが主要な内容ですから、それをしっかり肝に命じて読み進めてください。実際に問題を解く解き方が丁寧に説明されていますから、普通に読み進めれば、テキスト以外の参考文献を参照しなくても完全に理解できます。根気強く読めば、このテキスト一冊だけで論理的な推論の構成や吟味が自分で理解できるようになります。その意味で、このテキストは論理的な推

論についてのマニュアルだと考えてください。

【関連科目】

論理学が生まれた経緯や歴史から哲学が強い関連をもった科目です。推論することが主要な研究方法である哲学では論理的な推論が大切な道具になっていますから、論理学の知識は哲学の問題を扱う上で役立つはずですが、また、数学的な形式をもった内容ですから、数学基礎論、計算理論、コンピュータ言語等は論理学と密接に結びついています。さらに、言語学との関連も20世紀後半には強くなり、統語論、意味論等で重要な役割を果たしています。

【参考文献】

論理学のテキストはたくさんありますが、テキストの読み方で書いたように、このテキストはマニュアルですから、複数のマニュアルは必要ありません。他の論理学のテキストをまずは忘れてこのテキストだけに集中してみてください。どれも似た内容なら一冊だけ暗記するほどに読むのが一番です。

【レポート作成上の注意】

他の文献を参照する必要はありませんから、テキストの内容だけを十分に使ってレポートを作成してください。文献を検索し、巧みにそれを使うのではなく、テキストの内容を正しく理解し、それだけを使って問題を解くことに専念してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

科学哲学

(L 089-0401)〔4単位〕

【講義要綱】

科学哲学は科学についての哲学で、それを概説したのがこのテキストです。テキストは第一部の総論、第二部の各論からなっており、第一部はテキストの順序通りに読んでください。第二部は順序通りでなくても構いません。

テキストでは科学的な知識がどのような特徴をもっているかが中心課題の一つになっており、それを「自然の変化」をめぐる考察する仕方で議論が進んでいきます。実際には各論から話を始める方が具体的なのですが、まず全体像を把握してもらうために科学史、思想史から始まっています。

科学を知った上で科学哲学を研究するのが普通ですが、テキストには科学的な事柄も必要なものは入っています。ですから、科学に関心さえあれば、テキストを読み進めていけるはずです。

【テキストの読み方】

テキストをどのように読み進めるかはきわめて重要です。そこでこのテキストの読み方について説明します。このテキストは論証の部分と、歴史的経緯や状況の説明の部分とからなっています。事件や事実を叙述する場合と、その背後のからくりや原因と結果の関係を推理する場合は大きく違っています。叙述の代表は小説や報道記事です。何が何時どのようになったかという報告は、素直に読むだけで事の経緯がわかりますから、考えながら読む必要はありません。映画やテレビドラマが面白いのは筋の展開や心理描写にあり、それらは考えなくてもわかります。一方、論証の代表例は数学の定理の証明です。シャーロック・ホームズの推理も論証の一つです。数学の定理や名探偵の推理はしっかり考えないとわかりません。このテキストはこれら二つの異なる部分、つまり論証部分と叙述部分からなっていることに注意してください。

読んでいる部分が論証なのか、叙述なのかをまず確認してください。いずれの部分かによって読み方が違ってきます。論証部分はかつて数学のテキストを読んだときのことを思い出しながら、その時と同じように読んでみてください。時間をかけてゆっくり読まなければなりません。途中でわからなくなったら先に進むのではなく、前に戻らなければなりません。何度も前のページを見返すことが必要になります。一人で読む場合、このような読み方は一方的に辛抱強さを要求しますから、ついいい加減になったり、読み飛ばしたりしてしまいます。辛抱強く、何度も読み返す、わかるまで頑張る、といった根気が求められます。これに対して、叙述の部分は日本語さえわかれば大抵苦労なしに理解できます。正確に理解することを心掛ければまず心配は要りません。用語や人名が不明ならそれを調べる程度で済みます。でも、自分が正しく内容を理解したかどうかの確認は叙述の部分の方が厄介で、誤解しないよういつも注意しなければなりません。論証部分はわからない場合にはわからないという自覚が必ずあり、わからないことがはっきりわかります。

さらに、このテキストのもつ特徴は（問）があちこちにあることです。問は必ず解答してください。テキストの内容が理解できたかどうかの目安になります。テキストが二つの異なる部分をもつことを念頭に置きながら丁寧に読み進め、必ず「わかった」、「理解した」という確信がもてるまで頑張ってください。

また、テキストはページ数が多くて最初から読みたくないという気持ちになりそうですが、第二部の各章は半ば独立していますので、好きな章から読み始めて構いません。

【履修上の注意】

科学的な知識を多くもっている必要はありませんが、科学に関心・興味をもっていることが必要です。

【関連科目】

科学の哲学ですから、科学のどの科目も関連科目ということになります。しかし、伝統的に科学哲学は自然科学の哲学として研究されてきました。ですから、まずは自然科学が関連

する科目であると考えてください。それらの多くは総合教育科目のほうです。社会科学や歴史の科目であっても、研究の方法や対象に関する哲学的な考察が含まれていれば、十分に関連科目と言えます。

科学に関するニュース、記事等は実に多いですから、それらに関心を寄せ、気にするようになしてください。

【参考文献】

科学に関する啓蒙書、科学雑誌、科学的なエッセイ、伝記等、科学に関するあらゆる本が参考文献になります。科学についての知見を広めるためにいろんな文献を貪欲に読んでください。

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献を写すのではなく、自分で推論した内容を書いてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

倫理学

(L 065-8902、L 8958)〔2単位〕

【講義要綱】

本書では、普遍的な倫理探究の型として、次の6つを取り上げて説明します。

- 1) ユダヤ・キリスト教
- 2) アリストテレスの目的論
- 3) カントの義務論
- 4) ムーアのメタ倫理学
- 5) シェーラーの価値倫理学
- 6) 生命倫理

【テキストの読み方】

『塾生ガイド』の「テキストの学習」(第4章「学習過程」、『教職課程履修案内』では第11章「学習過程」)に従ってください。

【参考文献】

小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内—理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年
栢植尚則『プレップ倫理学』弘文堂、2010年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』の「レポート作成上の注意」(第4章「学習過程」、『教職課程履修案内』では第11章「学習過程」)に従ってください。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代倫理学の諸問題

(L 045-7802、L 7844)〔4単位〕

【講義要綱】

20世紀の倫理学をとりまく学問的状況、研究対象としている問題（実存、他者、世界、言語、宇宙における人間の位置、価値）を概観することを通して、倫理学という学問についてより深い理解を得ることを目的とします。

【テキストの読み方】

『塾生ガイド』の4章 学習過程の「テキストの学習」に従ってください。

【参考文献】

小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内一理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』の4章 学習過程の「レポート作成上の注意」、『レポート課題集』の「レポート課題」の注意1～3をよく読んでください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本美術史 I

(L 021-7202、L 7263)〔2単位〕

【講義要綱】

日本美術史のうち、特に奈良時代から平安時代までを扱います。この時期、日本は中国および韓国から多大な影響を受けて自国の文化を形成しました。美術についても同様であり、これら大陸の美術状況を無視してはこの時代の日本美術を語ることはできません。したがって、第一に中国や韓国のどのような影響を受けているのか、第二にそのような受容において日本独自のものがあるのか、あるとすればどのようなものか、という2つの視点が必要です。これを、観念的にではなく、自身の目で観察し、作品の特質とそのような作品が産み出された背景について、具体的な証拠を挙げて論証することが、美術史学です。したがって、テキストや文献を読むのと同時に、自身で作品と出会い、作品を「読む」こと、つまり観ることが重要です。

【テキストの読み方】

『日本美術史 I』のテキストが書かれてから多くの発見と提説がなされて、現時点からは

訂正すべき箇所が少なくありません。したがって、刊行年の新しい日本美術史の概説書を併せ読むことが必要です。ただし、大学の学習ですからあまりに入門書的なものではなく、参考文献に挙げるようなものを選んで下さい。また、図書館等を利用して大型の美術全集や写真集により、できるだけ多くの作品を多角度から観る訓練を積んで下さい。

【履修上の注意】

美術史学は読んで理解するだけでなく、自身の目で見て会得するものです。あるいは、自身で観察した上でなければ、どのような解説書を読んでも理解できないというべきでしょうか。したがって、履修者はできれば実作品を見学するか、少なくとも写真によって観る訓練を積むことが必要です。概説を引き写しただけのレポートは評価しません。自身の観察したもので裏付けしつつ文献を読むように努めて下さい。

【参考文献】

水野敬三郎・辻惟雄・佐藤康宏等の概説書、講談社や小学館等から出されている大型の日本美術全集本、岩波書店からの『奈良六大寺大観』や『大和古寺大観』（いずれも補訂版）などが推奨されます。「すぐわかる・・・」といったタイトルのものは手始めに読むのはよいですが、レポートに使用できるものではありません。

【レポート作成上の注意点】

インターネットを利用する場合、引用するなら文責者が明示されているものに限ります。ある著書からの引用なら、原本を参照すること。大事なことは、だれの意見なのかを明示することで、参考書の内容を自身の考えのように引き写さないこと。「だれそれはこう述べているが、自分はこれこれの理由でこう考える」といった論調が好ましい。したがって、本文中に引用を行う場合は必ず註を付け、最後に参考文献を挙げること。

また、レポートは感想文ではないということを忘れずに。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学史 I

(市販書採用科目) (L 081-9791) [2単位]

【テキスト】

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣アルマ、1997年

【講義要綱】

「社会学史 I」では社会学の歴史の全体を概観する。おおまかに言えば、社会学の歴史は、サン＝シモン、コント、マルクスらの第一世代とともに始まり(誕生期)、デュルケム、ウェーバー、ジンメル、ミードらの第二世代によって確立され(成立期)、パーソンズ、マンハイム、

シュッツ、ブルーマーらの第三世代によって展開され（展開期）、そしてルーマン、コールマン、ハーバーマス、フーコー、ゴフマン、ガーフィンケル（エスノメソドロジー）、ブルデュー、ギデンズら現代の社会学者たちへと受け継がれている。まずこの社会学の流れの全体像を把握し、そのうえでいずれかひとりの社会学者をとりあげて、その社会学者の学説をさらに深く掘り下げて理解することがこの講義の目的である。

【テキストの学習方法】

まずテキスト（『クロニクル社会学』）を通読して社会学の歴史の全体像を把握する。そのうえでテキストで取り上げられている社会学者から、関心をもった社会学者をひとり選んで、テキストの「読書案内」にしたがって、さらにその社会学者の学説について研究を深める。

【参考文献】

わからない用語がでてきたときに自分で調べられるよう、以下の小辞典のうちいずれかを手元に置くことが望ましい。

『岩波小辞典社会学』 岩波書店

『社会学小辞典』 有斐閣

社会学全般に関しては、

長谷川公一・浜日出夫ほか『社会学』 有斐閣

【レポート作成上の注意点】

「社会学史Ⅱ」と同一の文献を選択することはできない。

分量は4000字以内。ただし1割程度の誤差にとどめること。ワープロを使用する場合は、末尾に総字数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学史Ⅱ

（市販書採用科目）（L 082-9591）〔2単位〕

【テキスト】

徳永恂・厚東洋輔編『人間ウェーバー』 有斐閣双書、1995年

【講義要綱】

「社会学史Ⅱ」では、社会学の歴史全体を概観した「社会学史Ⅰ」をふまえて、第二世代の代表的な社会学者のひとりであるマックス・ウェーバーをとりあげ、その社会学の特徴をさらにくわしく考察する。したがって受講者は「社会学史Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

ウェーバーの業績は、(狭い意味の)社会学にとどまらず、宗教研究、政治論、学問論な

ど広範な分野にまたがる。まずウェーバーの業績の全体像を概観したうえで、いずれかひとつの分野をとりあげて、その分野におけるウェーバーの仕事をさらに深く掘り下げて理解することがこの講義の目的である。

【テキストの学習方法】

まずテキスト（『人間ウェーバー』）を通読してウェーバーの業績の全体像を把握する。そのうえでテキストの「読書案内」にしたがって、関心をもった分野におけるウェーバーの著作をひとつ選び、その著作を通してさらにその分野についての研究を深める。

【履修上の注意】

「社会学史Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

【参考文献】

「社会学史Ⅰ」と同じ。

【レポート作成上の注意点】

「社会学史Ⅰ」と同一の文献を選択することはできない。

分量は4000字以内。ただし1割程度の誤差にとどめること。ワープロを使用する場合は、末尾に総字数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会心理学

(L 087-0301)〔2単位〕

【講義要綱】

社会心理学の「歴史」「方法」および「欲求と動機づけ」「自己」「社会化」などの社会の中の個人の問題、「態度変容と説得」「対人認知」「対人魅力」「対人交渉」「攻撃」「援助」「自己開示」「自己呈示」など個人と個人の関係の問題、「集団」「集団極性化」「集団思考」「普及現象」「マスコミ」「流行」「デマ」「流言」「広告」「異文化コミュニケーション」「パニック」などの集合現象の問題などの下位分野について、テキストおよび参考書をよく読み、理解する。

【参考書】

榊博文『説得学—交渉と影響の理論とテクニック』おうふう、2010年

E. M. ロジャーズ著、青池・宇野監訳『イノベーション普及学』産能大学出版部、1990年

【レポート作成上の注意点】

- ・ 問1に対してはテキストを参照してお答え下さい。
- ・ 問2に対しては指定された参考書を参照するのがより効率的です。

・『塾生ガイド』（または『教職課程履修案内』）の中の「レポート作成上の注意」をよくお読み下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

都市社会学 (L)

(市販書採用科目) (L 090-9991)〔2単位〕

【テキスト】

藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣、1999年

【講義要綱】

本科目は都市の多様な側面を社会的に理解することを目的とする。テキストに即して、次の順序で議論していく。

序 章 都市社会学の方法と対象

第Ⅰ部 都市の活動と世界

第Ⅱ部 住民活動とコミュニティの形成

第Ⅲ部 生活世界と都市文化の変容

第Ⅳ部 都市の計画と管理

終 章 都市社会学の新しい課題

名著解題

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。マテリアルやコラム、名著解題まで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。

・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年

・園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年

【レポート作成上の注意点】

レポートの分量は、4000字以内にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

ここでは、感覚、知覚、認知、記憶、学習、動機づけ、感情などの基礎過程に関する個体の心理について学習する。ただし個体の心理といっても、知能・性格などの個体差についてではなく、個体に共通な一般的性質をとり上げる。

テキストは行動の科学としての心理学という視点から述べられているが、心理学の諸学説を紹介するのでも、特定の学説による主張をしようとしたのでもない。むしろ、心理学が扱ってきた基礎過程に関する事実としての研究成果を、この視点から系統づけようとしたものであり、既に得られた心理学の知識を改めてこの視点から考えてみていただきたい。(テキストまえがきより一部改変)

【テキストの読み方】

専門用語を1つずつ、参考文献を利用しながら理解していくことが重要である。

【履修上の注意】

総合教育科目で心理学を修めたこと、もしくはそれと同等の学力を有していることを前提として、テキストは書かれている。

【参考文献】

中島義明ほか編『心理学辞典』有斐閣、1999年

J. E. メイザー著『メイザーの学習と行動（日本語版第3版）』二瓶社、2008年

【レポート作成上の注意点】

1. 参考文献を明らかにしていないレポートは採点できない。
2. 他人の著作を丸写しにただけで、自分の見解のないレポートは、それだけで不合格となる。
3. 内外の学術論文を事前に充分参考とすることで書きはじめる前にレポートを構成する図表や、論文の書き方をよく理解すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

この科目は、基礎の心理学の重要な研究方法である実験・測定・モデルについて学ぶことにより、実証科学としての心理学の考え方を理解することを目的とする。したがって履修者は、個々の現象や実験結果の細かい点に気を取られすぎずに、どうしてそのような実験が必

要となったのか、実験結果からどのようにしてどのような考察が引き出されたのか、といった研究における考え方の流れを、論理的に筋道立てて理解するよう努力してほしい。

本テキストは書かれてからかなりの年月が経過し、その間に心理学は大きな発展を遂げている。その意味からもテキストだけを勉強するのではなく、下記の参考書などを十分に活用して勉強してほしい。特に『認知心理学を知る』からは、毎回かならず科目試験の問題が出題されるので、テキストとあわせて十分に勉強しておく必要がある。

【テキストの読み方】

本テキストは独学で学ぶには非常に難解で、数学や統計学の基礎知識もある程度高い水準のものが要求される。もちろんある程度の数学・統計学の知識は心理学を学ぶ上で必要なものである。しかし、本科目の履修に際しては、数式や数学的手法を完全に理解することよりも、考え方・精神を理解することに主眼を置いてほしい。

【履修上の注意】

履修者は、参考文献(1)の『認知心理学を知る』をあわせて勉強することが要求される。科目試験では、テキストのみではなく、この文献からも問題が出題される。また、ある程度の数学・統計学の知識があることが望ましい。最低限、総合教育科目の統計学(A)、あるいは文学部専門教育科目の心理・教育統計学を修得している必要がある。

【関連科目】

「統計学(A)(総合教育科目)」、「心理・教育統計学(文学部専門教育科目)」

【参考文献】

- (1) 市川伸一・伊東裕司編著『認知心理学を知る(第3版)』おうふう、2009年
- (2) 仲真紀子編『認知心理学』ミネルヴァ書房、2009年
- (3) 井上毅・佐藤浩一編著『日常認知の心理学』北大路書房、2002年
- (4) 大田信夫『記憶の心理学』放送大学教育振興会、2008年

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成に際しては、読者として「心理学Ⅱ」の授業を履修する基礎学力は持っているが、まだ履修前の学生を想定してください。実験の紹介は、目的、方法、結果、結論に分けて簡潔、かつ明瞭に記すこと。テキストや参考書などで読んだことと自分で考えたことを明確に書き分けること。原論文にあたる必要はないが、引用・参考文献はもらさず記す。その際、形式はテキストや参考書などに倣い、標準的な方法にして一貫性を保つこと。横書きに限る。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

いわゆる狭義の「教育」は人間形成の過程（学び）への意図的な介入として定義づけることができます。したがって「教育学」とは、こうした「教育」という視座に立つことによって、そこで生ずる実践上の様々な問題や理論的諸問題を解決しようとして成立したまは「術」であり、またその反省としての学問と考えることができます。つまり教育学とは「教育問題」の科学なのです。この科目ではこうした考え方を「学問知」の成立や構造を理論的かつ歴史的に考察することが履修上の目標です。概念史的に見て「教育」という概念はいついかなる状況下で成立したのか、またその意味は何かを問うことの上で、その説明の仕方には歴史上様々のものがあり、それらはいくつかの類型に分類することができます。それらの説明の歴史と類型を踏まえて、さらに私たちは、この「教育」をどのように説明したらより適切な説明であるのか、その理論的提案を吟味します。さらに、この理解に立って、教育学上の主要問題のいくつかを分析・吟味することになります。

以上のような趣旨を十分に理解された上で、とりわけ現代の教育に思想的にも現実的にも直接の繋がりのある、17、18世紀に成立したいわゆる「近代教育理論」の形成と過程と理論構造の検討がこの科目の焦点となることは言うまでもありません。この世紀こそ「教育の世紀」と呼ばれるほど、子どもへの関心そして新たな教育への関心が増大し、また質的な発展を見せた時期はありません。この時期に誕生を見た近代教育学は多くの新しい示唆と観方を生み出しましたが、その一方で今日の近代教育批判にかかわる多くの問題性を潜在的に持っていました。したがってこの講義の履修を希望される方にはテキストの記述を参考に自からロックやカント、ルソーやヘルバルトさらにはデューイなどの言説を、古典的テキストを熟読吟味することを介してこうした問題性を考慮しながら批判的に考察して頂けることを期待します。

【関連科目】

「教育思想史」

【参考文献】

田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年

中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年

村井実『「善さ」の復興』東洋館出版社、1998年

* 絶版本は図書館で借りるか、インターネットの古書サイトで入手可能。

【レポート作成上の注意点】

まず、レポート課題は何を問うているかを正確に理解すること。

次に、テキストを丹念に読み込んだ上でその正確な理解に立って課題の問いに応じた学習活動（参考文献の読み込みなど）を展開し、課題の問いに則してレポートを作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育心理学

(L 059-8602、L 059-8601、L 8650)〔2単位〕

【講義要綱】

教育心理学の基礎的なトピックスを学ぶことを目標としているが、その基本精神は個々人の個性を大切に教育の実現にある。技術的な知識とともに、そのような精神を学んでいただきたいと願っている。

【参考文献】

並木博『個性と教育環境の相互作用—教育心理学の課題』培風館、1997年
並木博編著『教育心理学へのいざない（第3版）』八千代出版、2008年

【成績評価方法】

科目試験による。

教育史

(L 053-8203、L 8286)〔3単位〕

【講義要綱】

テキストの「はじめに」に「元来『教育』とは、『人間の形成にかかわるもろもろの活動』のことであり、『教育史』研究とは、この種の活動についての歴史的研究ということの意味している」と書かれているように、教育史学は教育学の一分野であり、『『人間形成についての学』（教育学）の発展と『人間形成活動』（教育実践）に寄与したい』と考えて、行われている。そのことを常に意識してテキストを読んでいただきたい。最近の教育史研究は、専門化し、細分化する傾向があるが、その基底には「教育とは何か」という問いがなければならない。テキストでは懐古趣味ではなく、現代の教育問題への関心からわが国の教育の歴史が概観されていることが、「結び」第二章を検討すれば、わかるはずである。

テキストでは、明治期を中心とする教育史動向が概観されているが、その前提として江戸時代の教育が述べられ、そして「結び」にそれ以降の時代についての示唆的な考察がなされている。したがって、大正期以降の細かな教育史的事実については、学習者各人が自主的に学んでいくことが期待されている。また、実際に史料を使って、教育史的事実を考察するなどのことを行うことも必要であろう。テキストが「教育史」の終わりではなく、はじまりとなることが、この科目の目標である。

【テキストの読み方】

史料集などで、できるだけ史料の原文を確かめるように努力してほしい。

【履修上の注意】

テキストまたはスクーリングで「教育学」を履修していることが望ましい。なお、日本史の知識については、高等学校の教科書程度があれば問題ない。

【関連科目】

「教育学」

【参考文献】

海後宗臣・仲新・寺崎昌男『教科書でみる近現代日本の教育』東京書籍、1999年

「講座日本教育史」編集委員会編『講座日本教育史』全5巻、第一法規、1984年

山住正己『日本教育小史』岩波書店、1987年

辻本雅史・沖田行司編『教育社会史』山川出版社、2002年

佐藤秀夫『教育の文化史』全4巻、阿吽社、2004年

小針誠『教育と子どもの社会史』梓出版社、2007年

天野郁夫『大学の誕生（上）（下）』中央公論新社、2009年

これら以外については、〈<http://www.flet.keio.ac.jp/~bibiken/mita-tetsu/>〉の日本教育史文献案内を参照されたい。

【レポート作成上の注意点】

一つには、実証的な内容であることに留意すること。そのため、歴史事象の記述についてはできる限り第一次資料に基づいて出典を明記してほしい。もう一つには、教育史の流れを大局的に把握すること。そのため、時代背景を踏まえるとともに、それに至るまでの歴史的経緯をよく理解してほしい。また、今日的意義やその後に与えた影響力を視野に含めた記述内容であることも必要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育思想史

(L 046-7902、L 7992)〔4単位〕

【講義要綱】

近代教育の理念的基盤が成立した18、19世紀ヨーロッパの教育思想、人間形成論の特徴を、古代や中世の教育思想との比較の中で理解してもらうことを目指している。特に、ルネサンスからはじまるその展開過程を、政治的、社会的、文化的変化に着目しつつ読んでいくことを求めている。

【テキストの読み方】

全体を通読した上で、課題のテーマにかかわる18世紀の教育思想の部分を精読すること。

その後、ルソーをはじめとする思想家の著作を翻訳でよいので読んでみることを勧める。

【履修上の注意】

教育学に関する基礎知識、西洋史（特に社会史、文化史）の知識、ヨーロッパ近代教育思想史の知識を学んだ上で履修するのが望ましい。

【関連科目】

教育学

【参考文献】

宮澤康人『近代の教育思想』（3訂版）放送大学教育振興会、2003年

宮澤康人『教育文化論』放送大学教育振興会、2002年

今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年

【レポート作成上の注意点】

課題の範囲内で自分なりのテーマを明確に設定し、序論から結論までを一貫した問題意識をもち論じるように心がけてほしい。テキスト、参考文献に加え、テーマに沿って自分で文献を探して勉強し、少しでもオリジナルな視点を取り入れるように努力してほしい。（レポートに不慣れな場合は、必ず関連の入門書を参照し、論述の構成や引用文献の用い方などを確認すること。）

【成績評価方法】

科目試験による。

教育社会学

（市販書採用科目）（L 107-1091）〔2単位〕

【テキスト】

久富善之・長谷川裕編『教育社会学（教師教育テキストシリーズ5）』学文社、2008年

【講義要綱】

現代日本社会における教育を主たる対象として、社会的背景と関連させて教育的事象を捉える能力を身につけることが本科目の目標です。社会学が対象とする教育（現象）の多様さと広がりを確認した上で、それらは一見個々別々の事象ですが、近代社会という共通土台の上に成立している社会的事象であることを理解することが目標です、ともいえます。

加えて、その近代社会が行き着いた先に現代社会があり、近代の完成・成熟としての現代という時代変化への着目が重要です。教育社会学は教育現象を対象とする社会学ですが、教育という社会現象から現代社会を理解する社会学でもあります。よって、制度としての学校教育に対象が限定されず、若者の生き方、就職（移行）、子育て、階層の再生産、ナショナルリズムなどについても教育社会学的考察の対象となるのです。

【テキストの読み方】

テキストは複数の研究者によって執筆されていて、テーマも多岐にわたっています。しかし、テキストを通じての問題意識は共通しています。「競争」という言葉は、テキストの複数個所に登場します。「競争」がなぜ近代教育において重要視されるのか、また、現代社会においてはどのように見られているのかについて、テキスト全体の問題意識に位置づけて理解してください。

【履修上の注意】

履修しておくべき科目は指定しませんが、社会学と教育学の基礎知識があるとよい。これら2つの学問に関連する科目をそれぞれ1つ以上履修した上で、本科目を履修することを推奨する。

【関連科目】

上記の「履修上の注意」を参照。

【参考文献】

1. 教育科学研究会編『現代教育のキーワード』大月書店、2006年
2. 本田由紀・平沢和司編『学歴社会・受験競争（リーディングス日本の教育と社会第2巻）』日本図書センター、2007年
3. 久富善之『競争の教育』旬報社、1993年
4. 清水一彦ほか編著『最新教育データブック [第12版]』時事通信社、2008年

【レポート作成上の注意点】

1. 課題は2つに分かれていますが、(1)と(2)が有機的に関連付けられることが求められていますので、一連の課題であると考えてください。(1)と(2)は混在させず、別個に記述してください。
2. テキストの理解を深めるために、参考文献で議論の補強を行い、また、関係するデータとの照らし合わせをするとよいでしょう。テキスト各章末にある参考文献も活用してください。これらの作業の成果を含めてレポートを執筆することは歓迎されています。
3. レポート記述においてのテキストおよび参考文献の引用・参照は、注による出典箇所の明示が必要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理・教育統計学

(L 070-9201、L 9262) [3単位]

【講義要綱】

広く行動科学の研究方法としての統計学の入門コースであるが、特に推測統計学の理論的

背景を十分理解していただけるようにという願いをこめてテキストを執筆した。このテキストが使用されるようになって、レポートの質が高くなり、また科目試験の成績も良くなっているといった印象を受けることを喜んでいきます。

【参考文献】

並木博『個性と教育環境の相互作用—教育心理学の課題』培風館、1997年
芝祐順・南風原朝和『行動科学における統計解析法』東京大学出版会、1990年

【成績評価方法】

科目試験による。

史学概論

(L 027-7403、L 7470)〔2単位〕

【講義要綱】

歴史学は実証と構想との狭間で展開される総合の学である。史学概論はそのような総合の学としての歴史学の認識論的基礎や歴史観の歴史を学ぶ科目である。

【テキストの読み方】

本課題は理論的課題であるため、テキストならびに参考書を熟読し、何が問われているかをよく理解することがレポート作成の前提である。

【参考文献】

E. H. カー『歴史とは何か』岩波新書
A. Я. グレーヴィッチ『歴史学の革新—「アナル」学派との対話』平凡社、1990年
カルロ・ギンズブルク『歴史・レトリック・立証』みすず書房、2001年
新井・松村・本多・渡辺『「事実」をつかむ—歴史・報道・裁判の場から考える』こうち書房、1977年

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史哲学

(L 014-6702、L 21、L 6756)〔2単位〕

【講義要綱】

西欧の哲学者たちは歴史をどのように考えてきたのか。歴史哲学の中心的テーマ「歴史における自由と必然の関係」を通して西欧の歴史哲学の基本的発想を学ぶ。

【履修上の注意】

「西洋哲学史Ⅱ」（近世・現代）を履修していることが望ましい。

【参考文献】

ヘーゲル著、長谷川宏訳『歴史哲学講義』岩波文庫
ヘーゲル著、三浦和男訳『精神の現象学序論』（訳者まえがき）未知谷、1995年
プレハーノフ『歴史における個人の役割』岩波文庫
コンスタンチン・グリアン『ヘーゲルと危機の時代の哲学』御茶の水書房、1983年
マルクス、エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』合同出版、1970年
中野徹三『マルクス主義と人間の自由』青木書店、1977年

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史概説 I

（市販書採用科目）（L 091-9692）〔2単位〕

（第1回）

【テキスト】

五味文彦・本郷和人・中島圭一著『日本の中世』放送大学教育振興会、2007年

【講義要綱】

源平の合戦・南北朝の内乱・戦国の争乱などに象徴されるように、中世は日本全体が大きく変動した時代でした。しかし、決して徒に戦乱に明け暮れていただけではなく、政治・経済・社会・文化など様々な面で、現代に直結する要素が歴史の表面に浮かび上がってくる時代でもありました。ただテキストを読むだけでもなかなか面白いのではないかとと思いますが、さらに別掲の参考書や専門書などで知識と理解を深めて下さい。

【参考文献】

地域の歴史にアプローチする出発点となるのは、『～県の地名』（平凡社）や『角川日本地名大辞典』です。さらに詳しく調べるには、各自治体で編纂した『～県史』『～市史』の類が有用でしょう。いずれも近隣の図書館で探してみてください。また、テキストの内容を深めるためには、講談社版『日本の歴史』第07～15巻や『日本の中世』全12巻（中央公論新社）を、最新の優れた通史として薦めます。

【レポート作成上の注意点】

周辺が中世には何という荘園（あるいは公領）だったのか、何という名前の武士（あるいは百姓・商人・職人など）がどのような活動をしていたのか等々、かなり具体的な地域史像を打ち出して下さい。そして同時に、単なる郷土史に終わってしまわないよう、当時の日本全体の情勢の中に、その地域の歴史を置いて論ずることが必要です。なお、海外在住者や北海道民など、現住所の中世を探るのが困難な場合は、何らかの形で自分とゆかりのある土地の中世史をレポートのテーマとして結構です。

(第2回)

【テキスト】

鳥海靖『日本の近代』放送大学教育振興会、1996年

【講義要綱】

近代国家としての日本が、どのように国民国家とその国民を作り上げていったのかを中心に、国際的な環境を考えつつ、学習を重ねてください。

【テキストの読み方】

テキストは、政治史的な記述が中心になっているので、参考書欄に挙げられている文献を重ねて学習し、日本の近代について多面的に理解するように努めてください。

【参考文献】

『日本の近代』全16巻、中央公論新社

『日本の歴史』20～25巻、講談社

『日本の歴史』12～16巻、小学館

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献の抜き書き、コピーをせずに、自分の言葉と文章とで表現するように努力してください。また、ウェブ・サイトの記事を利用する際には、根拠となる資料に当たるなど、十二分に注意し、出典が明らかでないものは利用を控えるようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊 I—日本法制史—

(L 092-0401)〔2単位〕

【講義要綱】

日本古代の律令国家は天皇を頂点とする中央集権的な国家機構のもとに、唐制を範とした律令諸制を採用していた。しかし、その実態は唐制と全く同じものではなく、そこには大化前代からの氏族制的な要素が残されている。日本の律令国家が律令制と氏族制の二元的な性格をもっているといわれるゆえんである。従って、律令国家の諸制度を理解するためには、大化前代の大和王権における諸制度についても理解する必要がある。

テキストでは大化前代から律令制へ、さらに平安時代までの法の変遷を辿っている。日本古代における国家の法や制度の成立過程を辿り、日中律令制を比較することで日本古代国家の特色を理解することが学習の目的である。

【テキストの読み方】

テキストは自主的な学習の発展に期待する意味で最小限の事柄だけを記しています。参考

書と関連させて自分自身で内容の理解を深めて下さい。

【履修上の注意】

法制史に限らず日本古代史に関する概説書を読んでおいて下さい。

【参考文献】

浅古弘ほか編『日本法制史』青林書院、2010年

利光三津夫・長谷山彰『新裁判の歴史』成文堂、1997年

長谷山彰『日本古代の法と裁判』創文社、2004年

吉田孝『古代国家の歩み』（小学館ライブラリー『大系日本の歴史』）小学館、1988年

【レポート作成上の注意点】

参考書の使用について：『塾生ガイド』（または『教職課程履修案内』）所収、「レポート作成上の注意」の中に記されているように、「利用した参考書については、必ずその書名および執筆者名を記し」、参考書からの引用文については「注1」等の記号を用い、レポート本文中に注記を付して自分の文章と区別して下さい。またテキストのほかに、参考書は最低2冊以上利用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・日本史特殊Ⅱ —キリシタン史—

（市販書採用科目）（L 110-1191）〔2単位〕

【テキスト】

五野井隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館、1990年

【講義要綱】

16世紀中葉に日本にキリスト教が伝えられてから17世紀中葉の「鎖国」によって南欧のキリスト教国との関係が途絶えるまでの約1世紀間は、「キリシタン時代」または「キリシタンの世紀」と呼ばれている。この科目では、この時代の歴史を対象とする。

【テキストの読み方】

テキストを読むにあたっては、キリシタン史の全体像を理解することと、いくつかの個別の問題に対する理解を深めることに留意してもらいたい。

【参考文献】

東京大学史料編纂所編纂『日本関係海外史料 イエズス会日本書翰集』訳文編、東京大学史料編纂所、1990年～

松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第3期（全7冊）同朋社、1991～

1998年

高瀬弘一郎『キリシタンの世紀—ザビエル渡日から「鎖国」まで—』岩波書店、1993年

高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』岩波書店、1977年

五野井隆史『日本キリシタン史の研究』吉川弘文館、2002年

パチェコ・ディエゴ（佐久間正訳）『長崎を開いた人—コスメ・デ・トーレスの生涯—』中央出版社、1969年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、「史料」と「研究」を区別してもらいたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・日本史特殊Ⅳ

（市販書採用科目）（L 111-1191）〔2単位〕

【テキスト】

浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか『日本経済史 1600-2000』慶應義塾大学出版会、2009年

【講義要綱】

テキストには、江戸時代から現代に至るまでの日本経済の流れが記されているが、日本の江戸時代がどのような「近代」を準備し、日本の近代はいかなる歩みをして現代に至っているのかということに留意しながら読んでほしい。

【テキストの読み方】

まずテキストを理解すること。読んでいって、難しいと感じる部分もあるかもしれないが、その場合は、日本史や経済学の辞典類を参考にしながら、できるだけ問題を解決してほしい。おおよそ理解できたら、勉強の場を関連図書類に広げ、理解を深めるとともに、関心を広げて欲しい。

【履修上の注意】

高等学校レベルの日本史の知識と、経済学の基礎的な概念や理論をある程度知っておいた上で履修することが望ましい。

【参考文献】

井奥成彦『19世紀日本の商品生産と流通』日本経済評論社、2006年

その他、テキストに掲載されている諸文献

【レポート作成上の注意点】

どこからどこまでが他人の説で、どこからどこまでが自分の説（考え）なのかがはっきりわかる書き方をすること。他人の説の引用については、必ず注を付けること。

【成績評価方法】

科目試験による。

古文書学

(L 052-4902、L 29)〔2単位〕

【講義要綱】

古文書学とは、日本史研究の材料となる古文書について考える学問であり、日本史を学ぶ上での基盤となるものです。日本史に関する卒業論文の執筆を予定している学生は、是非とも履修して下さい。本テキストは文体が古風なため、読んで理解するにはいささか努力が必要かもしれませんが、古文書学の体系を要領よくまとめた名著として知られているものであり、別に示した参考書も積極的に活用しながら、学習を進めて下さい。

【テキストの読み方】

まず第一～三章にひととおり目を通した上で、このテキストの学習の中心となる第四・五章に進みます。第四章は古文書を主に形態学的観点から分析したもので、限られた紙数に要点がまとめられています。第五項については、佐藤進一『花押を読む』（平凡社）をあわせて読むと理解しやすいでしょう。第九項の中の「特殊用語」は、指定参考書として掲げた佐藤進一『新版古文書学入門』等に豊富に掲載された古文書の実例に即して見ると、頭に入りやすいと思います。第五章については、やはり『新版古文書学入門』の記述が詳しいので、適宜参照しながら学習を進めて下さい。

【履修上の注意】

日本史に関する一般常識がなくては、十分な学習が望めません。「歴史（日本史）」を既に履修していることが望ましい。

【科目試験出題用指定参考書】

佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版社、2003年）

【参考文献】

古文書の種類については、佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版社、2003年）が詳しいので、是非とも参照して下さい。古文書を読む能力を養っていく上では、『演習古文書選』全8冊（吉川弘文館）などの古文書写真集や各種史料集が有用です。史料の読解に用いる国語辞典としては『日本国語大辞典』（小学館）、漢和辞典としては『大漢和辞典』（大修館書店）、日本史辞典としては『国史大辞典』（吉川弘文館）が優れているので、近隣の図書館等で利用して下さい。くずし字辞典としては『五体字類』（西東書房）、『くずし字用例辞典』『くずし字解説辞典』（東京堂出版）などがあります。

【レポート作成上の注意点】

古文書の実物は、各地の博物館に足を運んで探してみてください。東京・京都・奈良・九州（福岡県太宰府市）の各国立博物館や国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）・国立公文書館（東京都千代田区）、あるいは都道府県立の歴史博物館には常設で展示してある可能性が高いほか、市町村の博物館や寺社付設の資料館・宝物館にも古文書を所蔵・展示しているところがあります。また、毎年秋には奈良国立博物館で正倉院展、京都府総合資料館で東寺百合文書展が開かれ、鎌倉の建長寺・円覚寺では文化の日前後の風入れ（虫干し）期間に所蔵文書が数日公開されており、そのほか古代・中世の歴史に関わる特別展があれば普通は何か出陳されています。

古文書の様式については、前掲の『新版古文書学入門』を必ず参照して下さい。内容については、博物館等の図録だけでなく、古代・中世の歴史に関する通史（最新のものとしては講談社版『日本の歴史』や中央公論新社『日本の中世』など）や専門書、あるいは関係する地域の自治体が編纂した『～県史』『～市史』の類を探して、詳しく調べて下さい。

レポート・試験ともに、学問の性格上、古文と漢文の読解力が要求されます。こまめに各種の辞典（国語・漢和・日本史・古文書など）を引くことで、そうした能力を身に付けて下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史概説 I

（L 031-7601、L 7679）〔2単位〕

【講義要綱】

中国古代史を理解する上で、最も基本となる史料は司馬遷が著した『史記』である。『史記』は、帝王の記録である「本紀」・春秋戦国期の諸侯国や前漢建国の功臣などを記した「世家」などで構成されており、特に個人の伝記を中心とする「列伝」は、古代中国の人々がどのように生きていたかを知ることのできる数少ない史料となっている。この「列伝」を深く読み込むことで、古代史の基本的な史料に慣れ親しんでもらい、当時の人々がいかなる世界に生きていたのかを感じて欲しいと思う。その上で、中国古代史の基礎的な知識を指定されたテキストで学習するとともに、参考文献などでこれまでの歴史学の研究成果を取り入れ、『史記』の「列伝」という特定の史料から、どのように歴史を多角的に捉えることができるかを見出して欲しい。

【参考文献】

貝塚茂樹『史記 中国古代の人びと』（中公新書、1963年）

宮崎市定『史記を語る』（岩波文庫、1996年）

小倉芳彦『入門史記の時代』（ちくま学芸文庫、1996年）

【レポート作成上の注意点】

参考文献や WEB ページなどを引用または参考にした場合は、その箇所に必ず注をつけて自分の意見とは区別し、最後に注の一欄を作り、その出典および引用ページ数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史概説Ⅱ—中国史— (L 086-0301)〔2単位〕

【講義要綱】

清朝を支配した満洲人の故郷である満洲（中国東北部）は、近代に入ると激しい変動にさらされます。その背景には、やはり満洲をとりまく国際環境のめまぐるしい変化がありました。本課題では、19世紀末以降から満洲事変までの満洲をめぐる国際環境の変化、およびそれが満洲に及ぼした影響について、総体的に理解することを目指します。また、満洲情勢の変化は、中国本土の政治・社会にも様々な影響を及ぼしますが、それは具体的にどのようなかたちで表れたのでしょうか。それについても検討してもらいたいと思います。以上の考察を通して、最終的には満洲事変勃発の背景について理解を深めましょう。

【テキストの読み方】

テキストを通読して中国史の全体像をよく把握して下さい。その上で、参考文献の②～⑤などの概説書を読み、19世紀末から満洲事変に至るまでの中国本土および満洲の動向に対する理解を深めて下さい。その上で、⑥で満洲の近代史についていっそう深く学ぶとともに、⑦、⑧で満洲をめぐる国際環境の変化、および満洲情勢の変化に対する中国本土からの反応について学習して下さい。その他の参考文献は、テキスト末尾の「研究の手引き」や①の第1部第9・10章を参考にして自分で探して下さい。なお、当然のことながら、歴史小説は参考文献に入れなくて下さい。

【参考文献】

- ① 礪波護・岸本美緒・杉山正明『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会、2006年
- ② 菊池秀明『中国の歴史10 ラストエンペラーと近代中国 清末 中華民国』講談社、2005年
- ③ 川島真『シリーズ 中国近現代史② 近代国家への模索 1894-1925』岩波新書、2010年
- ④ 石川禎浩『シリーズ 中国近現代史③ 革命とナショナリズム 1925-1945』岩波新書、2010年

- ⑤久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士『現代中国の歴史 兩岸三地100年のあゆみ』
東京大学出版会、2008年
- ⑥小林英夫『〈満洲〉の歴史』講談社現代新書、2008年
- ⑦川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年
- ⑧加藤陽子『戦争の日本近現代史 東大式レッスン！征韓論から太平洋戦争まで』講談社
現代新書、2002年

【レポート作成上の注意点】

テキストはもとより、なるべく多くの参考文献を読み、さまざまな見解を理解した上で、自分のことばでレポートをまとめてください。その際、レポートの記述内容が、どの参考文献のどの部分によっているのか、註で示してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史特殊

(L 098-0601)〔2単位〕

【講義要綱】

「東洋史特殊」は、これまであまり馴染みがないトルコ系諸民族の歴史を通観しながら近現代における中央アジア、アゼルバイジャン、トルコにおける民族主義、ナショナリズムの発展について述べたものである。ソ連邦の崩壊によってユーラシアのアジア側の部分でさまざまなかたちで民族問題が噴出している。それらの歴史的な背景をトルコ系諸民族の文化を探りながら考えていこうというのが、このテキストの目的である。イスラーム世界に関心のある人たちは、本書を通じて広大な地域に分布するアラブ民族とは異なるトルコ民族の世界に対する理解が深まるものと思われる。

【履修上の注意】

総合教育科目の「歴史（東洋史）」の学習を終えていること。

「東洋史概説Ⅱ」、「ロシアの政治」を履修していることが望ましい。

【参考文献】

井筒俊彦『イスラーム文化』（岩波文庫）。これ以外の参考文献については教科書巻末の「文献案内」をまず参照し、それで不足すると思われる場合は、ユネスコ東アジア文化研究センター編『日本における中東・イスラーム研究文献目録1868年-1988年』東洋文庫付置ユネスコ東アジア文化研究センター、1992年を参照のこと。なお、これは書籍の形以外では「東洋文庫」のホームページでも公開されている。パソコン画面で「東洋文庫」という検索語を入力するとこのページを見つけることができる。

【レポート作成上の注意点】

「レポート課題」に述べてある通り。ワープロによるレポート提出は認めない（不正を防ぐため）。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史概説 I

(L 020-7201、L 7284)〔2単位〕

【講義要綱】

本概説は、西洋の古代・中世の時代を扱います。地中海を中心として発展した古代世界は、最終的にローマ帝国により政治的に統一されます。しかし、この古代的・地中海的統一世界は、その後古代から中世へと移行する過程で、イスラーム・ビザンツ（東ヨーロッパ）・カトリック（西ヨーロッパ）の三文明圏に分裂していきます。中世とは、現在でも少なからず妥当性を持つこのような三文明圏の発展の基礎が確立された時代に他なりません。この科目では、以上のような発展を理解するために、古代地中海世界と中世ヨーロッパ世界を概観します。

この主題についてさらに理解を深めるために、テキストの他に、山本茂ほか編『西洋の歴史（古代・中世編）』（ミネルヴァ書房、1988年）および以下の参考文献も読んでください。

【履修上の注意】

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが好ましい。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅱ」「西洋史特殊Ⅲ」

【参考文献】

J. ブウサール『シャルルマーニュの時代』（平凡社、1973年、絶版）、ロベール・フォルトツ『シャルルマーニュの戴冠』（白水社、1986年、絶版）、成瀬治、山田欣吾、木村靖二編『世界歴史大系 ドイツ史1』（山川出版社、1997年）、五十嵐修『地上の夢キリスト教帝国—カール大帝のヨーロッパ』（講談社、2001年、絶版）、同『王国・教会・帝国—カール大帝期の王権と国家』（知泉書館、2010年）のうち1冊を必ず読んでください。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成のために、必ず上記の参考文献も読んで下さい。

レポートは、単にテキストと参考文献の丸写しや抜き書きではありません。自分自身の言葉でレポート課題の問題に対応した答となるよう作成して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史概説Ⅱ

(L 062-8801、L 8885)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目はおよそ16世紀から20世紀までの西洋史概説を扱います。小さな事実にとらわれず、大づかみに歴史上の大きな課題や事件を、他との関連の中でとらえることを学習の目的とします。したがって、その課題や事件の特色や性格をとらえ、後代の歴史への影響や意義を考えることが肝要になります。

【テキストの読み方】

テキストに書かれている事実を表面的になぞって暗記するのではなく、テキストを理解のためのガイドブックとして使いながら、参考文献を読むようにしてください。テキストに簡略にまとめられている概念や事件の意味は、複数の文献を読むことを通してはじめて理解できると思います。

【履修上の注意】

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが望ましい。

【参考文献】

福井憲彦『ヨーロッパ近代の社会史』岩波書店、2005年

柴田三千雄ほか編 世界歴史大系『フランス史』山川出版社、1996年（該当箇所）

村岡健次ほか編 世界歴史大系『イギリス史』山川出版社、1991年（該当箇所）

※以下は今年度レポート課題用参考文献

アンドリュー・ポーター『（ヨーロッパ入門）帝国主義』岩波書店、2006年

木畑洋一「（新しい世界史）支配の代償 英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1978年

同上『大英帝国と帝国主義 支配の深層を探る』ミネルヴァ書房、1998年

ジョン・M・マッケンジー『大英帝国のオリエンタリズム：歴史・理論・諸芸術』ミネルヴァ書房、1995年

【レポート作成上の注意点】

テキスト、参考文献から必要な知識を学び（＝理解し）、それを課題に応じて整理して、自分の言葉でまとめてください。その際、レポートの記述内容が、どの参考文献のどの部分によっているのか、きちんと注を付けて示してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

アレキサンドロス大王の東征以来、古代オリエント世界とヘレニズム世界の融合が進んだと一般に理解されているが、そのプロセスは決してスムーズではなかった。まず全体像をつかむために、デオドコイの戦いとその後の歴史的展開を簡潔にまとめなさい。ヘレニズム文化はエジプトのプトレマイオス王朝（アレキサンドリア）やアナトリアのペルガモン王国では積極的に進められ、東西の文化要素が混交した現象が数多く認められる。その具体例を示しなさい。一方、アナトリアのリュキアやイスラエルでは激しい対立が起こった。特にユダヤ人とヘレニズム文化の対立は激しくマカベアの乱やユダヤ戦争などの独立戦争へと展開していく。その経緯を把握するとともに、その際問題となった価値観の違いは何だったのかを示しなさい。

【関連科目】

「オリエント考古学」

【参考文献】

大澤武男『ユダヤ人とローマ帝国』講談社、2001年

山我哲雄、佐藤研『旧約新約聖書時代史』（改訂版）教文館、1992年

【レポート作成上の注意点】

1. 論理の流れと段落を意識して書くこと。
2. 議論、意見の根拠を明確に示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

本科目のテキストでは、イギリスが近代化しデモクラシーへと発展する基礎が築かれる過程が中心に論じられている。特に、他のヨーロッパ諸国と違う独自の型の近代化を推進する基礎条件が、中世にいかに関成されたかを書いたつもりである。イギリスでは、全体主義的王権や官僚組織の肥大化と硬直化といった弊害が比較的少ないのが特色だった。

イギリス史の特徴的発展の原因の一つとして、中世に一種の自主自営の「民」、即ち、ナイト、ジェントリー、スクワイヤー階層（いわゆる「独立自尊の民」の原型）が生まれ発展

したことが指摘されている。また、他国と比較して、都市と農村部の有力者層の利害の調和と融合が進行したことも注目に値する。改訂版では、この点をやや具体的に述べた。

もう一つ重要な点は、イギリス中世社会においては、貨幣経済の浸透と社会全体の商業化が早くから顕著なことである。この傾向はすでに12世紀に萌芽的な形で見られ、13世紀に中間層を中心として封建的身分が主として貨幣収益を基準に再編成されていった(たとえば「騎士強制」)。後には、さらに上級階層の分化も貨幣収益を軸に進められた。封建制度の中核的義務である。ナイト勤務も12世紀末以来、軍役代納金制度の導入により、金納化が進んだ。イギリスは保守的でありながら社会の進歩に遅れることがなかった。これは、中世以来、社会の中産層以上が、時代の進展に耐えるか主導する人々によって占められていたからである。彼ら、社会を主導する層が政治権力に寄生する度合いが比較的 low、自己の力に依存する度合いが強かったのである。

しかし、このような特色のために、逆にイギリス社会の中に激しい生存競争を生むことになった。ある意味では、これは、安定的成長の代償かも知れない。ここに歴史の真の過酷さがある。これを何らかの方法で緩和するために、社会福祉制度や弱者救済の思想が必要となり、教会の慈善の役割が大きな意味を持つことになるのである。

さらに、イギリスの国制は早い時代から社会の進展に敏感に順応した。法や制度の柔軟性は、軍務の金納化や他の封建的付帯義務の金納化にも見られる。この現象はマグナ・カルタにも顕著である。マグナ・カルタには、封建的付帯義務の規定が多いが、その時点で封建的負担はすでに貨幣負担化の傾向が見られた。また、特に、ヨーロッパの中世王制には租税制度の欠陥が一般にみられるが、イギリスではその欠陥は13世紀の混乱を経て解決され、近代的租税制度への基礎が確立された。「国家による経済的要求は「民」の合意を要する」という原則が確立され、また国王も自由保有地にはみだりに立ち入れないという形で私有財産の権利が保障された。その結果、国王は、「民」の合意なしには国政の基礎である十分な収入を確保できなくなったのである。そのため、王権の強化が抑止されることになり、また、「民」の合意を得るには国王は「民」の意に合う国政の改革を行わねばならないため、制度の進歩・発達が保証され、制度の硬直化が阻止されたのである。立法における「民」の請願の重要性、無能あるいは腐敗役人の弾劾など裁判や行政における中間層の役割などを保証したのは、議会の財政特権だった(中世末の議会制度の発達の項参照)。この発展の過程では、多くの混乱、時には犠牲者が見られたが、何度か革命の事態は回避された。

イギリス史はヨーロッパ全体の中で理解されねばならない。多くの外国勢力がイギリスに流入し、また多数のイギリス人が海外で活躍した。この外との交流と摩擦から多くの影響を受け、イギリスは文化的経済的にも豊かとなった。近年この側面の研究に多くの関心が払われているが、本テキストでは、紙数の制限や現在のわが国の研究状況のために説明が十分ではない。

また、記述が12・13世紀に詳しくそれ以外の時代がやや簡略であるが、それは著者の研究関心と同時に本国の研究状況にもよるものである。ただ、本テキストは、現在、イギリス中

世国制史に関して邦文で最も詳細なものである。昨今新聞紙上を賑わすこともある租税徴収と国民経済との関連、官僚の恣意的な自由裁量の抑制、法の近代化の問題などを考える上で、日本とイギリスを比較することは、興味深く思われるかもしれない。たしかに、このような方法は、研究の視角を決め問題を選択する時には有益であろう。しかし、このような「比較研究」は、現実には方法論的にきわめて難しいものであり、安易に行なうと単に読み物に終わる擬似的比較史に墮する可能性が高く、危険である。一にも二にも安易な比較を避け、対象とする国の史実をよく調べ、それをその時代の全状況の中に置いて考えることが重要である。歴史研究では、細かい問題を、あくまでもそれが置かれた広い状況の観点から考察するのが重要なのである。

【履修上の注意】

特に指定した科目の履修を終わっている必要はありませんが、まずイギリス中世史の基礎的な知識を身につけるためにエドモンド・キング『中世のイギリス』（慶應義塾大学出版会）を読んでください。そして、さらに西ヨーロッパ封建社会の全体像を理解するために、マルク・ブロック『封建社会』（岩波書店とみすず書房の二つの版がある）を読んでください。その際、西ヨーロッパで使われている「封建制度」の概念を学んでください。また、城戸毅『マグナ・カルタの世紀』（東京大学出版会）とデイヴィス『マグナ・カルタ』（ミュージアム図書）は、本テキストで扱う時代の本質的問題を理解するのに有益です。

【レポート作成上の注意点】

まずテキストを通読し、中世イングランド史の流れ、問題点をより大きな観点から理解してください。そして、個別のレポート課題をこの大きな流れの中に位置づけて考察してください。レポートを作成する際、それが課題の問いに対する直接の答えとなるように注意してください。また、それがテキストの抜き書き、丸写しにならないよう、自分自身の考えに基づき、自分自身の言葉で書いてください。これは、科目試験の際にも当てはまります。

【成績評価方法】

科目試験による。

オリエント考古学

（市販書採用科目）（L 104-0991）〔2単位〕

【指定テキスト】

杉本智俊『図説 聖書考古学 旧約篇』河出書房新社、2008年

【講義要綱】

聖書は、イスラエル人が南レヴァント地域に定着する前にいた先住民族としてカナン人を描いており、イスラエルと対立する多神教的世界観をもった人々としている。考古学的に彼らの起源や性格を厳密にとらえることは容易でないが、おそらく中期青銅器時代に北方から

断続的に流入してきた人々や前期青銅器時代の都市民の生き残りなど、雑多な人々で構成されていたと思われる。アモリ人との関係についてもしばしば議論されている。そうした背景は彼らの物質文化のどういう側面に反映されていると考えられるのか示しなさい。その後、彼らは強力になり、ヒクソスとしてエジプトにまで勢力を伸ばした。後期青銅器時代になると、エジプトに押し返されるが、逆に国際的な文化を発展させる機会となった。イスラエルの登場とともにカナン人は滅亡するが、なぜ彼らの都市国家が減んだのか当時の国際情勢から考えてほしい。その後、カナン人の文化の一部はフェニキア人に継承されていくとされる。どういう要素が継承され、どういう要素は新しいものなのかも見極めてほしい。

【関連科目】

「西洋史特殊Ⅰ—古代オリエント史」

【参考文献】

- A. マザール『聖書の世界の考古学』リトン、2003年
 D.J. ワイズマン『旧約聖書時代の諸民族』日本基督教団出版局、1995年
 小川英雄『発掘された古代オリエント』リトン、2011年

【レポート作成上の注意点】

1. 論理の流れと段落を意識して書くこと。
2. 議論、意見の根拠を明確に示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

考古学

(市販書採用科目) (L 093-8891)〔2単位〕

【テキスト】

鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年

【講義要綱】

考古学は、人々の諸活動によって残された物的証拠の分析を通じて、過去の人々の生活の諸相やその変化について考える学問ということができます。この科目で使用するテキストは、考古学という学問の全体的な枠組みを、分かりやすくコンパクトに解説したものです。このテキストをしっかりと読み込めば、考古学の基本的な研究方法・調査方法をはじめ、考古学という学問の歴史や、関連する諸分野との関係、現代社会との関わりまで、考古学をめぐる幅広い知識を体系的に理解することができると考えます。

ただし、このテキストは考古学の学問としての体系を解説した「概論」ですので、これだけでは考古学の研究の具体的なイメージがつかみにくいかも知れません。参考文献として挙

げた図書は、テキストの著者が、これまでの自身の研究を分りやすくまとめたものです。併せて読むことで、考古学研究の具体例だけでなく、テキストの内容の理解にも役立つと考えます。

【テキストの読み方】

当たり前のことですが、まずはテキストを何度も読むことが大切です。その際、項目ごと、節ごと、章ごとに、どんな内容が書かれているのかを、自分の文章でまとめてみるのも有効でしょう。テキストに出てくる専門用語を抜書きして、自身で解説をつけてみるというのも勉強になります。最初は理解できないことや誤読があっても、いろいろな本を読んだり、博物館などで実物を見たりするうちに、わかってくると思います。

【履修上の注意】

特別な注意点はありませんが、強いて言えば、日ごろから考古学に対する関心を強くもっていることです。考古学をめぐる報道や、考古学関連のさまざまな図書に自然と目が向くようになり、積極的に博物館・資料館、遺跡や発掘現場の見学に出かけられるようになれば、よりいいでしょう。

【関連科目】

「オリエント考古学」

「西洋史特殊Ⅰ」

【参考文献】

鈴木公雄『考古学はどんな学問か』東京大学出版会 2005年

ほかにも、考古学をめぐるさまざまな文献に目を通すことをお勧めします。ただし、自分が初心者だと思える方は、考古学の方法論を扱ったものよりも、まずは、具体的な研究成果を盛り込んだ概説的な本や、写真や図版を多用したもの（いくつかの出版社から出ている「日本の歴史シリーズ」など）を読むほうがいいでしょう。

また、図書ではありませんが、各地の遺跡や博物館などで展示されている遺物を、自分の目で見る機会をもつことも大切です。

【レポート作成上の注意点】

テキストのある科目ですので、まずはテキストや参考書を何度も読み込んで、内容を理解することが大切です。テキストの理解が足りないと思われるレポートは、まず合格点になりません。

また、課題で何が求められているかをじっくり考え、盛り込むべき内容をしっかり整理してからレポートを書き始めるようにして欲しいと思います。当たり前のことですが、テキストの内容がしっかりと頭に入っていないと、課題の趣旨を把握することはできません。

なお、レポートは、テキストや他の文献を読んだり、実物の資料を見て理解したことを、自分の文章で表現するものです。テキストの内容の要約ではありませんので注意して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅰ (L)

(L 103-0901)〔2単位〕

【講義要綱】

地理学Ⅰは、経済地理における急速な変動である「トランスナショナル化」を中心テーマとして取り上げた科目として構成されている。「トランスナショナル化」とは、一般的な「グローバル化」と重なる現象であるが、地球規模、地域経済統合、国、地域、都市、と様々な空間的レベルにおいて、様相を変えながら立ち現われている。この実態については、歴史的な時間軸と地理的な空間軸の両方からとらえることが重要である。

この科目で行う学習としては、毎日、必ず新聞を読み、内外の動きを自分の頭で考える習慣を身につけることを目指して行うことを期待している。

【参考文献】

教科書の各章の章末に掲げられているものを中心に選んでいくようにすること。

【レポート作成上の注意点】

理論的な点についての理解度を示す記述を期待するとともに、その内容を事例についても分析を行うように課題を設定している。このことに期待して作成していただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅱ (地誌学) (L)

(L 108-1001)〔2単位〕

【講義要綱】

地誌学の特徴は、唯単に、どの国やどの地域には何が存在するのかを調べ上げることだけではなく、それらの国々や地域において、これらの事物や事象が、時代とともに変化している有様や、他の国々や地域への影響や、他の国々や地域からの影響を調べ、何故そのような相互作用が起こるのかを考えることにある。

日常的にも、県民性や食文化ということについては話題になり、それぞれの人が、それぞれの考え方をもっているものであるが、今回のレポート作成にあたっては、非常に多数存在している関連する参考文献を利用し、これまで自分が抱いていたイメージを、客観的な事実やデータによって裏付けたり、新しい見方を獲得するように心懸けていただきたい。地誌学の面白さは、具体的事例を徹底的に調べ上げることから生まれる。

【参考文献】

郷土史、旅行ガイドブック、料理本など参考文献は限りなく存在するので、取捨選択が大切である。

【レポート作成上の注意点】

地誌学的知識と、いわゆる「常識」とは、どのように異なるのであろうか。単なる思いつきや固定観念（ステレオタイプなイメージ）だけで、この世界の中で生きて行くのは、つまらないことである。

地誌学の面白さは、様々な知見を、地域や場所という中で「総合化」することにある。レポートの作成にあたっては、複数の異なる視点からの知見を「総合化」するように心懸けていただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

人文地理学

(L 095-0501)〔2単位〕

【講義要綱】

歴史学や地理学は、学問自体の内的要請によって進化発展するものであるばかりではなく、時代の要請によっても変化するものである。今日の世界の基本動向を考える上で、「グローバル化現象」の理解は避けて通ることは不可能である。

『人文地理学』は、このような背景と時代要請の中で書き下ろされたものであるので、教科書全体を通して精読し、「グローバル化現象」の意味をしっかりと把握した上で取り組んでいただきたい。

【参考文献】

教科書の各章の章末に掲げられているものを中心に選んでいくようにすること。

【レポート作成上の注意点】

今年度の課題については、教科書の理解度を示す記述を期待するとともに、その内容を事例とともに説明を行うように課題を設定した。このことに注意して作成していただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

古代からの国語の変遷を通して、主に日本の古典文学の読解・鑑賞の質を高めること、および「ことば」に含まれる語義の多層性と汎用性をこまかに観察することにより、古典に見る日本人の心意の諸相を感知すると同時に、自身の言語の拠って立つところを洞察することを目的とする。

【参考文献】

[方言に関して]『講座方言学』『方言学概説』

[方言辞典]『標準語引き 日本方言辞典』『日本方言大辞典』『現代日本語方言大辞典』

[言語地図]『日本言語地図』『方言文法全国地図』

[古語を多く収載する辞典]『日本国語大辞典 第2版』『角川古語大辞典』『時代別国語大辞典 上代編』『同室町時代編』『近世上方語辞典』『江戸語大辞典』『江戸時代語辞典』

【レポート作成上の注意点】

引用は必ず「 」でくくり、出典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

このテキストは、著者が自分の身近にあることばを題材に、わかりやすく説明しているもので、執筆時の日本語の様相を示しつつ、日本語のあるべき姿を説いているものです。国語学というと難しく考える向きもありますが、かた苦しく考えるのではなく、日常の言語生活の中で、いろいろな面からことばの問題を考察できることを示している科目です。

【テキストの読み方】

テキストの著者は、日本語に関する著作を多く出しています。「池田彌三郎著作集」全10巻（角川書店）もありますが、「ゆるる日本語」「暮らしの中の日本語」「暮らしの中のことわざ」「ことばの中の暮らし」「聴いて歌って」「日本故事物語」等単行本がいろいろあります。文庫本になったり再版になったりしているものもありますので、ぜひ読んで、参考にしてください。

【履修上の注意】

テキストは当用漢字が制定されていた時代に執筆されたもので、その後の常用漢字に関する記述はありません。したがって、その後の展開—たとえば2010年11月30日に内閣告示され

た改訂版の常用漢字、それに人名用漢字、新地名などについては、各種の文献を参照して自ら知識を獲得し学習をしていってください。

【参考文献】

これまでに出版された数多くの漢字・漢語に関する解説書、研究書。最近のものでは阿辻哲次「戦後日本漢字史」(2010年11月・新潮選書)が参考になるものの一つです。

【レポート作成上の注意点】

- ・字画をハッキリと記すと共に、誤字・脱字に気をつけ、参考文献の丸写しではなく、自分のことばでレポートしてください。
- ・この程度の分量のレポートで、序論とか本論、結論などとするのは大げさです。また後注などとするのもおかしいです。力まずにレポートしてください。
- ・レポート作成の際に使用した参考文献は、その文献名、著者（または編者、監修者）名、刊行年月、出版社（発行元）を必ず明記してください。ネットで検索し、それをそのまま写すのは厳禁です。参照した場合は誰が作成した情報なのか、いつ検索したのかを明らかにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学

(L 038-7701、L 7701)〔4単位〕

【講義要綱】

日本の古来から伝わってきた古典テキストのすぐれた価値を知ること。古代の歌や物語、またそのなかに綴られる美しいことばや奥行きのあることばに注意を向ける。そのようにしながら、わたしたち日本人の古くから持ち伝えてきた伝統精神の豊かさや、生活習慣の多様さを知り、生きてゆくことのさまざまな問題のはじまりと経過を尋ねてゆく。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成に際して、次の諸点に注意すること。

- 参考とした研究書名・論文名・著者名・刊行年月を明記する。(提示した参考文献以外のものでも可)
- 万葉集・日本書紀・続日本紀・源氏物語などの古典文学のテキストは、新編日本古典文学全集(小学館)、新日本古典文学大系(岩波書店)のシリーズを用いるのが好ましい。
- レポートに歌、記事等を引用する際には、参考書からの孫引きを避け、これらテキストから直接に自身で引用する。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

日本文学のながれを理解する科目。テキストは、現在の見地ではやや古風だが、基本をおだやかに網羅している。したがって、理解の補足のためには、参考文献としてしめたものが必要にもなる。しかし、それよりも第一に、テキストに引用されている様々の古典作品（とくに一節をあてられている作品・作者）の具体にふれることが大事だ（『新 日本古典文学大系』（岩波書店）、『新編日本古典文学全集』（小学館）、『新潮日本古典集成』（新潮社）等の古典校注・訳注叢書をもちいればよい）。むろん、たとえば『源氏物語』や『平家物語』の全篇、西行や西鶴の全作品等をよみとおすすめは無理だが、部分もしくは数篇を実際によんで、それと文学史的記述とをもう一度自分で引照する必要がある。科目試験・レポートのために役だつだけでなく、自分たちの文化の理解にもつながる。

【参考文献】

『日本文学全史』学燈社

『日本文学新史』至文堂

小西甚一『日本文藝史』講談社（絶版）

加藤周一『日本文学史序説』筑摩書房

『岩波講座・日本文学史』岩波書店

『藝文研究「文献案内」』の「国文学」、慶應義塾大学藝文学会

【レポート作成上の注意点】

設問からもわかるはずだが、テキストの要約や他の文学史概説のぬきとりではレポートとならぬことに留意すべし。具体的に、ということは自分で作品をよんだ上で、実感に即しつつ、しかも論理をたててまとめる必要がある。

テキストとして読んだもの、参考とした研究文献を、著者・書名・刊行元・刊年の形で明示すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

文学がつねに時代を濃厚に反映するものである以上、そこにはさまざまな形で「政治」との関係が映し出されている。ことに明治維新以降の近代日本はつねに大きな政治的変動の中にあつた。この時代と歩みを共にするように成立・発展してきた近代日本文学は、直接的に

せよ間接的にせよ、何らかの形でその変動を反映している。

明治政府が選択した「近代化」政策は近代日本文学の成立の要因であったし、明治前期の自由民権運動は多くの政治小説を生み出した。また、日清・日露や第二次世界大戦といった戦争との関わりをもつ文学作品は枚挙にいとまがない。プロレタリア文学を中心に、政治思想と文学との関わりも深い。このような観点から、具体的な作家や作品をとりあげて政治的な状況との関わりを検証し、その文学的もしくは文学史的な意味について分析・論述することが求められる。

【テキストの読み方】

テキストには自然主義に至るまでの近代文学の基本的事項が記述されているが、これらは文学史的な観点に立つ概論であり、個々の作家や作品と時代との深い関わりを示すものではない。

本課題は、むしろ、テキストの限定された範囲を補う意味をもつものであり、課題に即して近代文学作品に対する視野を広げることが望まれる。

【参考文献】

『岩波講座 日本文学史』全18巻、岩波書店、1995～1997年

『編年体 大正文学全集』全12巻、ゆまに書房、2000～2002年

小森陽一編『政治への挑戦』（『岩波講座文学』第2巻）岩波書店、2003年

大岡昇平編『政治と文学』（新装版『全集 現代文学の発見』第4巻）学芸書林、2003年

紅野謙介『検閲と文学—1920年代の攻防—』河出書房新社、2009年

【レポート作成上の注意点】

「政治」を狭い意味でとらえる必要はない。

ある作家や作品と政治との関わりだけでなく、特定の政治的状況をめぐって複数の作家や作品を横断的に論じる方法や、歴史の変遷を視野に入れる方法などさまざまな視点があり得るが、いずれの場合も、客観的かつ具体的に論述すること、そして自分自身の観点から意味づけることが重要である

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究 I
— 御伽草子の世界 —

(L 088-0401) [1 単位]

【講義要綱】

御伽草子は、室町時代から江戸時代前期にかけて制作された短編の物語群の総称である。現在、約四百編の作品が存在している。この御伽草子の各作品について、テーマ毎に分類し、

その特徴を学習する。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、御伽草子・室町物語関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅱ— 1 —近世前期小説の展開—

（L 013-6501、L 52 b、L 6507 a）〔1単位〕

【講義要綱】

日本の近代文芸にも大きな影響を与えた江戸時代の文芸のうち、仮名草子、西鶴を中心とする浮世草子、それに談義本の流れを辿るもので、それらのジャンルの様々な作品を読む際の基礎知識を得る。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、仮名草子、浮世草子関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅱ— 2 —近世後期小説の展開—

（L 016-6901、L 6907 b）〔1単位〕

【講義要綱】

洒落本・人情本・滑稽本それに読本といった近世後期小説の展開を学び、黄表紙や合巻等の草双紙を含め、様々なジャンルの色々な作品を実際に読んで行く。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、江戸後期小説関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

和歌は長い年代にわたって、日本文学の最も表立ったものとして、上下に重んぜられてきた。日本文学理解のためには、どのような領域を目標として置くにせよ、和歌史についての知識を基本として欠くわけにゆかない。本テキストは和歌の発生からそれが文学としての地歩を占めるに至る、和歌史の最初の部分を概説したものであるが、特に文学が文学以前の目的から文学としての自覚を生じてくる過程に学習の重点を置いてほしい。

【参考文献】

- 『折口信夫全集』（旧版1・2・9巻、新版1・2・6巻）中央公論新社
『池田彌三郎著作集』1・4・5・6巻 角川書店（絶版※古書店に今なお多く流通している）
西村亨『新考 王朝恋詞の研究』桜楓社、1981年
西村亨『伏流する古代』大修館書店、2008年
西村亨『歌と民俗学』岩崎美術社、1966年
その他独自に調査すること。

【レポート作成上の注意点】

レポートは、テキストを精読するのは勿論であるが、テキストの学習だけにとどまらず、参考とすべき書物・論文等をよく探し、なるべく数多く読んで、その成果を示すこと。本科目は特に折口信夫の文学発生説を基盤としているため、参考文献として挙げられたものなど、十分に学習することが望まれる。

なお、レポートは参考文献の文章を丸写しにするのではなく、自己のことは文章に移して書くように留意してほしい。参考論文は、論述上必要な場合は、「 」に引用をする。（著者名・書名・論文名・掲載書名もしくは雑誌名・巻数・刊行年など明記のこと。）

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

本科目は、古典文学の中でも中心的位置を占める和歌という文学がどのようなものであるかを実際に作品に接して理解を深め、その基本的な知識を身につけるために設けられています。

【テキストの読み方】

八代集の各集の特質を理解して下さい。

【履修上の注意】

参考文献を写すだけでは、評価されません。それをもとに自身の考えをめぐらすよう努めて下さい。

【参考文献】

八代集の注釈書としては、和泉古典叢書（和泉書院）、新日本古典文学大系（岩波書店）があります。

【レポート作成上の注意点】

出家歌人ではない在俗の歌人の歌の詠風も考慮に入れて比較してみてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国語国文学古典研究V —随筆文学—

（L 029-7503）〔1単位〕

文

【講義要綱】

日本の古典文学の中で三大随筆と称される『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（卜部兼好＝吉田兼好、兼好法師）は、それぞれ後代の日本文学に大きな影響を与えています。このテキストは、そのうち『枕草子』の類聚的章段（物は付けの段）を中心としたパロディや注釈書を紹介しているもので、同書や『方丈記』『徒然草』の索引・享受史関係文献、それに古典随筆に関する索引類の略目録も付載してあります。それらを活用し原典を読み、日本文学の幅の広さ、奥行きの高さ面白さを実感し視野を拓けていってください。

【テキストの読み方】

初版より40年余りが過ぎ、研究の進捗に合わせて、今回、かなり大きく増補・改訂を行いました。

引用文献中に難しい語句が出てきますが、各種古語辞典や『広辞苑』（岩波書店）『大辞林』（三省堂）『日本国語大辞典』（小学館）などの中型・大型の国語辞典を引くなどして読む努力をしてください。一方でまた、細部にこだわらず全体の流れをつかみましょう。

【参考文献】

本テキストの理解を深めるためには、パロディーや注釈書のもとになった原作そのものを読んでいることが大切です。

三大随筆については、文庫本を含めて数多くのテキストが出ていますが、原文・注・現代

語訳が揃っている『新編 日本古典文学全集』（小学館）や角川文庫・講談社学術文庫所収のものが便利かもしれません。『方丈記』は、市古貞次校注・岩波文庫の『新訂 方丈記』と2010年11月に改版が出た築瀬一雄訳注・角川文庫本がおすすめです。『犬枕』は『日本古典文学大系』、『尤之双紙』は『新 日本古典文学大系』 仮名草子集（いずれも岩波書店）、『けしずみ』は『新編 日本古典文学全集』 仮名草子集に収録されています。その他犬枕系の作品は近年様々な叢書に影印や翻刻が入っています。詳しくはテキストを参照してください。

【レポート作成上の注意】

参考文献に頼りきることなく、自分なりに作品を読み、その上で自分のことばでレポートしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

書道

(L 040-7701、L 9112) [2単位]

【講義要綱】

書道の歴史は殷代の甲骨文に始まり周代の金文、秦の小篆、漢代の隸書、三国から六朝時代にかけては草書・行書・楷書が成立発展。そして唐代には楷書が書法上の完成をみた。中国の書の歴史はこの様に流行した時代の書体を念頭に置いて理解されたい。

日本の書は中国や朝鮮との交流の中で育まれてきた。しかし日本の政治文化が独立したことで書も平安時代中期以降は和様の書が盛んとなった。この様な時代の流れをふまえて名跡をみていくことが重要である。

この科目は書道史とともに実技の課題が課せられているので、提出にあたっては十分な練習をすること。

【参考文献】

書道史の参考書

『中国書道文化辞典』 西林昭一著 柳原出版

『日本書道辞典』 小松茂美編 二玄社

『中国書道史事典』 普及版 比田井南谷著 天来書院

『書林』 書の精神と書学 星野聖山著 匠出版

『中国書道史年表』 二玄社

『日本書道史年表』 二玄社

実技用手本

『中国法書選』 全60冊 二玄社

『日本名筆選』 全40冊 二玄社

※分冊可、必要な手本を1冊単位で入手できる。

【レポート作成上の注意点】

作品提出の際、漢字作品は半紙に4文字を2行で、かな作品も2行で書くこと。文字の配置には充分留意し、半紙の左側に名前も毛筆にて書くこと。十分な練習を積み提出して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

中国文学史

(L 057-8502)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は悠久の歴史と多様なジャンルを有する中国文学の全体像を通史的に学び、その歴史的展開の諸相と特質を理解することを目的とする。

当科目では、文学を孤立的に学ぶのではなく、それが歴史・政治・社会といかに関わり合いながら成立しているかを多角的に考察する。

【テキストの読み方】

学習者はまずテキストを精読することによって、中国文学史について概括的な知識を得ること。そして、その上で各自の関心に従って問題を設定し、その解明のために作品を広く読んで欲しい。

【履修上の注意】

「漢文学Ⅰ～Ⅲ」を履修する場合は、その前に当科目を履修することが望ましい。

【関連科目】

「漢文学Ⅰ」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

前野直彬『中国文学史』東京大学出版会、1975年
『中国の古典名著・総解説』自由国民社、1990年
興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社、1991年
八木章好『中国古典文学二十講 概説と作品選読』白帝社、2003年
湯浅邦弘『概説中国思想史』ミネルヴァ書房、2010年

【レポート作成上の注意点】

参考文献を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

漢文学Ⅰ

(L 075-9601)〔2単位〕

【講義要綱】

当科目は中国文学の概説および作品選読である。「漢文学」という名称の通り、対象は中国の古典文学に限定し、近現代のものは含まない。中国で伝統的に「文学」と言う場合、言語によって表現される文芸・学問全般を指す。当科目では、その中の詩文・思想・歴史の三つの領域を扱う。

【テキストの読み方】

まず、テキスト第一部の「漢文学概説」を熟読すること。概説は各ジャンルの最も重要と思われる項目のみを簡略に紹介しているので、巻末の参考文献などによって不足の点を補ってほしい。

中国古典文学の全体的な流れが把握できた段階で、次の第二部「漢文学選読」に進むこと。テキストは原文に訓読と注釈を付しただけであるので、全文の解釈および作品の背景については各自で辞書・参考書を使って詳しく調べてほしい。

【履修上の注意】

「中国文学史」を履修済みであることが望ましい。

【関連科目】

「中国文学史」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

塩谷温『中国文学概論』講談社学術文庫、1983年

黎波『中国文学館』大修館書店、1984年

荘司格一ほか『中国文学入門』白帝社、1987年

九州大学中国文学会編『わかりやすくおもしろい中国文学講義』中国書店、2002年

松原朗ほか『教養のための中国古典文学史』研文出版、2009年

【レポート作成上の注意点】

参考文献を必ず明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

『論語』は孔子の言行録であり、儒教の最も基本的な経典である。その思想は中国のみならず東アジア諸国に大きな影響を与え、現代社会でもその名残は随所に見受けられる。まず『論語』の原典を通読し、数多くある参考書を参照しつつ、孔子と儒教の特色について考察する。

【参考文献】

- 吉田賢抗『論語』新釈漢文大系1 明治書院、1960年
平岡武夫『論語』全釈漢文大系1 集英社、1980年
吉川幸次郎『論語（上・下）』朝日出版社（朝日選書）、1996年
加地伸行『論語』講談社学術文庫、2004年
金谷治『論語』岩波文庫、1999年
金谷治『孔子』講談社学術文庫、1990年
和辻哲郎『孔子』岩波文庫、1988年
白川静『孔子伝』中公文庫、1991年
江連隆『論語と孔子の事典』大修館書店、1996年

【レポート作成上の注意点】

『論語』や孔子に関する参考書は数多く、それぞれの解釈には大きな違いがある場合も多いので、必ず複数を参照して考察すること。また引用文は自分の文章と区別できるように記し、出典と引用箇所を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

漢文に親しみ、中国古代の思想史を理解するために、『孟子』を題材にとり学習する。訓読（書き下し文）を通して解釈の方法を身につけると同時に、儒家としての孟子の思想の特色についての理解を深める。

【参考文献】

- 島森哲男・浅野裕一『孟子・墨子』鑑賞中国の古典③ 角川書店
内野熊一郎『孟子』新釈漢文大系4 明治書院
宇野精一『孟子』全釈漢文大系2 集英社

大島晃『孟子』中国の古典4 学習研究社
貝塚茂樹『孟子』講談社学術文庫
小林勝人『孟子（上・下）』岩波文庫

【レポート作成上の注意点】

指定の字数内で、はっきりと読みやすく書くよう心がけること。引用文は自分の文章と区別できるように記し、出典と引用箇所を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代英語学

(L 100-0701)〔3単位〕

【講義要綱】

現代英語の特徴を多面的に研究する。日本語など他の言語と比較しながら、英語固有の特徴、英語固有の言語化、使用について考える。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【関連科目】

「英語学概論」

【参考文献】

唐須教光編『開放系言語学への招待—文化・認知・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会、2008年

井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』南雲堂、1999年

井上逸兵『ことばの生態系』慶應義塾大学教養研究センター、2005年

【レポート作成上の注意点】

自分のことばで書くこと（丸写しはダメ）。

ワープロによる作成、提出が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語学概論

(L 072-9201、L 9254)〔3単位〕

【講義要綱】

英語の言語上の特徴や英語と社会・文化・コミュニケーションとの関わりを見極めること。また、英語、ならびに言語を分析するために発展してきた研究の流れを理解し、それをふまえて英語の使用を考察すること。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【関連科目】

「現代英語学」

【参考文献】

池上嘉彦『〈英文法〉を考える』ちくまライブラリー、1995年

池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚』NHK ブックス、2006年

鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書、1990年

唐須教光編『開放系言語学への招待—文化・認知・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会、2008年

【レポート作成上の注意点】

自分のことばで書くこと（丸写しはダメ）。

ワープロによる作成、提出が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語音声学

(L 005-5003、L 41、L 41 a)〔1単位〕

【講義要綱】

一般音声学的理解を土台として、英語の音声の調音的特徴、音響学的特徴を理解すること。また、英語の韻律についても理解を深めること。

【テキストの読み方】

旧漢字があるなど、読みづらいところもあるが、名著である。他の参考文献などを頼りによく理解すること。

【履修上の注意】

文献、レポート等による学習だが、実際に自分で発音を試みながら学習してほしい。

【関連科目】

「英語学概論」「現代英語学」

【参考文献】

窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版、1998年
佐藤寧・佐藤努『現代の英語音声学』金星堂、1997年
清水克正『英語音声学 理論と学習』勁草書房、1995年

【レポート作成上の注意点】

- ・適宜参考文献を参照すること（テキストレベルの詳述では不十分）。
- ・自分のことばで書くこと（丸写しはダメ）。自分の母語（ほとんどの方にとっては日本語）の音声学的な特徴との対比を加えてもよい。ワープロによる作成が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語史

(L 047-7903)〔2単位〕

【講義要綱】

英語が、今日、世界語になっていることは誰も否定できません。日本の3分の2ほどの大きさの国の言語がです。この英語がどのような発達をしたか、遠く昔のインド・ヨーロッパ語の時代にさかのぼり、そこから逆に今日にいたる経緯をたどってみると、驚くべき事実が明らかになってきます。音韻、語彙、語形態、統語法、方言、これらの変遷を観察してください。何気なく使っている言葉の興味ある意外な性格が見えてきます。

【テキストの読み方】

教科書の練習問題をきちんとこなしましょう。解答のヒントはすべて教科書の記述の中にあります。

【履修上の注意】

高等学校まで学んだ現代英語の文法の知識を、きちんと整理してください。なぜそのような文法になったか、を知ることも学習目的の一つですから。また、もし余裕があれば、英文学史の概説書を読んでおいてください。

【参考文献】

寺澤芳雄編『英語語源辞典』研究社、1997年

【レポート作成上の注意点】

ワープロでレポートを作成の場合、ワープロで印字できない特殊な文字は手書きで記してください。とくに発音記号などは、ほかの文字で代用しないようお願いします。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・ACADEMIC WRITING I —英語論文作成法—

(L 113-1201)〔2単位〕

【講義要綱】

「新 ACADEMIC WRITING I」は、英語論文執筆に必要な知識とスキルを習得することを目的としています。単なる「英作文」とは異なり、アカデミック・ライティングには「英語で書く」ということ、そして「学術的な論文を書く」という二つの基盤があります。つまり、文法・構文的に正確な文を作成するだけでなく、アカデミックな研究の性質や作法を理解し、論理的議論を構築し、それに応じた論文構成を行う能力が必要となります。本科目では、テキストを通してこれらを学び、レポート課題で実践します。

【テキストの読み方】

テキストの Part 1 は英語論文の特色や構造について説明しています。Part 2 は英語論文を実際に執筆し完成させるまでのプロセスを説明しています。

【履修上の注意】

本科目は、高等学校修了程度の英語力を持ち、文法的に正確な表現を用いて、ある程度の長さの英作文ができる学習者を対象としています。よって、英文法の復習が必要な学生は、市販の書籍や、参考文献に挙げた教材でよく学習してから、履修して下さい。

【参考文献】

アカデミック・スキルズ解説書

- ・佐藤望編『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2006年（論文作成だけでなく、大学での学び全般に役に立つスキルや知識習得を目指した入門書）

アカデミック・ライティング学習書

<日本語>

- ・アンドルー・アーマー、河内恵子、松田隆美、ウィリアム・スネル『アカデミック・ライティング応用編—文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版会、1999年
- ・上村妙子、大井恭子『英語論文・レポートの書き方』研究社、2004年
- ・佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック—ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房、2008年（英語ライティングに特化したものではないが、大学で研究を行い、その研究成果を効果的かつ正確に著すのに必要な作法や手順が丁寧に説明されている。）
- ・崎村耕二『英語論文によく使う表現』創元社、1991年

- ・津田塾大学英文学科編『パラグラフから始める英文ライティング入門』研究社、2001年（英語論文の基礎となるパラグラフの要素を簡潔に解説）
- ・藤本滋之『やさしく書ける英語論文』松柏社、2002年（アカデミック・ライティングの各段階・要素のうち、構成について詳細に説明されている。特に3章「Essay とエッセイの違い」では英語と日本語による論述方法の違いが具体例を用いて示されており、分かりやすい）
- ・ポール・ロシター、東京大学教養学部英語部会編『First Moves: An Introduction to Academic Writing in English』東京大学出版会、2004年（8章構成。各章で短い学術的テキストを土台に、アカデミック・ライティングの諸要素（英語表現の詳細も含む）を学ぶことができる構成になっている。練習問題と解答例あり。）

<英語>

- ・Phyllis Creme and Mary R. Lea(2008). *Writing at University: A Guide for Students*(3rd edn). Maidenhead: Open University Press. (ライティングを大学での学びの基軸と捉え、その意義、種類、規範から、課題を書く時のコツまで解説。最終章では効果的な自立学習を促すための learning journal と reflective writing が紹介されている)
- ・Rowena Murray and Sarah Moore(2006). *The Handbook of Academic Writing: A Fresh Approach*. Maidenhead: Open University Press. (解説が詳細なので上級者向けといえるが、Chapter 3 'Retreating' は草稿完成後の revision 作業の重要性を説明し、有益な実践的アドバイスも提供している)
- ・Robyn Najar and Lesley Riley(2004). *Developing Academic Writing Skills*. Tokyo: Macmillan Language House. (15ユニットから成る大学生向け入門書。英語で書かれているが、文字が大きく、図表も多いので読みやすい)
- ・Alice Oshima and Ann Hogue(2006). *Introduction to Academic Writing*(3rd edn). New York, NY: Longman. (アカデミック・ライティング執筆に不可欠な知識、作法や手順が網羅されている)
- ・Dorothy E. Zemach and Lisa A. Rumisek(2005). *Academic Writing: From Paragraph to Essay*. Oxford: Macmillan.

MLA スタイルの解説書

- ・『MLA 英語論文の手引 第6版』北星堂書店、2004年（MLA スタイルのガイドの翻訳版）
- ・Charles Lipson(2006). *Cite Right: A Quick Guide to Citation Styles — MLA, APA, Chicago, the Sciences, Professions, and More*. Chicago: University of Chicago Press. (様々な論文スタイルのガイド)
- ・'MLA Formatting and Style Guide'. <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/747/01/> (下記サイトの MLA スタイル解説のページ)

アカデミック・ライティング学習のためのウェブサイト

- ・<http://owl.english.purdue.edu/>(アメリカ Purdue 大学で運営されているサイト。ライテ

ングにおける重要事項を具体的、丁寧に解説。専攻分野ごとの説明もある。英語学習者向け情報、練習問題も豊富。）

- ・ <http://www.uefap.com/> ('Using English for Academic Purposes: A Guide for Students in Higher Education' 。イギリスの大学で Academic English 教授歴の長い英語教育コンサルタントが運営するサイト。分野ごとに練習問題が豊富に掲載されている。オンラインで取り組むことができ、ほとんどの問題に解答がついているので、自習に最適)

【レポート作成上の注意点】

教科書のチェックリストは、レポート課題に多く見られる問題点と本科目の学習事項をもとに作成されています。各項目と照合しながら、最低二回は論文を読み直してください。

特に、以下の問題のあるレポートが多いので注意してください。

- ・ 英語の誤り（主語と動詞の一致、冠詞、品詞、構文、時制等）が目立つ
- ・ 議論の構成（論文の thesis が曖昧、論理的一貫性不足、客観的な立証不足）
- ・ 論文の構成（パラグラフの構造、イントロダクションの役割と構造）
- ・ 書式、引用方法、文献リストの不備

【成績評価方法】

科目試験による。

ACADEMIC WRITING II

—英米文学・文化研究における英語論文作成法—

(L 080-9901) [4 単位]

【講義要綱】

The aim of Academic Writing II is to research and write an academic essay on a literary theme in English, conforming to the guidelines described in the textbook. The essay will be evaluated according to the proficiency of English, the content (i.e. argument), and technical details such as use of quotation, punctuation, etc.

【履修上の注意】

This essay must conform to the style(s) and format explained in the textbook and should be typed using a computer or word processor. It is expected that the works and critical studies referred to are for the most part in English, although the use of Japanese books, journals, etc. is not discouraged.

【参考文献】

テキストの当該欄を参照のこと。

【レポート作成上の注意点】

なるべくワープロで論文作成のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代英文学**(L 043-7702、 L 7724) [2 単位]****【講義要綱】**

小説作品をじっくりと丹念に読み、課題について考えることが必要。
書き出す前にレポートの構成を練ること。利用する引用文についても検討すること。
作品のあらすじ紹介にならないように注意すること。

【履修上の注意】

課題として選択した作品の詳しい情報をレポートの最初に記すこと。(出版年、出版社、出版地、翻訳者名)

【参考文献】

イギリスの現代史、小説史、文化史など。

【レポート作成上の注意点】

引用文の情報は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

英文学特殊**(L 071-9201、 L 9239) [2 単位]****【講義要綱】**

近現代のイギリス文学とその歴史を、「言論の自由」と「信仰への態度」という二つの側面から考察する科目である。レポート課題自体は、両者のいずれか一つを選択して執筆する形式となっているが、単位の取得のためには両方について深い知識と見識を持つことが必要になる。

【テキストの読み方】

まずは、テキストを精読し、第1部で述べられている海保師の見解、第2部で述べられている上村師の作品論、それぞれについて正確に理解することが必要である。その上で、レポート課題などに応じて、参考文献を自分で探し、増やししながら、自分独自の意見を持つことが必要。

【履修上の注意】

演説にせよ、小説にせよ、原典をじっくりと読むことが何より大事である。しかし、レポートの執筆においては、単なる作品の紹介ではなく、最終的に研究対象についての自分独自の視点を打ち出すことが求められる。その意味で、参考文献を貪欲に読破することが大事。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目】

特になし。

【参考文献】

文学部英米文学専攻のホームページにある『文献案内』などを参考にしながら、妥当性が高いと思われる参考文献を一步一步、自分の力で探してみる。学習はそこから始まるのだから。

【レポート作成上の注意点】

テキストなどの単なる要約や模倣に終始している低いレベルのレポートには、当然ながら高い評価は与えられない。剽窃に関しては厳しい態度で臨むので、注意すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

中世英文学史

(L 035-7601、L 7622) [2単位]

【講義要綱】

中世の英文学は約1000年にも及ぶ長い中世の時代に書かれた英語文献のほとんどを研究範囲とします。大きく分ければ、ノルマン征服以前の古英語と以後の中英語で書き残された文学作品に区別できます。本講義はそのほとんどを扱うので、学生諸君は教科書を熟読して、大きな流れを理解して下さい。テキストに書かれているように、一見したところ「暗い古英語文学と明るい中英語文学」のように思えるかもしれませんが。けれど実際にひとつひとつの作品を読むとき、古英語と中英語の区別なく、中世の英語話者のダイナミックな世界観、あるいは日常の細やかな感情が丁寧に描かれていることがわかるでしょう。

日本ではあまり紹介されることのなかった分野ですが、実は非常に面白く、広く深い世界を背景に持っていることを、課題に取り組みながら理解して戴きたいと思います。

【テキストの読み方】

テキストは、中世英文学の大きな流れを概説すると同時に、現代英語とは大きく異なるように見える古英語文学作品に使われた技法や、古英語以外のゲルマン文学の伝統がどのよう

に古英語文学と関連するかを述べています。読者は、大きく流れを捉えると同時に、専門用語の意味をしっかりと理解し、参考文献を手にとり、テキストに書かれている内容を踏まえながら、実際に作品を（翻訳でもよいから）読んでみて下さい。文学テキストが様々な視点からも理解できることに気がついて下さることが望ましいです。

【履修上の注意】

イギリスの歴史、文化に興味を持っていることが第一条件です。英国中世史および英語史について概説を読んでおいて下さい。また教科書の他に参考書を手にとる必要もあります。

【関連科目】

「英語史」、「歴史（西洋史）」、「近世英文学史」

【参考文献】

- 安東伸介他編『厨川文夫著作集』上・下巻、金星堂、1981年（『ベオウルフ』翻訳所収）
『ベオウルフ 中世イギリス英雄叙事詩』忍足欣四郎訳 岩波文庫、1990年
T. A. シッピー著『作品研究 ベオウルフ』荻部恒徳訳 東京：英宝社、1990年
古英語叙事詩『ベオウルフ』対訳版 荻部恒徳、小山良一共訳 研究社、2007年
荻部恒徳著『「ベオウルフ」の物語世界：王・英雄・怪物の関係論』松柏社、2006年
唐澤一友著『アングロサクソン文学史：韻文編』東京：東信堂、2004年
桜井俊彰著『英国中世ブンガク入門』勉誠出版、1999年
チャーサー作、西脇順三郎訳『カンタベリー物語』上・下巻、ちくま文庫、1987年
チャーサー著『完訳カンタベリー物語』梶井迪夫訳、上・中・下巻、岩波文庫、1995年
『アーサー王円卓の騎士ガウェインの冒険』[『ガウェイン卿と緑の騎士』翻訳] 境田健訳、
東京：秀文インターナショナル、1999年
サー・トマス・マロリー著、厨川文夫訳『アーサーの死』ちくま文庫、1986年
サー・トマス・マロリー著、Eugene Vinaver 編、中島邦男他訳『完訳アーサー王物語』
東京：青山社、1995年
高宮利行著『アーサー王伝説万華鏡』東京：中央公論新社、1995年
羽染竹一編訳『古英詩大観：頭韻詩の手法による』東京：原書房、1985年
羽染竹一編訳『続・古英詩大観：頭韻詩の手法による』東京：原書房、1992年

【レポート作成上の注意点】

教科書および参考文献に書いてあることを、註もつけずにそのまま引用することは大きな減点とします。参考文献、資料の書誌情報、註はきちんと記しましょう。他人の意見からの引用を、あたかも自分の意見のように論じる盗用は一切認めません。特に書誌情報を欠いた主観的な感想文が多いので、『塾生ガイド』に掲載の「学習指導室からの『レポート作成上の注意』」に挙げられている『レポート・論文の書き方入門』他、レポートの書き方について記されている参考書を必ず読んで、レポートの内容以前の問題で書き直しを求められるこ

とのないようにしましょう。

課題にはすべて正解があります。漠然と自分の感想を述べるのではなく、きちんと作品を読み解き、主観的な意見ではなく、客観的な事実をレポート（報告）してください。

提出されるレポートは入念に推敲を得たものであることは当然です。誤字脱字のみならず、全体の論旨についても、必ず執筆後1日以上あけてから読み直し、自分の書いた日本語を客観的に評価し、必要があれば書き直し、誤りがあれば訂正することが望めます。レポートの提出は通信教育の要のひとつですので、レポート執筆者が一本のレポートの大切さを軽んじることがないように切望します。

【成績評価方法】

科目試験による。

近世英文学史

(L 036-7701、L 7723)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は、16世紀から19世紀にかけてのイギリス文学の流れを、詩、散文、演劇を中心に概観することで、近代イギリス文学の基本的な枠組みと流れを知り、より専門的な個別研究の基盤を築くことを目的とする。テキストは、ジャンル毎に、その特色と変化を、チューダー朝からビクトリア朝まで時間軸にそってたどるとともに、主要作品が文学史のなかで伝統的にどのように位置づけられているかを簡潔に示している。

【テキストの読み方】

「近世英文学史」のテキストは、16世紀から19世紀末までのイギリス文学の流れを、時代を追ってジャンル別に概説している。本書で指摘されている各時代や作家の特徴はどれも本質的な内容であり、また名前が挙がっている作家、作品も主要なものばかりである。より専門的な学習のために文学史の知識は不可欠であるため、細部までおろそかにせずにテキストを熟読し、各時代の特徴を系統的に整理してみるとよい。また可能な限り、言及されている作品を実際に読んでみることを。

【関連科目】

「イギリス文学研究Ⅰ～Ⅲ」「英文学特殊」「ACADEMIC WRITING Ⅱ」

【参考文献】

Ford, Boris, ed., *The New Pelican Guide to English Literature*, 9 vols (Harmondsworth : Penguin, 1982-84) —主要作家、作品、社会的背景を時代別に概説している。

斎藤勇『イギリス文学史』研究社、1974—未だ日本語で書かれたもっとも詳しい大部なイギリス文学史。絶版なので図書館などで利用すること。

川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社出版、1986

Jonathan Bate, *English Literature: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010)

その他の文学史の概説書については、英米文学専攻のウェブサイトでも紹介しているので参照のこと。

(http://www.flet.keio.ac.jp/englit/bibl/bibl_index.html)

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確に注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料（引用した作品そのものやその他の原典資料）と二次資料（研究書、研究論文など）に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は「学習のすすめ」などを参考に正確に記すこと。また、「ACADEMIC WRITING II」のテキスト（通信教材）には、注の付け方や書式についての解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレポートは再提出となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・イギリス文学研究Ⅰ—散文— (L 109-1101)〔2単位〕

【講義要綱】

第一次世界大戦を生き、描いた、イギリス女性作家たちのさまざまな立場を理解してもらいたい。時代と文学の多重性に注目することにより「戦争と作家」という視点をもつことが重要である。

【テキストの読み方】

通読して、文学史と文化史を把握してもらいたい。

【履修上の注意】

参考にした文献の情報は明確に伝えること。

【参考文献】

指定テキスト『新・イギリス文学研究Ⅰ・散文』（『西部戦線異状あり』）に紹介されている文献案内を参照すること。

【レポート作成上の注意点】

引用文の情報は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅱ—詩— (L 033-7603、L 7628)〔2単位〕

【講義要綱】

ミルトン、シェイクスピア、キーツ、エリオットなど、16世紀末から20世紀初頭にかけてのイギリスの代表的詩人24人の作品を読み、通常の散文とは別世界である英語の言葉の展開をじっくりと追う。

英詩の特徴と味わい方は既にテキスト序文に尽くされているので、熟読されたい。様々な韻律法が紹介されているが、それを丸暗記する必要はない。しかしそこで強調されているように、詩の真髄は言葉のリズムにあるので、どの作品も単語の意味を調べるばかりではなく、是非声に出して読み、口で賞味して頂きたい。詩のリズムは、わらべうたのように、意味の把握以前に音楽的な調子をもって言葉に息吹を吹き込んでいるからである。その上で、言葉の意味から全体の構成、作者の伝記的背景、時代状況に至るまでの要素がない交ぜとなって、作品の鑑賞に奥行きが与えられるであろう。

【レポート作成上の注意点】

広く参考文献にあたり、使用部分には注を施して出典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅲ—演劇— (L 050-7902)〔2単位〕

【講義要綱】

文学作品の鑑賞において最も不可欠で重要な要因の一つであろうと思われるものを挙げるとすれば、作品との生の（直接の）触れ合いということになろう。これはジャンルを問わず、すべての芸術作品についても言えることである。その出会いの原点乃至は源流を辿ることがどれほど価値を有するものであり、どれほど多くの発見を内に秘めた試みであるのかは、実際にその冒険に挑んでみなければ何人たりともわかり得ないだろう。文字通りそれほど奥の深い試みなのである。

特定の作品との感動的出会いを誘発且つ可能ならしめるところの直接的及び間接的要因をテキストのどの言葉やどの台詞に見出すかは、個人によって異なるであろう。それは各人が今日まで歩んできたところの人生行路、歩みの過程における出会いとそれによって意識的あるいは無意識的に織りなしてきたところの人間模様、今日まで培ってきた美意識の根底に深く静かに横たわる様々な風景や自然、その他人生における諸々の体験などの積み重ねなどによって、どの言葉が琴線に触れるかは自ずから異なるからである。自然の摂理に従うより他に術はあるまい。それ故にこそ、各人の鑑賞法の尊さが存在し、各人の存在意義 (the reason for being ; the raison d'être) の再確認・再認識がなされて然るべきなのである。

出会いの原点乃至は源流を遡る試みの過程において最も必要とされるテキストは、自らが今日まで織りなしてきたところの人生という書物であろう。それは内にもまた外にも開かれた open text (socialized text) であり、文字通り未完成のテキストである。未完成ではあるものの完成への強い願望と意思とを宿したものであり、自己充足への実現を何よりも真摯に志向するものである。その未完成のテキストを拠り所として、目の前の作品と自分自身との影響関係を吟味・分析し、言語化し、表現するという作業に敢然と立ち向かわれんことを切望するのが、他ならぬ本講座の主眼である。

【テキストの読み方】

個々の作品世界に入り込むことが重要である。その鍵を握るのが登場人物の台詞であろう。台詞は言葉の集積である。それ故に、一語一語の意味を解き明かし、登場人物の心理や思想、行動様式や生き方などを理解する作業が不可欠である。

【履修上の注意】

参考資料への過度の依存は避けるべきである。参考文献からの引用などは具体的引用箇所を明らかにすべきであり、断りなく書き写してはならない (cf. plagiarism)。稚拙な文章であると思われても、自分自身の頭で書き連ねる努力が大切である。行間に滲み出るのが、偽らざる自分自身の姿であり形であってほしいからである。

【関連科目】

「イギリス文学研究Ⅰ—散文—」、「イギリス文学研究Ⅱ—詩—」、「シェイクスピア研究」等の科目と有機的に関連していることは、理解できよう。

【参考文献】

個別の作家や作品に関する参考文献（テキストの「Ⅲ 参考文献集」を参照）は数多くあるが、あくまで参考程度にとどめることが肝心である。順序としては、テキストを読んでから参考文献に移ること。そうでないと、自らの読み (reading) の基本軸を失うことになるからである。

【レポート作成上の注意点】

本レポート作成作業を通して、英語力を存分に磨いてほしい。辞書を徹底的に引き、できれば大型の辞書（見出し語の語義および記述の絶対量において他を圧倒）を潰す程に辞書を引き捲ってほしいのである。辞書が潰れる頃には、皆さんは英語の教員になっているかもしれない。嘘か本当か、是非この逆説 (paradox) の実証に挑んでほしい。尚、*Oxford Advanced Learner's Dictionary* 等の英々辞典の使用も積極的に試みてはいかがだろうか。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

巽孝之『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』慶應義塾大学出版会、2003年

※「アメリカ文学」は上記市販書と、配本テキストのアンソロジー『アメリカ文学』の2冊が指定テキストとなります。

【講義要綱】

アメリカ文学思想史をふまえて多くの作品を読み進めていくとき、そこに17世紀ピューリタン植民地時代以来、人種・階級・性差を問わず連綿と培われたアメリカン・ナラティヴの伝統が脈々と息づいているのを見て取ることができる。テキスト『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』は、まさにそうした視点から、17世紀から19世紀にわたる男性、女性、混血の文学者を取り上げ、彼らがいかなるアメリカン・ナラティヴに準拠してきたかを克明に辿ったものだ。ジョン・ウィンズロップからベンジャミン・フランクリン、マーク・トウェインからF・スコット・フィッツジェラルド、トマス・ピンチオンからカレン・テイ・ヤマシタに至る壮大なパースペクティヴを、アンソロジー『アメリカ文学』の原文を読むことで確認してほしい。

【参考文献】

レポート作成、科目試験準備に当たっては、テキストに加え以下の参考文献も適宜参照すること。

Peter B. High, ed, *An Outline of American Literature* (New York : Longman, 1986).

巽孝之『ニュー・アメリカニズム—米文学思想史の物語学』増補新版、青土社、2005年

【レポート作成上の注意点】

教科書を熟読した上で、その方法論を活かしつつ、代表的作品群を読み解くことが、このレポート課題の学生諸君に要求するところである。したがって、明らかに下記の三点に違反するものは不合格とする。

- (1) アンソロジー収録作品原典を必ず読み、そのことがはっきりわかるように原文からの引用と、できれば試訳も含むこと。
- (2) 教科書で扱われているアンソロジー収録以外の作品の場合、教科書をふまえながらも、できるだけ別の見解を編み出すこと。
- (3) 教科書で扱われていない作品の場合、その作家に関する他作品及び二次資料をも、きちんと収集してから分析すること。

なお、レポートにはときとして教科書の記述を丸写しにして恥じないものが少なくない。そういう姿勢が露呈した場合、自動的に不合格となるので覚悟されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学研究Ⅰ

(L 030-7602、L 7626)〔2単位〕

【講義要綱】

本講座は、アメリカ文学のなかでも「アメリカ・ルネッサンス」期とよばれる19世紀前半から南北戦争前までの時代に活躍した代表的作家6名の作品を原文で通読することで、現代にまで繋がるアメリカ文学の特徴を学ぶ事を目的とする。

受講者は、指定テキストに収録された六編の作品を読み、それぞれの作家の特徴とともに、同時代作家たちに共通の時代精神を読み取ることになるだろう。

【テキストの読み方】

英語の原文を読むためには、よい辞書が必要となる。『リーダーズ英和辞典』をすすめる。また、テキストの末尾には詳細な訳注が付されているため、それを活用すること。

【履修上の注意】

アメリカ文学の古典作品を、原文で読み進めるため、基本的な英語文法を修得していることが必要である。

【参考文献】

テキストの末尾にある Bibliography を参照のこと。

【レポート作成上の注意点】

参考文献を使用した場合は、レポートの末尾にその文献のデータを記載すること。ただし、参考文献のリストはレポートの文字数（3000字程度）には入らないので、注意されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学研究Ⅱ

(L 017-6901、L 7931)〔2単位〕

【講義要綱】

文学研究において、実際の作品をどのように解読するかという作業は避けて通れないものである。この科目では、20世紀のアメリカ文学のいくつかの作品について、原文を注意深く読み、そこに描かれた物語の内容と形式に込められた意味をどのようにして理解すべきかという作業を行うことにより、アメリカ文学の読み方に関する技術を向上させることを目的とする。

【履修上の注意】

英語で書かれた作品の解釈を行うのであるから、英語の必要単位が全て取得済であることは、当科目の履修の条件として当然のことである。まとまった量の英語の読解に自信のない者には履修を勧めない。

【参考文献】

高田賢一・森岡裕一編『シャーウッド・アンダソンの文学』ミネルヴァ書房、1999年
大橋健三郎ほか編『総説アメリカ文学史』研究社、1975年

【レポート作成上の注意点】

文学作品を「論じる」という行為は、構成・技法・形式上の特質、登場人物の性格描写や人物造形、主題、文学史的価値などについて、作中の具体的な証拠（舞台設定や表現など）に基づいて論理的に説明し、自らの解釈を展開することである。作者は何を訴えようとしたのか、そのためにどのような工夫をしているのかを分析すること。これらの点について言及されておらず、あらすじ紹介や感想文に終始しているレポートは、「論じる」という次元に達していないものとして、全て不合格とする。また、作品の理解には、歴史的背景や文学史的知識が有効であることはいままでの間もないが、この科目は、それらの知識の有無を直接問うことが目的ではない。それらの知識を参考にして、実際の作品の価値をどう解釈するかがあくまで重要なのであるから、歴史的背景や文学史的知識を羅列しただけのレポートも不合格とする。したがって、当科目のレポートを作成するに当たっては、テキストの原文を丹念に読むことはもちろん、作品の書かれた時代背景や作者の文学史的位置、作者が書いた他の作品や他の作家との比較等、幅広い知識を活用して、実際の作品を具体的な証拠からどう意味づけるか論理的に説明できなければならない。作品を一つ読めばレポートが書けるわけではなく、アメリカ文学の流れや個々の作家に関する相当な勉強量が求められていることを認識した上でレポート作成に取りかかること。なお、科目試験の受験に当たっては、このレポート作成に求められるのと同様の勉強をテキストに掲載された他の全ての作品についても行った上で臨むこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

シェイクスピア研究

(L 039-7702、L 7730)〔2単位〕

【講義要綱】

シェイクスピアの劇作品は、16世紀以来、演出を変えてくりかえし上演され、また映画、絵画、オペラなど、異なったメディアでも扱われ続けてきた。そのようにテキストを受け止める文化的文脈が変化しても、変わらずに人気を保ち続けることは、シェイクスピア劇がま

さに古典であることの証である。そうした永続的な魅力を一読者として知り、それを客観的に言語化できるためには、シェイクスピア解釈における様々な批評的立場を知り、それらを自己の解釈の確立に活用するとともに、何よりもテキスト本文の厳密な読みを心がける必要がある。それは、16世紀の英語を語学的に正確に読むということにとどまらず、作品中における特定の概念の意識的な主題化、イメージの連鎖、プロットの展開、登場人物の類型などに関して、分析的にテキストを読むことである。この点をふまえて、本科目の受講生は以下のようなプロセスで学習を進め、レポートの作成へと至って欲しい。

1. 教科書を通読し、エリザベス朝時代の演劇上演の背景やシェイクスピアの劇作品について、バランス良く基礎知識を習得する。シェイクスピアの英語（第7章）については、文法的特徴を現代英語との対比において理解する。
2. 教科書を参考にシェイクスピアの劇作品を複数選び、分析的に精読する。翻訳を活用して読み進めて良いが、定評ある学術的校訂版（The New Cambridge Shakespeare, The Oxford Shakespeare, The Arden Shakespeare などのシリーズが、注が豊富である）を入手し、原文と意識的に対照させながら読むことが望ましい。また、各ジャンル（悲劇、喜劇、歴史劇、ロマンス劇）について、それぞれ一編ずつは読んでみるとよい。
3. シェイクスピア劇を実際にどのように分析するのか、それを知り、自分の解釈を客観的に提示するための参考とするために、近年のシェイクスピア劇の研究書のなかから定評あるものを複数読んでみる（参考書リスト参照）。

【テキストの読み方】

本科目のテキストは、シェイクスピアを批評するために有益な、シェイクスピアに関する伝記的事実、作品の制作状況、エリザベス朝の世界観や上演形態に関する基礎知識を中心に記述している。テキストを通読することで作品を読むための文化的文脈を理解してほしい。その上で、各自の興味に従ってシェイクスピアの劇作品を数点選び、じっくりと読み込んでほしい。

【関連科目】

「近世英文学史」「イギリス文学研究Ⅲ—演劇—」「ACADEMIC WRITING II」

【参考文献】

シェイクスピア研究には大量の研究書が存在しているので、良書のみを選び出して利用する必要がある。以下には日本語で読めるものに限って、(1) 研究ハンドブック的なもの、(2) 近年の定評ある研究書に厳選して列挙した。もちろん以下に示し得なかった研究書のなかにも重要なものは数多いが、このリストの書目を出発点としてさらに自分の興味にあった研究書を探して読み進めて欲しい。

シェイクスピアをはじめ16-17世紀イギリス文学に関する重要な参考文献については、英米文学専攻のウェブサイトでも紹介しているので参照のこと。

(http://www.flet.keio.ac.jp/englit/bibl/bibl_index.html)

- ・高田康成他編『シェイクスピアへの架け橋』（東京大学出版会、1998）
- ・小津次郎編『シェイクスピア作品鑑賞事典』（南雲堂、1997）
- ・高橋康也編『シェイクスピア・ハンドブック』（新書館、2004）
- ・C. L. Barber, *Shakespeare's Festive Comedy* (1959). C. L. バーバー『シェイクスピアの祝祭喜劇』玉泉他訳（白水社、1979）
- ・Stephen Greenblatt, *Renaissance Self-Fashioning: From More to Shakespeare* (Chicago: Univ. of Chicago, 1980). スティーブ・グリーンブラット『ルネサンスの自己成型』高田茂樹訳（みすず書房、1992）
- ・Stephen Greenblatt, *Shakespearean Negotiations* (1988). スティーブ・グリーンブラット『シェイクスピアにおける交渉』酒井正志訳（法政大学出版局、1995）
- ・Juliet Dusinberre, *Shakespeare and the Nature of Women* (1975). ジュリエット・デュシンベリー『シェイクスピアの女性像』森祐希子訳（紀伊國屋書店、1994）
- ・Terry Eagleton, *William Shakespeare* (1986). テリー・イーグルトン『シェイクスピア—言語・欲望・貨幣』大橋洋一訳（平凡社、1992）
- ・Anne Barton, *Shakespeare and the Idea of the Play* (1962). アン・バートン『イリュージョンのカーシェイクスピアと演劇の理念』青山誠子訳（朝日出版社、1981）
- ・Robert Weimann, *Shakespeare and the Popular Tradition in the Theater*, ed. by Robert Schwartz (Baltimore, MD: Johns Hopkins UP, 1978). R・ヴァイマン [著]; R・シュワーツ [編]『シェイクスピアと民衆演劇の伝統』青山誠子・山田耕士訳（みすず書房、1986）
- ・Jan Kott, *Shakespeare Our Contemporary*, trans. by Boleslaw Taborski (1965). ヤン・コット『シェイクスピアはわれらの同時代人』蜂谷昭雄・喜志哲雄訳（白水社、1968）
- ・Jan Kott, *The Bottom Translation: Marlowe and Shakespeare and the Carnival Tradition* (1987). ヤン・コット『シェイクスピア・カーニヴァル』高山宏訳（平凡社、1989）
- ・岩崎宗治『シェイクスピアのイコノロジー』（三省堂書店、1994）
- ・蒲池美鶴『シェイクスピアのアナモルフォーズ』（研究社、1999）
- ・青山誠子『シェイクスピアの女たち』（研究社、1981）
- ・玉泉八州男『女王陛下の興行師たち』（芸立出版、1984）
- ・ノーマン・F・ブレイク『シェイクスピアの言語を考える』森祐希子訳（紀伊國屋書店、1990）

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確な注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料（引用した作品そのものやその他の原典資料）と二次資料（研究書、研究論文など）に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は『塾生ガイド』（または、『教職課程履修案内』）に掲載の「レポート作成上の注意」などを参考に正確に記すこと。また、

「ACADEMIC WRITING II」のテキスト（通信教材）には、注の付け方や書式について、詳しい解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレポートは再提出となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

日米比較文化論（総論）（市販書採用科目）（L 102-0891）〔2単位〕

【指定テキスト】

川澄哲夫『黒船異聞—日本を開国したのは捕鯨船だ』有隣堂、2004年

【講義要綱】

黒船来航以降の19世紀後半の日米関係について考察することを本日米比較文化論は目的とします。この時期はまさに日米関係の泰明期であり、今日に至る日米関係の歴史を考える上でも最重要な時期といえるでしょう。

19世紀の後半、日本は、江戸から明治へと年号を変え、西洋化ないしは欧米化という形で近代化を一気に実現しました。開国後に始まる明治時代は、文明開化、脱亜入欧が喧伝される反面、それに伴う社会不安も大きく、それまで培ってきた自国の伝統に対する認識も大きく揺らがざるをえなかった動乱の時期です。もう一方太平洋の反対側のアメリカでは、南北戦争後の19世紀後半、マーク・トウェインが「金ぴか時代 (the Gilded Age)」と呼んだ時代を迎えました。それはアメリカが、やがてはイギリスを制して世界の覇権となる基礎を、急速な国際化、技術革新に支えられた工業化の実現により築いた時代でした。太平洋を挟んだ両国はともに急速な社会変化、国際化を迫られつつあり、かつまた、そのために明のみならず暗の部分を抱えることになったのです。そうした歴史的背景のなかで、アメリカにとって日本、とくに「オールド・ジャパン」とはどのような存在と化したのか。伝統と変革、消えつつある開国以前の古い日本と現れつつある開国後の新しい日本を、アメリカはどのように理解し、想像したのか。また日本はアメリカの日本観をどのように受容し（再）想像・創造したのか。そうした疑問に対する答えを、教科書テキストと参考文献を参照しながら、多角的かつ具体的に考察してください。

【テキストの読み方】

基本的な事実の確認を第一としてください。テキストから学んだことと、自分がそれをもとに考えたことをきちんと分けるようにつとめましょう。また教科書や参考文献で頻繁に言及されている、日米を往来した人物たちに注目し、そうした人物たちの著した原作にも触れる努力を心がけてください。

【履修上の注意】

一方的にならず、相互的な見方を心がけ、政治、経済、文化、文学等へ幅広い関心を持ち

ましょう。

【関連科目・分野】

米文学、地域研究、国際関係学

【レポート課題・科目試験出題用指定参考書】

Christopher Benfey, *The Great Wave: Gilded Age Misfits, Japanese Eccentrics, and the Opening of Old Japan* (New York: Random House, 2004) [邦訳、『グレート・ウェイブー 日本とアメリカの求めたもの』 大橋悦子訳、小学館、2007年]

※この参考文献からも、レポート課題と科目試験が出題されます。

【レポート作成上の注意点】

本科目のレポートは、科目試験と同形式で出題されています。テキストを十分学習した上で、テキストから学んだ事実や表現と、自分がそれをもとに考えた論考を、読み手にわかりやすいようにきちんと分けて書くことが大切です。上記のテキスト以外にも、同時代の日米関係を論じたものは多々あります。そうした他の参考文献を参照した場合には、レポートの最後に必ず主要参考文献表をつけ、明記することを忘れないでください。技術的にはできるだけ箇条書きをさげ、筋道をたてた議論を展開させることが必要です。細切れや参考文献の丸写しは論文とはいえません。できるかぎりワープロを使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代ドイツ小説

(L 054-8302)〔2単位〕

【講義要綱】

教科書『近代ドイツ小説』では主に小説ジャンルに特化して、ドイツ文学史を語っています。受講生諸君はまずこの本を熟読することから始めてください。そして文学史の大体の流れが掴めたら、今度はそこに述べられていた小説のなかで気に入ったものを実際に読んでみてください。それが第一歩です。この講義が刺激となってドイツ文学の世界に受講生の諸君が参入してくれることが第一です。そしてそれをきっかけとしてドイツ文化などについても考えてください。小説を読んで自らを反省し、あるいはドイツ人やドイツ文化についての知識を自分で広げていく、これが次の一歩です。そして最後には、自分の意見を表現してみましょう。

【テキストの読み方】

上記の教科書であれ、参考文献にあげられたものであれ、まず1冊の文学史を選択して、それを数度にわたって読んでください。それが基礎的知識を形成します。そしてそのあとで

は、参考文献の巻末についているはずの文献を渉猟して、徐々に知識を増加させてください。

【履修上の注意】

特にありませんが、ネットの文字情報等をそのままコピーして使用した場合、カンニング行為と見なされることがありますので、十分にご注意ください。

【関連科目】

文学はすべてに関連していますが、特に、哲学、美術史学、音楽などにも関心をもってください。余力があれば、さらに社会学、歴史学、科学史などにも進んでください。

【参考文献】

インターネットを活用できる方は、CiNiiなどの論文検索サイトを使ってみてください。ドイツ語のできる方であれば、積極的にドイツのネットで必要な情報を探すのもひとつの方法でしょう。ハインツ・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』（同学社、2002年）、藤本ほか著『ドイツ文学史（第2版）』（東京大学出版会、1995年）、佐藤晃一『ドイツ文学史』（明治書院、2002年）、岡田ほか著『ドイツ文学案内（増補新版）』（朝日出版社、2000年）、阿部謹也『物語 ドイツの歴史』（中公新書、1998年）。

【レポート作成上の注意点】

自分の考えと、参考文献に書かれていることとの間の「距離」を十分にとって、立体的に論熟してください。そのためには、文献を批判的に、つまり「他の考え方もあるのではないか」と考えながら読み込んでください。参考文献からの引用にはかならず出典を（通常は注として）明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代ドイツ演劇

(L 023-7303)〔2単位〕

【講義要綱】

ドイツ演劇は18世紀の啓蒙主義の時代から著しく発展し始め、古代ギリシア悲劇やシェイクスピア演劇などの伝統を継承したり復活させたりしつつ、新たな様式やジャンルを開拓し確立していった。その後19世紀後半の自然主義演劇まで続くこの発展は近代演劇の歴史そのものといえる。20世紀に入りいわゆる現代演劇の時代になると、劇作家たちは近代演劇のありようを刷新したり、見直したりすることでアクチュアルな戯曲を創造し続け、今日に至っている。また、ドイツ演劇はドイツだけでなく、オーストリアやスイスの演劇も含み、この双方の国々からも重要な劇作家が輩出され、独自の演劇ジャンルや歴史が確立している。

【テキストの読み方】

テキスト全体を通読した上で、18世紀のドイツ語圏の演劇に関する記述を再度読み、同世紀の特徴を読み取ってみることを勧めます。

【履修上の注意】

テキストを通読した上で、関心のある戯曲を実際に読んでみるといいでしょう。また、ドイツ演劇は社会の近代化とともに著しく発展し、近代化のプロセスで生じた社会的問題を批判的に描くことで歴史的展開を経てきました。したがって近代ドイツ演劇の足跡をたどる際に、時代の社会的状況とその変遷もたどることが望ましいでしょう。

【参考文献】

平田栄一郎『ドラマトゥルク——舞台芸術を進化／深化させる者』（第1・2章）三元社、2010年

【レポート作成上の注意点】

19世紀の（ドイツ）演劇の特色はテキスト「近代ドイツ演劇」に紹介されているので、まず該当箇所を熟読玩味してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス文学概説**(L 106-1001) [3単位]****【講義要綱】**

2010年度新設のこの科目は、フランス文学研究に役立つさまざまなテーマ系の発展の過程をたどりながら、作品解釈を進めるための方法論を学ぶことを目的としています。また、フランス語学史、作品伝播の手段の歴史、文学教育の歴史、（フランス本国ではなく）フランス語圏の文学についても多くの紙面を割いて紹介している点において、この科目で使用する教科書は、市販のフランス文学史の教科書とは一線を画しています。したがって、フランス文学にかんする卒業論文を執筆したいと考えているかたがたのみならず、さまざまな文学アプローチの可能性に関心を持たれているかたがたにとっても示唆に富んだものであると言えるでしょう。

【テキストの読み方】

まず目次に目を通し、興味を持った章を通読することからはじめてください。その中で特に関心をもった作品、作家にかんする項目について、他の章ではどのように扱われているか、さらに調べてみるようにしてみてください。その際、巻末のインデックスを活用してください。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識があることが望まれます。また、以下に挙げる関連科目と併せて履修すると、より理解が深まると思われます。

【関連科目】

「十九世紀のフランス文学Ⅰ」、「十九世紀のフランス文学Ⅱ」、「二十世紀のフランス文学」、「文学」

【参考文献】

教科書に紹介されている作品のうち、興味を持ったものについては、ぜひとも自分で一読されることをお勧めします。また、各章末に挙げた参考文献を参照することによって、いっそう確実に知識を固めることができるでしょう。

【レポート作成上の注意点】

まず、教科書と分析対象として選んだ文学作品を熟読することからはじめてください。そして、テーマが絞りきれた時点で、関連する参考文献を探してみてください。

教科書や参考文献をただひきうつしたり、その内容をまとめたりしただけのレポートは評価の対象とはなりません。分析対象とする作品からは必ず引用をして、教科書の解説を参考にしながら、自分なりの分析をほどこすようにしてください。参考文献は、自分の見解を支えるために活用すべきではありますが、大部分が引用で成り立つものは受け付けられません。自分の分析が主となっているようなレポートを作成するよう、心がけてください。

また、文学作品や参考文献からの引用については、必ず脚注、あるいは文末注に、著者、タイトル、出版社、出版年、ページなどの情報を明記してください。レポートの末尾にかならず総字数を明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

十九世紀のフランス文学Ⅰ (L 077-9601)〔3単位〕

【講義要綱】

19世紀フランス文学の文学史的概観に基づいて、個々の作品をそれ以前あるいは以後の作家の作品と関連させながら丹念に読み解いていくことを目標とします。

【テキストの読み方】

教科書の第一部「概観」では、文学作品が生み出された歴史的背景や各時代特有の問題点が整理されています。レポートに取り組む前に、かならず目を通しておいてください。第二部「作家の顔」は個々の作家を研究する場合に、その生涯や作品の概略を知る上で参考にな

ります。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識を有することが望ましい。

【関連科目】

「十九世紀のフランス文学Ⅱ」、「フランス文学概説」

【参考文献】

ユゴー 『エルナニ』（稲垣直樹訳）岩波文庫、2009年

アロイジウス・ベルトラン 『夜のガスパール』（及川茂 訳）岩波文庫、1991年

【レポート作成上の注意点】

- 1) 対象とする作品を精読して、全体像を把握する。
- 2) レポートの課題にしたがって、作品の個々のテーマについて考察する。
- 3) 参考文献を参照し、論点を絞り込む。
- 4) 導入から結論に至る文章のアウトラインを考える。
- 5) 作品の引用を効果的に織り込みながら、自分の考えを展開する。
- 6) 引用文には出典と引用頁数を必ず明記する。

【成績評価方法】

科目試験による。

十九世紀のフランス文学Ⅱ (L 078-9801)〔3単位〕

【講義要綱】

19世紀フランス文学の文学史的概観に基づいて、個々の作品をそれ以前あるいは以後の作家の作品と関連させながら丹念に読み解いていくことを目標とします。

【テキストの読み方】

教科書の第一部「概観」では、文学作品が生み出された歴史的背景や各時代特有の問題点が整理されています。レポートに取り組む前に、かならず目を通しておいてください。第二部「作家の顔」は個々の作家を研究する場合に、その生涯や作品の概略を知る上で参考になります。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識を有することが望ましい。

【関連科目】

「十九世紀のフランス文学Ⅰ」、「フランス文学概説」

【参考文献】

ギー・ド・モーパッサン『脂肪のかたまり』（高山鉄男訳）岩波文庫、2004年

【レポート作成上の注意点】

- 1) 対象とする作品を精読して、全体像を把握する。
- 2) レポートの課題にしたがって、作品の個々のテーマについて考察する。
- 3) 参考文献を参照し、論点を絞り込む。
- 4) 導入から結論に至る文章のアウトラインを考える。
- 5) 作品の引用を効果的に織り込みながら、自分の考えを展開する。
- 6) 引用文には出典と引用頁数を必ず明記する。

【成績評価方法】

科目試験による。

二十世紀のフランス文学

(L 055-8301、L 8337)〔3単位〕

【講義要綱】

20世紀においてフランスの作家、批評家たちの多くは、さまざまな政治的、社会的問題に直面し、書くことの意義についての反省を余儀なくされていたといえるでしょう。彼らが紙面上の文字を媒体とした創造行為に、いかなる可能性あるいは限界を見ていたのか、何が彼らを書くことへと向かわせていたのかなど、今日でも切実さを失ってはいない問題に、作品を精読しながら勇気を持って取り組んでください。作者の思想や登場人物の心情に安易に共感するのではなく、社会、世界、人間に対するどのような要請が作品の独自性を成り立たせているのかを、論理的に考察しましょう。

【履修上の注意】

フランス文学の専門科目ですから、少なくとも初級程度のフランス語を習得していることが望まれます。

【参考文献】

饗庭孝男・朝比奈誼・加藤民男編『新版フランス文学史』白水社、1992年

福井芳男・阿部良雄ほか編『フランス文学講座』全6巻、大修館書店、1976-1979年

【レポート作成上の注意点】

選んだ作品を幾度も読み返し、中心となるテーマを把握することが大切です。その後で、テキストや参考文献を使い、作品の書かれた時代背景、その作家の創作活動全体に作品の占める位置などを正確かつ簡潔にまとめることから始めてください。そして本論では、多少大胆でも自分独自の見解を展開していくことが不可欠です。「私と作品の出会い」、「人生を変

えたこの一冊」といった体裁のエッセーや読書感想文は問題外ですし、自分で理解する努力をせず、概説書の内容の引き写しに終始することも厳禁です。また、参考文献からは適宜、対象作品からは必ず引用をして、引用文末尾または脚注で、著者、タイトル、翻訳者名、出版社、出版年、ページなどの出典を明確にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ロシア文学

(L 101-0701)〔2単位〕

【講義要綱】

ロシア文学は19世紀中葉に世界の最高峰にまで登りつめた文学で、その伝統は今でも生きています。トルストイやドストエフスキーやチューホフなど、ぜひ人類の遺産とも言うべきロシア文学に、一度触れてみませんか。

当テキストは、ロシア文学を実際に手にとって味読してもらうための手引書であり、中世から19世紀、20世紀を経て現代に至るまでのロシア文学の彩り豊かな世界へと誘うものです。ゴーゴリやドストエフスキー、ブルガーコフ、パステルナーク、ソルジェニーツィン、ナボコフ、そしてペレーヴィンらの魂を揺さぶるような、あるいは読者の世界観までも変えてしまうようなエネルギーを感じてほしいと思います。また、ロシア文学を今日の視点から読み直し、私たちにも通ずる普遍的でアクチュアルな問題を考察するために、ジェンダーやポスト・コロニアリズムなど小説を読み解く視座を呈示するとともに、小説の普遍的テーマがオペラやバレエ、演劇、映画など他の芸術ジャンルによって表現されたケースについても紹介しています。ロシア文学の作品世界を多様な芸術言語で横断的に楽しむ案内として役立ててください。

なお、レポートの作成の際には、このテキストだけでなく参考書や他の参考文献も併用してください。科目試験では、テキストの中から重要と思われるテーマを選んで出題します。

【テキストの読み方】

1回目は個々の具体的な作品や作家の具体的な人間像を追って、イメージしながら読む。続いて2回目は、ロシアの時代の流れを通して、文学の主義や思想などを読み込む。そして3回目は、その他の細かい部分にも注意して読む。都合3回読むことで、テキストの内容が頭に入ってくると思います。

【参考文献】

藤沼貴・水野忠夫・井桁貞義編著『はじめて学ぶロシア文学史』ミネルヴァ書房、2003年
藤沼貴・小野理子・安岡治子『新版 ロシア文学案内』岩波文庫別冊、2000年
川端香男里『ロシア文学史』東京大学出版会、1996年

【レポート作成上の注意点】

ロシア文学全体の流れをつかんだ上で、対象作品を精読して下さい。論述に際しては、課題で何が求められているのかを把握した上で、レポート全体の構成を考えてから執筆に取り組むようにして下さい。引用・援用部分には必ず註を付けて典拠を明示して下さい。対象作品は何を用いたか、明記して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

ラテン文学

(L 056-8402、L 8452)〔1単位〕

【講義要綱】

古典ラテン語で書かれた文学（古代ローマ文学）の主要な作家及びその作品について、基本的な知識を学ぶと共に、翻訳を通じてその実例に触れることを目的とする。

【履修上の注意】

特にありません。

【レポート作成上の注意点】

作品の翻訳を読み、それに対する自分の考え、感じ方を述べるようにこころがけて下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済原論 (E)

(E 012-6808)〔4単位〕

【講義要綱】

ミクロ経済学およびマクロ経済学からなる経済学の基礎理論を学習する科目である。

マクロ経済学が国民総生産・失業率・物価水準といった経済全体の集計量を考察するのに対し、ミクロ経済学は個々の経済主体の経済活動を分析対象とするという差異はあるが、ミクロ・マクロ経済理論は現実経済に対する一貫したものの見方を提供している。この科目は他の多くの経済学の分野に応用されるような、経済学の基礎理論を学ぶことを目的とする。

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにして下さい。

【履修上の注意】

ある程度の数学的知識と論理的思考力を前提とします。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門（第2版）』有斐閣、2003年

塩澤修平『基礎コース・経済学（第2版）』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

記述のうえで、それが仮定あるいは前提であるのか、論理的展開であるのか、論理的帰結であるのか、といった区別を明確にして下さい。

この科目は、前半・後半に分かれていて、それぞれにレポートを提出しなければならない。

前半は第1章から第14章まで、後半は第15章から終りまでとする。レポートはそれぞれ4,000字以内とする。

科目試験の受験については、『塾生ガイド』（または『教職課程履修案内』）を参照のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済政策学 (E)

(E 059-0801)〔2単位〕

【講義要綱】

私たちの経済は国民の経済活動の上に成り立っており、そこでは市場が重要な役割を担っていますが、インフレ・デフレ、失業、資源利用上の非効率、所得分配の不公正、環境・資源制約等さまざまな問題を抱えています。そのため、政府は、国民経済をより望ましい状態にすることを目的として、経済システムの欠陥を補い、健全な働きを維持するため、直接・間接を問わず市場に介入し、国民に対して働きかけます。

また、政府は、国民的な目標を掲げ、それを達成するために、計画的に市場に働きかけ、

あるいは市場に代わって政府自ら積極的に一定の経済的役割を果たすこともあります。こうした政府の活動が経済政策です。経済政策学は、経済政策を分析し、理解し、評価し、より望ましい政策を提示してゆくことを目的とした経済学の一分野です。

そのために、経済政策学では、まず、現実の経済政策を理解するために必要なさまざまな基本概念と経済理論を示すことから出発します。その上で、ミクロ経済、マクロ経済等の諸分野ごとに今日見られる典型的な政策問題とその解決を論じます。さらに、現代においてわれわれが直面する政策課題に対する構造的な理解と解決の方向を探ります。

【履修上の注意】

履修にあたっては、マクロ経済学、ミクロ経済学等基礎的科目に関する知識をもっていることが望ましい。

【参考文献】

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣、2011年（第4版）

岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、2006年

【レポート作成上の注意点】

教科書のみにも頼ることなく、各自の学習程度に応じて巻末の参考文献を調べたり、経済関係の新聞や雑誌に掲載された論文を読んで進んだ知識を積極的に取り入れるよう努力することが望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済史

(E 044-9701) [4単位]

【講義要綱】

本講義は、人間の経済的社会的営みを研究対象とする学問である。本講義のねらいについては、テキスト（岡田泰男『経済史』）の第1章を精読すること。

【テキストの読み方】

テキストは第2章（古代の文明と帝国）において古代社会を通観した上で、第3章（中世の社会と経済）、第4章（市場の形成と拡大）および第5章（近代への道程）において中世から近代に至るヨーロッパ経済の発展をとりあげ、第6章（工業化の開始）、第7章（工業化の波及）および第8章（国際経済の展開）において、工業化がヨーロッパから世界各地に波及することによって展開していく国際経済のあり方を扱い、第9章（現代の経済）の叙述に至っている。

【履修上の注意】

特にならない。学習の方法としては、まずテキストを通読することがあげられる。より深い学習のためには、テキスト巻末（327～329頁）の「参考文献」の中から、1～2冊選択し、それを、自らの興味・関心に応じて活用するとよい。経済史学上の概念・用語でよく分からないものについては、『経済辞典』（有斐閣）や歴史学の事典などで調べながら理解を深めてほしい。

【関連科目】

西洋経済史（中世）、西洋経済史（近世）、日本経済史

【参考文献】

参考書は、テキストの末尾に掲げた参考文献の中から選ぶこと。自分勝手に、手もとにある本を参考にして書いてはいけない。

【レポート作成上の注意点】

- ①テキストのみを参照した場合には評価の対象としない。必ず、テキスト末尾の「学習の手引き」の中から参考書を少なくとも1冊選び、よく読んでからレポートを書くこと。
- ②注記の方法などについてはレポート・論文の作成マニュアルなどを必ず参照すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

財政論（E）

（E 022-7602、E 7614）〔2単位〕

【講義要綱】

この講義の目標は、財政の理論、制度、歴史、政策を理解し、現代日本における財政問題について考えることができるようにすることである。その際、財政理論は欠かせないが、財政現象は法制度に立脚しているため制度論ぬきに語ることはできず、また、歴史的研究を軽視して財政学は成立しえない。そのため、理論のみならず制度、歴史、政策までを含めて学んでほしい。本講義は、日本における予算、政府支出、租税、公債などを対象とするが、それぞれの領域で近年関心が高まっている現実的な問題についても関心をもって学んでほしい。

【参考文献】

- 片桐正俊編著『財政学—転換期の日本財政（第2版）』東洋経済、2007年
金澤史男編『財政学』有斐閣、2005年
佐藤進・関口浩『財政学入門（改訂版）』同文館、1999年
神野直彦『財政学（改訂版）』有斐閣など、2007年

【レポート作成上の注意点】

政府の財政活動が経済や社会全体にどのような影響を与えるかを考えるうえで、基礎的用語や理論についての知識が不可欠であると同時に、現実の経済問題や社会問題について強い関心を持っていること。

【成績評価方法】

科目試験による。

金融論 (E)

(市販書採用科目) (E 045-9992) [2単位]

【テキスト】

吉野直行・高月昭年編『入門・金融 [改訂2版]』有斐閣、2003年

【講義要綱】

金融論には、マネタリー・エコノミクスとフィナンシャル・エコノミクスがあるが、この講義では、マネタリー・エコノミクスを主に講義する。すなわち、(1) 日本の資金の流れはどのようになっているのか、(2) 資金の過不足は、経済部門ごとに、どのように変化しているのか、(3) 家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動について、経済部門別に考察する。(4) 金融活動を営む、銀行、協同組織金融機関（信用金庫、信用組合、農協など）、保険会社、証券会社、ノンバンクの役割を勉強する。(5) 郵便貯金は大きな変化が見られるが、郵便貯金・財政投融资制度について解説する。(6) 金融政策は、近年、ゼロ金利政策が採用されているが、金融政策がどのように実態経済に影響を及ぼすのか説明する。(7) 金融のミクロ理論、さらに、(8) サブプライムローン危機の原因となった貸出債権の証券化の問題も説明したい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営学 (E)

(E 041-9401、E 9404) [3単位]

【講義要綱】

経営学のコア領域である経営戦略論の分野を主な対象としています。企業が競争優位性を獲得するメカニズムの理解を期待しています。

【参考文献】

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年

浅羽茂・須藤美和『企業戦略を考える：いかにロジックを組み立て、成長するか』日本経

済新聞出版社、2007年

【レポート作成上の注意点】

設問の意図を正確に理解し、レポートの構成を考えてください。また、レポート作成時には、個別企業のケースや産業盛衰に関するケースを多く見つけ、具体的事例の紹介とともに理論や理論的概念を用いた議論を展開してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済変動論

(E 042-9501)〔2単位〕

【講義要綱】

現実の経済は常に循環・成長しており、様々な経済変動にさらされている。この科目の目的は、こうした経済の変動のようすを理論的に探究し、変動の原因・理由を解明することにある。したがって分析対象は、必然的に経済の動的な側面となる。たとえば国民所得や雇用（失業）の循環的変動や成長は、本科目の主要な関心事である。経済変動論は、景気循環理論と経済成長理論の2つの部分からなる。

【テキストの読み方】

モデル分析の理解も重要だが、参考文献を参照しながら、論理的な筋道（ストーリー）をより深く理解するように読んでほしい。

【履修上の注意】

予備知識として「経済原論」の内容が必要となる。「経済原論」を履修、できれば単位を取得していることが望ましい。

【参考文献】

グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳『マンキュー マクロ経済学Ⅱ 応用編（第2版）』東洋経済新報社、2004年

ロバート・ソロー、福岡正夫訳『成長理論（第2版）』岩波書店、2000年

チャールズ・ジョーンズ、香西泰訳『経済成長理論入門』日本経済新聞社、1999年

【レポート作成上の注意点】

論理的な筋道をよく考えながら作成してほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

米国に次ぐ世界第2位の経済大国であった日本の国際的地位が低下し始めています。

日本のGDP（国内総生産）は、すでに中国に抜かれ、長期的には、BRICs 諸国の台頭により、2050年になると、中国、アメリカ、インドに次ぐ第4位へと後退し、第5位のブラジル、第6位のロシアに追い上げられていると試算されています。

2008年のノーベル経済学賞受賞者・ポール・クルーグマン氏（Paul Robin Krugman, 1953～）もまた「将来の世界経済は、米国と欧州連合、中国、インドの四大勢力など大国間の駆け引きで動くことになり、日本は、二番手集団の先頭といったところだ」と述べています。

本講義では、一国の経済を分析するための基礎理論、すなわち「国民所得論」について、その考え方を分かりやすく、しかも詳しく解説します。国民経済計算、短期の国民所得の決定の理論、中期・長期の国民所得の変動に関する理論、財政・金融政策の有効性・無効性などが主な項目です。

【テキストの読み方】

経済学は積み重ねの上に成り立っていますので、用語を正確に把握して読み進めて下さい。特に数式については、その意味を十分に理解することが必要です。わからなくなったら前に戻って用語や数式を再確認するよう心がけて下さい。

数学に不安がある場合には、藤田康範『経済・金融のための数学』（シグマベイスキャピタル）をまずご一読下さい。

【履修上の注意】

J.M.ケインズが述べているように、経済学を学ぶ際には、出来合いの特効薬についての知識を詰め込むより、その発想や考え方を学ぶ方がはるかに大切です。

マクロ経済理論的な発想や考え方を学び、それに基づいて現実の経済を観察し、新たな認識の構造を築いていただけたらと希望しています。

【関連科目】

「経済原論」を履修済みであることが望まれます。

【参考文献】

マンキュー、N.G. 著・足立英之ほか訳『マンキューマクロ経済学Ⅰ入門篇（第3版）』東洋経済新報、2011年

マンキュー、N.G. 著・足立英之ほか訳『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第2版）』東洋経済新報社、2005年

藤田康範『経済・金融のための数学』シグマベイスキャピタル、2003年

【レポート作成上の注意点】

課題が求めていることを十分に読み取ってから着手し、全体の構成をよく考えて、結論に至る論理の道筋を整理してまとめて下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・計量経済学

(市販書採用科目) (E 069-1191) [2単位]

【テキスト】

秋山裕『Rによる計量経済学』オーム社、2009年

【講義要綱】

現代の経済分析では、計量的手法は欠かせない存在になっています。「計量経済学」は、経済理論を用いて実際の経済を統計学的に研究する学問です。非常に応用範囲が広く、学ぶべき項目も数多くあります。そのため、計量経済学を効率的に学ぶにはきちんとした段階を踏む必要があります。最初に(1)分析方法の基礎、(2)経済分析において生じやすい分析上の問題とその解決方法を学んだ上で、(3)各自の持つ研究課題への応用という実践の段階に進むことが可能となります。

この科目では、計量経済学の基礎である上記(1)、(2)について、最近、利用が広まっている計量ソフトである「R」を用いながら学びます。この科目で学んだことを卒業論文などで現実の問題を研究するにあたって活用することにより、実践での力もついていくでしょう。

【テキストの読み方】

第1、2章では、計量経済学の考え方、実証分析の進め方について、第3、4章では、統計学で学んだ単純回帰の復習をしながらの「R」の基本操作について学びます。そして、第5章以降では、「R」の機能を活用しながら計量経済学の基本を学んでいきます。

各章に例題があり、「R」による分析のしかたが説明されていますので、「R」を用いて結果を再現しながら読み進めていくとよいでしょう。また、章末問題は、実際の分析例を検討しながら各章で学んだことの復習を行えるようになっています。科目試験ではこのようなタイプの問題が出題され、計量経済学に関する理解が問われます。

実際に「R」を操作して計算することが理解への早道であるだけでなく、皆さんが卒業論文などで実証的分析を行う際に役に立つでしょう。

【履修上の注意】

「経済原論」および「統計学」を事前に学習しておいてください。これは、「計量経済学」が、経済理論を用いて実際の経済を統計学的に研究する学問であるためです。また、数学については微分の知識が必要となりますが、そのレベルは「経済原論」で用いる程度をきちんと理

解していれば問題はありません。

【関連科目】

「経済原論 (E)」および「統計学 (A)」の学習を終えていること。

【参考文献】

小暮厚之『Rによる統計データ分析入門』朝倉書店、2009年
福地純一郎・伊藤有希『Rによる計量経済分析』朝倉書店、2011年
蓑谷千鳳彦『計量経済学 (第2版)』多賀出版、2003年

【レポート作成上の注意点】

計量経済学は計算結果を求め、図表も書く科目ですので、特に分量に制約を設けません。添字、分数などの数式の表記が正確に出来る者のみワープロで提出することができます。これらの表記が不明瞭であった場合は採点の対象とはなりません。

また、計量経済学のレポートではテキストで取り上げられるデータ分析の実践に重点が置かれるため、論述形式のレポートのような参考文献の使用は必要ありません。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・日本経済史

(E 070-1291)〔2単位〕

【テキスト】

杉山伸也『日本経済史 近代—現代』岩波書店、2012年

【講義要綱】

日本経済史は、日本経済の変化を歴史的に分析・解明する学問であるが、地域的にも時代的にも多様な地域や社会の多様な経済現象を一般化して議論することは容易ではない。また研究者の問題意識やアプローチも、現実社会の変化や実証研究の進展によってかわってくる。経済史を学習するためには、経済史の研究文献だけでなく、隣接する政治史・思想史・社会史などの文献を広く読んで、歴史をみる眼を養うことが大切である。

テキストは、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から戦後まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観したものである。受講生は、テキストの学習を中心としながらも、参考文献も参照しながら効果的な学習をすすめてもらいたい。

【履修上の注意】

本科目では原則としてテキストにもとづいて試験問題を出題しているが、レポートなどではテキスト以外の参考文献も活用して、受講生が最近の研究成果を把握できるように指導している。テキストはもちろんのこと、参考文献についても多くを読みこなしたうえで、科目

試験やレポート作成にのぞんでほしい。

【参考文献】

梅村又次他編『日本経済史』（全8巻）岩波書店、1989～90年

三和良一、原朗編『近現代日本経済史要覧』（補訂版）東京大学出版会、2010年

【レポート作成上の注意点】

- ①参考書を利用していないレポートが多く見られますので、参考文献・引用文献（ページも明記）を明記してください。
- ②レポートの課題の意味をよく考え、テキストや参考書をよく読み直したあとで、課題に対応したレポートを執筆してください。
- ③レポート用紙の使い方を間違えず、縦書きと横書きを混乱しないようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋経済史（中世）

（E 029-7802、E 7845）〔2単位〕

【講義要綱】

本科目は、世界史の構造的理解という壮大なパースペクティブにもとづいて西洋の中世経済を把握することを意図している。したがって、中世の西洋経済史の概説という枠を超えて、テキストの著者（寺尾誠本塾大学名誉教授）による世界史の構造的理解についての一定の理解の上に立って、西洋の中世経済を世界史の脈略の中でとらえるという問題意識を共有することが求められる。もちろん、テキスト末尾の「学習の手引」に述べられているように、参考文献目録に挙げられた参考書を併読し、自らの歴史理解を深めることが本科目の履修の最終目的であることは言うまでもない。

【履修上の注意】

事前に履修すべき科目は特にない。履修にあたり、最低限の知識として必要なのは高校段階の「世界史」および「日本史」で取り上げられている事実である。また、テキスト末尾の「学習の手引」の〈参考文献解説〉は必ず熟読していただきたい。

【参考文献】

J. クーリッシュェル『ヨーロッパ中世経済史』東洋経済新報社（絶版）

D. C. ノース、R. P. トマス『西欧世界の勃興：新しい経済史の試み』ミネルヴァ書房

【レポート作成上の注意点】

古代から近代に至る長期的な歴史の流れを意識しながら、その中に中世的発展の諸類型を位置づけることが肝要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋経済史（近世）

（E 039-9201、E 9217）〔2単位〕

【講義要綱】

本科目は、世界史の構造的理解という壮大なパースペクティブにもとづいて西ヨーロッパにおける経済、社会、文化の近代化の過程を把握することを意図している。したがって、近世の西洋経済史の概説という枠を超えて、テキストの著者（本塾大学名誉教授 寺尾誠氏）による世界史の構造的理解についての一定の理解の上に立って、西ヨーロッパにおける経済、社会、文化の近代化の過程をとらえるという問題意識を共有することが求められる。

【テキストの読み方】

テキストを精読する場合には、テキスト末尾の「学習の手引」に述べられているように、参考文献目録にあげられた参考書を併読し、自らの史実理解の方法を発見することが本科目の履修の最終目的であることを踏まえていただきたい。

【履修上の注意】

事前に履修すべき科目は特にない。履修にあたり、最低限の知識として必要なのは高校段階の「世界史」および「日本史」で取り上げられている史実である。また、テキスト末尾の「学習の手引」は必ず熟読していただきたい。

【関連科目】

経済史、西洋経済史（中世）、日本経済史

【参考文献】

「学習の手引」の参考文献の中から参考書を選ぶこと。自分勝手に、手元にある本を参考にして書いてはいけない。

【レポート作成上の注意点】

- ①テキストのみを参照した場合には評価の対象としない。必ず、テキスト末尾の「学習の手引」の中から参考書を少なくとも1冊選び、よく読んでからレポートを書くこと。
- ②注記の方法などについてはレポート・論文の作成マニュアルなどを必ず参照すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

「近代」が西欧社会に生まれ、「近代」に対する批判もまた西欧社会において展開されたものである以上、われわれの「社会思想史」の題材も近代西欧の思想家たちにもとめなければならない。マキャヴェリ、ルター、カルヴァン、ホッブス、ルソー、ケネー、スミス、マルクス、ウェーバー。こうした巨人たちの思考の軌跡を手掛かりに、近代社会をささえる思想構造を理解し、近代社会の歴史的变化に対応する社会思想の構造変化を知ること、ここに本科目のねらいがある。近代社会思想の構造的理解は、すなわち、現代を生きる自分自身の社会思想を構築する第一歩にはかならないからである。

【テキストの読み方】

テキストの論理展開を正確に読み取ると同時に、思想家が生きた諸時代の歴史的变化を深く理解すること。当該分野の概説書、解説書は多数あるが、それらを参考に学習を進めるのはもちろんのこと、テキストが対象とする思想家自身の著作に少しでも眼を通すように努めることが大事である。概説書と古典とがいかにか次元の異なる感銘を与えるかを実感することが大切。

【履修上の注意】

経済学がどのような歴史的背景と社会的基盤の上に生まれ成長してきたかを理解しようとする科目である。したがって、経済理論や経済学史への関心はもちろんのこと、経済学以外の諸分野への高い関心が必要となる。たとえば、近代社会の政治、法律、哲学、歴史などへの関心がそれであり、文学や芸術などへの興味も内容の理解には大いに助けとなる。

【関連科目・分野】

経済学史、経済史

【参考文献】

- 水田洋『新稿 社会思想小史』ミネルヴァ書房、2006年
山脇直司『社会思想史を学ぶ』ちくま新書、2009年
平井俊彦編『社会思想史を学ぶ人のために』世界思想社、1994年
城塚登『社会思想史講義』有斐閣、1998年
木崎喜代治ほか『社会思想史』有斐閣、1987年

【レポート作成上の注意点】

社会思想史である以上、思想の定義・概念・論理展開等についての明確性は必要不可欠となる。『塾生ガイド』または『教職課程履修案内』に記載されている、「レポート・論文の書き方」等に関する参考書を再読すること。とくに、引用・出典等の明示は厳守すること、またレポート作成に際して参考にした文献を明示することが重要。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・社会政策（E）

（市販書採用科目）（E 068-1191）〔2単位〕

【テキスト】

駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』創成社、2011年

【講義要綱】

本講義の目的は、急速な少子高齢化の中、社会政策の中で比重を増した社会保障制度の理解と社会経済システムとの整合について検討し、望ましい政策を自ら考えられるようにすることを目的としている。具体的政策としては、社会保障制度の中心領域である年金、医療、福祉以外に、関連領域である人口、家族、財政、労働等についてもカバーしている。

1. 成熟化社会、少子・高齢化社会における社会保障
2. 社会保障制度の機能と歴史
3. 社会保険（年金・医療・介護・雇用・労災保険）
4. 児童・高齢者・障害者のための福祉政策
5. 生活保護
6. 雇用政策（最低賃金制度）
7. 制度改革の方向性

【テキストの読み方】

まず第1～3章で、現行の社会保障制度を取り巻く変化を理解したうえで、第4章で社会保障制度の機能、第5章で社会保障の歴史を学んでください。第7章以降は各論ですので、各々関心をもった制度について掘り下げて、学んでください。第19章は、社会保障制度の枠組みの中で、どのように効率性を高め、限られた資源でより充実した社会保障を提供できるか、理論的背景とともに学び、社会保障の将来のあるべき姿について考えてください。

【履修上の注意】

経済学的な考え方を中心とした解説となっていますので、経済学の基本的な知識があった方が理解しやすいでしょう。また下記関連科目を併せて履修すれば、一層理解が深まるでしょう。

【関連科目】

「財政論」「人口論」「産業社会学」「労働法」

【参考文献】

小松隆二『現代社会政策論』論創社 1993年

厚生労働省『労働経済白書』、『厚生労働白書』各年版
厚生労働省サイト (<http://www.mhlw.go.jp/>)

【レポート作成上の注意点】

執筆する前にまず『塾生ガイド』（『教職課程履修案内』）の「レポート作成上の注意」をお読みください。引用・参考箇所（指定テキストを含む）はレポートの本文中で明示したうえ、参考文献リストをレポートの末尾に掲載してください。また節ごとに小見出しを付けて、内容的な区切りを明示してください。こうしたレポート作成のガイドラインに沿っていない場合、添削不能として内容にかかわりなく再提出となります。

また政策に関するレポートですので、何らかの政策提言を行ってください。その際には、その政策提言の論拠を最新データに基づき明確に示してください。データはテキスト掲載以外のデータも使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

国際貿易論

（市販書採用科目）（E 063-0991）〔4単位〕

【テキスト】

木村福成『国際経済学入門』日本評論社、2000年

【講義要綱】

国際貿易論は、貿易パターンの決定メカニズムを分析する国際分業論と政策効果や社会的厚生の変化を分析する貿易政策論という2つの部分から成る。本講義ではその両者を学ぶ。それらを踏まえ、企業活動のグローバル化が進み、国際取引チャンネルの多様化が進行する国際経済の実態を理解するための経済学的・政治経済学的アプローチを考察し、さらに世界貿易機関（WTO）や自由貿易協定（FTA）等を通じた国際政策規律の意味するところを検討する。

【履修上の注意】

「経済原論」を履修済みであること。

【参考文献】

馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成編著『日本通商政策論：自由貿易体制と日本の通商課題』文真堂、2011年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にかかる前に、題意をよく理解し、参考書を丁寧に読みこなしてもらいたい。執筆にあたっては、論旨が明確に伝わるように全体の構想を立て、その中でひとつひとつの

文章、段落を練り上げていくことが望ましい。参考書を丸写しにせず、引用する場合は必ず注をつけること。

【成績評価方法】

科目試験による。

産業社会学 (E)

(E 020-7502、E 7553)〔2単位〕

【講義要綱】

現代社会は、産業化と切り離せない。産業社会学は、産業化された現代社会の社会的・人間的側面を明らかにしようというものである。現代人は、企業・官庁・非営利組織など、ほぼ例外なく何らかの組織に帰属して生活している。産業革命と市民革命の関係、大量生産方式と大衆社会の到来、組織とコミュニティの問題、組織と個人の目的、その効率性と人間性、組織による人間疎外とその克服、あるいはリーダーシップやプロフェッショナリズム、余暇と労働の問題など、そのテーマは幅広く、しかも身近である。みずからの仕事と生活をふりかえり、現代を考えるという意味で、生涯学習に最適な課題を含んでいる。本科目の学習を通じて、現代社会について一歩踏み込んで考えてほしい。

【テキストの読み方】

テキストは、書かれている数字や時代背景に古いものがあるが、時代を超えた「古くて新しい問題」を提起している。含蓄ある表現が随所にみられ、示唆に富むものでもある。テキスト全体の底流に流れている大きな主張を読み取ってほしい。

【履修上の注意】

産業化はわれわれのまわりに深く浸透している。産業化が社会や個人におよぼした影響を他人ごとのように批判するのではなく、自分のこととして考えてほしい。他人の文章を借りるのではなく、自分の考えをしっかりと主張することが、履修上の条件である。

【関連科目】

特に指定しないが、経済学、経営学、社会学、心理学などに広がるテーマに関心をもっておいてほしい。

【参考文献】

- テラー 『科学的管理法』 産能大学出版部
- フロム 『自由からの逃走』 創元社
- ホワイト 『組織のなかの人間』 創元社
- バーナード 『経営者の役割』 ダイヤモンド社
- マグレガー 『企業の人間的側面』 産能大学出版部
- ハーズバーグ 『仕事と人間』 東洋経済新報社

井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房など

【レポート作成上の注意点】

レポート課題はテキスト全体を通じて理解したことをたずねている。テキストの一部にある記述に頼るのではなく、全体を通じて学んだことをふまえて論じてほしい。また、今回のテーマは、産業社会に生きる私たちすべてに共通する課題といえる。社会批判や評論家的なレポートではなく、自分の問題として考えてほしい。レポートの分量については4,000字という制限にこだわっているわけではない。簡潔を旨としてほしいが、同時に、しっかりとした内容のものにしてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅰ（E）

（E 061-0901）〔2単位〕

【講義要綱】

地理学Ⅰは、経済地理における急速な変動である「トランスナショナル化」を中心テーマとして取り上げた科目として構成されている。「トランスナショナル化」とは、一般的な「グローバル化」と重なる現象であるが、地球規模、地域経済統合、国、地域、都市、と様々な空間的レベルにおいて、様相を変えながら立ち現われている。この実態については、歴史的な時間軸と地理的な空間軸の両方からとらえることが重要である。

この科目で行う学習としては、毎日、必ず新聞を読み、内外の動きを自分の頭で考える習慣を身につけることを目指して行うことを期待している。

【参考文献】

教科書の各章の章末に掲げられているものを中心に選んでいくようにすること。

【レポート作成上の注意点】

理論的な点についての理解度を示す記述を期待するとともに、その内容を事例についても分析を行うように課題を設定している。このことに期待して作成していただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅱ（地誌学）（E）

（E 066-1001）〔2単位〕

【講義要綱】

地誌学の特徴は、唯単に、どの国やどの地域には何が存在するのかを調べ上げることだけ

ではなく、それらの国々や地域において、これらの事物や事象が、時代とともに変化している有様や、他の国々や地域への影響や、他の国々や地域からの影響を調べ、何故そのような相互作用が起こるのかを考えることにある。

日常的にも、県民性や食文化ということについては話題になり、それぞれの人が、それぞれの考え方をもっているものであるが、今回のレポート作成にあたっては、非常に多数存在している関連する参考文献を利用し、これまで自分が抱いていたイメージを、客観的な事実やデータによって裏付けたり、新しい見方を獲得するように心懸けていただきたい。地誌学の面白さは、具体的事例を徹底的に調べ上げることから生まれる。

【参考文献】

郷土史、旅行ガイドブック、料理本など参考文献は限りなく存在するので、取捨選択が大切である。

【レポート作成上の注意点】

地誌学的知識と、いわゆる「常識」とは、どのように異なるのであろうか。単なる思いつきや固定観念（ステレオタイプなイメージ）だけで、この世界の中で生きて行くのは、つまらないことである。

地誌学の面白さは、様々な知見を、地域や場所という中で「総合化」することにある。レポートの作成にあたっては、複数の異なる視点からの知見を「総合化」するように心懸けていただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

人口論

(市販書採用科目) (E 047-8691) [2単位]

【テキスト】

河野稠果『世界の人口 [第2版]』東京大学出版会、2000年

【講義要綱】

人口学の扱う領域は極めて広範囲である。人口の規模や構造、分布などを扱う形式人口学は一般に「人口」としてイメージされる内容であるが、これらはすべて政治、経済、地理、文化、環境などの他の学問分野と深い関わりを持つ。人口動向を把握する上で統計的指標を観察することが不可欠であるため、まず基礎的な用語の理解、統計データの見方などを学習し、人口構造の動向とその要因の理解をすすめる。さらに隣接分野である経済学の労働供給理論で、結婚、出生などの人口問題へのアプローチを紹介する。

現在、日本の人口動向については誰もが注目するところであろう。人口政策の基本になる考え方を理解し、自分なりの評価を行って欲しいと思う。

1. 世界の人口の動向
2. 日本の人口推移
3. 人口推計の方法
4. 死亡率低下とその要因
5. 出生力低下とその要因
6. 労働供給理論と人口
7. 人口政策

【テキストの読み方】

指定したテキスト河野（2000）の入門編として、河野（2007）を初学者には薦める。双方とも人口学の基礎知識として必要な項目を網羅した良書である。まず全編を通して読み、レポートを作成する上で足りない部分は参考文献を利用する。

【履修上の注意】

履修要件ではないが統計を理解、分析するために、ある程度の数学的センスは必要である。広義の人口研究をすすめる上では、隣接する学問分野の知識を深め、経験を重ね、自分なりの研究テーマを探求する姿勢が必要である。

【関連科目・分野】

ミクロ経済学、統計学

【参考文献】

- 阿藤誠『現代人口学』日本評論社、2002年
阿藤誠・津谷典子編著『人口減少時代の日本社会』原書房、2007年
岡崎陽一『人口統計学 増補改訂版』古今書院、1999年
加藤久和『人口経済学入門』日本評論社、2001年
加藤久和『人口経済学』日経文庫、2007年
河野稠果『人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか』中央公論新社、2007年
山口一男『ワークライフバランス—実証と政策提言』日本経済新聞出版社、2009年

【レポート作成上の注意点】

まず、問題文中にある専門用語の説明を行うこと。参考文献から引用する場合は、内容を十分に理解、咀嚼した上で行う。引用した箇所は文中右肩に番号を振り、文末にまとめて参考文献リストを掲載すること。文献リストの書式は利用した書籍での書き方を参考にするとよい。またデータを利用する際は出来るだけ新しいものを探し、グラフや表を用いて視覚的にわかりやすくするとよい。

参考文献としインターネットのホームページアドレスを掲載するのは最低限とし、印刷された文献がある場合、そちらを優先すること。

【ワープロの使用について】

ワープロの使用は許可する。ワード、エクセルなどでの作表や作図なども可。但し、図表は多用せず、読み手の理解を促すため、明らかに必要と思われるところに使用すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

都市社会学 (E)

(市販書採用科目) (E 053-9991) [2単位]

【テキスト】

藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣、1999年

【講義要綱】

本科目は都市の多様な側面を社会的に理解することを目的とする。テキストに即して、次の順序で議論していく。

序 章 都市社会学の方法と対象

第Ⅰ部 都市の活動と世界

第Ⅱ部 住民活動とコミュニティの形成

第Ⅲ部 生活世界と都市文化の変容

第Ⅳ部 都市の計画と管理

終 章 都市社会学の新しい課題

名著解題

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。マテリアルやコラム、名著解題まで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。

・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年

・園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年

【レポート作成上の注意点】

レポートの分量は、4000字以内にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営管理論

(E 036-8501、E 8582)〔2単位〕

【講義要綱】

企業が長期に維持・発展をとげるためには従来研究されてきた経営管理技法の実践に加え、革新を通じあらたな戦略展開をはかることが重要となってきた。本科目では基本的な経営管理に関する理論を踏まえた上で、組織革新に纏わる管理問題を検討する。

【参考文献】

十川廣國『経営学イノベーション／1 経営学入門』中央経済社、2006年

十川廣國『マネジメント・イノベーション』中央経済社、2009年

【レポート作成上の注意点】

新聞、雑誌などに見られる最近の企業の実例を念頭に置きながら考察すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営分析論

(E 030-7803、E 9183)〔2単位〕

【講義要綱】

- ①企業を評価するにあたり、評価とは何か、評価要因としてどのようなものがあるのか、それぞれの要因をいかにして加工し、総合的な判断を行うのか等の基本的な概念を学習する。
- ②経営分析で用いられる具体的な指標のそれぞれの意味を理解する。
- ③いくつかの指標を組み合わせた総合評価法について学ぶ。

【テキストの読み方】

テキストでは、ある程度の簿記や簡単な財務指標の知識がある事を前提に、それらを用いてどの様に企業を評価していくのかについて詳しく述べられています。そうした予備知識の無い学生は、下に挙げたような科目を同時に履修したり、参考文献等を活用するなどして学習してください。

【履修上の注意】

「会計学」、「簿記論」を併せて受講されることをお勧めします。

【関連科目】

「会計学」、「簿記論」、「経営学」、「経営管理論」、「経営数学」、「統計学」

【参考文献】

通商産業省産業政策局企業行動課編『総合経営力指標（製造業編、小売業編）』大蔵省印

刷局

あずさ監査法人編『有価証券報告書の見方・読み方（第7版）』清文社、2008年

K・G・パレプ他、斎藤静樹監訳『企業分析入門（第2版）』東京大学出版会、2001年

【レポート作成上の注意点】

全ての課題に解答してください。テキスト等を抜書きするのではなく、自分の言葉を使って出来るだけ詳細に論述してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営数学

(E 027-7603、E 7681)〔2単位〕

【講義要綱】

経営計画を策定する際、多くの手法が用いられる。そのほとんどはパソコンのソフトウェアによって自動的に実行される。したがって多くの場合、結果のアウトプットだけが示され途中の考え方、プロセスは示されない。重要なことはアウトプットの数字をどう解釈するかであるが、プロセスを理解していないと間違った判断を下す恐れが大きくなる。「経営数学」では現代企業が利用している数学的・統計的手法を使いこなすため、それら手法のプロセス理解を目的としている。

【テキストの読み方】

皆さんの中には、数学なんて真っ平ごめんだ、という方も多いと思いますが、それは今まで何のために数学を勉強するのか、という目的がはっきりしなかったからではないでしょうか。

経営数学のテキストは現代企業が経営計画を設定する上で欠かせない基礎的な手法を多く扱っています。それらを分かりやすく説明するために、あるパン屋さんを想定し、市場調査をしてニーズを調べたり、それに見合った設備投資をしたり、工場を建設する手順を考えたりしながら、それぞれに必要な手法を勉強していく、という構成になっています。なるほど、この手法はこんな時にこんな具合に使えるのか、ということが分かります。

何事も目的をもった勉強をすると効率もヤル気も飛躍的にアップする、ということを実感していただければ、と思っています。

【参考文献】

菘谷千鳳彦『回帰分析のはなし』東京図書、1985年

有馬哲・石村貞夫『多変量解析のはなし』東京図書、1987年

石村貞夫『分散分析のはなし』東京図書、1992年

【レポート作成上の注意点】

課題はテキスト章末の練習問題ですから、テキスト本文をよく読んでから、問題を解いて下さい。他科目のレポートと異なり、参考文献を読む必要は特にありません。テキストを読んで、概念等が明確に理解できないときのみ、参考文献を使用して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

商業学

(市販書採用科目) (E 052-0191) [2単位]

【テキスト】

田村正紀『流通原理』千倉書房、2001年

【講義要綱】

製造業者によって生産された製品が、消費者によって消費されるまでの間には、所有、空間、時間、情報などに関して懸隔がある。これらのさまざまな懸隔を架橋するのが流通過程であり、それは、(1) 流通される製品、(2) 交換、物流、情報伝達、危険負担といった流通機能、および(3) 製造業者、卸売業者、小売業者などに代表される流通機関によって構成されている。そして、この流通過程は、全体的に見て、1つのシステムとして構造化・制度化されている。これが流通システムであり、それは市場経済が円滑に機能するうえで、きわめて重要な役割を果たしている。

さらに、流通システムの性質や役割は、生産技術や流通技術の進展、消費市場の変化、製造業者や流通業者の革新的なマーケティング活動などによって、動的に変化する。例えば、現在では、情報・通信技術の発展、市場の範囲のさらなる拡大、製品や組織間関係のモジュール化の進展が、流通システムに大きな変化をもたらしている。

本講座は、市場経済において重要な役割を果たしている流通システムの基本的な仕組み、また経済発展に伴う流通システムの変化傾向とその影響要因について理解することを目的としている。

【テキストの読み方】

- ・テキストの各章の最後にある要約を参考に（それに付け加える形で）、各章の内容をまとめたノートを作ること。
- ・ある現象がなぜ生じているのかを理解すべく、その現象の背後にある原理（いくつかの重要な概念とそれらの間の関係）を押さえること。

【参考文献】

矢作敏行『現代流通：理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年

渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【レポート作成上の注意点】

テキストと参考文献それぞれの課題に関連する部分をよく読んだうえで、解答すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

保険学

(E 043-9501)〔3単位〕

【講義要綱】

保険制度は、社会に存在する多種多様なリスクに備えて経済的保障を提供する経済制度として、既に私たちの生活に深く浸透しています。私たちの安定した生活は、多くの人々との関わりの中で、さまざまな保険制度に支えられています。保険学は、保険制度が、現実社会の中でいかなる仕組みや原理に基づいて、社会的あるいは経済的機能を果たしているのかを理解することを目的とします。その対象も、生命保険や損害保険に限らず、公的年金や医療保険などの社会保険の分野をも含んでいます。しかも、諸制度と相互関連を深めていることから、社会制度全体の理解が必要とされます。そして常に、現代社会における保険制度のあり方を意識することで、社会問題の本質を保険学の立場で理解することが最終的な目的となります。

【履修上の注意】

レポートの成績評価基準は、以下のとおりである。①テーマに対する的確に論述されているか、②参考文献を十分に読解したうえで論述されているか、③独自の見解を提示しているか、④規定字数を満たしているか、などの採点基準を設けて、総合的に評価する。

【参考文献】

- 堀田一吉『保険理論と保険政策—原理と機能—』東洋経済新報社、2003年
堀田一吉編著『民間医療保険の戦略と課題』勁草書房、2006年
堀田一吉ほか編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会、2006年
石田重森編『保険学のフロンティア』慶應義塾大学出版会、2008年
庭田範秋監修『新世紀の保険』慶應義塾大学出版会、2002年
真屋尚生『保険の知識（第2版）』日本経済新聞社、2004年
下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険（改訂版）』有斐閣、2007年
近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦編著『保険学』有斐閣、2011年

【レポート作成上の注意点】

○まずは、できるだけ多くの教科書や参考書を一通り読んでから、課題を選択し、レポート作成に取りかかってください。一部分だけを読んで、無理にまとめようとすると、学習効果はほとんどありません。

- 保険をめぐって現実社会で起こっている諸現象についても十分に関心をもってください。
現実社会と照らし合わせることによって、レポート作成の意義が大きく高まります。
- 自分なりのまとめ方を工夫してみてください。参考書にとらわれすぎずに、自分がどのように理解したかが伝わるような記述を心がけてください。
- 引用文献あるいは参考書については、必ず明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

会計学 (E)

(E 062-0901)〔3単位〕

【講義要綱】

会計学、主として財務会計論の基礎を学習する。科目試験の出題範囲はテキストの内容に限るが、レポートの作成についてはより広範な学習にもとづくことを期待する。

【参考文献】

- 友岡賛『会計の時代だ』筑摩書房（ちくま新書）、2006年
- 友岡賛『会計学はこう考える』筑摩書房（ちくま新書）、2009年

【レポート作成上の注意点】

できる限り、自分の言葉をもって述べ、また、参考文献は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

簿記論

(E 021-7602、E 7622)〔2単位〕

【講義要綱】

「簿記論」では、企業の経済活動を秩序正しく組織的に記録・計算・整理し、経営成績ならびに財政状態を明らかにするための記帳技術である複式簿記を学びます。複式簿記は他の会計科目を学ぶ上で不可欠のものであり、また経営分析を行う際、貸借対照表・損益計算書等の財務諸表を読みこなすためにも是非とも必要な知識となります。それゆえ複式簿記の基礎はできるだけ早めに確実に習得して欲しいと思います。

「簿記論」の学習にあたっては、単にテキストを読むだけでなく、必ず自分で練習問題を繰り返し解いてみるのが大切です。また、我が国ではここ数年、会計制度の変革が急速に進められています。必ず最新版の参考書を購入して変更点等を確認しながら学習して下さい。

【科目試験出題用指定参考書】

渡部裕巨・片山 覚・北村敬子編著『新検定 簿記講義 3級商業簿記』中央経済社

【参考文献】

『新検定簿記講義 3級商業簿記』中央経済社・『新検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社
など、日商簿記検定用の商業簿記 3級・2級のテキストおよび問題集。

*必ず「何年版」かを確認の上、最新のものを購入するようにして下さい。

【レポート作成上の注意点】

- ①参考書も利用して必ず全問解答してから提出すること。
- ②解答に赤インクペンは使用しないこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・原価計算

(市販書採用科目) (E 067-1191)〔2単位〕

【テキスト】

園田智昭・横田絵理『原価・管理会計入門』中央経済社、2010年

【講義要綱】

原価計算は、特に原価情報の収集、伝達を目的に展開される企業会計の一分野である。原価計算を行うのは、一方で、その基礎数値を提供して企業外部に報告する財務諸表の作成を行うためであり、他方で、経営管理に役立つ情報を提供して企業経営の効率性・効果性の向上に資するためである。本講義は、原価計算の理論と計算方法の概要について学習することを目的とする。概ね以下の項目を学習する。(1) 原価計算の意義と目的、(2) 原価要素の分類、(3) 費目別計算、(4) 部門別計算、(5) 製品別計算、(6) 標準原価計算、(7) 利益管理のための原価計算、(8) その他。

【テキストの読み方】

学習に際してのテキストの使用にあたっては、次の点を注意すること。

- ①原価集計の流れ及び学習項目の位置づけを把握し、自分が現在学習しているのはどこの部分なのかを意識しながら学習すること。
- ②面倒でも、原価の集計プロセスを、数字を跡づけながら学習すること。
- ③原価計算は計算が中心であるから、読むだけでなく実際に計算をしながら学習していくこと。
- ④まず、理解すること。理解したら、理解したことをスムーズに計算できるように練習すること。

【履修上の注意】

会計学、経営学に関する基礎的な学習が済んでいることが望ましい。

【参考文献】

小林啓孝『現代原価計算講義（第2版）』中央経済社、1997年

岡本清『原価計算（6訂版）』国元書房、2000年

【レポート作成上の注意点】

学習にあたっては、原価計算の大きな流れを理解し、個別の学習項目がそのどこに当たるのかを常に意識すること。原価計算は、文字通り計算が中心であるので、理論的学習と計算練習を常に連動させること。理論を理解するための計算の練習であり、計算を練習するための理論の理解である。レポート作成にあたっては、テキストの内容をよく理解した上で、自分の言葉で簡潔に説明すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

会計監査

（市販書採用科目）（E 065-1091）〔2単位〕

【テキスト】

鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度【基礎篇】』国元書房、2009年

※監査基準の改訂（平成21年4月9日）に伴い、第21章の一部が改訂されています。下記のWEBサイトにて各自ご確認ください。

http://www.kunimoto.co.jp/contents/audit/s_tobaauditkiso.html

【講義要綱】

監査論の基礎を学習する。科目試験の出題範囲はテキストの内容に限るが、レポートの作成についてはより広範な学習にもとづくことを期待する。

【参考文献】

友岡賛『会計士の誕生』税務経理協会、2010年

【レポート作成上の注意点】

できる限り、自分の言葉をもって述べ、また、参考文献は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

憲法 (E)

(市販書採用科目) (E 055-0091) [2単位]

【テキスト】

小林節・園田康博『憲法〔全訂〕』南窓社、2000年

【講義要綱】

テキストは、通学課程の受講用の簡潔なものであるが、精読すれば理解できるはずである。

【テキストの読み方】

概念と論理を正確に追うとよい。法律用語辞典を活用するとよい。

【履修上の注意】

「憲法」を履修する前に、その前提として、どれか他の特定の科目を既に履修していなければならないということはない。「憲法」は、いわば入門科目であるので、むしろ前提知識などなくてよいという一面があり、他面で、総合科目として広い背景的知識があったほうが良いが、だからといってそれが特定科目によって充分なわけでもない。

【関連科目】

「行政法」

【参考文献】

教科書の他に参考書があったほうが分かり易いだろうが、それは、どれか特定のものが良いとか、特定のものでなければいけないと言った性質のものではない。大きな書店や図書館で実際に手にとってみて自分が「読み易い」と感じたらそれが最良の参考書だと言える。

【レポート作成上の注意点】

配本テキスト及び参考書を通読し、問われている課題を十分理解したうえで、論点を整理しレポートを作成すること。また、使用した参考書は必ず文献一覧として最後に記して形式を整えること。

【成績評価方法】

科目試験による。

民法

(市販書採用科目) (E 050-9792) [4単位]

【テキスト】

池田真朗『民法への招待〔第4版〕』税務経理協会、2010年

※本書〔第3版補訂版〕で学習を進めている者はそれでもよい。

【講義要綱】

民法は、法律科目の中で最も身近でかつ最大の単位を配当されている、私法分野の基本法

である。契約や債権等、経済学部生にも必要な知識が含まれるばかりか、家族、相続等の分野も民法の範囲である。また、商法等の学習のためにも、民法の学習を先行させるのが望ましい（商法などの法律は、民法の特別法という位置づけになるので、基本法である民法の一般的な考え方を先に学習しておくのが適切である）。本科目は、民法の財産法分野と家族法分野の全体にわたる基礎的な知識を身につけることを目的として配置されているものであるが、テキストは特に経済学や商学を学んでいる学生向けに書かれている。保証、債権回収、消費者契約等、今日の社会で問題になっているものも、この民法で学ぶことができる。なお、本テキストは2005年4月1日施行の現代語化新民法典に対応しており、公益法人関係など、この新民法典がさらに変わった部分（2008年12月施行）についても、2008年の第3版補訂版で記述を修正した。なお、2010年に横書きの第4版が出版されたため、現在のテキストはこの第4版であるが、第3版補訂版を使用して学習してもよいものとする。

【履修上の注意】

特になし。経済・商学関係の専門を学ぶ諸君が誰でも、私法の基本法たる民法をわかりやすく学べることを目的としている科目である。小型の六法（科目試験に持ち込めるもの）を1冊購入して、学習の際は常に条文を参照すること。六法は『標準六法』（信山社）を推薦するが、最もコンパクトな『法学六法』（信山社）でも足りる。

【参考文献】

- 池田真朗『新標準講義民法債権総論』慶應義塾大学出版会、2009年
- 池田真朗『新標準講義民法債権各論』慶應義塾大学出版会、2010年
- 池田真朗『スタートライン民法総論』日本評論社、2006年
- 池田真朗『スタートライン債権法 [第5版]』日本評論社、2010年
- 山田卓生ほか『民法Ⅰ [第3版補訂]』有斐閣Sシリーズ、2007年
- 淡路剛久ほか『民法Ⅱ [第3版補訂]』有斐閣Sシリーズ、2010年
- 野村豊弘ほか『民法Ⅲ [第3版]』有斐閣Sシリーズ、2005年
- 藤岡康宏ほか『民法Ⅳ [第3版補訂]』有斐閣Sシリーズ、2009年
- 池田真朗編『新しい民法』有斐閣ジュリストブックス、2005年

【レポート作成上の注意点】

まずテキスト全体を十分に学習して理解してから、レポート課題の問うている範囲を確認し、上掲の参考文献に当たってレポート作成を始めること。六法は『標準六法』（信山社）を推薦するが、最もコンパクトな『法学六法』（信山社）でも足りる。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

神尾真知子・増田幸弘・内藤恵『フロンティア労働法』法律文化社、2010年

【講義要綱】

労働法とは、賃金を得て生活する者（労働者）と使用者との関係を規律する様々な法律の総称です。大別すると、以下の4つの領域として理解されます。

①、雇用関係に入る際の求人と求職に関わる法制度と政策を学ぶ、労働市場法。その中心テーマは、求職・求人に関する行政的支援・職業能力開発・雇用安定等で、昨今問題とされることの多い労働者派遣などもこの中で学びます。②、労働契約締結からその終了に至るまでの法律問題を考察するのが、個別的労働関係法です。ここでは、労働者と使用者の二者間の契約に基づく様々な労働条件、およびその変更が中心的テーマとなります。③、労働者・使用者に加えて労働組合という第3の主体が加わり、憲法28条の労働基本権を三者の間で具体化する領域が、集团的労使関係法です。労働組合・団体交渉・労働協約・争議行為、等を議論します。④、最後に現代社会では、労使間の紛争をいかに処理するかも重要な課題です。このような労働紛争の解決にかかる様々な法制度にも目を配る必要があります。

新テキストは、現代的視点も含め、以上の領域全てを学べるようになっています。

【テキストの読み方】

伝統的な労働法の論点は、上記の②と③の領域にあります。②は、民法の雇用契約を発展させた領域ですが、現在では労働契約法も施行され、労働法独自の体系が整ってきています。③の領域は、憲法第28条の趣旨を如何に具現化するかを重視しております。但し興味深い論点のいくつかは、個別法と集団法の2つの法理が交錯する部分に生じます。

また労働法学は、現実社会の紛争から切り離すことの出来ない領域です。労働法学の学習には、総合的かつ体系的な理論を学習することに加えて、具体的な裁判例を学ぶことが必須です。学習に際しては労働法判例百選なども利用し、当該テーマにかかる学説が、具体的にどのような事案として生じているかを学んで下さい。

最後に労働法学は、研究者のスタンスが分かれやすい領域でもあります。1冊のテキストに偏ることなく、複数の参考書を読み、相互に比較検討することをお願いします。かつまた現代社会では雇用の流動化が進み、労働市場に目を配る必要もあります。

【履修上の注意】

法律学を学ぶ際には、まず一般法の知識を得た上で、特別法による修正法理を学ぶ方が効果的です。労働法を学習するには、まず憲法、民法総則、債権各論を学習した後に履修することをお願いします。労働法学は法解釈学であり、労働関係を対象としております。社会政策や労働経済学の隣接領域ですが、それらを主として学ぶわけではありません。あくまでも法律学の1科目です。

【関連科目・分野】

上述したように法律学としての労働法は、憲法、民法総則、債権各論を基礎としています。同時に他学部の科目としては、社会政策学や労働経済学とも関連します。

【参考文献】

注意：労働法は改正が頻繁に行われる領域です。参考文献は、常に最新版を使用して下さい。（下記には、当該シラバス原稿作成時における情報を入れておきます。）

まず最初にテキストを用いて、当該テーマの全体像をつかみます。次にテーマに関連する専門書、あるいは法律専門誌や大学紀要に掲載されている専門的論文、さらには裁判例の原本に当たって考察を深めて下さい。

- 1) 指定テキストの他に、入手し易い初学者向けの参考書として、
 - ・中窪・野田・和田『労働法の世界』（第9版）有斐閣、2011年
 - ・安枝・西村『労働法』（第10版）有斐閣プリマ・シリーズ、2009年
- 2) 裁判例の概略を簡易に学ぶために
 - ・別冊ジュリスト、労働判例百選（第8版）有斐閣、2009年
 - ・菅野ほか『ケースブック労働法』（第6版）弘文堂、2010年
- 3) さらに専門的に学ぶ際の専門的概説書
 - ・菅野和夫『労働法』（第9版）弘文堂、2010年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する前に、まずテキストを通読して下さい。次にレポートの構成を考える際には、当該テーマに関する専門書・専門論文・判例等を収集し、読み比べ、論点を整理した上で取り組んで下さい。レポートの末尾に必ず参考文献一覧を明記すること。

時に、単なるテキストの要約を提出する学生がいます。これは評価できないのでご注意ください。なお他の文献から直接引用する場合には、必ずその出典を明示して下さい。その際は、文献や判例の引用方法を確認すること。インターネットの情報を引用する場合には、作成者が明らかにされているもののみを補助的に使い、URLに加えて当該HPの作成者とそのHPの名称を明示して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済法（E）

（市販書採用科目）（E 056-0591）〔2単位〕

【テキスト】

白石忠志『独禁法講義〔第5版〕』有斐閣、2010年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版（2009年）もしくは第3版（2005年）

を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

本講義は、経済法の中核をなし、その基本的秩序を形成する「独占禁止法」の大系を学習することを目的としている。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず国際経済をも基本的に秩序づけているいまやグローバルスタンダードといえる。また、現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和22年（1947年）に制定され、現在にいたるまで60年余が経過した。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに応じて変容してきたといえる。現在、独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。もちろん、慶應義塾に学ぶ学部学生諸君にとってはそれだけでは充分といえない。これらの法運用がいかなる理念ないし理論のもと実施されているのかを的確に理解したうえで、それぞれが、これらの問題を自らの問題として取り組み、直感ではなく冷静かつ合理的な判断ができることを本講義では最終的な目標とする。

【テキストの読み方】

テキストを読む際には、理論的な説明ばかりに気を取られずに、テキスト内で取上げられている事例も適宜参照してもらいたい。事例について詳しく知りたい場合は、舟田正之他編『経済法審決・判例百選』（別冊ジュリスト199号、2010年）を参照するのが便利である。また審決や判決それ自体に当たることも重要である。特に経済法の場合、様々な取引が問題となっており、ケースを読むとビジネスの裏側がよく分かるので、ケース分析は非常に楽しいものである。是非、審決や判決それ自体についても、図書館で読んでみて欲しい。

【履修上の注意】

履修に際し、他の特定の科目を事前に履修している必要はない。ただし、経済法では、現実の経済活動や取引関係について、幅広く分析することになるので、新聞報道などに関心を持ってもらいたい。

【関連科目・分野】

経済法・独占禁止法は、一面において、事業者の経済活動を市場メカニズムの機能を有効に発揮させることによってコントロールするものであり、人・法人の経済活動に関わる基本的な法制度（民法、商法、会社法）との関わりを無視することはできない。他方、事業者の経済活動が市場を場として行われ、ここにおける競争が国民経済の発達という公共目的と結びついて理解されることは、政府・公権力の権力行使とこれに関わる法制度（憲法、行政法、刑法）に自ずと関心を向かわせる。

このように経済法はさまざまな法制度の応用であり、これらの理解は経済法それ自体の把握に役立ち、またその前提でもある。本講義以外に、労働関係法や金融関係法も近時重要な関連科目となってきている。

また、市場や経済の秩序ないしは制度を考察の対象とする本講義の関心と関連して、経済主体の決定や行動、更に望ましい社会的厚生の実現に関する学—経済学とりわけミクロ経済学（とその応用分野としての産業組織論や「法と経済学」）など—にも強い関心と問題意識を持って取り組んでもらいたい。

【参考文献】

白石忠志『独占禁止法 第2版』（有斐閣 2009）

根岸哲編『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009）

【レポート作成上の注意点】

レポートの課題は、独占禁止法の内容を全体を通じて適切に理解できているか否かを端的に問う問題である。当然、受講者諸君が上に掲げた文献の該当部分だけを読み比べるだけでは当方が求める解答にはたどり着けないであろう。テキストや参考文献を丁寧に読み込んで、それらの考え方を整理・検討してもらいたい。独占禁止法の体系的な把握についてはさまざまな見解があり得るわけで、本レポートにおいても受講者諸君にこれらを凌駕する独自の見解を求めているわけではない。むしろ、ここで取上げられている議論を整理し、自分なりの主張を（これらの業績の上に主張するとしても）客観的な根拠と一貫した論理に基づいて論ずることができるかどうかにある。

【成績評価方法】

科目試験による。

会社法（E）

（市販書採用科目）（E 057-0791）〔4単位〕

【テキスト】

宮島司『新会社法エッセンス〔第3版補正版〕』弘文堂、2010年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第3版（2008年）、第2版（2006年）のいずれを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

平成17年に会社法が制定され、18年5月から施行された。これによって、これまで商法第二編、商法特例法、有限会社法などに分かれていた会社に関する諸規定（通称会社法）が、名実共に一つに統一された大法典となって実現した。会社法では、商法や有限会社法で用いられていたカタカナ文語体から平仮名口語体へと表記が改められ、また、経済・社会の変化に合致すべく、内容に関しても、実質的な改正が広範囲にわたって行われている。また、新

聞やニュースでも、コーポレート・ガバナンス、企業買収、企業再編など会社法に関連する話題が溢れている。会社は誰のものであるか。ある人は株主のものだと答え、又ある人は経営者のものと答え、又ある人は従業員のものと答えるかもしれない。学習者はそれぞれ、この質問に対する自分自身の答えとその理由を考えて欲しい。

【テキストの読み方】

会社法は条文数も多く、内容も広範囲にわたるため、まず、全体を通読して概要を掴み、それから精読するか、あるいは、株式会社であれば、まず、株式と機関あたりを熟読して理解した後他の部分へ進んでいくなど、それぞれに工夫をするとよい。テキストは、重要事項を強調するために青字を用い、また、理解を深めるためにコラムを設けるなどよく工夫されているので、楽しみながら読みすすんでもらいたい。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目・分野】

商法総則・商行為法、手形法、保険法

【参考文献】

江頭憲治郎『株式会社法（第4版）』有斐閣、2011年

神田秀樹『会社法（第13版）』弘文堂、2011年

山本為三郎『会社法の考え方（第8版）』八千代出版、2011年

【レポート作成上の注意点】

テキストを丸写しすることなく、他にも参考書を読むなどして、問題点を多角的に分析し、再構成することを心がけてほしい。また、会社に関する法制度は頻繁に改正を受けているため、参考文献を用いるときは、どの時点の文献かをよく見極め、常に現行法の規定との整合性を検討することを忘れないようにしなければならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

小林節・園田康博『憲法〔全訂〕』南窓社、2000年

【講義要綱】

テキストは、通学課程の受講用の簡潔なものであるが、精読すれば理解できるはずである。

【テキストの読み方】

概念と論理を正確に追うとよい。法律用語辞典を活用するとよい。

【履修上の注意】

「憲法」を履修する前に、その前提として、どれか他の特定の科目を既に履修していなければならないということはない。「憲法」は、いわば入門科目であるので、むしろ前提知識などなくてよいという一面があり、他面で、総合科目として広い背景的知識があったほうが良いが、だからといってそれが特定科目によって十分なわけでもない。

【関連科目】

行政法

【参考文献】

教科書の他に参考書があったほうが分かり易いだろうが、それは、どれか特定のものが良いとか、特定のものでなければいけないと言った性質のものではない。大きな書店や図書館で実際に手にとってみて自分が「読み易い」と感じたらそれが最良の参考書だと言える。

【レポート作成上の注意点】

配本テキスト及び参考書を通読し、問われている課題を十分理解したうえで、論点を整理しレポートを作成すること。また、使用した参考書は必ず文献一覧として最後に記して形式を整えること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

斎藤和夫編『レーアブーフ民法 I〔総則〕第3版』中央経済社、2007年

【講義要綱】

民法は私達の社会生活における基本ルールです。それは、市民である私達にとって、市民として生活していく上で、もっとも大事なものの一つです。この意味で、民法を学び、これ

を知るということは、誰にとっても、必要不可欠のことです。民法を知らずして生きていくこと、それは羅針盤なき航海であり、私達は徒にただ漂流していくしかないでしょう。

民法総論は、民法典の総則を講義するものですが、それと同時に、私法入門や民法入門をも兼ねています。この意味で、これから法律学における多くの専門科目を学んでいく人達は勿論のことですが、経済学や政治学、文学を学んでいこうとする人達もまた、法の一般的・基本的知識を具備するために、積極的に履修し、学んで欲しい、と考えます。

【テキストの読み方】

レーアブーフ (Lehrbuch) とは、ドイツ語で「教科書」や「体系書」を意味するものです。日本民法 (学) のもつドイツ民法 (学) への親近性、というところから、本書を「レーアブーフ民法」と名付けました。というのは、多くの法律学研究者にとって、ドイツという国は、格別に思い入れの深いものだからです。私にとっても、ドイツ・ザールラント大学での在外研究をきっかけとして、ドイツ民法 (学) には、限りなく熱き想いがあるのです。

この『レーアブーフ民法 I』は、法学部をはじめとして、経済・商・文・理工学部といった、その他の諸学部一般における、民法の講義テキストとして編集されたものです。

民法は私達の市民生活の基本ルールであり、その最も枢要な構成原理でもありますから、どのような専攻の学部にも所属する学生であっても、民法を学ぶ必要性は、みな均しく、存在しています。ともすれば難しく、固苦しく、取りつきにくいような印象を与えがちなのが、法律 (学) なのですが、逆に、親しみやすく、わかりやすく、すんなり入っていけるような、そのような民法 (学) の講義テキストを作ってみよう、というのが本書執筆の動機の一つでした。

また、執筆者自身の個性や自説をあまり表には出すことなく、むしろあえてこれを抑制しながら、しかも現在の民法学の到達した一般的水準をふまえて、できるだけ客観的に民法学を平易に明快に解説してみよう、というのも、本書の狙いの一つとなっています。

『レーアブーフ民法 I』は、わかりやすい標準的なテキストとしての本書の基本的性格から、それをできるだけ簡潔かつ平易に、いわばポイントやエッセンスを要約するような形で、民法の基本構造を解説する、ということに徹しました。応用・発展的な細目や詳細については、現実の講義において補充されることが予定されています。

このような本書の特徴として、さしあたり次の三つを挙げておきます。

第一に、できるだけ「平易で明快な解説」に努めたことです。

第二に、叙述の途中途中で、要点整理としての「要点メモ」を入れたことです。

第三に、各章の末尾に、その全体的な見取り図として、「小体系表」を示したことです。

読んで頭で理解しながら、同時に眼でも理解し考えてもらおう、ということなのです。そして、しかも、読み手の方々にとって、現実の講義に出席することにより、民法についての理解は立体的に一層深まることになるでしょう。いわば「耳」も使って欲しいのです。本書はそのための大事な素材となるでしょうし、それが本書編集の意図の一つでもあるのです。

なお、本書は、いわゆる「成年後見」の民法改正内容についても、言及し、これに対応しています（本書第2章第2節）。これは、戦後のいくつかの民法改正と比較しても、注目すべき大きな改正であり、迫り来る高齢化社会の到来に迅速に対応しよう、とするものです。その重要性に鑑み、本書もまた、アップ・トゥー・デイトの問題として、あえてこれを探り上げ、対応しようとしたのです。この点についても、他に類書はありませんから、現時点での、本書の一つの大きな特徴といえるでしょう。

【履修上の注意】

指定テキストを読み、興味・関心を持ち、学習意欲を持続することが肝要です。また、「民法総則」をとおしての「法学入門」を意図したものでもありますから、テキストの「前半部分」（基本理論）にも、注目して下さい。

【参考文献】

『判例百選 民法I』（別冊ジュリスト）有斐閣

その他、判例解説の市販書（各種あり）も利用すると便利です。

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献でそのアウトラインをよく把握してから、レポート作成をはじめること。単なる引き写しではなく、自己の頭で整理し、十分に問題点を理解した上で、できるだけ自己の言葉で説明してください。読んでいただく（読み手の立場に立つ）、という気持ちで、丁寧にレポートすることが、大事です。

課題1については、テキスト・巻末判例ガイドや『判例百選 民法I』（別冊ジュリスト）などにも、眼をとおしていただければ、その理解もなお一層深まるものと思います。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑法総論

（市販書採用科目）（J 089-0991）〔3単位〕

【テキスト】

井田良『講義刑法学・総論』有斐閣、2008年

【講義要綱】

刑法学とは、現行刑罰法規（とくに刑法典）を対象とする法解釈学の1部門である。刑法典は、第1編の「総則」と第2編の「罪」という2つの部分によって構成されている。総則とは、各則において個別的に問題とされることに共通する普遍的なものをまとめて一般的に扱った部分のことをいう。たとえば、「故意」は、傷害罪であれ、文書偽造罪であれ、収賄罪であれ、すべての犯罪において共通に問題となる。そこで、刑法は、総則の38条において

故意について一般的に規定している。個別の犯罪について規定した刑罰法規は、刑法典の第2編「罪」以外にも、数多く存在するが、刑法典の総則は、それらの特別刑法の処罰規定にも適用されるのが原則である（刑法8条）。

総則と各則の区別に対応して、刑法学は、刑法総論と刑法各論とに分かれる。刑法各論が個別の犯罪（たとえば、殺人罪、強盗罪、放火罪…）を規定した各刑罰法規の解釈論を内容とするのに対し、刑法総論は、犯罪と刑罰の基礎理論、犯罪（ただし個々の犯罪ではなく、およそ犯罪たるもの）の構成要素ないし成立要件、すべての犯罪に共通して妥当するような理論、刑罰の種類と適用などを対象とする。この2つを両方とも勉強しなければ、刑法を学んだことにはならない。総論の勉強はまるで「棒高とび」で、総論特有の体系的な思考を身に付けないかぎり、総論を「ものにする」ことはできないという難しさがある。総則と各則、総論と各論とを区別することは、わが国の法律学に大きな影響を与えたドイツの法律学に特に著しい傾向である。それは法解釈学を体系的なものとし、論理的に正確なものとする長所を持つが、総論の議論をあまりに抽象的で現実離れしたものとし、また学ぼうとする者の理解を難しくするおそれがあることも事実である。

法律学のどの分野も、なかなか独学で勉強するには困難が伴うが、とくに刑法学は概念が複雑であって議論も錯綜しており、テキストのみによる独力の学習ではなかなか成果が上がらないかもしれない。仲間とゼミを組んで議論することがもっとも効果的だと思うが、スクーリングの講義を活用して先生の言葉に耳を傾け、また難しい論点については勇気を奮って先生に質問に行くことをお勧めしたい。

【テキストの読み方】

指定テキストを読んでわからない用語や概念があれば、そのつど法律用語辞典などでその意味を確認しながら読み進めること。また、テキストは必ず通読すること。刑法学は極めて体系性の強い学問なので、特定の論点に関する記述だけつまみ食いの読んでも理解できないだろう。テキストを何度も読み返しながら、地道に粘り強く学習することが肝心である。なお、刑法総論に関しては、複数の著者の本を同時並行で読むことは、学習上逆効果になるおそれがある。いろいろな学者の本を読んでみたいという意欲ある方も、まずは指定教科書を通読し、別の本に移るのはその後にして欲しい。

なお、後掲の判例教材を用いて教科書に出てきた判例の内容を確認しながら読めば、学習効果は倍増するだろう。

【履修上の注意】

特になし。上記指定テキストを読んで理解が困難だと感じた場合は、井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第4版〕』（有斐閣、2010年）を読んだ後に再びチャレンジして欲しい（同書には、文献や資料の検索方法に関する説明もあり、便利である）。

【関連科目】

「刑法各論」「刑事政策学」「刑事訴訟法」

【参考文献】

成瀬幸典・安田拓人編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』信山社、2010年
井田良ほか『よくわかる刑法』ミネルヴァ書房、2006年

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、まず問われている論点を発見しなければならない。そのためにはテキストや参考文献をよく読むことが不可欠である。論点を発見したら、それについての判例と学説を調べ、何をめぐって見解が対立しているのかを理解しなければならない。そのうえで、自分の見解（オリジナルなものである必要はない）を確定して、レポートにまとめ上げる作業が行われなければならない。

自分の頭だけで考えて何かを書いてもそれはレポートにならないし、学説や判例をどれだけ調べ上げてまとめても、自分の見解が述べられていなければ合格点はない。参考にした文献はすべて引用する必要がある。特定の文献を引き写したレポート（ましてや他人のレポートを写したもの）はたんに不合格というばかりでなく、不正行為と評価される。

なお、本科目は「刑法総論」であるが、レポート作成の際、場合によっては「刑法各論」の文献も参照する必要がある。

【成績評価方法】

科目試験による。

法哲学

(J 017-5401、J 21)〔2単位〕

【講義要綱】

法哲学は、法および法学の根本問題について原理的・基礎的に考察する学問です。考察方法からみた場合には哲学的な方法を基本としており、哲学の一領域とみられることもあります。また哲学的立場によってさまざまな法哲学があります。他方、対象領域からみた場合には、法学全般をその対象としており、したがって法学の一領域に属します。このように法哲学を学ぶ場合には、哲学と法学という二つの領域についての知識・思考法が必要とされます。法哲学は個々の法的問題に直接かかわるというものではなく、その意味では実用的とは言えないかもしれませんが、法解釈学や法実務に対して原理的・理論的基礎を提供するという意味では実践的です。一般的に言って、法哲学はその主要な問題領域として三つのものが挙げられます。

つまり第一に、法の一般理論では「法とは何か」という法概念の解明をはじめとして、法源理論、法と道徳との区別・関連の考察、法的強制の特質、法システム・法規範の構造と機能の解明、権利・義務・責任あるいは法の効力などの法的思考の基本的カテゴリーの分析を主要なテーマとしています。

第二に、正義論（法価値論）は、「正義とは何か」をはじめとして、自由や平等、法的安定性や法の合目的性など、法の実現すべき価値理念ないし実定法の評価・批判の基準の探求を中心的テーマとしています。

第三に法律学方法論は、法の解釈・適用ないし法的議論・推論の論理構造や合理性基準、法律学の学問的性質の解明を中心的テーマとしています。

しかし、これらの三つの問題領域は相互に密接に関連しており、統合的な考察が不可欠です。

【テキストの読み方】

法哲学はその学問的な性質上、抽象的な議論になりやすいのですが、常に現在の具体的な問題とのかかわりの中で検討していくことが重要です。教科書および参考書が抽象的で理解に苦しむかもしれませんが、繰り返し熟読することによって理解できるようになると思いますので、じっくり考えながら読み進める忍耐力が必要です。

【履修上の注意】

上記に述べたように、法哲学は伝統的には哲学の一領域であったこともあり、広く哲学、倫理学、宗教学、法・政治思想史などの知識・思考法が必要となります。これらの領域を事前に行ないし並行して勉強しておくことで理解が深まります。

【関連科目・分野】

哲学、倫理学、宗教学、思想史（特に政治思想史）の科目を履修しておくことが望ましいと思います。

【参考文献】

井上達夫『共生の作法』創文社、1986年

田中成明『法理学講義』有斐閣、1994年

森征一・岩谷十郎『法と正義のイコノロジー』慶應義塾大学出版会、1997年

森末伸行『正義論概説』中央大学出版部、1999年

平野仁彦・亀本洋・服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年

長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』信山社、2004年

【レポート作成上の注意点】

上記の課題について、何が論点となっているのかを明確にし、それに対する各論者の見解を整理したうえで、自分自身の考えを展開してください。また、問題の性質上抽象的になりがちですが、現在の法律上の課題との関連において、具体的に論述してください。教科書および参考書をほとんどそのまま引用するような形式にはならないように注意してください。注には必ず著者名、著書名、出版社名、出版年、該当頁を記載してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

まず、テキスト巻頭に詳論されている著者の「日本法制史」という学問に対する考えを熟読して欲しい。つまり、現代の法典や司法制度との関連を考えつつ、必ずテキストの全体を読み通し理解を深めることが必要である。

【履修上の注意】

テキストは、紙数の関係から、多くの歴史的事実を省略している。従って受講者は、近年復刊された中公文庫の「日本の歴史」(中央公論新社)や高等学校の日本史教科書などをまず一読し基礎知識を涵養してもらいたいと思う。

【参考文献】

霞信彦・漆原徹・浜野潔『日本法制史・史料集』慶應義塾大学出版会、2003年

霞信彦・原禎嗣・神野潔・兒玉圭司・三田奈穂『日本法制史講義ノート』慶應義塾大学出版会、2011年

浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』青林書院、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキスト参考書の丸写しにならないように留意することが必要である。併せてそれら参考文献を換骨奪胎してレポートを作成することも、評価の対象とならない。参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

本講義は、歴史的な法や制度のうち、中世・近世・近代の法制についての知見を深めるために開講される。すなわち、武家政権による封建的前近代的な法制から、西洋法を継受し近代的な法典へと変ぼうを遂げる明治時代までの法制について、焦点をあてたものである。受講にあたっては、過去の法を単なる歴史としてとらえるのではなく、現代の法典や司法制度との関連を考えながら学習をすすめてもらいたい。その際、必ずテキストの全体を読み通し理解を深めることが必要である。

【履修上の注意】

テキストは、紙数の関係から、多くの歴史的事実を省略している。従って受講者は、近年復刊された中公文庫の「日本の歴史」(中央公論新社)や高等学校の日本史教科書などをま

ず一読し基礎知識を涵養してもらいたいと思う。また、日本法制史を通史として理解するためには、「日本法制史Ⅰ—古代—」も併せて履修することが望ましい。

【関連科目】

日本法制史Ⅰ—古代—

【参考文献】

霞信彦・漆原徹・浜野潔『日本法制史・史料集』慶應義塾大学出版会、2003年

霞信彦・原禎嗣・神野潔・兒玉圭司・三田奈穂『日本法制史講義ノート』慶應義塾大学出版会、2011年

浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』青林書院、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキスト参考書の丸写しにならないように留意することが必要である。併せてそれら参考文献を換骨奪胎してレポートを作成することも、評価の対象とならない。参考文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

国際法Ⅰ

(市販書採用科目) (J 059-9991) [4単位]

【テキスト】

栗林忠男『現代国際法』慶應義塾大学出版会、1999年

【講義要綱】

経済活動や環境問題を考えると私たちが生きている社会は様々な部分で国際的になってきています。その国際社会において生じている状況に対応するために、国際法は多様な規則を提供してきました。国内社会の一員であると同時に国際社会の一員である私たちがそこで起きている出来事に敏感であることが求められています。国際社会の理解を法という視点から行うための力を養うこと、これが「国際法Ⅰ」の目標です。この学習を通じて国際社会を身近に感じてほしいと願っています。

【テキストの読み方】

条約集を手元に置いて該当する条約、条文を参照しながらテキストを読んでください。

【履修上の注意】

法学の基本的な知識を修得しておくことが必要ですが、何よりも国際社会で生じている出来事に関心を持つことが重要です。

【参考文献】

奥脇直也編『国際条約集』有斐閣、2012年

大森正仁編著『よくわかる国際法』ミネルヴァ書房、2008年

【レポート作成上の注意点】

課題は国際法の基本的な問題として法源と主体の意義を理解することを求めています。テキストの内容を理解した上で自分の言葉でそれを表現してください。

作成にあたっては参考文献を検索して利用するように努めてください。文献引用はレポートの一部ですので丁寧に行うことが必要です。どこまでが他の人の意見で、どこからが自分の意見なのかを明確にすることが求められます。

【成績評価方法】

科目試験による。

国際法Ⅱ

(J 096-1001)〔2単位〕

【講義要綱】

私たちの生きている社会は様々な部分で国際的になってきています。しかしながら、そこで起きている紛争は依然として多数にのぼります。このように生じている状況に対応するために、国際法は紛争を平和的に解決するための多様な規則を発達させてきました。依然として限界は存在しますが、それをどのように乗り越えていこうとしているのかを学ぶこと、これが「国際法Ⅱ」の目標です。この学習を通じて国際社会で起きている紛争の理解をしてほしいと思います。

【テキストの読み方】

条約集を手元に置いて該当する条約、条文を参照しながらテキストを読み進めてください。

【履修上の注意】

「国際法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

【関連科目】

国際法Ⅰ

【参考文献】

奥脇直也編『国際条約集』有斐閣、2012年

大森正仁編著『よくわかる国際法』ミネルヴァ書房、2008年

【レポート作成上の注意点】

課題は武力紛争法の基本的な意義を理解することを求めています。どのような規則がこれに含まれるのかを検討して下さい。また、それらの規則の具体的な適用状況について考える

ことを求めています。事例を選んで検討をしてください。

参考文献を検索して利用するように努めてください。文献引用はレポートの一部です。どこまでが他の人の意見で、どこからが自分の意見かがわかるようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

行政法

(市販書採用科目) (J 060-9892) [4単位]

【テキスト】

原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂版〕』学陽書房、2011年

【講義要綱】

行政法は、国や地方公共団体という行政活動の主体が当事者として登場する法律問題を考察対象とする。我われの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。各種の公的手続に必要な住民票は市町村が管理し、自動車を運転するには各都道府県の公安委員会が発行する免許が必要であるし、普段利用する鉄道の運賃は国(国土交通大臣)の認可を受けたものである。

守備範囲が広く、したがって行政法に“関わる”法律は数多くあるが、「行政法」という3文字の名前の法律は存在しない。行政活動を行うにあたって事前に踏む手続について「行政手続法」、何らかの権利侵害を受け、また損失を被った場合の救済手続について「行政不服審査法」「行政事件訴訟法」「国家賠償法」といったいくつかの統一法典は用意されているが、個々の行政活動は、無数にある個別実定法によって行われる。行政法(学)は、ある特定の法律だけを対象とするのではなく、さまざまな行政活動をマナ板にのせて、その法的な仕組みや、適正性を検証するための原理・原則を抽出して組み上げたものである。

今日の社会にあって、行政活動は、実に多くの場面で活発に行われ、かつ役割も重要である。そこでは、既存の法律や、これまでに積み上げられてきた判例・学説によって解決可能な問題ばかりではなく、新たに政策形成を試み、制度の構築を図る必要に迫られる問題もあるだろう。また、行政手続法、情報公開法等の新たな立法、行政事件訴訟法の改正などの法整備は言うに及ばず、規制改革・行政改革の波は、行政活動を取り巻く環境を変化させている。現実の問題を前にしたとき、主権者たる国民にとって最善の解決策は何か、常に考えながら、行政法の意義を学んでほしい。

【テキストの読み方】

行政法は、(1) 行政活動を担う組織に関する「行政組織法」のほか、(2) 行政活動の仕組みと法令適合性の判断を課題とする「行政法総論」と、(3) 行政活動による権利侵害や財産的損害を回復するために国民がとりうる手続・手段を考察の対象とする「行政救済法」の3

本柱から構成される。

テキストに指定した原田尚彦『行政法要論』は、このような行政法の体系全体をコンパクトに一冊にまとめたものである。参考文献に挙げた教科書・基本書には、同様に行政法体系の全体を一冊にまとめたもの（稲葉ほか『行政法』、櫻井・橋本『行政法』）もあれば、行政法総論（行政組織法の概略を含む）と行政救済法を分冊するもの（大橋『行政法Ⅰ』、芝池『行政法総論講義』『行政救済法講義』）もある。いずれの場合も、とりわけ行政法総論と行政救済法が相互に連係することを意識しながら、読み進めるとよい。

【履修上の注意】

「憲法」及び「民法」の基礎を学んだうえで、履修すること。

【参考文献】

*教科書・基本書

櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第3版〕』弘文堂、2011年

稲葉馨・人見剛・村上裕章・前田雅子『行政法〔第2版〕』有斐閣、2010年

大橋洋一『行政法Ⅰ 現代行政過程論』有斐閣、2009年

芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』有斐閣、2006年

芝池義一『行政救済法講義〔第3版〕』有斐閣、2006年

*学習用判例解説集

『判例百選』シリーズ

『重要判例解説』シリーズ

芝池義一＝編『判例行政法入門〔第5版〕』有斐閣、2010年

*事例問題集

市川正人・曾和俊文・池田直樹＝編著『ケースメソッド公法〔第2版〕』日本評論社、2006年

高木光・高橋滋・人見剛『行政法事例演習教材』有斐閣、2009年

吉野夏己『紛争類型別行政救済法〔第2版〕』成文堂、2010年

大貫裕之・土田伸也『行政法事案解析の作法』日本評論社、2010年

曾和俊文・金子正史＝編著『事例研究行政法〔第2版〕』日本評論社、2011年

【レポート作成上の注意点】

- (1) 設問をよく読むこと。例年、設問の趣旨を無視し、「行政法とは何か」などを書いてくるレポートが散見される。
- (2) 法学の基礎知識を確認すること。根拠条文の引用方法、裁判判決の出典の表記方法など、基本的な約束事が守られていない場合が多い。
- (3) 構成を練ること。文章を書き連ねるだけでは、読み手に訴える説得力に乏しい。小見出しを付ける、(一部に) 箇条書きのスタイルを取り入れる等の工夫を試みてほしい。法律雑誌（『法学教室』、『法学セミナー』等）に掲載された論文等に接することも、書

きかたを学ぶためには有益である。

【成績評価方法】

科目試験による。

物権法

(市販書採用科目) (J 091-1091) [3単位]

【テキスト】

斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅱ〔物権法〕』中央経済社、2009年

斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅲ〔担保物権法〕』中央経済社、2007年

【講義要綱】

物権法は、その内容上、二つに分けられます。

まず、①前半部分(斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅱ〔物権法〕』中央経済社、2009年)においては、物権法の基礎理論、そして所有権をめぐる諸問題、が大事です。物権変動論が一つのヤマ場です。占有権や用益権にも、注目し、物権法の全体像を理解して下さい。

また、②後半部分(斎藤和夫『レーアブーフ民法Ⅲ〔担保物権法〕』)では、「**抵当権**」が何ととっても、肝要です。抵当権における諸問題、それに注目して、学習のポイントを押さえて下さい。

【テキストの読み方】

「条文」(六法)を手もとに置いて、学習して下さい。

①『レーアブーフ民法Ⅱ〔物権法〕』では、「物権変動論」について、注目してください。理論的に大きな問題点であり、難解なところでもありますが、できるだけ明快に解説しています。理論的関心を大いに惹くところです。また、「第三者対抗」の問題点については、判例事案に即して、個別具体的に説明していますので、よく読んでいただければ、理解もなお一層深まり、物権法への興味・関心も大きくなること、必然と思います。

②『レーアブーフ民法Ⅲ〔担保物権法〕』では、四つの担保物権が取り上げられています。留置権・先取特権・質権・抵当権、の四つです。留置権・先取特権・質権の三つについては、それがどのような担保物権であるのかを、ポイント整理して簡潔に理解しておいて下さい。次に、**抵当権**はもっとも重要な担保物権ですので、学習の力点を置いて下さい。法定地上権、**抵当権**の処分方法、**抵当**不動産の第三取得者の地位、共同**抵当権**、根**抵当権**、などその重要論点(がいくつもあります。これらの重要論点をひとつひとつ理解して行って下さい。また、判例事案では、類型化(場合分け)して、整理・理解するのが、大事です。

③『判例百選 民法Ⅰ』(別冊ジュリスト)などで、理解を補充することも、大事です。

【履修上の注意】

学習に際しては、「目で読む」ことに加えて、「耳で聞く」ことも、大事ですので、スクー

リングを含めて、できるだけその機会をつくるように、努めるとよい、と思います。

【参考文献】

『判例百選 民法Ⅰ』（別冊ジュリスト）有斐閣

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献でそのポイントを理解・整理し、その上でレポート作成にとりかかること。単なる引き写しは減点されますので、できるだけ自分の文章で作成・努力してください。判例もよく読み、調べると、ベターのものとなります（テキスト巻末参照）。

【成績評価方法】

科目試験による。

債権総論

(J 055-9903) [3単位]

【講義要綱】

本テキストの各章の冒頭に四角囲みで各章の概要を提示しているのので、それをもって講義要綱（シラバス）に代替する。また本テキストは、学習方法のアドバイス等についても記述しているので（特に第8章「学習ガイダンス」）、適宜参照されたい。

【履修上の注意】

本科目の履修を開始する前に、「民法総論」を履修していることが望ましい。本科目と前後して、「債権各論」を履修することを推奨する。

【関連科目】

民法総論、物権法、債権各論

【参考文献】

奥田昌道『債権総論 [増補版]』悠々社、1992年

中田裕康『債権総論』岩波書店、2008年

奥田昌道、池田真朗＝潮見佳男編『法学講義民法4 債権総論』悠々社、2007年

片山直也ほか編『STEP UP 債権総論』不磨書房、2005年

奥田昌道・安永正昭・池田真朗編『判例講義民法Ⅱ 債権 [補訂版]』悠々社、2005年（追補判例集付き増補版2010年）

鎌田薫ほか編『民事法Ⅱ 担保物権・債権総論 [第2版]』日本評論社、2010年

池田真朗編『民法 Visual Materials』有斐閣、2008年

【レポート作成上の注意点】

まずは、テキストを十分に理解してから、課題が何を要求しているかをじっくりと検討し、その後でレポート作成に着手するように心掛けたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

債権各論

(J 090-1001) [3単位]

【講義要綱・テキストの読み方】

債権各論は、民法上の財産権である物権と債権のうち、債権の発生原因を扱う分野である。債権は、契約、事務管理、不当利得及び不法行為の四つの発生原因に基づいて発生する権利であるが、とりわけ、これらの発生原因の中で、契約と不法行為が重要である。契約については、民法521条以下、696条まで170箇条以上の条文があり、その内容を丹念に理解することが必要であるのに対して、不法行為については、709条から724条まで僅か16箇条しかなく、条文の細かな解釈というよりも、判例法分野であるから、判例の丹念な勉強が必要となる。テキストは、契約に関して比較的丁寧な解説が付されているが、不法行為については、基本的な解説が付されているにすぎないため、不法行為の勉強に当たっては、たとえば、近江幸治『民法講義Ⅵ事務管理・不当利得・不法行為〔第2版〕』（成文堂）といった他の不法行為等を扱う詳しい教科書を参照することも心がけて欲しい。また、不法行為に限らず、判例は条文が曖昧なところや条文のないところを補完する意識もあるため、判例の勉強には意を用いて欲しい。いずれにせよ、教科書や参考文献を読む際には、それを暗記するのではなく、一つ一つの制度の趣旨やその意義、その要件と効果を良く理解して、具体的にどのような場面で当該制度がどのように機能するのかをイメージしながら、勉強を進めて欲しい。

【履修上の注意】

債権各論は、民法財産法の一分野であるから、民法総則の理解は当然の前提として、関連が深い債権総論の勉強と関連づけて勉強をして欲しい。とりわけ、債権総論の債権の目的、債権の効果、分けても債務不履行の分野、債権の消滅の中でも弁済や弁済の提供、相殺といった分野の理解は、債権各論を理解するうえで必ず必要になるため、そうした分野との関連を必ず意識して欲しい。

【参考文献】

参考書：内田貴『民法Ⅱ〔第2版〕』（東京大学出版会、2007年）、近江幸治『民法講義Ⅴ契約法〔第3版〕』（成文堂、2006年）、近江幸治『民法講義Ⅵ事務管理・不当利得・不法行為〔第2版〕』（成文堂、2007年）等の定評のある一般的な教科書

判例解説：中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選Ⅱ（債権）〔第6版〕』（有斐閣、2009年）、松本恒雄・潮見佳男編『判例プラクティス・民法Ⅱ債権』（信山社、2010年）等の判例の解説書

なお、レポートの課題に際しては、最新の判例を参照する必要もでてこよう。その際には、裁判所ウェブページや毎年度公刊されている、たとえばジュリスト増刊『平成21年度重

要判例解説』といった最新の判例の解説なども、適宜参照して欲しい。

【成績評価方法】

科目試験による。

親族法

(J 007-4905)〔1単位〕

【講義要綱】

民法・親族編を対象としています。法が家族に関してどのような規律を行っているのか、法の基本的考え方を踏まえて理解しましょう。まず、夫婦とは何か、成立及び効果を学び、次に婚姻の解消＝離婚の手續及び効果について理解します。第2に、親子関係について、法的親子（実親子、養親子）関係の発生や、親権制度について理解します。最後に、それ以外の親族関係について生じる扶養や後見制度について学習します。

【テキストの読み方】

夫婦関係、親子関係の全体像を把握するよう心掛け各章毎に何度か読んで下さい。その際には、六法で条文を確認するとともに、参考文献や判例解説などで理解を深めて下さい。

【履修上の注意】

「民法総論」を履修済みであること。

【科目試験用指定参考文献】

二宮周平『家族法〔第3版〕』新世社、2009年

【関連科目】

「相続法」

【参考文献】

二宮周平『家族法〔第3版〕』新世社、2009年

島津＝松川編『基本法コンメンタール親族〔第5版〕』日本評論社、2008年

水野紀子ほか編『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣、2008年

高橋＝床谷＝棚村『民法7 親族・相続〔第2版〕』有斐閣、2007年

【レポート作成上の注意点】

論点を整理すること。教科書・参考書のまる写しはしないこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

民法・相続編を対象とする。ある人が死亡した場合に生じる財産の継承に関してどのようなルールが定められているかを理解する。法定相続のルール、遺言による処分についてのルールを理解し、法定相続人の地位、相続人間の平等、遺言制度の意義について理解する。

【テキストの読み方】

全体像の把握に努め、理解できない部分は、参考文献等で理解を深めること。条文を参照すること。

【履修上の注意】

全体像の把握に努め、理解できない部分は、参考文献等で理解を深めること。条文を参照すること。

【科目試験用指定参考文献】

床谷文雄＝犬伏由子編『現代相続法』有斐閣、2010年

【関連科目】

「親族法」

【参考文献】

床谷文雄＝犬伏由子編『現代相続法』有斐閣、2010年

二宮周平『家族法〔第3版〕』新世社、2009年

島津＝松川編『基本法コンメンタル相続〔第5版〕』日本評論社、2007年

水野紀子ほか編『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣、2008年

【レポート作成上の注意点】

論点を整理すること。教科書・参考書のまる写しはしないこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

宮島司『新会社法エッセンス〔第3版補正版〕』弘文堂、2010年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第3版（2008年）、第2版（2006年）のいずれを用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

平成17年に会社法が制定され、18年5月から施行された。これによって、これまで商法第二編、商法特例法、有限会社法などに分かれていた会社に関する諸規定（通称会社法）が、名実共に一つに統一された大法典となって実現した。会社法では、商法や有限会社法で用いられていたカタカナ文語体から平仮名口語体へと表記が改められ、また、経済・社会の変化に合致すべく、内容に関しても、実質的な改正が広範囲にわたって行われている。また、新聞やニュースでも、コーポレート・ガバナンス、企業買収、企業再編など会社法に関連する話題が溢れている。会社は誰のものであるか。ある人は株主のものと答え、又ある人は経営者のものと答え、又ある人は従業員のものと答えるかもしれない。学習者はそれぞれ、この質問に対する自分自身の答えとその理由を考えて欲しい。

【テキストの読み方】

会社法は条文数も多く、内容も広範囲にわたるため、まず、全体を通読して概要を掴み、それから精読するか、あるいは、株式会社であれば、まず、株式と機関あたりを熟読して理解した後に他の部分へ進んでいくなど、それぞれに工夫をするとよい。テキストは、重要事項を強調するために青字を用い、また、理解を深めるためにコラムを設けるなどよく工夫されているので、楽しみながら読みすすんでもらいたい。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目・分野】

商法総則・商行為法、手形法、保険法

【参考文献】

江頭憲治郎『株式会社法（第4版）』有斐閣、2011年

神田秀樹『会社法（第13版）』弘文堂、2011年

山本為三郎『会社法の考え方（第8版）』八千代出版、2011年

【レポート作成上の注意点】

テキストを丸写しすることなく、他にも参考書を読むなどして、問題点を多角的に分析し、再構成することを心がけてほしい。また、会社に関する法制度は頻繁に改正を受けているため、参考文献を用いるときは、どの時点の文献かをよく見極め、常に現行法の規定との整合性を検討することを忘れないようにしなければならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

落合誠一・大塚龍児・山下友信『商法Ⅰ—総則・商行為〔第4版〕』有斐閣、2009年
※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第3版(2006年)、第3版補訂版(2007年)を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

商法とは企業に関する法である。商法は、企業と企業取引に関する特別な規定を置いており、これらの規定を理解することは、私法の一般法である民法の理解もさらに深めることに役立ち、また、この他の企業法の分野に属する会社法や手形法・小切手法、保険法、海商法などを学ぶ橋渡しともなるであろう。商法総則と商行為法は平成17年に改正を受けている。条文番号や内容にも変容があったので、注意しなければならない。

【テキストの読み方】

わからない部分はそのままにしないで、ゆっくり内容を確認しながら読むとよいであろう。特に、商人と商行為の概念ならびにこれらの相互の関係は重要なので、かならず理解するようにしてほしい。なお、テキストの9章(保険取引)は、当該科目のレポート、科目試験の出題範囲から除くものとする。

【履修上の注意】

民法総則は履修済であること。他の民法の科目(債権総論、債権各論など)についても履修していることが望ましい。

【関連科目】

民法関連科目全般、会社法、手形法、保険法・海商法。

【参考文献】

近藤光男『商法総則・商行為法(第5版補訂版)』有斐閣、2008年
藤田勝利ほか編『プライマリー商法総則・商行為法(第3版)』法律文化社、2010年
弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法(第2版)』有斐閣、2006年

【レポート作成上の注意点】

テキストを丸写しせず、問題点を検討し、自らの力で問題点を書き表すように努力して欲しい。参考文献を探す際には、出版年を確認して、平成17年改正商法を前提に改訂された書物や雑誌記事で勉強する方が間違いを避ける意味でもよく、改正前の文献を用いる場合には改正点をよく把握した上で利用しなければならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

山野嘉朗・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講 [第8版]』中央経済社、2010年

【講義要綱】

保険は、人の生活や企業活動におけるリスク・マネジメントの一つとして重大な役割を担っている。その特徴は多数の保険契約者が支払う（純）保険料の総額と、保険金の支払総額とが等しくなるように「大数の法則」に基づく確率計算が行われ、保険事故発生時における支払が制度的に担保されているところにある。

もともと、一般に人の経済活動に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくいのであるが、保険制度にあっては、経済制度としては、保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者の契約のみが問題とされるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なっているという特殊性が生ずる。また、保険制度上保険金支払の確保のための料率計算の必要性から、保険会社が作成する約款によって種々の事柄が規律されている。

その結果、保険契約に関してはさまざまな次元の問題が存在することとなる。近時の商法の判例の中でも、保険契約に関するものの比率が高くなっており、また平成22年4月1日から「保険法」が施行されるなど、重要性の高まってきている分野といえる。

なお、海商法に関しては、商法第三編「海商」中の第六章に規定される海上保険についてのみ対象とする。

【関連科目】

「民法総論」

【参考文献】

西島梅治『保険法 [第三版]』悠々社、1998年

山下友信『保険法』有斐閣、2005年

倉沢康一郎『保険法通論』新青出版、2004年

栗田和明編著『保険法講義』中央経済社、2000年

長谷川雄一『基本商法講義 [海商法] 第二版』成文堂、1997年

重田晴生＝中元啓司＝志津田一彦＝伊藤敦司『海商法』青林書院、1994年

落合誠一＝江頭憲治郎・編集代表『海法大系』商事法務、2003年

『損害保険判例百選 [第二版]』有斐閣、1996年（絶版）

『生命保険判例百選 [増補版]』有斐閣、1988年（絶版）

【レポート作成上の注意点】

問題の所在を明らかにしたうえで、それについての判例・学説を論理的に把握し、自ら整理することが大切であり、それらを前提として、私見を明示しなければならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

手形法

(市販書採用科目) (J 063-9892) [2単位]

【テキスト】

宮島司『やさしい手形法・小切手法 [第2版]』法学書院、2003年

【講義要綱】

手形法は手形についての私法関係を律する法律であるが、手形自体が主に企業取引の道具として使われるものであるため、一般の人々には縁遠い存在である。そのため、手形法の学習にあたっては、まず興味を持ちにくいという難題をクリアしなければならない。しかしながら、手形法学はビジネスライクな企業取引の社会における慣習に基づいて構成されたルールであるため、感情的あるいは一般的・直接的な倫理観から離れた論理的な思考の体系となっている。その意味で、法律学というものの面白さを理解するためには、最適な科目であるといえる。より具体的には、手形行為論を学ぶことによって法律行為論についての理解を得ることができるのである。その意味では、民法を理解するためにも手形法を学ぶことには意義がある。

【テキストの読み方】

テキストとして指定した、宮島司『やさしい手形法・小切手法 [第二版]』では、手形法の骨格が具体的にわかりやすく解説されている。学問的にも高い水準にあり、入門者には最適の書物である。

手形法はしっかりとしたシステムティックな体系を持っているため、一時的に消化不良になるのは必然的であるが、とりあえず本書を通読することが必要である。

【履修上の注意】

本来は、学習にあたっての基礎として、「民法総論」と「債権総論」の知識が必要であるが、「手形法」を学びながら、民法を振り返るといった形でも構わない。

【関連科目】

「民法総論」、「債権総論」

【参考文献】

田辺光政『最新手形法小切手法 (四訂版)』中央経済社、1994年

前田庸『手形法・小切手法』有斐閣、1999年
丸山秀平『手形法小切手法概論（第2版）』中央経済社、2001年
丸山秀平『演習講義手形・小切手法』法学書院、1994年
倉沢康一郎『手形判例の基礎』日本評論社、1990年
鴻常夫ほか『手形小切手判例百選〔第6版〕』有斐閣、2004年

【レポート作成上の注意点】

問題の所在を明らかにしたうえで、それについての判例・学説を論理的に把握し、自ら整理することが大切であり、それらを前提として、私見を明示しなければならない。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑事政策学

（市販書採用科目）（J 085-0891）〔2単位〕

【テキスト】

安部哲夫・守山正編著『ビギナーズ刑事政策〔第2版〕』成文堂、2011年

【講義要綱】

この問題に解答するに先立ち、まずは罰金の刑罰としての意義や限界を確認し、続いて罰金の適用状況や納付状況を最新の統計に基づいて分析する。そのうえで、罰金を完納することができない者に対し、どのような制度的工夫や代替策があるかを調べ、それぞれについて検討することが課題である。

【テキストの読み方】

テキストはレポート作成の上での単なる出発点にしか過ぎないので、テキストに掲載されている参考文献や論文は勿論、更にそれらの中に示されている参考文献や論文といった具合に、当該問題に関する参考文献や論文を幅広く集め、それらを丁寧に読んだ上でレポートを作成すること。犯罪情勢の変化や立法の動きが激しいので、古い文献や資料を用いるときには注意を要する。

【関連科目】

刑法、刑事訴訟法

【参考文献】

テキストに示されている参考文献やその中の参考文献等を参照のこと。犯罪の動向を把握するには、犯罪白書や警察白書といった白書のほか、警察統計（平成～年の犯罪）、検察統計、司法統計、矯正統計年報、保護統計年報などが参考となる。

【レポート作成上の注意点】

テキストをまとめるだけのレポートでは合格点はない。課題に関連した文献や論文のうち重要なものをきちんと読んであるかも採点の重要な基準となる。さらに、「～という問題がある」という記述だけで終わっているレポートが多いが、その問題に対してどう考えるか、それとは異なる見解があるか、ある場合は、なぜそうした見解をとることができないのか、などをきちんと論ずるのがレポートの課題である。なお、再提出となった場合、前回の講評で求められていることを踏まえて次回のレポートを作成すること。前回の講評を加味して作成したとは思えないレポートや、前回の講評を考慮しないで、全く異なる内容としたレポートは、「添削不能」として処理するので注意すること。テキストや他人の文献等の丸写し、インターネット上の他人の資料等のコピー&ペーストは、添削不能とするばかりでなく、悪質なものと不誠実なものは、不正行為として処分の対象となるので、くれぐれも気をつけること。参照したり、引用した文献や資料は、必ず脚注に出典（著者名、題名又は書名、掲載雑誌又は出版社、刊行年、頁数）を書くこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑法各論

（市販書採用科目）（J 072-0291）〔4単位〕

【テキスト】

井田良『新・論点講義シリーズ2 刑法各論』弘文堂、2007年

※同『論点講義シリーズ10 刑法各論』（弘文堂、2002年）でも単位修得には問題ありませんが、なるべく新しい版で学習をすることをお勧めします。

【講義要綱】

刑法各論は、個別の犯罪（たとえば、殺人罪、強盗罪、放火罪など）を規定した各刑罰法規の解釈論を展開することを内容としている。刑法総論が、犯罪と刑罰の基礎理論、犯罪（ただし個々の犯罪ではなく、およそ犯罪たるもの）の構成要素ないし成立要件、すべての犯罪に共通して妥当するような理論、刑罰の種類と適用などを対象とするのに対し、刑法各論は、総論の知識を前提としつつ、個々の刑罰法規に規定されたそれぞれの犯罪の特殊な成立要件を明らかにすることを中心とする。すなわち、それぞれ個別の犯罪類型を定めた刑罰法規の解釈を通して、各犯罪の具体的な内容と成立要件（たとえば、名誉毀損罪はどのような場合に成立するか）や、犯罪類型の相互関係（たとえば、窃盗罪と詐欺罪との関係）などを明らかにしようとするのである。

刑法各論は、身近な事例をめぐって法的論理が縦横に展開される、興味の尽きない学問領域である。「雑多な刑罰法規に関する種々の情報を平板に羅列したもの」などでは決してない。

ただし、その面白さを本格的に味わうためには、刑法総論のかなり進んだ理解が前提となるであろうし、テキストをくり返し読むことが必要になるであろう。

各論を学ぶにあたっては、テキストの中に刑法の条文が引用されているときはもちろん、そうでなくても、つねに手元の六法を参照していただきたい。テキストを読んで理解が難しい箇所につづいたら、条文の内容が頭に入っているかどうか自問自答してほしい。テキストは、読者が六法を参照することを当然の前提として書かれている。重要な条文については、規定の文言をだいたい暗記してしまうほど何度も読み返すべきである。

また、応用力を養うためには、各論の重要な論点について立ち入った勉強をすることが必要である。すべての論点について掘り下げた研究をすることは不可能であるが、代表的ないくつかの論点を選んで教科書レベルをこえた勉強をすることは、各論全体に対する理解を数段深めることを可能にする。たとえば、芝原邦爾ほか編『刑法理論の現代的展開・各論』（日本評論社、1996年）、町野朔『犯罪各論の現在』（有斐閣、1996年）、山口厚『問題探究・刑法各論』（有斐閣、1999年）、曾根威彦『刑法の重要問題〔各論〕』（成文堂、2006年）などは、そのような学習に最適の文献であろう。

【テキストの読み方】

指定テキストを読んでわからない用語や概念があれば、そのつど法律用語辞典でその意味を確認しながら読み進めるべきだということは、「刑法総論」の場合と全く同様である。場合によっては、「刑法総論」の教科書を適宜参照する必要もでてくるだろう。「刑法総論」の場合と同じく、テキストを何度も読み返しなが、地道に粘り強く学習することが肝心である。

また、後掲の判例教材を用いて教科書に出てきた判例の事案と判旨を逐一確認すれば、学習効果は倍増する。

【履修上の注意】

特になし。基礎的な知識が欠けていると感じる場合は、まず井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第4版〕』（有斐閣、2010年）を読んでほしい。

【関連科目】

「刑法総論」「刑事政策学」「刑事訴訟法」

【参考文献】

西田典之ほか『判例刑法各論〔第5版〕』有斐閣、2009年
井田良ほか『よくわかる刑法』ミネルヴァ書房、2006年

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、まず問われている論点を発見しなければならない。そのためにはテキストや参考文献をよく読むことが不可欠である。論点を発見したら、関連する判例と学説を調べ、何をめぐって見解が対立しているのかを理解しなければならない。そのう

えて、自分の見解（オリジナルなものである必要はない）を確定して、レポートにまとめ上げる作業が行われなければならない。自分の頭だけで考えて何かを書いてもそれはレポートにならないし、学説や判例をどれだけ調べ上げてまとめても、自分の見解が述べられていなければ合格点はつかない。参考にした文献はすべて引用する必要がある。特定の文献を引き写したレポート（ましてや他人のレポートを写したもの）はたんに不合格というばかりでなく、不正行為と評価される。

なお、本科目は「刑法各論」であるが、レポート作成の際、場合によっては「刑法総論」の文献も参照する必要がある。

【成績評価方法】

科目試験による。

民事訴訟法

（市販書採用科目）（J 065-9892）〔4単位〕

【テキスト】

池田辰夫編『新現代民事訴訟法入門』法律文化社、2005年

これは中野貞一郎編『現代民事訴訟法入門〔新版〕』の改訂版というべきものであり、2004年の民訴法の改正にも対応している。

【講義要綱】

実体私法（民法や商法）は、具体的な権利の内容や権利の変動（権利の発生・変更・消滅等）のための要件事実を規定している。そこで権利の有無が争われた場合、裁判所は要件事実の存否を調べ、それに基づいて権利の有無を判断して、紛争の決着をつけることになる。この裁判所の判断（判決）が形成される手続が民事訴訟であり、この手続を規律しているのが民事訴訟法である。実体法上の権利の実現や私法秩序の維持は民事訴訟を通じて実現されるということができ、民事訴訟は民事紛争を法的に（正義に基づいて）解決するための手続ということもできる。つまり実体法と訴訟法は正に車の両輪に譬えられるもので、両者があいまって社会の法の秩序が維持されている。

本講義の目的は、民事訴訟法の解釈を通して、民事訴訟手続の内容や構造、そこに働く原理や原則を明らかにするものである。なお原告が私法上の請求権の実現を求めて訴えを提起した場合に、請求権の存在が裁判所の判決において認定され、その判決が確定したならば、請求権の内容は実現されることになっている。請求権の強制的な実現を目的にする手続が強制執行手続であり、民事執行法が規定している。

【テキストの読み方】

テキストを読んで、重要な用語や概念はテキストに線を引くなり、ノートにまとめるなりして、正確に理解し覚えること。同時にそれらの用語や概念は、具体的にはどのような事態

(事例) を想定して作られたものであるかを考えることが重要である。用語や概念は、具体的な問題を解決するための指針として作られていることを忘れてはならない。したがって、判例や演習書を参考に、常に具体的な事例を考えながら勉強するとよいであろう。次に民事訴訟手続の流れを自分なりに図等でまとめておくことも大切である。大局的に民事訴訟手続を理解することができるからである。

なおテキストの記述が簡単なため、内容を理解することが困難な場合は、詳しく記述されている体系書を参考にするとよい。また訴えや判決に関する箇所を読む場合、訴状や判決書を一度見ておくと理解しやすくなる。訴状や判決書のモデルは民事訴訟の実務に関する本に掲載されていることが多いし、判決書の書式は判例を判例集や雑誌で読むことによって知ることができる。

【履修上の注意】

「民法総論」、「物権法」、「債権総論」、「債権各論」、「会社法」、「手形法」等の民法・商法の基本科目の中で、少なくとも2科目以上は学習を終えていることが望ましい。

【関連科目】

「破産法」:「破産法」を履修する場合は「民事訴訟法」について学習を終えていることが必要である。

【参考文献】

参考書を利用する場合、法の改正に注意する必要がある。現在の民事訴訟法が施行されたのは1998年であるが、その後次のような改正がなされている。2003年に民事訴訟法はいくつかの事項に関して改正された。同年、民事訴訟法と密接な関係がある人事訴訟手続や仲裁手続に関して、新しい法律が成立し公布された。すなわち人事訴訟法、仲裁法である。そして2004年にも民事訴訟法の一部が改正された。その後も他の法律の改正により、それに対応して民事訴訟法の条文の改正が行われていることにも注意する必要がある。例えば、郵便事業の民営化に伴い、送達に関する規定が改正された。すなわち民訴法99条2項、104条3項2号等の改正である。「犯罪被害者等の権利利益の保護を図るための刑事訴訟法等の一部を改正する法律」(平成19年法律第95号)により、証人尋問に関する規定が改正された。すなわち民訴法203条の2、203条の3の追加、204条の改正である。

2011年には次のような法律が成立し公布された。「民事訴訟法及び民事保全法の一部を改正する法律」(平成23年法律第36号)、「非訟事件手続法」(平成23年法律第51号)、「家事事件手続法」(平成23年法律第53号)。

そこで参考書を利用する場合は、これらの改正を織り込んでいるものを利用すべきである。参考書が改正法を参照して書かれているか否かを見分けるには、本の冒頭のはしがきを読んだり、本の最後の奥付の出版年を見て判断することになる。

もっとも理論的な問題や法律の改正に影響されない問題であれば、上記の法の改正に影響を受けることはない。したがって、2003年7月以前に出版された本の価値がなくなったとか、

利用できないということではない。レポートの課題は理論的な問題であり、上記改正に直接影響は受けないので、改正を織り込んでいない参考書でも十分に利用できる。なお2004年の民事訴訟法の改正の概要は、坂原正夫「民事訴訟手続のオンライン化について」（三色旗691号15頁以下〔2005年10月1日発行〕）において述べられている。

I 一般的な体系書

以下に代表的な体系書を挙げる（編著者名の五十音順）。

伊藤眞『民事訴訟法〔第4版〕』有斐閣、2011年

上田徹一郎『民事訴訟法〔第7版〕』法学書院、2011年

梅本吉彦『民事訴訟法 4版』信山社、2009年

河野正憲『民事訴訟法』有斐閣、2009年

新堂幸司『新民事訴訟法〔第5版〕』弘文堂、2011年

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 上〔第2版〕』有斐閣、2011年

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 下〔補訂第2版〕』有斐閣、2010年

中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義〔第2版補訂2版〕』有斐閣、2008年

松本博之＝上野泰男『民事訴訟法〔第6版〕』弘文堂、2010年

II 判例や事例を知るための参考書

高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選〔第4版〕』（別冊ジュリスト201号）有斐閣、2010年

III 論点を整理するための参考書

伊藤眞ほか編『民事訴訟法の争点』（ジュリスト増刊、新・法律学の争点シリーズ4）有斐閣、2009年

IV 辞典

林屋礼二ほか編『民事訴訟法辞典』信山社、2000年

V 注釈書

体系書や教科書というものは理論的な体系に基づいて書かれるものであるが、注釈書は条文の条数の順に、それぞれの条文の内容を説明しているものである。詳細なものから簡単なものまでであるが、いずれにしても利用に際しては、先ず注釈書の当該条文が現行法の条文と同じか否かをチェックする必要がある。法の改正に関係がない条文であれば、最新のものでなくても利用できる。最新の注釈書としては次のようなものがある（編著者名の五十音順）。

秋山幹男ほか著『コンメンタール民事訴訟法 I〔第2版〕・II〔第2版〕・III・IV』日本評論社

Iは1条～60条で、2006年

IIは61条～132条で、2006年

IIIは133条～178条で、2008年

IVは179条～242条で、2010年

笠井正俊ほか編『新・コンメンタール民事訴訟法』日本評論社、2010年
兼子一原著、松浦馨ほか6名著『条解民事訴訟法 第2版』弘文堂、2011年
小室直人ほか編『基本法コンメンタール・新民事訴訟法〔第3版〕1～3』日本評論社
1は1条～132条の10で、別冊法学セミナー197号(2008年)
2は133条～280条で、別冊法学セミナー194号(2007年)
3は281条～405条で、別冊法学セミナー195号(2008年)
三宅省三ほか編集代表『注解民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ』青林書院
Ⅰは1条～60条で、2002年
Ⅱは61条～132条で、2000年

【レポート作成上の注意点】

理論は、具体的な問題に対して解決の指針を与えるものでなければならない。また具体的な問題に対する妥当な結論は、民訴法の理論と整合しなければならない。そこでこのようなことを考えてもらいたいと思い、事例問題をレポートの課題とした。

次に注意すべきことは、法律学においては、答えは一つではなく複数存在するという点である。そして重要なことは、それらのいずれかを選択するための思考過程である。すなわち、様々な観点から問題を検討して一つの解答を選択する決断こそが、法的思考能力を充実させるために重要である。したがって、このような検討と選択によってレポートが作成されなければならない。これが正にレポートにおいて問われるポイントである。

設問はなるべく学説が鮮明に対立している事項に関して作成した。このような出題の意図を十分理解して、レポートを作成してほしい。すなわち、学説が対立しているのであれば、それぞれの説の長所、短所をよく検討してから、自らの見解をまとめることが重要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

破産法

(市販書採用科目)(J 077-0591)〔2単位〕

【テキスト】

加藤哲夫『破産法〔第5版〕』弘文堂、2009年

※第6版が2012年6月に刊行予定です。そちらを購入してから学習を進めても構いません。

【講義要綱】

リーマンブラザースの破綻を端緒として、100年に1度といわれる昨今の不況により倒産企業件数も増加している。2010年の日本航空に対する会社更生手続開始はその象徴といつてよいであろう。そうした中、倒産処理法制に対しこれまでになく注目が集まっている。

わが国には複数の倒産処理法制度があるが、それらは多かれ少なかれ、破産法を基礎にし

て構築されている。よって、破産法は倒産法制度の基本をなす法律であり、倒産法制の理解のためには、破産法の学習が不可欠である。本講座は、その破産法の基礎を十分に身につけてもらうことを目的とする。

【テキストの読み方】

テキストを読む場合、目次を大いに利用してもらいたい。すなわち、毎回テキストを読み始める前には、目次で、これから今自分はどの部分を読むのかということを常に確認すること。それによって、読む箇所の体系的な位置づけができるようになる。その場合、読んだ部分の要約をサブノートに書きながら読むと、より理解が深まると思う。また、破産法では、いろいろな聞き慣れない専門用語が出てくるが、おっくうがらずに、その都度法律学辞典等でその意味を調べて、内容を確実に理解するようにすること。さらに、後述の『倒産判例百選〔第4版〕』（有斐閣）を利用して、判例とリンクさせながらテキストを読むと、その意味内容の理解が深まるであろう。

また、テキストに出てくる条文は、おっくうがらずに丹念に必ず六法全書で読んでおくこと。できれば、時間をみつけては、破産法の条文を1条から最後まで繰り返し読むようにしてほしい。

【履修上の注意】

破産手続は、実体法と手続法が複雑に絡まりながら進行していくものであり、破産法を理解するためには、そのための基礎知識が是非とも必要となる。よって、実体法としては、とくに民法財産法（民法総論、物権法、債権法）、および広い意味での商法（会社法、手形・小切手法、商法総則・商行為法）を学習しておくことが必要である。また、手続法としては、とくに民事訴訟法を、またもし可能であれば、民事執行法の学習もしてほしい。また、破産法には、民事再生法や会社更生法におけるのと類似した制度があるので、破産法を勉強するときには、常に、民事再生法や会社更生法の教科書等をひもとくように努力してほしい。

【関連科目・分野】

「民事訴訟法」、「民事執行法」、「民法」、「商法」、「民事再生法」、「会社更生法」等

【参考文献】

- 加藤哲夫『破産法〔第5版〕』弘文堂、2009年（教科書）
- ※第6版が2012年6月に刊行予定
- 伊藤眞『破産法・民事再生法〔第2版〕』有斐閣、2009年
- 小林秀之・齋藤善人『新論点講義シリーズ3 破産法』弘文堂、2007年
- 山本和彦『倒産処理法入門〔第3版〕』有斐閣、2008年
- 青山善充・伊藤眞・松下淳一編『倒産判例百選〔第4版〕』有斐閣、2006年

【レポート作成上の注意点】

レポートを書くに当たっては、①問題が何を問うているかをしっかりと理解し、それに沿っ

た内容で書くこと。②立論に当たっては、必ず、根拠となる条文および文献を丹念に引用すること。民法や商法の実体法の議論状況、および民事訴訟法の論点等にも常に気を配ること。③レポートを書く前に、テキスト等を熟読して、その内容を理解した上で書くこと。④レポートは、人に読ませるものであることを第1に考え、読みやすい字で丁寧に書くこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

刑事訴訟法

(J 081-0702) [4 単位]

【講義要綱】

刑事訴訟法では、捜査から判決までの一連の手続きの流れを学ぶとともに、事実認定の資料となる証拠法に関しても学びます。刑事訴訟法では、ある「犯罪」という出来事について、捜査、公訴、公判・証拠、裁判と様々な場面で論点が密接な関連をもっていますので、ある局面だけで考えるのではなく、例えば、捜査段階での違法が認められる場合、公訴提起できるのか、公判ではどのような争点が生じるのか、証拠法では何が争点となるのか、結果的に有罪判決を言い渡せるのか、を検討する必要があります。

なお、テキストの目次を参照して、どのような論点があるのかをつかんでください。

【テキストの読み方】

テキストでは多くの判例をとりあげています。刑事訴訟法の理論が実際に判例でどのようにあてはめられているのかを学んでください。なお、テキストを読むときには必ず該当条文を参照してください。

【履修上の注意】

刑事訴訟法を履修するにあたって、「法学」の基礎知識と「刑法」についても勉強しておいて下さい。

【関連科目】

憲法・刑法

【参考文献】

安富潔『演習講義刑事訴訟法』〔第2版〕法学書院、2001年

安富潔『刑事訴訟法』三省堂、2009年

亀井源太郎『ロースクール演習刑事訴訟法』法学書院、2010年

井上正仁ほか編『刑事訴訟法判例百選』〔第9版〕有斐閣、2011年

【レポート作成上の注意点】

1. 法学では、正確な概念の理解が不可欠です。しっかりテキストを読んでからレポートを

書いて下さい。

2. 課題では何が論点なのかよく考えて下さい。
3. きちんと条文を参照しながら文章を作成して下さい。なお、法律改正に留意して最新の『六法』を用意して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・国際私法

(市販書採用科目) (J 097-1191) [2単位]

【テキスト】

櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』有斐閣（有斐閣Sシリーズ）、2006年

【講義要綱】

国際私法とは、渉外的な私法関係（外国的な要素を何らかの形で含んでいる民商法に関連する事実関係）に、適用すべき法を指定する規則のことです。

例えば、「婚姻の身分的な効力」、「不法行為債権の成立」、「物権変動」など予め典型的に分類された法律関係（単位法律関係）ごとに、もっとも密接に関連する事項（連結点）を定めておき、この事項が存在する国の法が指定されます。

具体的には、A国航空会社の飛行機が、B国内で墜落し乗客が死亡した場合には、「不法行為の成立」が単位法律関係とされますが、この連結点は「不法行為地」と定められていますから、B国の民法が指定されることとなります。このB国の民法を、準拠法（準拠実質法）といいます。

学習は、予め分類されている単位法律関係ごとに、その連結点と準拠法を確認してゆくという作業によって行います。加えて、その分類の妥当性、連結点の設定の仕方の妥当性（制定法の正当性）をも、検討する必要があります。

【テキストの読み方】

財産関係については、参考文献も参照すること。

【履修上の注意】

国際私法は、民法、商法、民事訴訟法の基礎知識があることが前提とされています。不安のある方は、少なくとも「民法総論」の教科書を復習しておく必要があると思います。

【関連科目】

民法、民事訴訟法

【参考文献】

澤木敬郎・道垣内正人『国際私法入門〔第6版〕』有斐閣（有斐閣双書）2006年

【レポート作成上の注意点】

国際私法の基本的な法源である「法例」は、2006年12月31日をもって廃止され、翌2007年1月1日からは、名称が変更されて、「法の適用に関する通則法」として施行されました。財産関係を中心に大きな改正がなされたため、旧い教科書では、内容上対応できません。したがって、前掲のテキスト及び参考文献を必ず使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

労働法（J）

（市販書採用科目）（J 092-1091）〔2単位〕

【テキスト】

神尾真知子・増田幸弘・内藤恵『フロンティア労働法』法律文化社、2010年

【講義要綱】

労働法とは、賃金を得て生活する者（労働者）と使用者との関係を規律する様々な法律の総称です。大別すると、以下の4つの領域として理解されます。

①、雇用関係に入る際の求人と求職に関わる法制度と政策を学ぶ、労働市場法。その中心的なテーマは、求職・求人に関する行政的支援・職業能力開発・雇用安定等で、昨今問題とされることの多い労働者派遣などもこの中で学びます。②、労働契約締結からその終了に至るまでの法律問題を考察するのが、個別的労働関係法です。ここでは、労働者と使用者の二者間の契約に基づく様々な労働条件、およびその変更が中心的テーマとなります。③、労働者・使用者に加えて労働組合という第3の主体が加わり、憲法28条の労働基本権を三者の間で具体化する領域が、集団的労使関係法です。労働組合・団体交渉・労働協約・争議行為、等を議論します。④、最後に現代社会では、労使間の紛争をいかに処理するかも重要な課題です。このような労働紛争の解決にかかる様々な法制度にも目を配る必要があります。

新テキストは、現代的視点も含め、以上の領域全てを学べるようになっています。

【テキストの読み方】

伝統的な労働法の論点は、上記の②と③の領域にあります。②は、民法の雇用契約を発展させた領域ですが、現在では労働契約法も施行され、労働法独自の体系が整ってきています。③の領域は、憲法第28条の趣旨を如何に具現化するかを重視しております。但し興味深い論点のいくつかは、個別法と集団法の2つの法理が交錯する部分に生じます。

また労働法学は、現実社会の紛争から切り離すことの出来ない領域です。労働法学の学習には、総合的かつ体系的な理論を学習することに加えて、具体的な裁判例を学ぶことが必須です。学習に際しては労働法判例百選なども利用し、当該テーマにかかる学説が、具体的にどのような事案として生じているかを学んで下さい。

最後に労働法学は、研究者のスタンスが分かれやすい領域でもあります。1冊のテキストに偏ることなく、複数の参考書を読み、相互に比較検討することをお願いします。かつまた現代社会では雇用の流動化が進み、労働市場に目を配る必要もあります。

【履修上の注意】

法律学を学ぶ際には、まず一般法の知識を得た上で、特別法による修正法理を学ぶ方が効果的です。労働法を学習するには、まず憲法、民法総則、債権各論を学習した後に履修することをお願いします。労働法学は法解釈学であり、労働関係を対象としております。社会政策や労働経済学の隣接領域ですが、それらを主として学ぶわけではありません。あくまでも法律学の1科目です。

【関連科目・分野】

上述したように法律学としての労働法は、憲法、民法総則、債権各論を基礎としています。同時に他学部の科目としては、社会政策学や労働経済学とも関連します。

【参考文献】

注意：労働法は改正が頻繁に行われる領域です。参考文献は、常に最新版を使用して下さい。（下記には、当該シラバス原稿作成時における情報を入れておきます。）

まず最初にテキストを用いて、当該テーマの全体像をつかみます。次にテーマに関連する専門書、あるいは法律専門誌や大学紀要に掲載されている専門的論文、さらには裁判例の原本に当たって考察を深めて下さい。

- 1) 指定テキストの他に、入手しやすい初学者向きの参考書として、
 - ・中窪・野田・和田『労働法の世界』（第9版）有斐閣、2011年
 - ・安枝・西村『労働法』（第10版）有斐閣プリマ・シリーズ、2009年
- 2) 裁判例の概略を簡易に学ぶために
 - ・別冊ジュリスト、労働判例百選（第8版）有斐閣、2009年
 - ・菅野ほか『ケースブック労働法』（第6版）弘文堂、2010年
- 3) さらに専門的に学ぶ際の専門的概説書
 - ・菅野和夫『労働法』（第9版）弘文堂、2010年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する前に、まずテキストを通読して下さい。次にレポートの構成を考える際には、当該テーマに関する専門書・専門論文・判例等を収集し、読み比べ、論点を整理した上で取り組んで下さい。レポートの末尾に必ず参考文献一覧を明記すること。

時に、単なるテキストの要約を提出する学生がいます。これは評価できないのでご注意ください。なお他の文献から直接引用する場合には、必ずその出典を明示して下さい。その際は、文献や判例の引用方法を確認すること。インターネットの情報を引用する場合には、作成者が明らかにされているもののみを補助的に使い、URLに加えて当該HPの作成者とそのHP

の名称を明示して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済法（J）

（市販書採用科目）（J 078-0591）〔2単位〕

【テキスト】

白石忠志『独占法講義〔第5版〕』有斐閣、2010年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版、2009年、もしくは第3版、2005年を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

本講義は、経済法の中核をなし、その基本的秩序を形成する「独占禁止法」の大系を学習することを目的としている。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず国際経済をも基本的に秩序づけているいまやグローバルスタンダードといえる。また、現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和22年（1947年）に制定され、現在にいたるまで60年余が経過した。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに応じて変容してきたといえる。現在、独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。もちろん、慶應義塾に学ぶ学部学生諸君にとってはそれだけでは充分といえない。これらの法運用がいかなる理念ないし理論のもと実施されているのかを的確に理解したうえで、それぞれが、これらの問題を自らの問題として取り組み、直感ではなく冷静かつ合理的な判断ができることを本講義では最終的な目標とする。

【テキストの読み方】

テキストを読む際には、理論的な説明ばかりに気を取られずに、テキスト内で取上げられている事例も適宜参照してもらいたい。事例について詳しく知りたい場合は、舟田正之他編『経済法審決・判例百選』（別冊ジュリスト199号、2010年）を参照するのが便利である。また審決や判決それ自体に当たることも重要である。特に経済法の場合、様々な取引が問題となっており、ケースを読むとビジネスの裏側がよく分かるので、ケース分析は非常に楽しいものである。是非、審決や判決それ自体についても、図書館で読んでみて欲しい。

【履修上の注意】

履修に際し、他の特定の科目を事前に履修している必要はない。ただし、経済法では、現

実の経済活動や取引関係について、幅広く分析することになるので、新聞報道などに関心を持ってもらいたい。

【関連科目】

経済法・独占禁止法は、一面において、事業者の経済活動を市場メカニズムの機能を有効に発揮させることによってコントロールするものであり、人・法人の経済活動に関わる基本的な法制度（民法、商法、会社法）との関わりを無視することはできない。他方、事業者の経済活動が市場を場として行われ、ここにおける競争が国民経済の発達という公共目的と結びついて理解されることは、政府・公権力の権力行使とこれに関わる法制度（憲法、行政法、刑法）に自ずと関心を向かわせる。

このように経済法はさまざまな法制度の応用であり、これらの理解は経済法それ自体の把握に役立ち、またその前提でもある。本講義以外に、労働関係法や金融関係法も近時重要な関連科目となってきている。

また、市場や経済の秩序ないしは制度を考察の対象とする本講義の関心と関連して、経済主体の決定や行動、更に望ましい社会的厚生の実現に関する学—経済学とりわけミクロ経済学（とその応用分野としての産業組織論や「法と経済学」）など—にも強い関心と問題意識を持って取り組んでもらいたい。

【参考文献】

白石忠志『独占禁止法 第2版』（有斐閣 2009）

根岸哲編『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009）

【レポート作成上の注意点】

レポートの課題は、独占禁止法の内容を全体を通じて適切に理解できているか否かを端的に問う問題である。当然、受講者諸君が上に掲げた文献の該当部分だけを読み比べるだけでは当方が求める解答にはたどり着けないであろう。テキストや参考文献を丁寧に読み込んで、それらの考え方を整理・検討してもらいたい。独占禁止法の体系的な把握についてはさまざまな見解があり得るわけで、本レポートにおいても受講者諸君にこれらを凌駕する独自の見解を求めているわけではない。むしろ、ここで取上げられている議論を整理し、自分なりの主張を（これらの業績の上に主張するとしても）客観的な根拠と一貫した論理に基づいて論ずることができるかどうかにある。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

この科目の学習目的は、大陸法とは対極にある法体系としての英米法、即ち、コモンロー体系について理解することにある。

何故、大陸法系の法制度を持つ日本の法律を学ぶものが英米法を学ぶか。それは法の本質、法と民主主義、正義のあり方、裁判所の役割等につき、より深く正しく理解し、我が国の法及びそれをとりまく制度につき、批判的に理解するためである。

それゆえ、この科目においてはコモンローの特徴である判例法主義、陪審制、また、連邦制及び、それを形成する基盤たるアメリカ合衆国憲法、マグナカルタ等が、歴史的にどのように出現し、現在、それがどのような制度として確立されているかを知り、理解すべく、学習研究を行わなければならない。

【履修上の注意】

「法学（憲法を含む）」、「刑法各論」、「憲法」、「債権総論」、「債権各論」、「民法総論」、「商法」、訴訟法1つ（「民事訴訟法」か「刑事訴訟法」か）、「国際私法」、以上の科目を履修済みであることが望ましい。

【参考文献】

『英米法判例百選』（ジュリスト）有斐閣

伊藤正己・木下毅『アメリカ法入門〔第3版〕』日本評論社、2000年

田中英夫『英米法概説〔再版〕』有斐閣

『英米法』（現代法学全集48）

その他。

【レポート作成上の注意点】

- ・テキストをしっかりと通読すること：異なる法体系について学ぶのだから、その法体系の特徴、性質をしっかりと理解してからレポートに取り組む必要がある。
- ・何が問われているかをよく考えること：論点は何かをしっかりと把握し、それに沿ったレポートの構成を考えて自分の言葉で議論をすすめる必要があります。参考書をつぎはぎにしたような表現はしないことが大切です。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

以下を修得することを目標とする。

1. 政治過程に関する知識

私達の将来を決める政治的決定は、決定を決める決定（制度、ルール）、様々な状況などから生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼んでもよい。選挙などを通して私たちはこの決定に関わっている。

2. 政治におけるものの見方

民主主義とは何か？ どこまで平等を達成すべきなのか？ こうした問いに自然科学的意味での「正解」はない。知識を蓄積するだけではなく、それをどう見るかという様々な「ものの見方」について学ぶ必要がある。

3. 理論と現実

理論として合理的であっても、現実がそれに一致しない場合もある。理論から現実を曲げるのではなく、その相違が意味することを考える必要がある。

【テキストの読み方】

意味のわからない語をそのままにせず、辞書やインターネットで調べる癖をつけられたい。テキストに書いてあることをそのまま受容するだけが勉強ではない。時にはその意味を疑い、自分で調べ、自分で考える必要もある。

【履修上の注意】

すべての学問はそうであるがとりわけ政治学は、幅広い知識とそれを統合する現実的感覚が必要である。日本政治、国際政治はもちろんであるが、経済、社会、歴史、文化等にも目配りが必要である。

その上で移り変わる現象だけでなく、不変なもの、普遍なものは何かを見抜く眼を養われたい。

【関連科目】

「憲法」、「法学」、「経済学」、「社会学」、「心理学」

【参考文献】

堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識 第2版』一藝社、2007年

【レポート作成上の注意点】

- ・論文・レポートの書き方には一定のルールがあり、それを踏まえた方が、よりよい文章となる。論としての構成の作り方など基本的事項をまず身に付けられたい。
- ・参考文献は一冊では十分ではないので必ず複数あたること。また事典、辞典の類も概念把握には役立つ。注意して使用すればホームページなども参考になる。

- ・テキストを丸写しすることは、必ずしもよいとは限らない。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治哲学

(市販書採用科目) (J 093-1091) [2単位]

【テキスト】

D. ミラー『政治哲学』岩波書店、2005年

【講義要綱】

先頃、ハーバード大学の政治哲学教授であるマイケル・サンデルの「白熱教室」がNHKでも放送され話題をさらい、一種の「正義論ブーム」が我が国でもまきおこるといふ希有な現象が見られたことは記憶に新しいだろう。この一連の講義のなかで、サンデルがとりあげていたテーマの一つにアメリカの大学の「入学資格を議論する」というものがあった。

そこで主としてとりあげられていたのがアファーマティブ・アクションと呼ばれる積極的差別是正措置である。サンデルは、一例としてロースクールを受験し不合格となったある女子学生が起こした訴訟を取り上げる。白人女性である彼女は、合格したマイノリティの出願者よりも成績がよかったにもかかわらず不合格となったことを不服として裁判に訴えたのである。

正義とはすべての人間に一律に同じルールを適用することだろうか。そうでないとしたら、どういう視点をわれわれは持つべきだろうか、またどのような方法を用いるのが適切だろうか。それがあつた別の人の権利を侵害することになるとしたらどうか。またこうした議論がどこまでレガシー・アドミッションについても言えるだろうか。こうした問題を多面的に検討してほしい。

【関連科目・分野】

政治学、近代政治思想史、法学、法哲学の基礎知識は必要である。

【参考文献】

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』早川書房、2010年

マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(下)』早川書房、2010年

【レポート作成上の注意点】

1. 参考文献の丸写しやWeb検索したページのカット&ペーストは不正行為とみなします。不十分でも自分なりの考察を行うこと。
2. 参考文献から引用するときは、必ず注をつけて、著者、著作、引用頁を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本政治史Ⅰ—古代— (J 034-7702、J 7740)〔2単位〕**【講義要綱】**

東アジア情勢の変化に注目しつつ、古代の政治発展について考察する。

【参考文献】

『日本の歴史』第2巻(上田正昭「大王の世紀」)第3巻(井上光貞「飛鳥の朝廷」)(小学館)

【成績評価方法】

科目試験による。

日本政治史Ⅱ—中世— (J 042-8502、J 8571)〔2単位〕**【講義要綱】**

中世日本の権力構造を多角的に考察する。

【参考文献】

テキスト末尾の参考文献リストを参照のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本政治史 (J 024-7202、J 7254)〔2単位〕**【講義要綱】**

近代日本における政党政治の内実を、政治家の事跡を通じて理解することに目的があります。

【テキストの読み方】

近代立憲政治史上の位置づけをするためには、近代日本の政治史、とりわけ憲政史の流れをつかんでいなければなりません。テキストは、そうした流れを抑える視点から熟読してください。

【参考文献】

岡義武『近代日本の政治家』岩波現代文庫、2001年

玉井清『原敬と立憲政友会』慶應義塾大学出版会、1999年

【レポート作成上の注意点】

政治家の履歴をただ記述するのは不可です。課題文にある通り、政党政治家と呼ぶことができる理由についての考察が重要です。そのことへの論及が十分でない場合は、不合格となります。なお、参考文献は一例に過ぎません。

【成績評価方法】

科目試験による。

ヨーロッパ政治史

(J 023-7201、J 7256)〔1単位〕

【講義要綱】

20世紀のヨーロッパ政治の歴史を、ヨーロッパ統合を中心として各国政治の発展と結びつけながら学習します。ヨーロッパ主要国の歴史と、ヨーロッパ統合の歴史、そして冷戦や国際環境の変化などを総合的に把握して下さい。

【参考文献】

遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、2008年。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ政治史

(市販書採用科目)(J 095-1091)〔4単位〕

【テキスト】

紀平英作編『新版世界各国史24 アメリカ史』山川出版社、1999年

【講義要綱】

アメリカ合衆国の政治史の概説。植民地時代から現代までをバランスよく学ぶ。アメリカ政治の特徴についての歴史的なアプローチであるといつてよいであろう。いわゆる文学部西洋史学科の歴史科目よりは政治学的あるいは理論的な分析視角が入っているものの、基本的に歴史であることには変わりがない。

本科目においては、アメリカの国内政治の展開だけでなく、外交政策の展開も重視されている。日本にとってもっとも重要な国であるアメリカ合衆国の内政および外交について、とくに歴史的背景を重視して学びたいものに薦めたい。

【テキストの読み方】

テキストだけでもかなり詳細に解説されているものの、併せて以下の本とともに読みます

めればより高度な理解が可能になるであろう。

大下尚一・有賀貞・志邨晃佑・平野孝編『史料が語るアメリカ：1584-1988』（有斐閣、1989年）

歴史的に重要な資料を訳出した簡便な資料集。テキストと並行して読みすすめることを強く薦めたい。

有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』（山川出版社、2009年）

基本的な歴史の流れをおさえた読者向けに、最新の研究動向を時期別・テーマ別に平易に紹介しており、文献調査の方法も示されている。テキストを読んだうえで是非読みすすんでほしい。

久保文明編『アメリカの政治』（弘文堂）

アメリカ政治の初歩をわかりやすく解説。

有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝ほか『アメリカ史1・2』（山川出版社、1993～1994年）

細かい事実を調査するのに便利。必要に応じて適宜参照されたい。

アメリカ学会訳編『原典アメリカ史1-9』（岩波書店、1950～2006年）

歴史的展開の概説と資料の訳出およびその解説からなるきわめて有益な参考書。くわしく知りたいテーマについて学習する際に非常に便利である。

【研究課題】

以下に、自主学習の目安として、練習問題を記す。（基本的に解答は本文のなかに存在するか、少なくとも示唆されている。）

第1章 北米イギリス植民地の建設と発展

問題一 18世紀後半にイギリスから独立する13植民地は、どのような政治社会的特徴を持っていたのか、地域間の比較をしつつまとめてみよう。

問題二 13植民地は、イギリス帝国内部、さらにはヨーロッパやアフリカを含めた大西洋世界においてどのような政治経済的な位置づけに置かれていただろうか。時期の違いにも留意しながらまとめてみよう。

第2章 独立から建国の時代

問題一 独立に至り、さらにアメリカ合衆国成立へと帰着する経緯を、反対派の存在にも注目して、他の文献も参照してまとめてみよう。これらの経緯はどの程度「必然的」であったといえるのであろうか。

問題二 建国初期の政治的対立のあり方は、現代のそれとどのように異なると考えられるだろうか。政党政治に着目してまとめてみよう。

第3章 共和国の成長と民主制の登場

問題一 19世紀初頭のアメリカにおいて、南部や西部といった地域的まとまりはいかなる政

治的意義をもつただろうか。具体的な争点の展開にも注目しつつ、まとめてみよう。

問題二 「ジャクソニアン・デモクラシー」はどの程度「革命的」であったか。変化と継続の両面に注意を払いながら、他の文献も参照して考えてみよう。

第4章 「明白な運命」と南北対立の激化

問題一 黒人奴隷制の存続の是非をめぐるのは、賛否両面から様々な議論が展開されたが、前章の記述も併せて整理してみよう。

問題二 領土の拡大に起因する出来事を中心に、奴隷制をめぐる南北対立の展開を整理してみよう。後の南北戦争は、歴史的必然だったのか、それとも別の解決がありえたのだろうか？

第5章 南北戦争と再建の時代

問題一 これまでのアメリカ史上最大の死者数を出した南北戦争は、その後のアメリカ史にどのような影響や記憶を残しているだろうか。他の文献にもあたってまとめてみよう。

問題二 戦後の再建はいかなる成果を生み、そこにはどのような限界があったのか、それぞれの原因を考えながらまとめてみよう。

第6章 爆発的工業化と激動の世紀末

問題一 南北戦争後の数十年を、戦前と20世紀の橋渡しをした時期と考えると、この間に現代につながるいかなる変化が生じたと考えられるか、政治を中心にまとめてみよう。

問題二 アメリカの労働運動、社会主義運動、そして農民運動の特徴は何か。他の文献も参照して調べてみよう。

問題三 婦人参政権運動、禁酒運動、移民制限運動など、19世紀半ばから1920年代にかけて登場した運動について、その勢力伸長の理由と運動の成果、支持した人びと、指導者などの側面に分け、他の文献も参照して調べてみよう。

問題四 人民党の運動と革新主義の運動を、担い手、目標とした政策、獲得した支持と成果、その遺産などの側面に分け、他の文献も参照しながら比較してみよう。

第7章 革新主義と世界大国アメリカ

問題一 革新主義運動はどのような形をとったのか、整理したうえで、それが後世にどのような影響を与えたのかまとめてみよう。

問題二 セオドア・ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの革新主義との関わりを整理してみよう。

問題三 米西戦争を契機にアメリカの対外政策はどのように変化したといえるだろうか。また、それはどの程度、いかなる意味で「帝国主義的」だったといえるだろうか。まとめてみよう。

問題四 アメリカの第一次世界大戦との関わりは、どのようなものだったか、アメリカの国内社会への影響にも注意しながらまとめてみよう。この戦争は、その後のアメリカ

史にとってどのような意味をもっただろうか。

第8章 繁栄と大恐慌

- 問題一 国際連盟加盟に反対した共和党の外交政策は1921年から1933年までどのように展開されたであろうか。それを孤立主義と断定することはどの程度妥当であろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題二 大恐慌に対するフーヴァー、フランクリン・ローズヴェルト両政権の対策を比較すると、そこにはいかなる共通点と違いがあるだろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題三 ニューディール政策は大きく二次に分けられ、その後行き詰まりへと変遷するが、それはアメリカの政治や国家機構のあり方をどのように変えたであろうか。またそこにはいかなる限界があったといえるか、まとめてみよう。
- 問題四 アメリカの第二次世界大戦への参戦の過程と理由を、第一次世界大戦への参戦の過程と理由と比較しながら、他の文献も参照して検討してみよう。また、国内の政治状況、少数集団や戦争への批判者に対する対応ではどのような異同があったのであろうか。併せて調べてみよう。
- 問題五 「ニューディール連合」とは何か。その安定性の理由はどこに求められるか。それ以前の多数派連合とどのように違うか。また内部の対立要因ないし矛盾はどこにあったか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題六 1930年代の南部の政治は、いかなる点で他の地域の政治と異なっていたか。またそれはニューディールの展開や戦争政策の展開に対して何らかの影響を及ぼしていたのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題七 真珠湾攻撃にいたるまでの日米交渉では何が焦点であったか。戦争を避ける可能性はあったのだろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

第9章 第二次世界大戦から冷戦へ

- 問題一 第二次世界大戦中のアメリカとイギリス、そしてソ連は、それぞれ何を目的としていたのだろうか。またローズヴェルト大統領の外交にはどのような特徴があったであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題二 大戦中に策定されていたアメリカの戦後構想はどのような性格を持っていたのだろうか。またそれはどの程度実現し、いかなる限界を持っていたのだろうか。
- 問題三 大戦を通じて、アメリカの社会はどのような変化を経験したのだろうか。他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題四 ソ連に対するローズヴェルト、トルーマン、アイゼンハワー、ケネディ、そしてジョンソン各政権の政策を比較検討し、ソ連との対立がどのように激化し、また緩和したかについて、他の文献も参照して調べてみよう。
- 問題五 ニューディール期に成立したアメリカの福祉国家はその後、トルーマン、アイゼンハワー、ケネディ、ジョンソンの各政権の下でどのように変化したであろうか。他

の文献も参照して調べてみよう。

問題六 マッカーシズムはアメリカにおいて例外的現象であろうか、それともアメリカ本来の体質から直接的に発したものでであろうか。他の文献も参照して考えてみよう。

第10章 パクス・アメリカーナとその陰りの始まり

問題一 南北戦争後の再建から1964年の市民権法成立まで約一世紀かかっているが、なぜ黒人の地位向上はこれほどの時間を要したのか、他の文献も参照して調べてみよう。

問題二 ジョン・F・ケネディは今日でもアメリカで国民的人気を誇るが、それはなぜか、他の文献も参照して調べてみよう。またケネディ政権の内政と外交はどう評価できるだろうか。

問題三 「偉大な社会」計画による改革とニューディール期の改革を、その担い手、課題、目標、政治的支持集団などの点から、他の文献も参照しながら比較検討しなさい。

問題四 アメリカがベトナム戦争に深入りしたのは特定の政権の責任であろうか。それともアメリカの外交政策が本来的にもっていた体質の故であろうか。他の文献も参照して、自分の考えをまとめてみよう。

問題五 対抗文化やフェミニズムに代表される、それまでの社会のあり方に対する異議申し立ては、中長期的にみていかなる政治的な影響をもったと考えられるだろうか。

問題六 ニクソン＝キッシンジャー外交はアメリカ外交史においてどのような特徴をもっているか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題七 20世紀を通じて、「帝王的大統領制」はいかにして生み出されたと考えられるだろうか。

第11章 ふたたび変貌するアメリカ

問題一 共和党はレーガンを当選させるにあたって、どのようなそれまでと違う新規の政策を用意したのであろうか。アメリカの保守主義はどのような過程を経て、いかなる理由で復活したのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題二 レーガン外交の特徴はどこにみられるであろうか。同じ共和党のニクソン＝キッシンジャー外交とどのように異なっていたのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題三 ニューディール連合はいかなる過程を経て、いかなる理由で解体したと考えられるであろうか。またこんにち、民主党と共和党はどのような集団から支持されているのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題四 クリントンは自らを「ニュー・デモクラット」(新しい民主党員)と定義しているが、彼はどのような点でそれまでの民主党政治家と異なり、どの部分で同じなのであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題五 1994年中間選挙で勝利して翌年から成立した共和党多数議会は、それまで40年間の議会と、内政、外交、あるいは大統領との関係などにおいて、どのように異なっていたであろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題六 民主党が1992年と1996年の大統領選挙で連続して勝利を収めた要因は何であろうか。また、中間選挙としては例外的に1998年に民主党が議席を増やした原因は何であろうか。他の文献も参照して調べてみよう。

問題七 冷戦の終結によって、アメリカの対外政策の課題はどのように変化したと考えられるだろうか。ブッシュ（父）、クリントン両政権の対応を比較しつつ考えてみよう。

【参考文献】

ハミルトン、マディソン、ジェイ『ザ・フェデラリスト』福村出版、1991年抄訳・岩波文庫、1999年

石川敬史『アメリカ連邦政府の思想的基礎—ジョン・アダムズの中央政府論—』溪水社、2008年

中野勝郎『アメリカ連邦体制の確立』東大出版会、1993年

長田豊臣『南北戦争と国家』東大出版会、1992年

古矢旬『アメリカ—過去と現在の間』岩波新書、2004年

平体由美『連邦制と社会改革—20世紀初頭アメリカ合衆国の児童労働規制』世界思想社、2007年

セオドア・ロウイ『自由主義の終焉』木鐸社、1985年

砂田一郎『現代アメリカの政治変動』勁草書房、1994年

待鳥聡史『代表と統治のアメリカ政治』講談社選書メチエ、2009年

久保文明編『G. W. ブッシュ政権とアメリカの保守勢力—共和党の分析』日本国際問題研究所、2003年

同『米国民党—2008年政権奪回への課題』日本国際問題研究所、2005年

同『ティーパーティー運動の研究—アメリカ保守主義の変容』NTT出版、2012年

【レポート作成上の注意点】

さまざまな参考文献を読み足した上で作成すること。事実の羅列にならないように気をつけよう。

【成績評価方法】

科目試験による。

ロシアの政治

(J 075-0501)〔2単位〕

【講義要綱】

ロシアは中国のように日本と歴史的文化的関係が深いわけでも、またアメリカのように日本と経済的・政治的に結びついているわけでもない。理解がなかなか難しい国です。社会主義体制という独自の政治経済体制を70年余り採用してきたことも、ロシアという国の理解

を困難にしています。しかし、日本の隣国である以上、そこでどのようにして政治がなされているのか知っておく必要があります。特に、体制転換のような大規模な大きな変化が起こった後には、過去に得た認識がどこまで現在でもあてはまるのか、再吟味する必要があります。どこの地域でもそうですが、ロシアについても、深く理解するためには、歴史的展望をもち、他と比較してみる必要があります。こうした方法によって、好き嫌いを超えたロシア像を構築したいと思います。

【テキストの読み方】

まず全体を読み通して、ロシアについてイメージを描いてください。現状を理解するには、ソ連時代の政治はもちろん、その前の時代の政治について知識を持つことが必要です。次にもう一度、今度は日本の政治とはどこが違うのか考えながら読んでください。理解が深まるはずですよ。

【履修上の注意】

特にありませんが、地域研究の一部門ですから、「地域研究基礎」もしくは「政治学基礎」を予め学習しておく、内容がよくわかると思います。関連する本や教科書を読んでください。

【関連科目・分野】

「歴史学」「政治学」「東洋史概説」「西洋史概説」「ロシア文学」

【参考文献】

歴史の概説書として、『ロシア史』1～3（山川出版社、1995～1997年）と土肥恒之『ロシア・ロマノフ王朝の大地』（講談社、2007年）。現代に関しては、新聞、インターネットなどを通して政治、経済に関する情報を収集し、得られたものを相互に比較しつつ、利用してください（新聞やインターネットによる情報は、しばしば異なる解釈が付されているので、複数の新聞や情報源を利用してください）。

【レポート作成上の注意点】

レポートはたんなる感想文ではないので、論点を整理して論じるよう心がけてください。予め論点を箇条書きにしておくなど、書くべきポイントをきちんと整理してから書いてください。これは努力すれば、誰でもかなり身につくものです。ワープロを利用するときは、変換ミスのないように注意してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

国分良成『中華人民共和国』筑摩書房、1999年

西村成雄・小此木政夫『現代東アジアの政治と社会』放送大学教育振興会、2010年

(なお、同上書の旧版である、山田辰雄・小此木政夫編著『改訂版 現代東アジアの政治』放送大学教育振興会、2008年、山田辰雄・小島朋之・小此木政夫『現代東アジアの政治』放送大学教育振興会、2004年、を使用しても可)

【講義要綱】

「台頭する中国」への関心が日本のみならず国際社会で高まっている。それは、一つには過去20年以上にわたって、中国が急速な経済成長を実現し、「世界の工場」、「世界の市場」として世界経済を牽引する力と認識されてきたからである。いま一つには、その経済力を背景に国際政治における発言力が高まり、「大国」として認知されてきたからである。しかし、「台頭」だけが中国の真の姿ではない。一方において中国は多くの深刻な問題に直面しており、「台頭」とは異なる側面にも留意しなければならない。

こうした多面性を持つ中国の現状を理解する上で不可欠であるのが、歴史的背景への理解である。すなわち、現在、中国が直面する問題を理解するためには、その歴史的背景に踏み込む必要がある。そうすることによって、中国の政治・外交の今後の展望を知る手がかりを得られるはずである。以上の問題意識に基づき、本講義では、「歴史的連続性」の視点を踏まえて、中国の政治・外交の問題を扱う。本講義の中心は1949年以降の中華人民共和国期であるが、無論、それ以前の中華民国期への理解も必要とされる。こうして、現代中国に生じたさまざまな事象の中から、中国の政治・外交の全体像を理解する上で有意義な個別のテーマを選び、学習を進めてゆく。

中国は日本と地理的にも文化的にも近接した存在であるがゆえに、理解が比較的容易であると思われるがちである。しかし、いったん学習を始めるとその奥深さと複雑さに困惑するに違いないが、それこそが中国研究の醍醐味と言えよう。

【テキストの読み方】

本レポート課題に取り組むためには、当然のことながら、近年の中国政治に関する理解だけでは不十分である。

現在、中国において生起している様々な事象の背景を理解するためには、少なくとも、中華人民共和国建国以降の中国政治全体に関する理解が必要である。そのために課題提出者は、まず中華人民共和国の政治を通史的に理解しなければならない。差し当たり、テキストとともに下記の参考文献を読むことをおすすめする。それぞれの著者が、様々な視点から中華人民共和国の歴史を整理していることが理解できるはずである。これらを比較し、批判的に検証しながら、自分自身の力で中華人民共和国史を整理し直す作業を踏まえて、本レポート課

題に取り組んで欲しい。

【履修上の注意】

平素より、中国の動向に関心を持ち、中国に関する報道や情報に注意を傾け、一定の基礎的な理解があることが望ましい。

【参考文献】

国分良成編著『現代東アジア—朝鮮半島・中国・台湾・モンゴル—』慶應義塾大学出版会、2009年

西村成雄・国分良成『党と国家—政治体制の軌跡—』岩波書店、2009年

山田辰雄『中国近代政治史』放送大学教育振興会、2007年

国分良成編『中国の統治能力』慶應義塾大学出版会、2006年

家近亮子ほか編『5分野から読み解く現代中国』晃洋書房、2005年

国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会、2004年

毛里和子『新版 現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動』講談社、2004年

天児慧『中華人民共和国史』岩波新書、1999年

小島朋之『中国現代史』中公新書、1999年

【レポート作成上の注意点】

レポート課題に関しては、上記の参考文献以外にも、膨大な書籍と論文がある。課題提出者は、それらをできるだけ系統的かつ批判的に読みこなすことが要求される。なお、言うまでもないが、課題に関する書籍や論文を単純に丸写ししたり、或いは部分的に切り取ったりしたものを要約しただけでは、合格点には達しない。課題提出者自身が本課題に真摯に取り組み、従来の説を批判的に検証した上で、たとえ未熟ではあっても、自らの言葉で記述することが要求される点に留意されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本外交史 I

(J 025-7301、J 7359) [4単位]

【講義要綱】

日本の開国以降第二次世界大戦終結までの（いわゆる戦前の）日本外交に関して、日本の指導者がみた主観的世界像および自国像と欧米およびアジアの国際政治の現実の間の関係・相互作用に留意して、理解を深めたい。

【参考文献】

入江昭『日本の外交—明治維新から現代まで』中公新書、1966年

【レポート作成上の注意点】

レポート課題に対するいわゆる「正解」は存在しない。また、単なる事実関係の羅列に終わらないように留意したい。分析視角（事実関係に一定の意義付けを与える一貫した視点）に一定のセンスや論理性があり、全体の考察に分析的なまとまりがあることが重要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本外交史Ⅱ

（J 048-9301、J 9360）〔2単位〕

【講義要綱】

第二次世界大戦終結以降（いわゆる戦後）20世紀終わりまでの日本外交について、戦後憲法と日米安全保障関係を基盤とするいわゆる「吉田路線」と世界およびアジアの国際政治との相互関連に留意して理解したい。

【参考文献】

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交—戦後日本の選択と構想』ちくま新書、2005年

【レポート作成上の注意点】

レポート課題に対するいわゆる「正解」は存在しない。また、単なる事実関係の羅列に終わらないように留意したい。分析視角（事実関係に一定の意義付けを与える一貫した視点）に一定のセンスや論理性があり、全体の考察に分析的なまとまりがあることが重要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋外交史

（J 033-7702）〔4単位〕

【講義要綱】

第一次世界大戦から現在に至るまでの西洋外交史を対象にしています。外交の変容を中心として、大きな歴史の流れを理解していただきたいと思います。

【参考文献】

細谷雄一『外交—多文明時代の対話と交渉』有斐閣、2007年

【レポート作成上の注意点】

- (1) 参考文献を読んで下さい。
- (2) 著者の文章と自分の文章を区別して、論文形式で執筆して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治思想史Ⅲ

(J 036-7702)〔2単位〕

【講義要綱】

本講義の主たる目的は、テキストの序でも示されているように、〈啓蒙的理性〉と〈ロマン主義的理性〉という2つのパラダイムの対立・融合のプロセスの検討を通じてモダニティならびに現代政治の思想的課題を明らかにすることである。

【テキストの読み方】

各々の政治思想に内在するロジックを的確に理解したうえで、さらにそのロジックが歴史的にどのように作用してきたかを意識しつつ読んでください。

【履修上の注意】

「ヨーロッパ中世政治思想」をあわせて履修されることをお勧めします。

【関連科目】

「ヨーロッパ中世政治思想」、「政治哲学」、「西洋哲学史Ⅱ（近世・現代）」

【参考文献】

奈良和重『イデオロギー批判のプロフィール——批判的合理主義からポストモダニズムまで』慶應義塾大学法学研究会、1994年

カッシーラー著、中野好之訳『啓蒙主義の哲学（上）（下）』ちくま学芸文庫、2003年
バーリン著、小川晃一ほか訳『自由論』みすず書房、2000年

【レポート作成上の注意点】

このレポート課題の問題だけに固執せず、テキスト全体を読んでから、問題に即して適切に答えてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

ヨーロッパの政治思想が中世と呼ばれる時期（テキストではそれを9世紀から15世紀までの約700年間に設定しています）において遂げた展開を講義します。その際、「普遍」と「特殊」との関係ならびにその変遷過程が重要なテーマとなります。

【テキストの読み方】

古典古代の哲学や宗教（キリスト教）といった多様な要因が、ヨーロッパ人の政治理解に大きな影響を与えていく、その消息に関心を払ってください。またテキスト執筆者にはメタレベルでの問題意識があります。それは、近代以降の日本人にとってヨーロッパ文化が第二の自我になっているということ、したがって日本人にとってヨーロッパ文化がもっている意義の把握は今日においても極めて重要だ、ということです。これらの点を意識しつつ、テキストを読まれることを強く願います。

【履修上の注意】

「政治思想史Ⅲ」をあわせて履修されることをお勧めします。

【関連科目】

「政治思想史Ⅲ」、「西洋哲学史Ⅰ（古代・中世）」、「歴史（西洋史）」

【参考文献】

- 鷲見誠一『ヨーロッパ文化の原型』南窓社、1996年
パコー著、坂口昂吉・鷲見誠一訳『テオクラシー』創文社、1985年
ティアニー著、鷲見誠一訳『立憲思想』慶應義塾大学出版会、1986年
モラル著、柴田平三郎訳『中世の政治思想』平凡社ライブラリー、2002年

【レポート作成上の注意点】

どの科目のレポートもそうなのでしょうが、論理的な流れのはっきりしたレポートを作成してください。当該科目のように歴史的な科目のレポートでは、往々にして「〇〇年に××ということが起こった。次いで△△年には□□という事件が生じた」といった事実の羅列を記しただけのものが見受けられます。これは年表ではあってもレポートではありません。〇〇年の××を受けて△△年に□□が起こったとして、そこに一体いかなる因果関係が認められるのか。その点を意識した記述を心がけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

この科目の主たる目的は、「コミュニケーション」概念を軸としつつ多様な学問領域の成果を用いて思考することの面白さを理解してもらうところにある。もともと「コミュニケーション」論は学際的な学問領域であり、政治学、社会学、心理学、社会心理学などの隣接分野との関わりが深いため学習範囲が広い。テキストや参考書だけでなく、関連する社会科学の文献をなるべく多く読むことが望まれる。

【テキストの読み方】

テキストの内容で分からない箇所がある場合は、テキストの文章が参照している参考文献にまでさかのぼって、自分の理解を深めることが望ましい。

【履修上の注意】

事前に履修すべき科目や、あらかじめ学んでおくべき知識は特にない。しかし、学習にあたってはテキストだけでなく他の複数の文献を読んで幅広く勉強することが必要である。参考文献で悩む場合、テキストの中で数多くの文献が紹介されているので、これらの文献を実際に自分の眼で読んでみるのが最も参考になる。

【関連科目】

「政治学」、「社会学」、「社会心理学」

【参考文献】

大石裕編『戦後日本のメディアと市民意識』ミネルヴァ書房、2012年
大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社、2006年
大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房、2005年
大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房、1998年

【レポート作成上の注意点】

- ・文末に、「利用した新聞記事」を記載し、タイトル、日付を全て記入すること。どれだけの数の記事を利用したかは成績評価の重要な指標となる。
- ・関連文献が見当たらない場合は、雑誌記事論文でも構わない。どれだけの数の文献、論文を利用しているかも成績評価の重要な指標となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣、1999年

【講義要綱】

本科目は都市の多様な側面を社会学的に理解することを目的とする。テキストに即して、次の順序で議論していく。

序 章 都市社会学の方法と対象

第Ⅰ部 都市の活動と世界

第Ⅱ部 住民活動とコミュニティの形成

第Ⅲ部 生活世界と都市文化の変容

第Ⅳ部 都市の計画と管理

終 章 都市社会学の新しい課題

名著解題

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。マテリアルやコラム、名著解題まで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。

・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年

・園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年

【レポート作成上の注意点】

レポートの分量は、4000字以内にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

現代社会は、産業化と切り離せない。産業社会学は、産業化された現代社会の社会的・人間的側面を明らかにしようというものである。現代人は、企業・官庁・非営利組織など、ほぼ例外なく何らかの組織に帰属して生活している。産業革命と市民革命の関係、大量生産方

式と大衆社会の到来、組織とコミュニティの問題、組織と個人の目的、その効率性と人間性、組織による人間疎外とその克服、あるいはリーダーシップやプロフェッショナリズム、余暇と労働の問題など、そのテーマは幅広く、しかも身近である。みずからの仕事と生活をふりかえり、現代を考えるという意味で、生涯学習に最適な課題を含んでいる。本科目の学習を通じて、現代社会について一歩踏み込んで考えてほしい。

【テキストの読み方】

テキストは、書かれている数字や時代背景に古いものがあるが、時代を超えた「古くて新しい問題」を提起している。含蓄ある表現が随所にみられ、示唆に富むものでもある。テキスト全体の底流に流れている大きな主張を読み取ってほしい。

【履修上の注意】

産業化はわれわれのまわりに深く浸透している。産業化が社会や個人におよぼした影響を他人ごとのように批判するのではなく、自分のこととして考えてほしい。他人の文章を借りるのではなく、自分の考えをしっかりと主張することが、履修上の条件である。

【関連科目】

特に指定しないが、経済学、経営学、社会学、心理学などに広がるテーマに関心をもっておいてほしい。

【参考文献】

- テラー『科学的管理法』産能大学出版部
- フロム『自由からの逃走』創元社
- ホワイト『組織のなかの人間』創元社
- バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社
- マクレガー『企業の人間的側面』産能大学出版部
- ハーズバーグ『仕事と人間』東洋経済新報社
- 井原久光『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房など

【レポート作成上の注意点】

レポート課題はテキスト全体を通じて理解したことをたずねている。テキストの一部にある記述に頼るのではなく、全体を通じて学んだことをふまえて論じてほしい。また、今回のテーマは、産業社会に生きる私たちすべてに共通する課題といえる。社会批判や評論家的なレポートではなく、自分の問題として考えてほしい。レポートの分量については4,000字という制限にこだわっているわけではない。簡潔を旨としてほしいが、同時に、しっかりとした内容のものにしてほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

経済原論 (J)

(J 019-6808) [4 単位]

【講義要綱】

ミクロ経済学およびマクロ経済学からなる経済学の基礎理論を学習する科目である。

マクロ経済学が国民総生産・失業率・物価水準といった経済全体の集計量を考察するのに対し、ミクロ経済学は個々の経済主体の経済活動を分析対象とするという差異はあるが、ミクロ・マクロ経済理論は現実経済に対する一貫したものの見方を提供している。この科目は他の多くの経済学の分野に応用されるような、経済学の基礎理論を学ぶことを目的とする。

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにして下さい。

【履修上の注意】

ある程度の数学的知識と論理的思考力を前提とします。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門（第2版）』有斐閣、2003年

塩澤修平『基礎コース・経済学（第2版）』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

記述のうえで、それが仮定あるいは前提であるのか、論理的展開であるのか、論理的帰結であるのか、といった区別を明確にして下さい。

注意

この科目は、前半・後半に分かれていて、それぞれにレポートを提出しなければならない。

前半は第1章から第14章まで、後半は第15章から終りまでとする。レポートはそれぞれ4,000字以内とする。

科目試験の受験については『塾生ガイド』（または『教職課程履修案内』）を参照のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

財政論 (J)

(J 029-7602、J 9196) [2 単位]

【講義要綱】

この講義の目標は、財政の理論、制度、歴史、政策を理解し、現代日本における財政問題について考えることができるようにすることである。その際、財政理論は欠かせないが、財政現象は法制度に立脚しているため制度論ぬきに語ることはできず、また、歴史的研究を軽視して財政学は成立しえない。そのため、理論のみならず制度、歴史、政策までを含めて学んでほしい。本講義は、日本における予算、政府支出、租税、公債などを対象とするが、そ

それぞれの領域で近年関心が高まっている現実的な問題についても関心をもって学んでほしい。

【参考文献】

片桐正俊編著『財政学－転換期の日本財政（第2版）』東洋経済、2007年
金澤史男編『財政学』有斐閣、2005年
佐藤進・関口浩『財政学入門（改訂版）』同文館、1999年
神野直彦『財政学（改訂版）』有斐閣など、2007年

【レポート作成上の注意点】

政府の財政活動が経済や社会全体にどのような影響を与えるかを考えるうえで、基礎的用語や理論についての知識が不可欠であると同時に、現実の経済問題や社会問題について強い関心を持っていること。

【成績評価方法】

科目試験による。

金融論（J）

（市販書採用科目）（J 069-9992）〔2単位〕

【テキスト】

吉野直行・高月昭年編『入門・金融〔改訂2版〕』有斐閣、2003年

【講義要綱】

金融論には、マネタリー・エコノミクスとフィナンシャル・エコノミクスがあるが、この講義では、マネタリー・エコノミクスを主に講義する。すなわち、(1) 日本の資金の流れはどのようになっているのか、(2) 資金の過不足は、経済部門ごとに、どのように変化しているのか、(3) 家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動について、経済部門別に考察する。(4) 金融活動を営む、銀行、協同組織金融機関（信用金庫、信用組合、農協など）、保険会社、証券会社、ノンバンクの役割を勉強する。(5) 郵便貯金は大きな変化が見られるが、郵便貯金・財政投融資制度について解説する。(6) 金融政策は、近年、ゼロ金利政策が採用されているが、金融政策がどのように実態経済に影響を及ぼすのか説明する。(7) 金融のミクロ理論、さらに、(8) サブプライムローン危機の原因となった貸出債権の証券化の問題も説明したい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

私たちの経済は国民の経済活動の上に成り立っており、そこでは市場が重要な役割を担っていますが、インフレ・デフレ、失業、資源利用上の非効率、所得分配の不公正、環境・資源制約等さまざまな問題を抱えています。そのため、政府は、国民経済をより望ましい状態にすることを目的として、経済システムの欠陥を補い、健全な働きを維持するため、直接・間接を問わず市場に介入し、国民に対して働きかけます。

また、政府は、国民的な目標を掲げ、それを達成するために、計画的に市場に働きかけ、あるいは市場に代わって政府自ら積極的に一定の経済的役割を果たすこともあります。こうした政府の活動が経済政策です。経済政策学は、経済政策を分析し、理解し、評価し、より望ましい政策を提示してゆくことを目的とした経済学の一分野です。

そのために、経済政策学では、まず、現実の経済政策を理解するために必要なさまざまな基本概念と経済理論を示すことから出発します。その上で、ミクロ経済、マクロ経済等の諸分野ごとに今日見られる典型的な政策問題とその解決を論じます。さらに、現代においてわれわれが直面する政策課題に対する構造的な理解と解決の方向を探ります。

【履修上の注意】

履修にあたっては、マクロ経済学、ミクロ経済学等基礎的科目に関する知識をもっていることが望ましい。

【参考文献】

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣、2011年（第4版）

岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、2006年

【レポート作成上の注意点】

教科書のみならず、各自の学習程度に応じて巻末の参考文献を調べたり、経済関係の新聞や雑誌に掲載された論文を読んで進んだ知識を積極的に取り入れるよう努力することが望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』創成社、2011年4月

【講義要綱】

本講義の目的は、急速な少子高齢化の中、社会政策の中で比重を増した社会保障制度の理解と社会経済システムとの整合について検討し、望ましい政策を自ら考えられるようにすることを目的としている。具体的政策としては、社会保障制度の中心領域である年金、医療、福祉以外に、関連領域である人口、家族、財政、労働等についてもカバーしている。

1. 成熟化社会、少子・高齢化社会における社会保障
2. 社会保障制度の機能と歴史
3. 社会保険（年金・医療・介護・雇用・労災保険）
4. 児童・高齢者・障害者のための福祉政策
5. 生活保護
6. 雇用政策（最低賃金制度）
7. 制度改革の方向性

【テキストの読み方】

まず第1～3章で、現行の社会保障制度を取り巻く変化を理解したうえで、第4章で社会保障制度の機能、第5章で社会保障の歴史を学んでください。第7章以降は各論ですので、各々関心をもった制度について掘り下げて、学んでください。第19章は、社会保障制度の枠組みの中で、どのように効率性を高め、限られた資源でより充実した社会保障を提供できるか、理論的背景とともに学び、社会保障の将来のあるべき姿について考えてください。

【履修上の注意】

経済学的な考え方を中心とした解説となっていますので、経済学の基本的な知識があった方が理解しやすいでしょう。また下記関連科目を併せて履修すれば、一層理解が深まるでしょう。

【関連科目】

「財政論」「人口論」「産業社会学」「労働法」

【参考文献】

小松隆二『現代社会政策論』論創社 1993年
厚生労働省『労働経済白書』、『厚生労働白書』各年版
厚生労働省サイト (<http://www.mhlw.go.jp/>)

【レポート作成上の注意点】

執筆する前にまず『塾生ガイド』（『教職課程履修案内』）の「レポート作成上の注意」をお読みください。引用・参考箇所（指定テキストを含む）はレポートの本文中で明示したうえで、参考文献リストをレポートの末尾に掲載してください。また節ごとに小見出しを付けて、内容的な区切りを明示してください。こうしたレポート作成のガイドラインに沿っていない場合、添削不能として内容にかかわりなく再提出となります。

また政策に関するレポートですので、何らかの政策提言を行ってください。その際には、その政策提言の論拠を最新データに基づき明確に示してください。データはテキスト掲載以外のデータも使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

経営学 (J)

(J 047-9401、J 9490) [3単位]

【講義要綱】

経営学のコア領域である経営戦略論の分野を主な対象としています。企業が競争優位性を獲得するメカニズムの理解を期待しています。

【参考文献】

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年

浅羽茂・須藤美和『企業戦略を考える：いかにロジックを組み立て、成長するか』日本経済新聞出版社、2007年

【レポート作成上の注意点】

設問の意図を正確に理解し、レポートの構成を考えてください。また、レポート作成時には、個別企業のケースや産業盛衰に関するケースを多く見つけ、具体的事例の紹介とともに理論や理論的概念を用いた議論を展開してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

会計学 (J)

(J 088-0901) [3単位]

【講義要綱】

会計学、主として財務会計論の基礎を学習する。科目試験の出題範囲はテキストの内容に限るが、レポートの作成についてはより広範な学習にもとづくことを期待する。

【参考文献】

友岡賛『会計の時代だ』筑摩書房（ちくま新書）、2006年

友岡賛『会計学はこう考える』筑摩書房（ちくま新書）、2009年

【レポート作成上の注意点】

できる限り、自分の言葉、をもって述べ、また、参考文献は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

米山・沼野・松本・田中・白石『教育の原理〔第4版〕』学文社、2010年

【講義要綱】

『教育の原理』〔第4版〕の内容構成は、第1章「教育とは何か」、第2章「文化と教育のかかわり」、第3章「学校式教育と人間教育」、第4章「何を教えるか」、第5章「いかに教えるか」、第6章「職業としての教師」となっている。第4版と第3版では、学習指導要領の改訂があったために第4章が、教育職員免許法の改正があったために第6章が大きく変わっている。しかし、テキストに通底する教育原理に変化があるわけではない。教職課程の科目であるから、実際に自分が教師となることができるかどうかを自分に問いつつ、テキストの教育原理と向き合うことが重要である。

【テキストの読み方】

テキストは複数の執筆者が書いている。執筆者によって、微妙に教育原理の理解に違いがある可能性がある。テキストを理解するとともに、批判的に検討することも必要である。

【履修上の注意】

「現代教師論」や「教育学」を履修していることが望ましいが、必須ではない。

【関連科目】

「現代教師論」、「教育学」

【参考文献】

『解説 教育六法』三省堂、2012年
中学校および高等学校の『学習指導要領』

【レポート作成上の注意点】

しっかりとテキストを読み、テキストを踏まえて、課題が何を要求しているかをよく理解した上で、レポートを作成して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

遠藤由美『青年の心理』サイエンス社、2000年

【講義要綱】

青年期におけるさまざまな身体的・心理的・社会的変化について理解すると同時に、そうした青年期の成長に関わる教師として、どのような関わり方が求められるかについて考える機会にしてほしいと思います。その際、いろいろな文献に当たると同時に、現代社会で展開されている社会問題・教育問題にも関心を広げてほしいと思います。

【履修上の注意】

とくにありませんが、自らの青年時代、さらには現代社会における青年たちの生き様についても、日頃から関心を持つことを求めます。

【参考文献】

- 加藤隆勝・高木秀明『青年心理学概論』誠信書房、1997年
落合良行・伊藤裕子・斎藤誠一『青年の心理学 改訂版』有斐閣、2002年
落合良行・楠見孝『自己への問い直し—青年期』金子書房、1995年
伊藤美奈子『思春期の心さがしと学びの現場』北樹出版、2000年
伊藤美奈子編『思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店、2006年

【レポート作成上の注意点】

テキストをはじめ、文献等を参考にしながら、青年期の本質に迫ると同時に、その青年たちに関わる立場に身を置いて考えることを求めます。

またその際、自分の考えと、引用した文献等とを区別し、後者については引用文献として明記するようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

学校カリキュラム論

(市販書採用科目) (P 034-1091) [2単位]

【テキスト】

田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

【講義要綱】

カリキュラムの意義とその編成について総合的・多角的に研究し、カリキュラムを自主編成する力量を養うことを目的とする。特に、「総合的な学習の時間」に象徴されるような広領域な学習領域を組織し評価する力量を養うことは、カリキュラム全体を組織・編成する力量養成に通じるものである。また、カリキュラム論といえば、自らの教育経験や子育て経験などを通じてある一定の「考え」をすでに(時には堅固に)有している受講生も多いと思われるが、本科目を通じてそれらを相対化し客観的に評価しうるようになることもそのねらい

の一つである。

【参考文献】

田中耕治・井ノ口淳三編著『学力を育てる教育学』八千代出版、2008年

【成績評価方法】

科目試験による。

国語科教育法

(P 006-7901、P 9408)〔3単位〕

【講義要綱】

国語教育の実践的理解をめざす。文学作品の生命を、教師と生徒の生きた対話の場で、対話の運動をとおしてわがものとしていくプロセスを先取り＝体験する機会であり訓練である。

【テキストの読み方】

テキストは、あなたの国語教育の実践にかかわる簡潔な指針の書にほかならぬ。ところで指針は「助言」であって「命令」ではない。あくまでも、教材本文にたいする主体的な取り組みの努力の方向をさししめすコトバの束として、テキストと向かいあうこと。

【履修上の注意】

よき授業の前提は、真剣な深い「教材研究」である。あなたが何らかの〈方法〉をもって国語教育の現場にかかわるとき、自分のあつかう教材にたいする研究の深さ・ゆたかさこそが、結果としてよき授業をもたらすのであって、よき授業を作り出す〈方法〉があらかじめどこかにあるというわけではないと観念されよ。

【関連科目・分野】

とりわけ日本近代文学の史的展開の把握。

【参考文献】

中村光夫『日本の近代小説』岩波新書

本多秋五『「白樺」派の文学』新潮文庫

平野謙『芸術と実生活』岩波現代文庫

江藤淳『夏目漱石』新潮文庫

柳田泉ほか編『座談会 明治・大正文学史』全6巻、岩波現代文庫

【レポート作成上の注意点】

Aについて：作品文章にしめされる作者志賀直哉の人間観を把握のうえ、国語教育にかかわるあなたの抱負を表現すること。あくまでも作品本文の具体に強く即して論を進めること。

Bについて：教材本文にたいするあなたの〈読み〉を明快にしめすこと。案作りの根本要件は、本文の正確な語釈と、作品のポイントとなる文章についてあなたの下した解釈を大胆かつ細心に提示することであり、授業の段取りをたんにならべたててみせるだけでは、したがって駄目である。

A・Bいずれについても、誤字・脱字の存在するレポートはそれだけで自動的に不合格となります。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会科・地理歴史科教育法 (市販書採用科目) (P 021-9991)〔3単位〕

【テキスト】

小池俊夫・古屋野素材『新しい社会科』を創る(修正版)』学芸図書、2000年
白井嘉一・柴田義松編著『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

【講義要綱】

高等学校地理歴史科一種免許を得るための必修科目の一つであるが、決して授業運営のノウハウを内容とするものではなく、中高校を通じての社会認識学習の在り方をその〔歴史的
問題構造〕や〔今後果たすべき役割や可能性〕等について、“教科のアイデンティティ”(教科の成立の経緯や学校教育で果たすべき役割や問題点)と“授業のリアリティ”(限られた授業時間や回数の中での、効果的な学習活動の構成や、学習を深める教材内容の追求)の側面から多角的に検討することを目的とするものである。

特に地理・歴史分野においては、生徒諸君が学習を通じて、多様な時間認識や空間認識を獲得することも重要であり、そのためには、教師自身の、史資料類や地図類等を縦横に活用できる、豊かな想像力が不可欠である。

【参考文献】

指定したテキストの他に、どの会社のものでよいので、「地理」「日本史」「世界史」(それぞれA・Bを問わず)の三科目の高校教科書が手元で参照できる状態であることが望ましい。

新しい教科書の購入は、居住地域によって、難易の違いはあるかもしれないが、各地の「教科書取次店」で入手できる。600円台から800円台であるが、正確な価格は書店で確認されたい。

東京地区では、千代田区神田駿河台の三省堂本店が便利である。

なお、『高等学校学習指導要領解説—地理歴史編—』(文部科学省)を手元に用意しておくことが望ましい。価格は410円。(※この『解説』については、P.265の〔補足〕参照)

また、特に今回の課題に関しては、地域の図書館等で、地元市町村の『年史』類や、地元の新聞の過去の縮刷版などを参照する機会をつくることが望ましい。

【レポート作成上の注意点】

1 について：身近な地域にかかわり学習の題材として高校生に興味をもって取り組んでもらえる可能性のあるものであれば、古代や中世の戦（いくさ）も当然対象となる。空襲や艦砲射撃の被害・軍港や航空基地や軍需産業や捕虜収容所を有した歴史・出征兵士及び学徒出陣／動員に関する地域に残された記憶、等々、全国どこでも、太平洋戦争までに、その時々戦争と何らかのかかわりをもたなかった地域はないはずであり、また、米軍基地や施設との関係で、朝鮮戦争やベトナム戦争とのかかわりをもった地域もあるだろう。それらを可能な限り調べて整理していただきたい。その際、それらの事件・事象の背景をなす日本や世界の歴史動向とも常に関連づけて考察することが求められる。個々の事件や事象に簡潔なコメントを加えた年表形式での取り組みも可とし、また、関連する地図・写真・図表類の添付／貼付もあり得よう。

2 について：これも 1 と同様、古代から対象となる。災害とはいえなくても、地場産業の衰退（国産品が海外からの輸入品におされるような事情も含む）による人口の激減や地域経済への壊滅的打撃なども加えれば、全国どこでも、これまでの歴史において、様々な意味・局面で生活環境の大きな変化を経験しない地域はないといえよう。この場合も、その事件・事象の背景や原因およびその後の措置等に関して、幅広い観点から考察することが必要である。

3 について：“戦争”か“災（公）害”についての調査整理の、どちらかを選んで活用し、高校日本史か地理の授業のためのプランを作成してもらおう課題である。

- ④ [授業の進め方の概略] は、〈教師から生徒に対する資料の紹介・提示や指示・問いかけ〉と、それに対応する〈生徒の側の学習活動（グループ活動やディベート等）〉を時間の流れに即して構想してほしい。必ずしも「指導案」の形をとらなくても可である。

▶なお、インターネットで検索した資料を利用したの論述は差し支えないが、その場合は必ず参照したホームページの URL を明記することが望ましい。また、同じ話題で異なった内容の記述のある複数のホームページを比較検討した上で、適切と思われる内容を取捨選択する（その選択の過程もレポートに記述してほしい）というスタンスも望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

小池俊夫・古屋野素材『新しい社会科』を創る(修正版)』学芸図書、2000年
 白井嘉一・柴田義松編著『(新版)社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

【講義要綱】

講義目的・研究テーマ

直接的には、高等学校公民科〔現代社会・政治経済・倫理〕一種免許にかかわる科目であるが、中学校社会科とも関連づけながら、中等教育における社会認識学習の在り方の幅広い考察をめざし、特に、選挙権の取得を直前に控えた青少年の社会問題への積極的な関心を深める場面としての公民科の果たすべき役割・可能性を検討したい。

【参考文献】

指定したテキストの他に、どの会社のものでよいので(かつ、最新のものでなくとも、ここ10年以内のものであれば構わない)、「現代社会」か「政治経済」と「倫理」の高校教科書が手元で参照できる状態であることが望ましい。

新しい教科書の購入は、居住地域によって、難易の違いはあるかもしれないが、各地の「教科書取次店」で入手できる。各教科書の代金は

現代社会：700円台 政治経済：400円台 倫理：400円台、であるが、正確な価格は書店で確認されたい。

東京地区では、千代田区神田駿河台の三省堂本店が便利である。

また、特に今回の課題に関しては、地域の図書館等で、それぞれのテーマに関係する各省庁から出ている白書類(『外交青書』『防衛白書』『農林水産白書』『環境白書』等)や、全国紙の縮刷版、新聞社系の年鑑(『朝日年鑑』『毎日年鑑』等)、時事用語事典類(『現代用語の基礎知識』『イミダス』『知恵蔵』等)を参照することが望ましい。

さらに、『高等学校学習指導要領解説—公民編—』(文部科学省)を手元に用意しておくことが望ましい。価格は336円。(※この『解説』については、P.265の[補足]参照)

【レポート作成上の注意点】

1 について：800字というと、高校の標準的教科書の、写真や図表等を除いた見開き2ページ程度のボリュームであるので、まとめる文体そのものを、高校教科書の執筆者になったつもりで記述してもよい。

※(7)について

近年、小中高校において、従来の職業学習や進路指導のような限定した枠を超えて、人生の各段階での、職業をはじめとする社会とのかかわりで、短期・中期・長期の“生き方”を考える、という学習が模索されており、「キャリア学習」あるいは「キャリア・デザイン」などと呼ばれる例も多い。その内容としては、地域の様々な事業所(各種小

売店や企業、さらに役所等)での職場体験・インターンシップや、父母の勤務先の見学、あるいは模擬店舗での経営シミュレーション学習、そして各界の“職業人”へのインタビュー、等々、様々である。

これらは、まだ黎明期と言え、これからの充実が期待され、かつそれに伴う問題点や課題の検討の本格化も意識されはじめているところであるが、経済や労働をはじめ社会生活に直接かかわる事柄を学習対象とする中学社会科の公民的分野や、高校公民諸科目としても、いわゆるキャリア(デザイン)学習に正面から取り組むべき課題をあたえられていると言えよう。

特に、明確に卒業後の就職を決意している生徒の他の、多くの高校生に対しては、従来の、大学・短大・専門学校等への、目先の“進学・合格指導”にとどまっていた感のある「進路指導」にとどまらない、例えば、進学先の選択の際にも、10年後・20年後の自分の将来像を見通しての考慮・検討というような、キャリア(デザイン)学習の必要が指摘されている。

(7)については、このような動向とも関連して、あなたが考える「高校生にとって望ましいキャリア(デザイン)学習」の可能性や課題を、考察していただきたい。

この課題に関する参考文献として、他の文献資料の参照にも役立つと思われる、『キャリアに揺れる』(上西充子、柳川幸彦著、ナカニシヤ出版、2006年、1575円)を紹介しておく。

※(8)、(9)について

いずれも最近の社会的大問題であるが、報道や論評をなぞるのではなく、高校生がこのような問題を理解するにあたって、現行の公民諸科目の教科書の記述が、充分に対応し得ているのかどうか、という点にも注意を払って、この課題に取り組んでいただきたい。

2について：③[授業の進め方の概略]は、〈教師から生徒に対する資料の紹介・提示や指示・問いかけ〉と、それに対応する〈生徒の側の学習活動(グループ活動やディベート等)〉を時間の流れに即して構想してほしい。必ずしも「指導案」の形をとらなくても可である。

▶なお、インターネットで検索した資料を利用しての論述は差し支えないが、その場合は必ず参照したホームページのURLを明記することが望ましい。また、同じ話題で異なった内容の記述のある複数のホームページを比較検討した上で、適切と思われる内容を取捨選択する(その選択の過程もレポートに記述してほしい)というスタンスも望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

小池俊夫・古屋野素材『「新しい社会科」を創る(修正版)』学芸図書、2000年
白井嘉一・柴田義松編著『〔新版〕社会・地歴・公民科教育法』学文社、2009年

【講義要綱】

講義目的・研究テーマ

直接的には、中学校社会科一種免許を得るための必修科目の一つであるが、決して授業運営のノウハウを内容とするのではなく、中高校を通じての社会認識学習の在り方を、その「歴史的問題構造」や「今後はたすべき役割と可能性」等について、多角的に検討することをめざす。

【参考文献】

指定したテキストの他に、どの会社のものもよいので、「地理」「歴史」「公民」の三分野の中学社会科教科書が手元で使える状態であることが望ましい。

教科書の購入は、居住地域によって、難易の違いはあるかもしれないが、各地の「教科書取次店」で入手できる。三分野のいずれも1冊700円台であるが、正確な価格は書店で確認されたい。

東京地区では、千代田区神田駿河台の三省堂本店が便利である。

また、『中学校学習指導要領解説—社会編—』(文部科学省)を手元に用意しておくことが望ましい。価格は175円。

【レポート作成上の注意点】

実際に授業を担当する、という立場から中学校社会科を考察する際には、ひとつ一つの授業あるいはひと纏まりの授業の連続を通じて、生徒諸君が、時間的(つまり歴史的)・空間的(つまり地理的)広がりを含む多様な社会現象を、自らの人間としての在り方や日常生活とも結局は密接なかわりがあるものとして、リアリティーを伴って受けとめ、関心を高め認識を深めてもらえるような授業の在り方はどのようなものか、を追求し続けることが不可欠であろう。

そのためには、授業で取り扱おうとする題材・事例の選択・吟味や、その提示・紹介の適切な方法の工夫など、つまりは教材研究及び授業計画が極めて重要であることはいまでもない。

今回のレポート課題は、現行の中学社会科で予定されている内容構成を、筆者が重要であると考えている二つのテーマないし視点を軸として横断的に考察し、今後諸君が授業を担当する際の教材研究・授業計画の観点を幅広いものとしていただくためのヒントになることを

願って設定するものである。

1 について：いささか唐突だが、中学の授業を構成する 9 教科のうち、社会科ほど“夥しい数と種類の死”を扱う教科は他にないといえよう。どのような「死」が取り扱われているかについては、諸君の作業に委ねたいが、戦死者・自然災害の被害者・公害病による死者等はすぐ思いつくだろうし、暗殺による一人の死が大きく歴史を動かす例も少なくないだろう。これらは「社会的な死」ともいえ、それらの原因や背景の考察が社会科学学習の中に占める比率は小さくない。あまり明るくないイメージが伴うものの、これらの例にとどまらない様々な「死」に関する事例にあらためて注目し、授業でそれらを扱うことを通して、中学生に何を伝え得るか、ということをしつくり考えていただきたい。

2 について：上記の戦争による死傷者数などは、こちらの題材ともなるだろうが、いずれにしても社会科は、様々な数値が取り上げられる教科ともいえる。

授業で取り扱う事象の「広さ」「膨大さ」「ひどさ」や、景気や雇用の統計指標が意味する事柄など、各種の数値は、それを媒介として事柄のリアリティーを把握する手掛かりとしてあるわけで、それをどのように提示するかについて、教師は細心の注意と工夫を怠ってはならない。教科書や資料集のグラフや図表が必ずしも適切でなく、教科書の円グラフを帯グラフに、棒グラフを折線グラフに作り替えた方が、生徒諸君の理解が格段に増すというケースも少なくないのである。

b の（※）で言及した、教科書の現物を批判する、という形式を取る場合には、

- ① [批判対象とする部分のコピーを貼りこむ]
- ② [それを批判する理由・論点を明確に記述する]
- ③ [自分ならその部分の記述や図表等をどのように書き換えるか、対案を示す]

という三つの要素を明示していただきたい。

ただし、1 同様、全体としては、記述の形式についての特段の縛りはなく、諸君の工夫に委ねたい。

▶なお、インターネットで検索した資料を利用しての論述は差し支えないが、その場合は必ず参照したホームページの URL を明記することが望ましい。また、同じ話題で異なった内容の記述のある複数のホームページを比較検討した上で、適切と思われる内容を取捨選択する（その選択の過程もレポートに記述してほしい）というスタンスも望ましい。

【補遺】

“教科書問題”について

中学社会科や高校公民・地歴の各教科は、かかわる人々の価値観が錯綜する社会事象を扱うことから、それらに関する教科書の記述をめぐるには、政治的・イデオロギー的対立を含む厳しい論議が繰り返されている。

特に、歴史に関しては、中でも戦争・戦乱に関する記述は、それぞれの原因や“事実”過程、あるいは被害や（本課題の「死」や「数」とも深くかかわる）死傷者数の規模や内容を

めぐり、論者の異なる“歴史観”がぶつかりあい、教科書検定のたびに、その論争が社会問題化することも度々である。

現行の、小中高校の殆どの科目で「主たる教材」として指定することが義務付けられている教科書については、文部科学省による「検定審査」に合格してはじめて「教科書」たりうる制度があり、教科書の記述をめぐる問題の多くは、直接的には、教科書執筆者（ないし教科書会社）と、文部科学省の間の（ある記述につき、検定審査の段階で削除や書き直しの指示がなされる、ことなどからの）対立として表面化する。（文部科学省の検定そのものを、“政治的な偏り”と決め付けるものではないが、文教行政も政権政党と無関係ではありえず、検定審査の判断基準が、その時々を政治的動向を反映するケースは、これまでも珍しくない。）

更には、市町村教育委員会が主体となる協議会が、それぞれの管轄地域の公立小中の教科書を「採択」する（例えば、ある市の公立中学全校の翌年4月から使用する社会科歴史的分野の教科書を、8社の検定合格教科書の中から1社に絞る）制度では、協議会のメンバーである教育委員の多数決で使用教科書が決まるため、その教育委員の任命をめぐり地方議会が紛糾するという例も増えてきており、ここでも、教科書の記述の問題が“政治的”問題と関連していると言わざるを得ない。

わが国の教科書に関してこのような現状があることから、受講生諸君は、まずは、文部科学省のHPにアクセスし、教科書制度（ないし行政）を十分に理解した上で、日頃から、教科書をめぐる様々な問題事象や論争等に関する各種報道に幅広く注意を払い、最新の問題動向を把握することを留意されたい。

【補足】

『学習指導要領解説』について～“現行”から“新”への移行期の特殊事情

「地理歴史」「公民」それぞれについて、教科書と、各教科の学習指導要領の『解説』を、手元に用意するのが望ましい参考書として紹介したが、現在入手できる教科書は、現行の学習指導要領に準拠したものであるのに対して、書店等で販売されている『解説』の2冊は、いずれも“新”指導要領に準拠したものであり、現在は、現行指導要領に準拠した『解説』はほとんどで入手できないであろう。これは、次のような事情による。

高等学校の“新”『学習指導要領』は、平成21年3月に告示されたが、（平成24年度から先行しての適用が決まっている「理科」と「数学」は別として）この指導要領が高校の全科目に適用されるのは、平成25年度からである。したがって、平成24年度中は、「理科」と「数学」以外の教科については、現行の指導要領に準拠した学習が行われるはずであるが、このような“移行期”には、文部科学省の特例措置により、“現行”の一部に替えて“新”指導要領を前倒して導入する、いわゆる「移行措置」が行われることが多い。高校に関しては、既に「特別活動」や「総合的学習の時間」の一部が移行措置の対象となっていて、「公民」や「地理歴史」は対象とはなっていないものの、各教科の学習指導要領の『解説』の発行元（内容は文部科学省編集であるが、発行元は所謂教科書会社各社である）が、近づく“新”学習指

導要領の全面適用に対応するため、全面適用の1～2年前から、“現行”指導要領用の『解説』から、“新”対応の『解説』の発行に切り替えるため、この時期、“現行”用の『解説』の在庫切れとなるのである。

ただ、今回の改訂では、「公民」と「地理歴史」は、“現行”と“新”で基本的な枠組みの異同はないと言ってよいので、平成24年度に教育実習を行う場合でも、“新”指導要領対応の『解説』を手元において活用することは何ら支障はない。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語科教育法

(市販書採用科目) (P 033-0991)〔3単位〕

【テキスト】

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論〔改訂版〕』金星堂、2011年（販売は2012年4月から）

※すでに入手済みの人は『新・英語教育学概論』（金星堂、2007年）で学習しても構いませんが、これから入手する人は必ず〔改訂版〕を購入してください。

【講義要綱】

英語科の教員として必要となる英語教育学の理論と実践について教科書および参考書を通して学ぶ。特に、日本の学校英語教育における目的論、カリキュラム論、教材論、学習者論、教授法、評価方法、4スキル・文法等の指導実践に関する各論を研究する。また、教育実習に備え、教案（英語版）の作成方法も学習して欲しい。

【テキストの読み方】

常に実践を意識しながら、しっかりと読んで「基本」を学んでほしい。なお、講義要項に記載の分野（目的論・カリキュラム論・教材論・学習者論・教授法・評価・指導実践各論）については、複数の参考書を使い、その理解を深めてほしい。

【履修上の注意】

履修上の条件は特に無いが、教職に関する科目（特に教育心理学・教育方法論・学校カリキュラム論等に関連する科目）や、教科に関する科目（特に英語学・言語学・英米文学・比較文学等に関連する科目）等と同時にしはその履修後にとりかかることを勧める。

【関連科目】

上記（「履修上の注意」）参照

【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年

文部科学省『中学校学習指導要領』平成20年
文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年
文部科学省『中学校学習指導要領解説—外国語編—』平成20年
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』平成21年
(なお、これらの学習指導要領については、文部科学省のホームページからダウンロードすることもできる)

青木昭六編『新しい英語科教育法：理論と実践のインターフェース』現代教育社、2002年
石黒昭博ほか『現代の英語科教育法』英宝社、2003年
小池生夫ほか編『第二言語習得研究の現在』大修館書店、2004年
土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』研究社、2000年
村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店、2006年
村野井仁ほか編『実践的英語科教育法』成美堂、2003年
望月昭彦編『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店、2010年
JACET 教育問題研究会編『新・英語科教育の基礎と実践』三修社、2005年
(以上の参考書については、平成21・22年の学習指導要領の改訂に伴い、改訂されているものと、まだされていないものがある。改訂されている場合は、新学習指導要領に基づくものを利用すること。)

【レポート作成上の注意点】

課題1は英語で書くこと。教育実習生の英語力の低下が現場では問題となっているので、英語の辞書や英語そのものに関する参考書を使い、英語の教員としてふさわしい完璧な英語で作成して欲しい。よって英語の間違いが多い教案については、内容にかかわらず再提出とする。また、教案は人に見てもらいたいことが多いので、第三者がみても分かり易いフォーマット(教科書の学習指導案の例などを参照)で作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

道徳教育論

(P 025-7001)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は、道徳教育についての本質的な課題を理解し、考察するために設置されています。それゆえ、この科目を学習するに当たっては、道徳教育に固有の課題が何であるかをしっかり把握し、理解を深め、広い視野を獲得しようとする姿勢が必要です。

テキストを繰り返し読んでください。

【テキストの読み方】

テキストの論理を虚心に追い、その論理にのっとなって考察し、その上で学習者の道德教育観を獲得できるようにしてください。

【履修上の注意】

できるだけ多くの関連文献を読んでください。テキストのみの読了では、テキストの内容を十分に理解することができません。

【関連科目】

教育基礎論 特別活動論 生活指導論 教育臨床論

【参考文献】

吉田武男・田中マリア・細戸一佳著『道德教育の変成と課題』学文社、2010年
林忠幸・堺正之編著『道德教育の新しい展開』東信堂、2009年
井ノ口淳三編著『道德教育』学文社、2007年
中戸義雄・岡部美香編著『道德教育の可能性』ナカニシヤ出版、2005年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド2012』（または『教職課程履修案内2012』）の「レポート作成上の注意」をよく守ってください。

【成績評価方法】

科目試験による。

改訂・特別活動論

（市販書採用科目）（P 031-0492）〔2単位〕

【テキスト】

高旗正人・倉田侃司編著『新しい特別活動指導論〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2011年

【講義要綱】

- (1) 目的 特別活動論の意義や役割を学校教育全体の中に位置づけて理解する。その理解の上に特別活動の活動を構想する力を身に付ける。特別活動の活動案を実際に作成してみる。
- (2) 概要 次に掲げる観点に留意しつつテキストと参考文献を読解することを学習内容として考えてください。1. 学校カリキュラムの中で特別活動がどのような位置にあるのか、その理念と実際を理解する。2. 学習指導要領の改訂において、特別活動の扱われ方がどのように変化しているのか、その歴史的変遷を時代背景と関連付けて理解する。3. 現行の学習指導要領（小学校・中学校：平成20年告示、高等学校：平成21年告示）の特別活動の特徴（改正点とその意図）を把握する。4. 特別活動という領域内の構造（要

素間の関係)を理解する。5. 1～4を踏まえて、特別活動を指導する力、活動を構想する力を身につける。

【テキストの読み方】

学習指導要領が改訂されましたので、最新の学習指導要領とその解説を手元において学習するとよいでしょう。学習指導要領は文部科学省のホームページで参照できます。

【履修上の注意】

少なくとも教科教育法の学習を始めていること、すなわち、学習指導案を作成したことがあることが求められます。

【関連科目】

学校カリキュラム論、生活指導論

【参考文献】

1. 「たのしい授業」編集委員会編『学校行事おまかせハンドブック』仮説社、2001年、pp. 12-45
2. 板倉聖宣『たのしい授業の思想』仮説社、1988年、pp. 319-333（「見学論」）
3. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成20年3月告示）』東山書房、2008年
4. 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい、2008年

【レポート作成上の注意点】

1. 施設見学プランを自由に構想してください。課題の施設例示にとらわれず、施設は自由に選んでください。見学用につくられていない施設でも構いません。見学する施設に実際に出向いたうえで、プランを作成してください。実際に出向いたことが分かるようにレポートを作成してください。
2. 中学生が校外学習をたのしむことができるようにプランを作成してください。その上で、作成したプランが「中学校学習指導要領（平成20年告示）」の「第5章 特別活動」のうち、どの項目に該当するか、レポート本文で解説してください。加えて、「学習指導要領」の特別活動以外の箇所に関連付けても構いません。テキストをよく読み、特別活動の目的を理解した上で、プランを意味付けてください。
3. 「校外学習の手引き」の作成にあたっては、参考文献の1および2（「たのしい授業」編集委員会編：2001、板倉：1988）が役立ちます。大いに参考にしてください。施設が提供している見学コースやプランを参考にしてプランを作成することは構いませんが、具体的な生徒を想定した上で調整や改善を施して、オリジナリティを出してください。施設が作成した案内書やホームページを引用・参照した際には出典を明記してください。
4. 中学校のどの学年を対象とするのか、明確にした上で、当該学年の特徴を考慮して、プランを作ってください。また、具体的な学校を想定してレポートしてください。よっ

て、レポートおよび「校外学習の手引き」には具体的な学校名・学年が明記されていなければなりません。あなたの居住する地域や当該学校の特徴を踏まえたプランを高く評価します。

5. 必要に応じて(校外学習で使用する限りにおいて)、「校外学習の手引き」以外の教材(コピー)や配布資料等も添付してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・教育方法論

(市販書採用科目)* (P 036-1191) [2単位]

【テキスト】

メディア教育開発センター『教師の力量アップをめざして ICT 編』(DVD 教材)放送大学教育振興会、2005年

※「新・教育方法論」は上記 DVD 教材(市販)と、配本テキストが指定教材となります。

【講義要綱】

学ぶとはどういう営みか、教師の役割とは何か、授業とは何か、カリキュラムはどのように編成されるのか、評価とは何かなど、様々な観点から教育の方法について学んでいくことを通して、教育に関する認識を深めていって欲しいと思います。特に、単に観念的に教育を語るのではなく、具体的な教育実践のあり方を常に念頭に置きながら学習を進めていって下さい。

【テキストの読み方】

重要語句に着目しそれらを理解しつつ、より大きなテーマに関する認識を持つことができるように読解をすすめて下さい。

【履修上の注意】

教材はテキストと DVD です。両者を十分に活用してください。DVD 教材(教師の力量アップをめざして ICT 編)についてはすべて視聴すること。

【参考文献】

佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年

岩波講座・現代の教育 8『情報とメディア』岩波書店、1998年(絶版)

赤堀侃司編『高度情報社会の中の学校』ぎょうせい、1997年

水越敏行監修、菅井勝雄編『「メディア」による新しい学習』明治図書出版、1995年

市川伸一『コンピュータを教育に活かす―「触れ、慣れ、親しむ」を越えて』勁草書房、1994年(絶版)

佐伯胖『新・コンピュータと教育』岩波新書、1997年（絶版）

【参考 website】

教育情報ナショナルセンター

<http://www.nicer.go.jp/>

日本教育工学振興会

<http://www.japet.or.jp/>

【レポート作成上の注意点】

ICT を活用した具体的な実践例（〇〇学校の〇〇教諭による〇年生〇〇科の〇〇という単元の授業というレベル、なるべく最近の事例が望ましい）を必ず文献等で調べ、それを題材にして下さい。

引用文献は単にまとめて最後に記すだけではなく、必ずレポートの記述内容と対応させ、読者にその記述内容がどの引用文献によるものなのかがはっきりとわかるように論述してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・生活指導論

（市販書採用科目）（P 037-1191）〔2単位〕

【テキスト】

折出健二編著『生活指導（教師教育テキストシリーズ13）』学文社、2008年

【講義要綱】

生活指導にかかわる概念について理論的・実践的に把握できるように構成されている。子どもの権利条約で拓かれた新たな子ども観をうけいれつつ、「生活」概念や「指導」概念も丁寧に再解釈していくことになる。テキストには多くの実践家による記録も収録されており、具体的な実践から学びながら生活指導「論」をくみたてていく作業も求められることになる。実践的内容を取り扱うゆえに、自らの持つ素朴な「生活指導」概念が何度も揺さぶられる経験をもつことになるであろうし、そのこと自体が本講義のねらうところでもある。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

伊藤美奈子『思春期の心さがしと学びの現場』北樹出版、2000年

【講義要綱】

第一に、教師に必要とされる教育臨床的な視点について理解すること。その上で、学校現場で起こっているさまざまな〈問題提起現象〉について考えてほしいと思います。また、スクールカウンセラーをはじめとする専門機関との具体的な連携方法について学んでいただくことも目標の1つです。

【履修上の注意】

テキストを鵜呑みにするのではなく、日々変化している学校現場や子どもたちの現状にも関心を広げていただきたい。

【関連科目・分野】

「青年心理学」、「教育心理学」、「生徒指導論」、「学校カウンセリング」

【参考文献】

伊藤美奈子『スクールカウンセラーの仕事』岩波アクティブ新書、2002年

伊藤美奈子編『思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店、2006年

【レポート作成上の注意点】

テキスト、参考文献のほか、関連文献について広く目を通したうえで自分なりの考え方や言葉を大事に論じて頂きたい。教師として学校現場に立った自分を想定し、その目を通して考えて頂きたい。

【成績評価方法】

科目試験による。